

令和 7 年度 男女共同参画に関する県民の意識・実態調査

(案)

令和 8 年 3 月

島 根 県



## 目次

I 調査の概要 .....	1
II 調査結果の要約 .....	5
III 調査結果の分析	
第1章 男女の平等感、性別役割などについて .....	24
1.各分野における男女の地位の平等感 .....	24
2.社会全体における男女の地位の平等感 .....	43
3.性別役割等に関する意識 .....	46
第2章 女性の社会参画について .....	60
1.女性の意見の反映度 .....	60
2.女性の意見が反映されていない理由 .....	62
第3章 女性と仕事について .....	65
1.女性の就業パターン .....	65
2.女性の働き続けやすさ .....	70
3.女性が働き続ける上での障害 .....	72
第4章 仕事、家庭生活、地域・個人の生活について .....	78
1.仕事、家庭生活、地域・個人の生活のバランス .....	78
2.家庭生活、地域・個人の生活、休養の時間は取れているか .....	83
3.日常生活における家庭の仕事等の役割分担 .....	93
4.男性の家事・育児・介護の時間について .....	96
5.男性の家事・育児・介護への参画を進めるために行政が取り組むべきこと .....	99
第5章 セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスについて .....	102
1.セクシュアル・ハラスメントの経験 .....	102
2.ドメスティック・バイオレンスの経験 .....	104
3.ドメスティック・バイオレンスについての相談先 .....	106
4.ドメスティック・バイオレンスの背景・要因 .....	110
5.デートDVの経験 .....	116
6.講座や研修等の受講について .....	118
7.女性への暴力をなくす方策 .....	122

第 6 章 男女共同参画に関する行政への要望 .....	128
1.男女共同参画に関する行政への要望.....	128
第 7 章 男女共同参画に関する制度や機関について .....	134
1.男女共同参画に関する制度等の認知度.....	134
IV 自由回答.....	141
V 参考資料(単純集計数値入り調査票) .....	145

# I 調査の概要



## 1. 調査の目的

男女平等に関する県民の生活実態と意識、要望等を経年的に把握し、今後の男女共同参画に向けた施策をより一層充実させるとともに、第5次島根県男女共同参画計画の基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 実施概要

### (1) 調査の範囲及び対象

島根県内に居住する満18歳以上の男女

### (2) 標本数と標本抽出方法

選挙人名簿からの層化二段無作為抽出法により、男女2,000人を抽出

### (3) 調査の方法と実施時期

郵送法（郵送配布・郵送回収）、回答はインターネットでも回答可

令和7年6月20日（金） 調査票発送

令和7年7月28日（月） 最終回答票到着

### (4) 調査の内容

性別役割、女性の社会参画、女性と仕事、仕事と家庭生活・地域・個人の生活、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、行政への要望など、男女共同参画の重要課題について、全24問のアンケート調査

## 3. 回収結果

調査標本数 2,000人

回収数 982人

有効回収数 982人（郵送：661人、インターネット321人）

有効回収率 49.1%

## 4. 調査主体等

### (1) 調査主体 島根県政策企画局女性活躍推進課

### (2) 調査実施と調査結果の集計 株式会社アテナ

## 5. 調査結果利用上の注意

(1) 集計結果は、原則として標本数に対する百分比（%）で、小数第2位を四捨五入して小数第1位までを表示している。したがって、構成比を合計しても100%にならないことがある。

(2) 複数回答の設問では、百分比（%）の合計は100%を超える。

(3) 図表中の「-」は、回答者がいない（ゼロである）ことを表す。

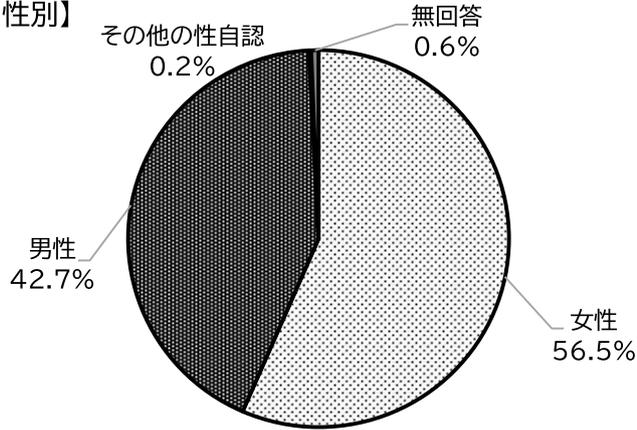
(4) 図、表中の項目の文章は、省略して用いる場合があるので、必要に応じて巻末の調査票を参照されたい。

## 6. 回答者の特性

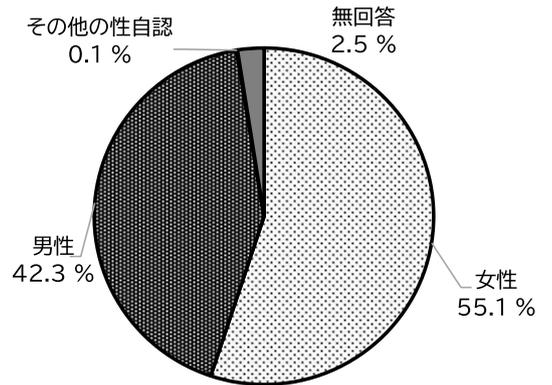
※令和元年度に行った島根県の「男女共同参画に関する県民の意識・実態調査」(以下、R元調査)と性別の割合についてはほぼ変わらず、女性の割合(56.5%)、男性(42.7%)であった。

※年代別については、30代(13.1%)及び50代(22.0%)の割合が増え、70歳以上(20.6%)の割合が減った。

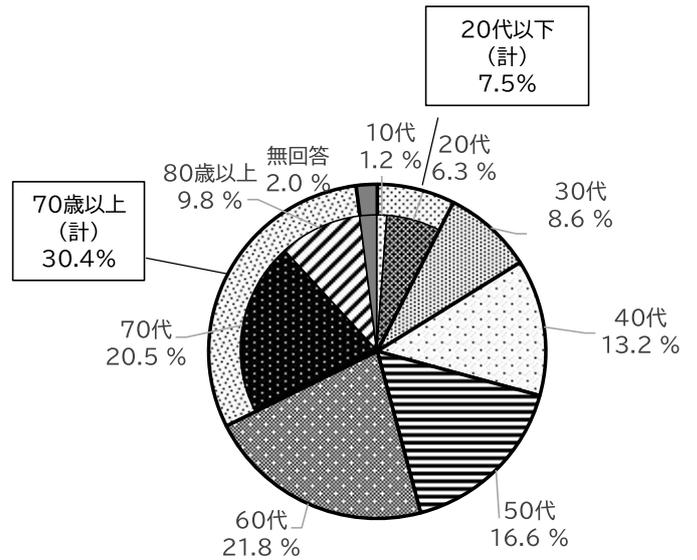
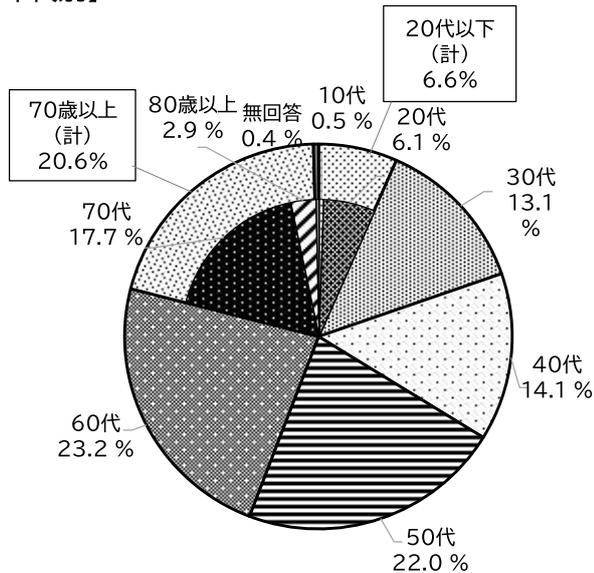
### 【性別】



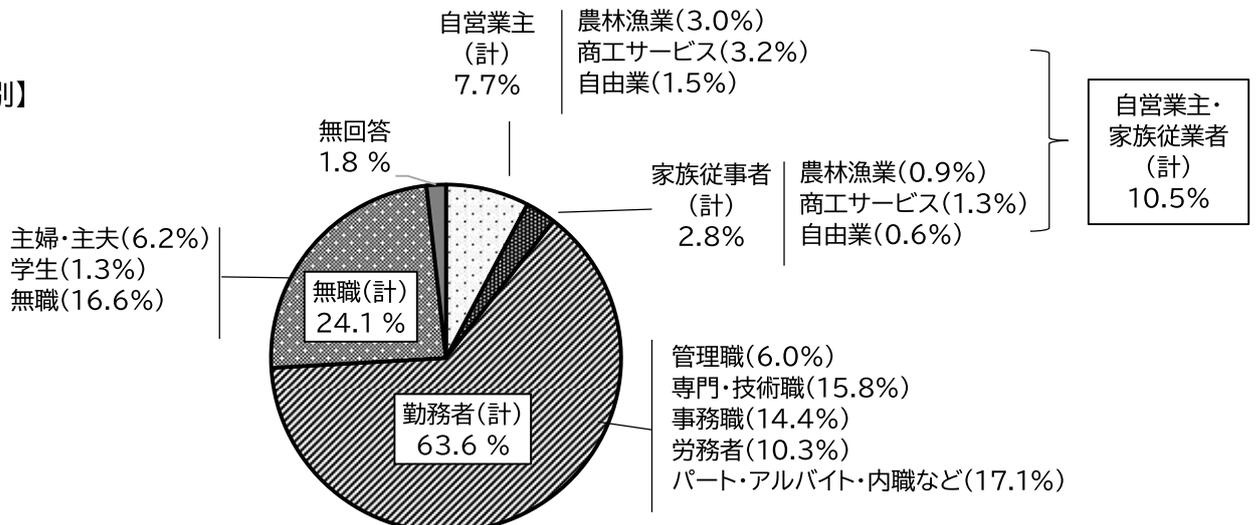
### 令和元年度



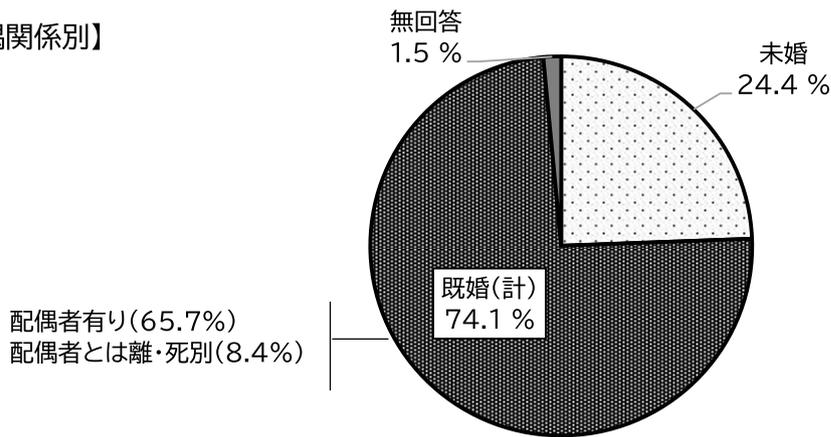
### 【年代別】



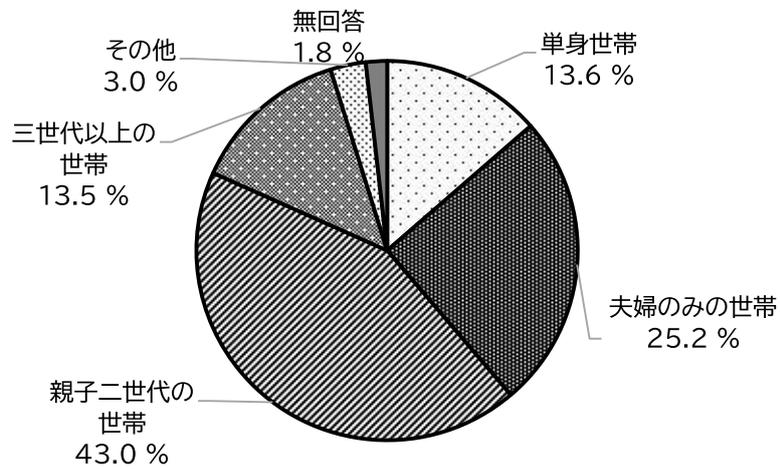
### 【職業別】



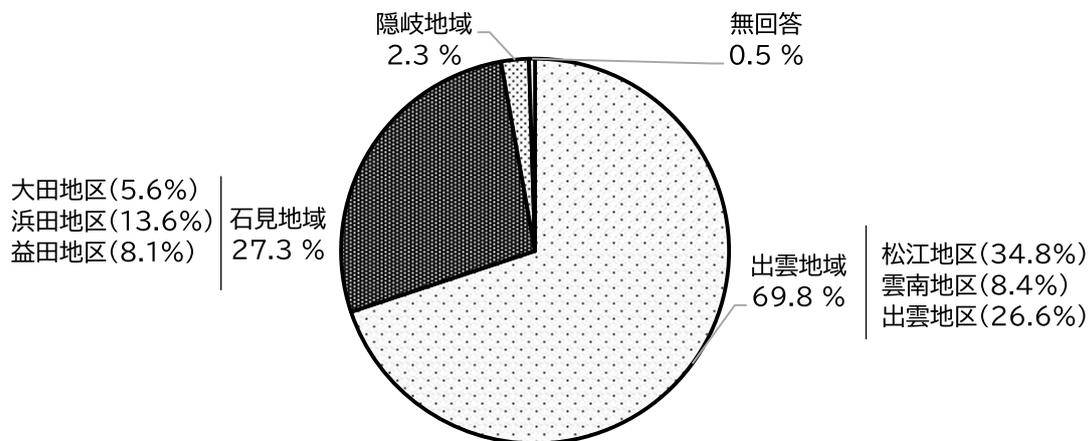
【配偶関係別】



【世帯状況別】



【地区別】



※地区の区分は以下のとおり

松江地区…松江市・安来市、出雲地区…出雲市、雲南地区…雲南市・奥出雲町・飯南町、大田地区…大田市・川本町・美郷町・邑南町、浜田地区…浜田市・江津市、益田地区…益田市・津和野町・吉賀町、隠岐地域…海士町・西ノ島町・知夫村・隠岐の島町

【回答者の特性表】

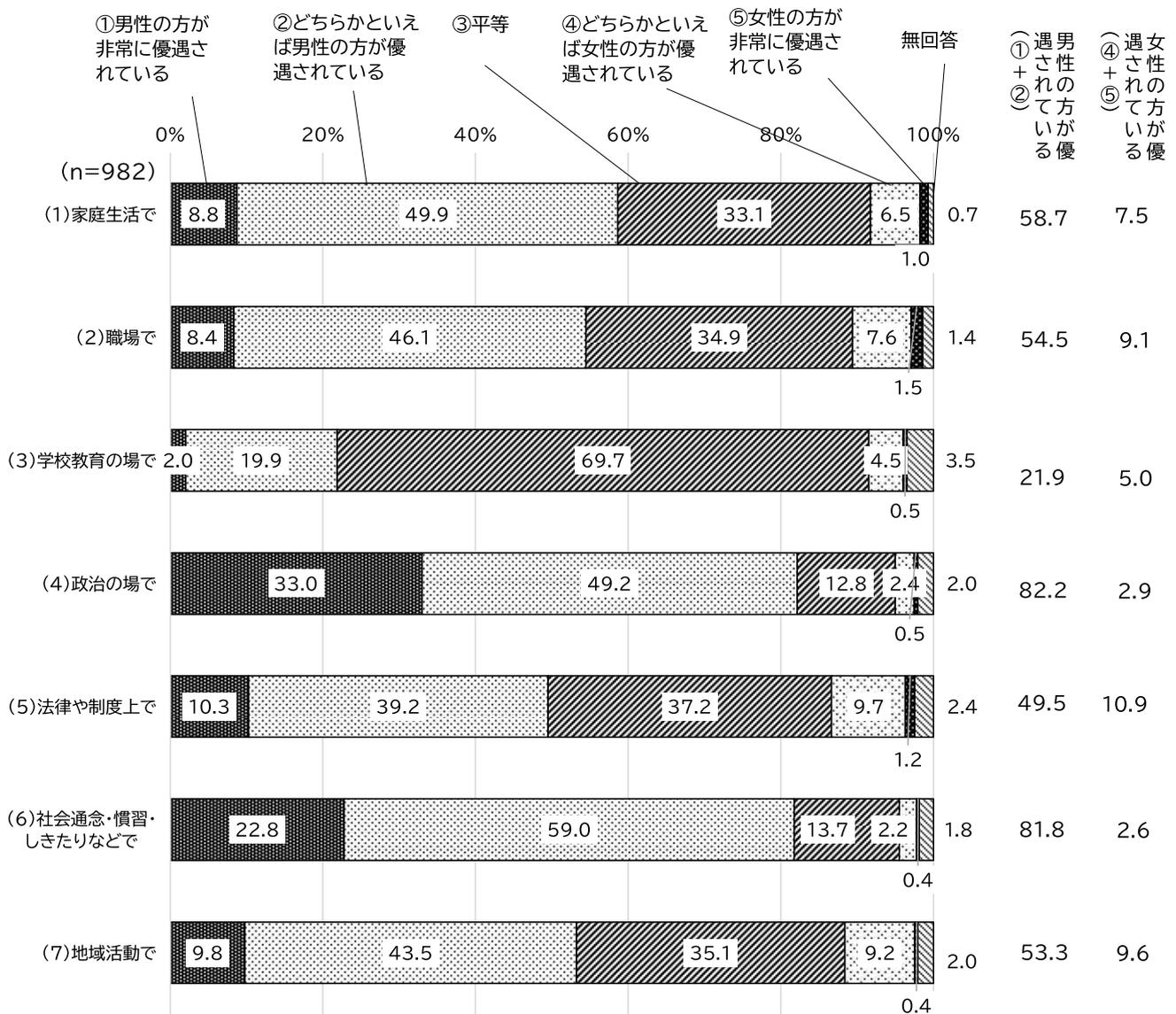
		実数（人）			構成比（％）		
		全体	女性	男性	全体	女性	男性
総数		982	555	419	100.0	100.0	100.0
性別	女性	555	555	-	56.5	100.0	-
	男性	419	-	419	42.7	-	100.0
	その他	2	-	-	0.2	-	-
	無回答	6	-	-	0.6	-	-
年齢別	10代～20代	65	40	25	6.6	7.2	6.0
	18～19歳	5	2	3	0.5	0.4	0.7
	20代	60	38	22	6.1	6.8	5.3
	30代	129	76	53	13.1	13.7	12.6
	40代	138	72	65	14.1	13.0	15.5
	50代	216	126	89	22.0	22.7	21.2
	60代	228	131	95	23.2	23.6	22.7
	70歳以上	202	110	92	20.6	19.8	22.0
	70代	174	97	77	17.7	17.5	18.4
	80歳以上	28	13	15	2.9	2.3	3.6
	無回答	4	0	0	0.4	0.0	0.0
職業、職業の有無別	有職（計）	727	401	323	74.0	72.3	77.1
	自営・家族従業（計）	103	47	56	10.5	8.5	13.4
	勤務者	624	354	267	63.5	63.8	63.7
	無職（計）	237	146	90	24.1	26.3	21.5
	無回答	18	8	6	1.8	1.4	1.4
配偶関係別	未婚	240	119	120	24.4	21.4	28.6
	既婚（計）	727	429	293	74.0	77.3	69.9
	配偶者有り	645	373	268	65.7	67.2	64.0
	配偶者とは離・死別	82	56	25	8.4	10.1	6.0
	無回答	15	7	6	1.5	1.3	1.4
配偶者の職業別	自営・家族従業（計）	72	34	38	7.3	6.1	9.1
	勤務者	410	237	170	41.8	42.7	40.6
	無職（計）	151	96	55	15.4	17.3	13.1
	無回答	12	6	5	1.2	1.1	1.2
世帯状況別	単身世帯	134	65	69	13.6	11.7	16.5
	夫婦のみの世帯	247	147	97	25.2	26.5	23.2
	親子2世代世帯	422	231	188	43.0	41.6	44.9
	3世代以上の世帯	132	84	48	13.4	15.1	11.5
	その他	29	18	11	3.0	3.2	2.6
	無回答	18	10	6	1.8	1.8	1.4
地区別	出雲地域	686	385	298	69.9	69.4	71.1
	松江地区	342	194	147	34.8	35.0	35.1
	雲南地区	83	42	40	8.5	7.6	9.5
	出雲地区	261	149	111	26.6	26.8	26.5
	石見地域	268	156	111	27.3	28.1	26.5
	大田地区	55	34	21	5.6	6.1	5.0
	浜田地区	133	77	56	13.5	13.9	13.4
	益田地区	80	45	34	8.1	8.1	8.1
	隠岐地域	23	13	10	2.3	2.3	2.4
	無回答	5	1	0	0.5	0.2	0.0
市郡規模別	市部（計）	888	507	378	90.4	91.4	90.2
	松江市	287	167	119	29.2	30.1	28.4
	その他の市	601	340	259	61.2	61.3	61.8
	郡部	89	47	41	9.1	8.5	9.8
	無回答	5	1	0	0.5	0.2	0.0

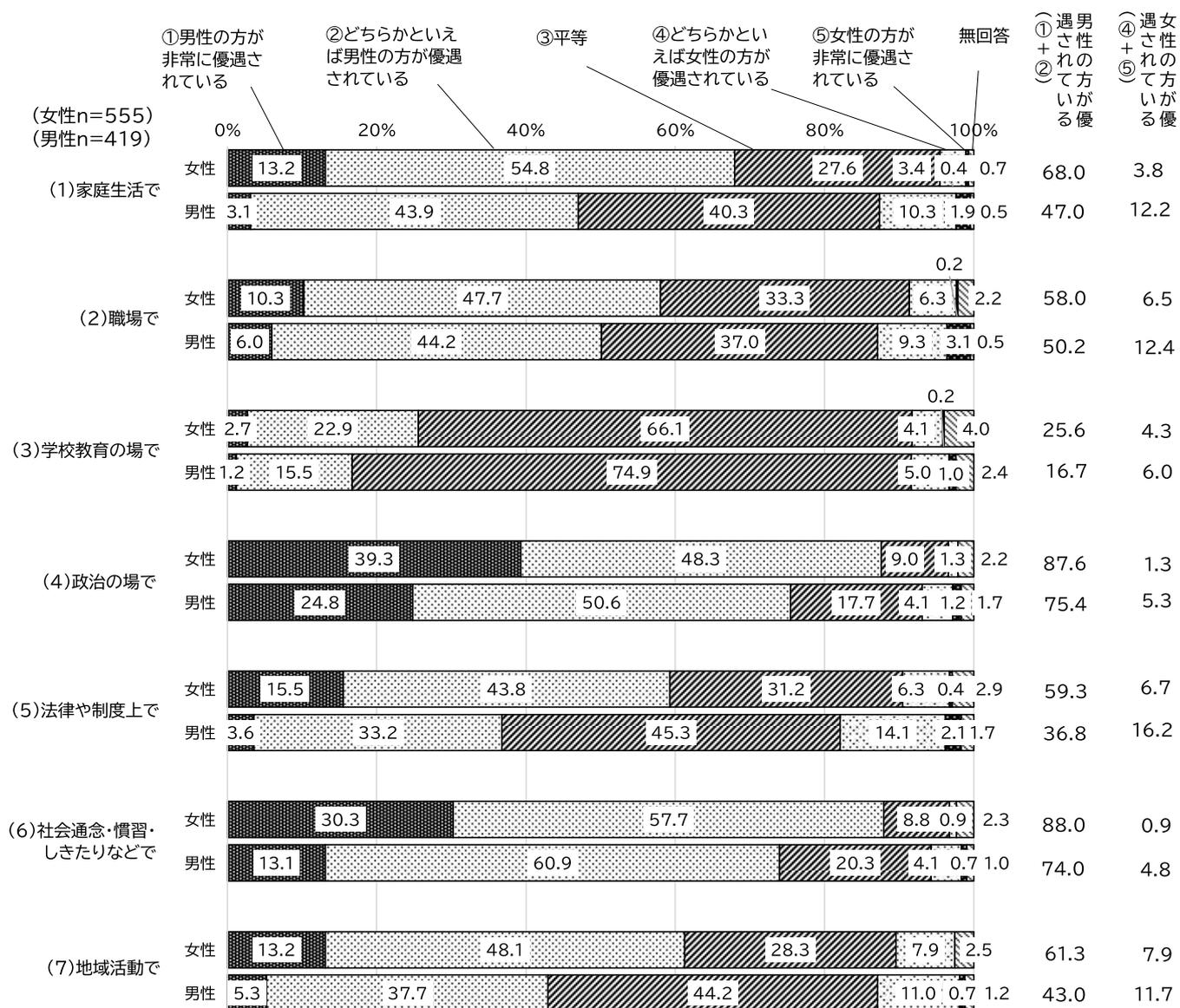
## II 調査結果の要約



問1 次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

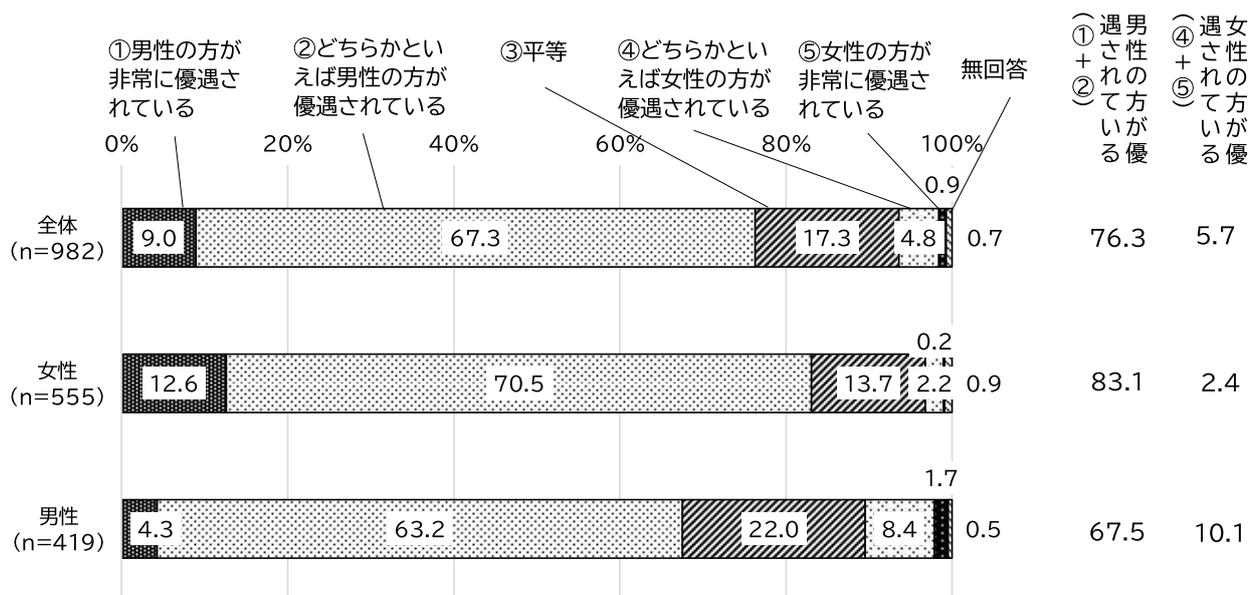
- 男女の平等感について、「平等」と回答した分野は「学校教育の場で」が69.7%と最も高い分野であった。その他の分野ではいずれも「男性の方が優遇されている(計)」が高い。特に、「政治の場」については、8割以上が「男性の方が優遇されている(計)」と回答している。
- 全ての分野において、「平等」と回答しているのは女性に比べて男性の方が上回っており、男女で認識の差があることが分かる。





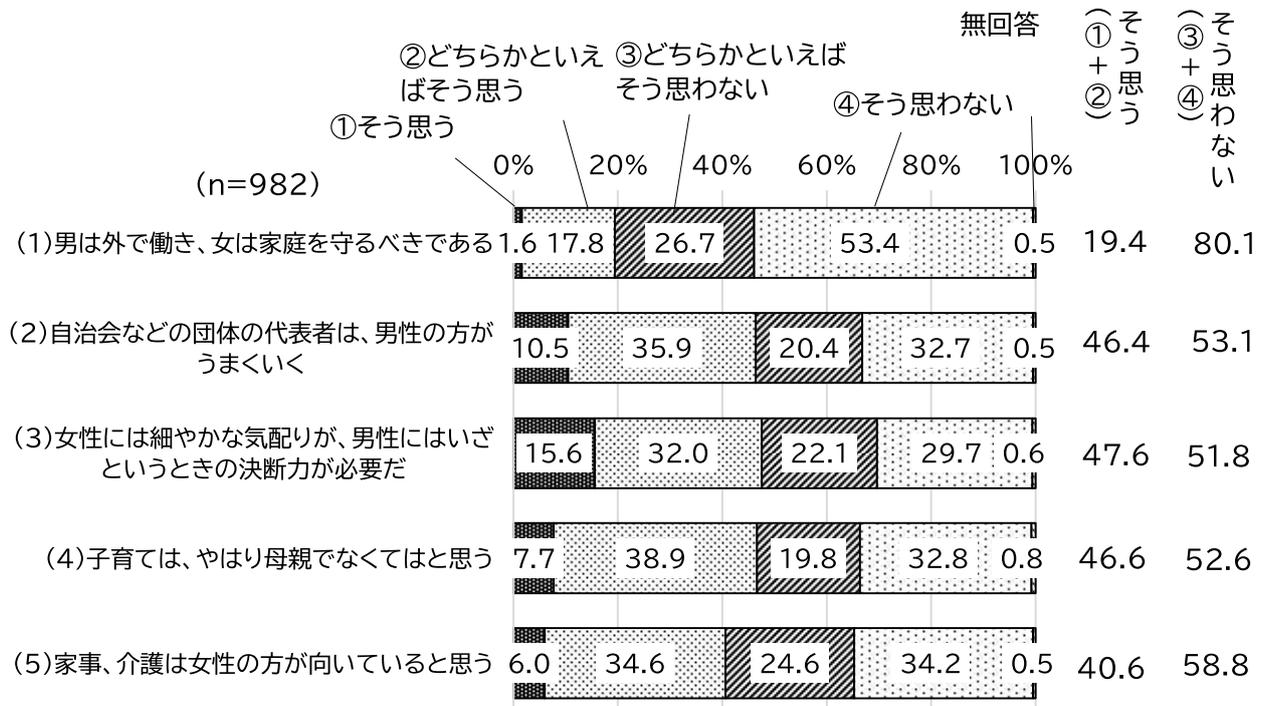
問 1-2 では、社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(〇は1つ)

- 社会全体で見た男女の平等感について、男女とも「男性の方が優遇されている（計）」と回答した割合が高かった。
- 男女の回答を比較すると、女性に比べ、男性の方が「平等」と回答している割合が高く、男女の意識の差があることが分かる。



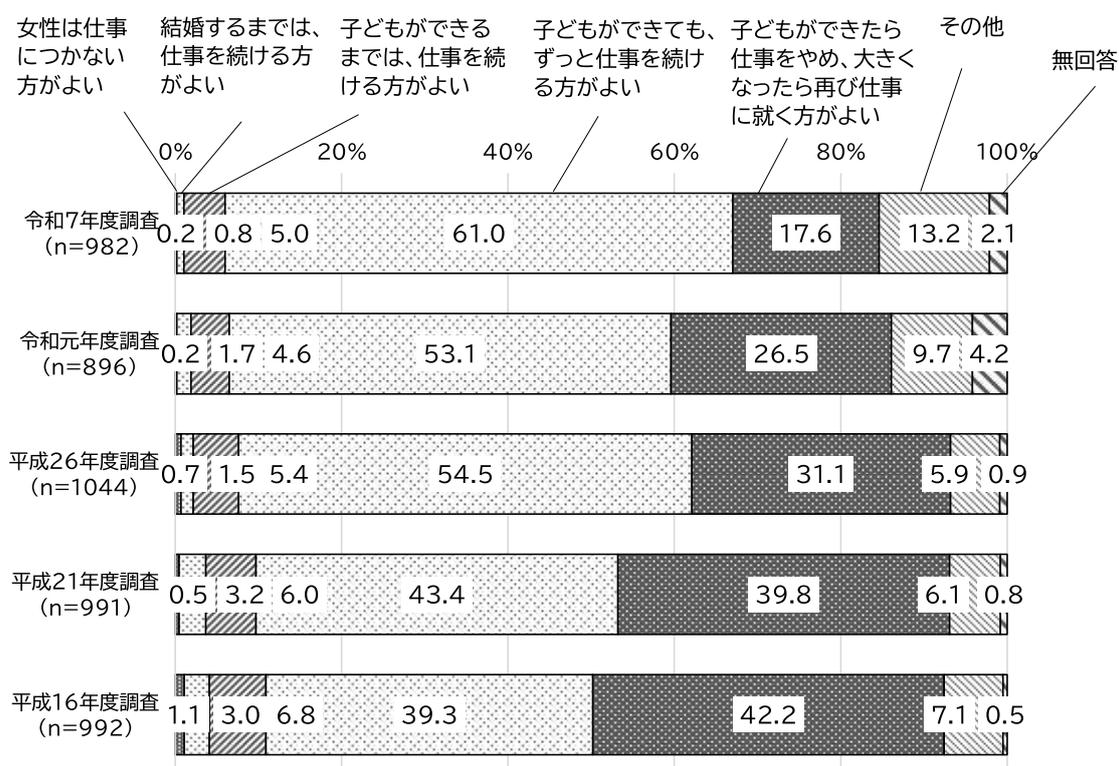
問2 次にあげることがらについて、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

- 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考えについて、肯定的な意見（「そう思う（計）」は19.4%、否定的な意見（「そう思わない（計）」は80.1%となった。
- それ以外の4つの事柄については、いずれも否定的な意見の方が半数を超えているが、肯定的な意見の割合も半数近くを占めている。



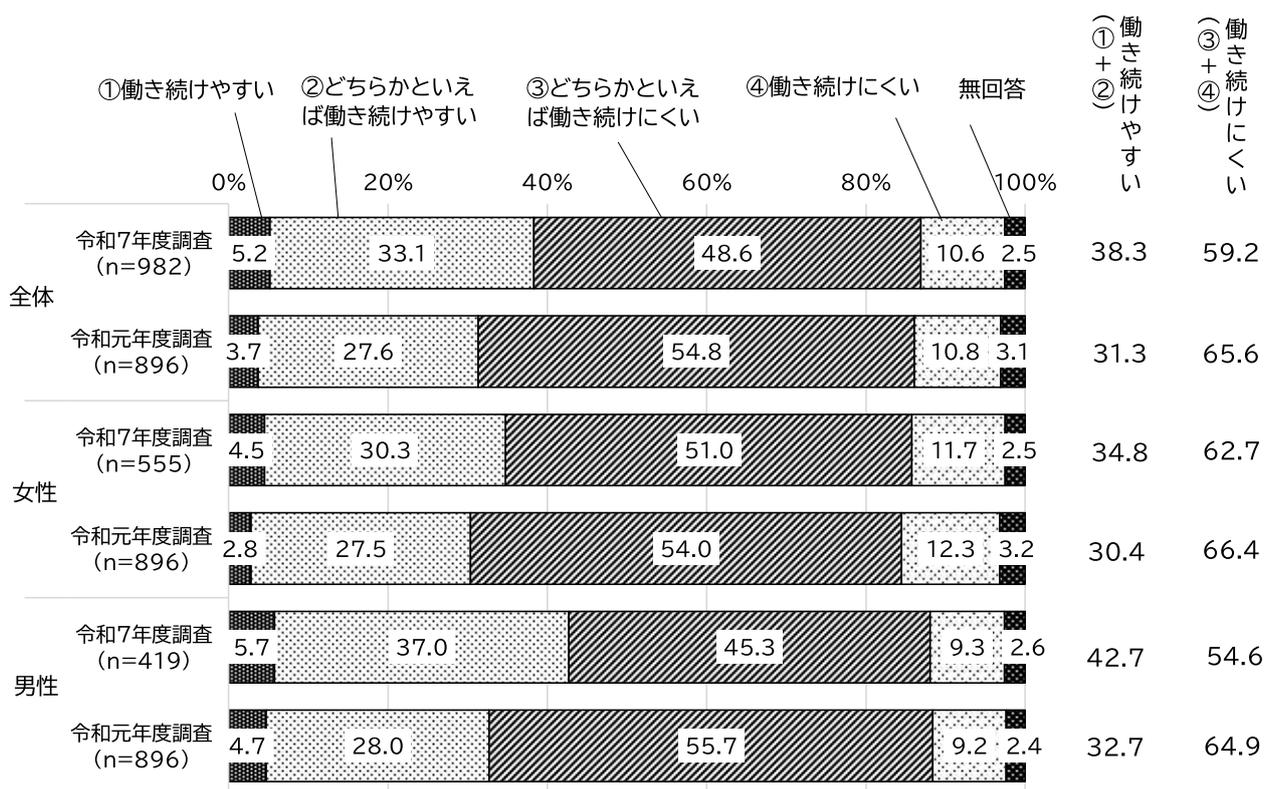
#### 問4 一般的に女性と仕事について、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

- 女性と仕事に関する考え方については、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答した割合が61.0%と6割以上を占めている。
- これまでの調査と比較すると、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の回答割合が増加しており、平成16年度調査から21.7ポイント増加している。
- 「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい」が17.6%とR元調査より8.9ポイント減少している。また、「その他」では、「家庭の都合により、自身で決めたらよいと思う」といった意見が多くあった。



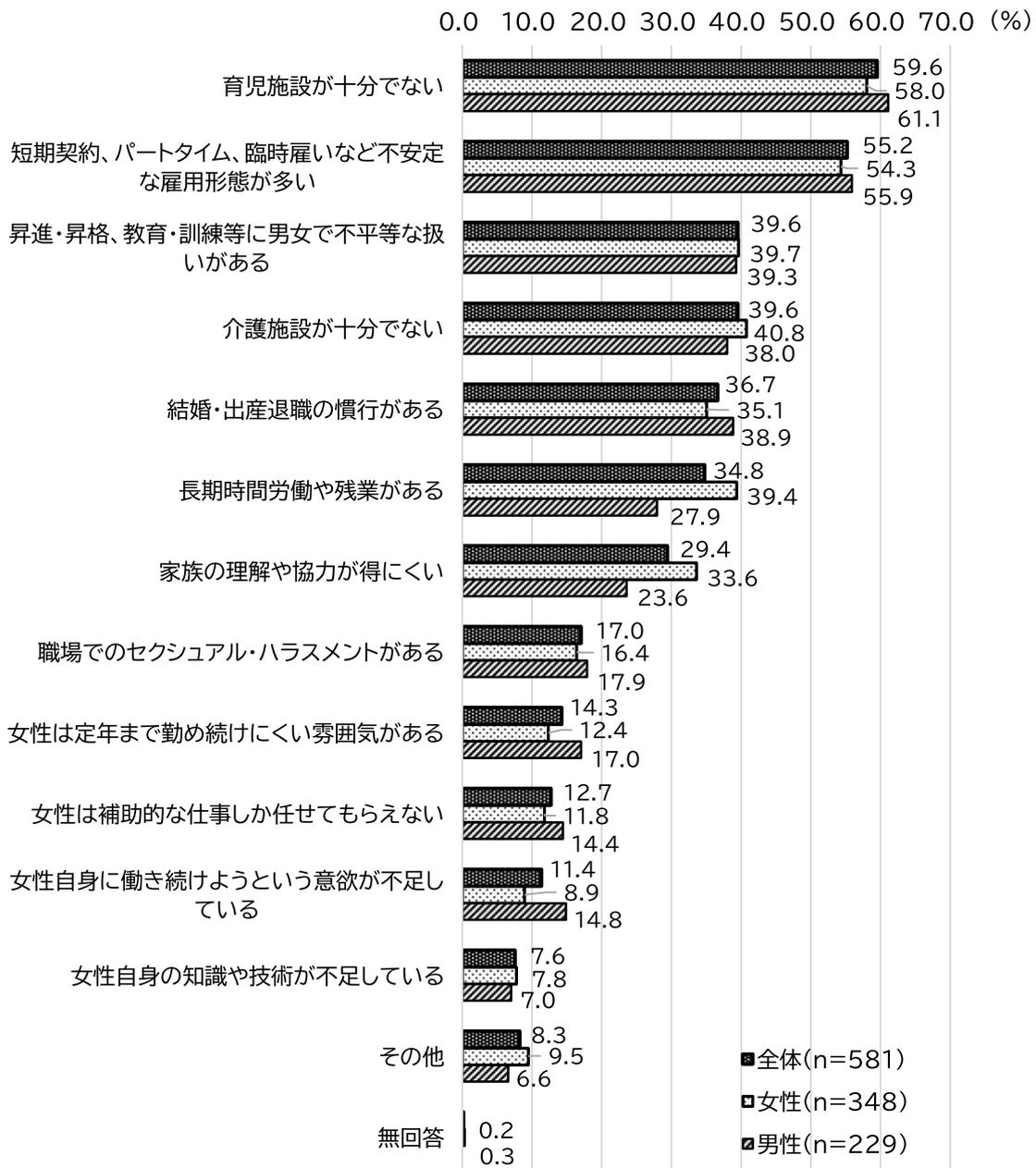
問5 一般的に、女性が働き続けていくことについて、現在どのような状況にあると思いますか。  
(〇は1つ)

- 女性の働き方について、R元調査と比較すると、「働き続けやすい(計)」が31.3%から38.3%と7.0ポイント上がっているが、4割程度にとどまっている。
- 性別でみても、R元調査と比較すると「働き続けやすい(計)」の回答割合は増加しているが、男性に比べて女性の方が「働き続けにくい(計)」の割合が高い。



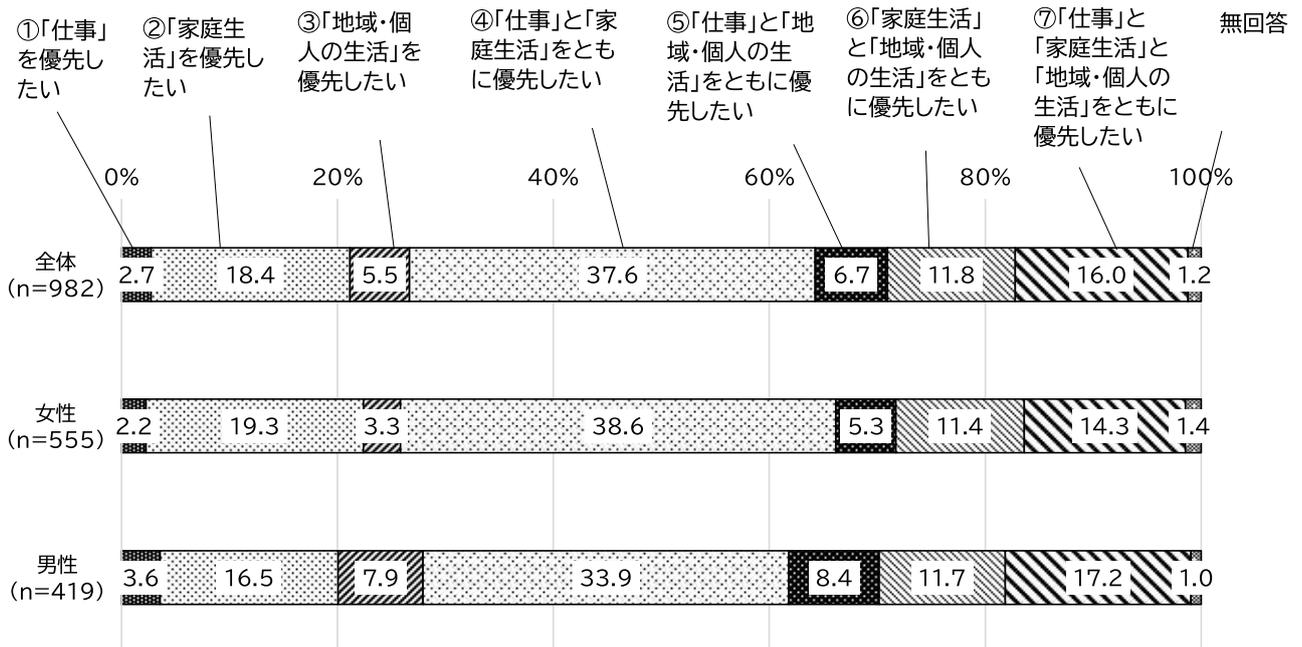
問 5-2 女性が働き続けていく上で、障害となっているのはどのようなことだと思いますか。  
(〇はいくつでも)

- 女性が働く上での障害について、「育児施設が十分でない」が59.6%と最も多い回答であった。次いで、「短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い」が55.2%、「昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある」「介護施設が十分でない」が39.6%であった。
- 男女で差が見られたのは、「長時間労働や残業がある」(女性39.4%、男性27.9%)、「家族の理解や協力が得にくい」(女性33.6%、男性23.6%)であり、いずれも男性に比べて女性の方が上回っている。



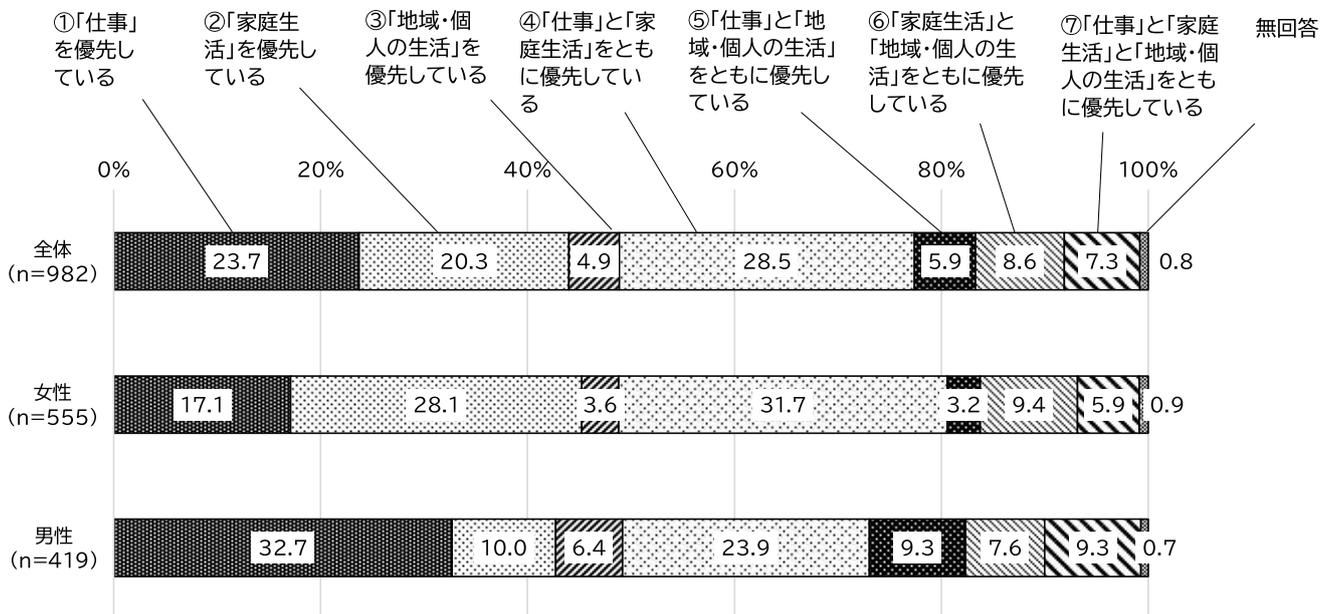
**問 6 生活の中での、仕事と家庭生活または地域・個人の生活の優先度について、お聞かせください。まず、あなたの希望に最も近いものはどれですか。(○は1つ)**

- 生活の優先度について、希望に近いものは「仕事と家庭生活」が37.6%と最も高く、次いで「家庭生活」が18.4%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」が16.0%であった。
- 優先度が最も高いのは、女性・男性とも「仕事と家庭生活」であったが、次いで高いものは、女性は「家庭生活」19.3%、男性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」17.2%であった。
- 女性と比べて、男性は「地域・個人の生活」の優先度が高い。



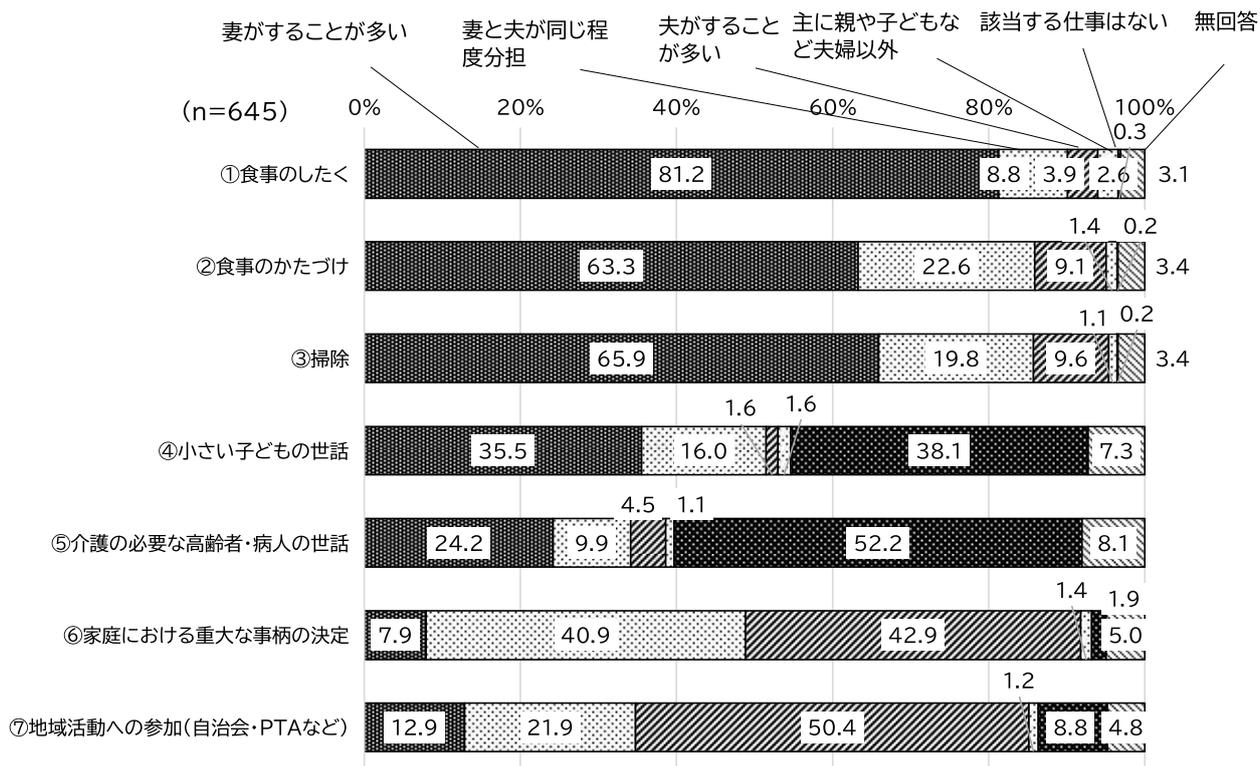
問 6-2 それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

- 現実(現状)に近いものについては、「仕事と家庭生活をともに優先している」が28.5%と最も多く、次いで「仕事を優先している」が23.7%であった。
- 男女での比較では、女性は「仕事と家庭生活をともに優先している」が31.7%であったのに対し、男性は「仕事を優先している」が32.7%であった。「家庭生活を優先している」と回答した割合も、女性は28.1%、男性は10.0%と違いが見られた。
- 希望は、「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多い回答であったが、現実では「仕事」を優先している傾向が見られる。

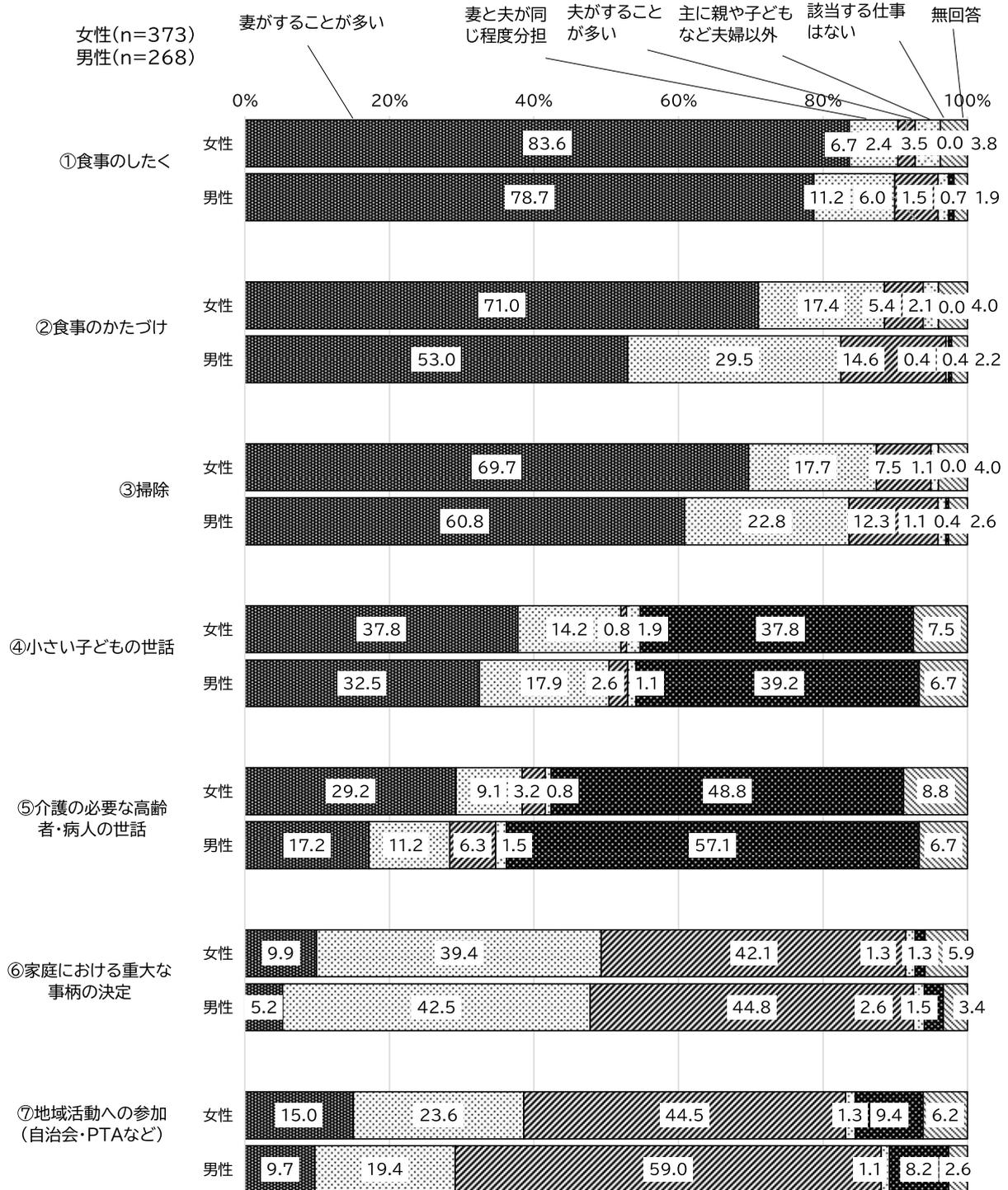


問 8 家庭の中で次の仕事はどなたが担当されていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

- 「食事のしたく」、「食事のかたづけ」、「掃除」など、家事については、「妻がすることが多い」と回答した割合が高くなっている。一方で、「家庭における重大な事柄の決定」、「地域活動への参加（自治会・PTAなど）」については、「夫がすることが多い」と回答した割合が高くなっている。

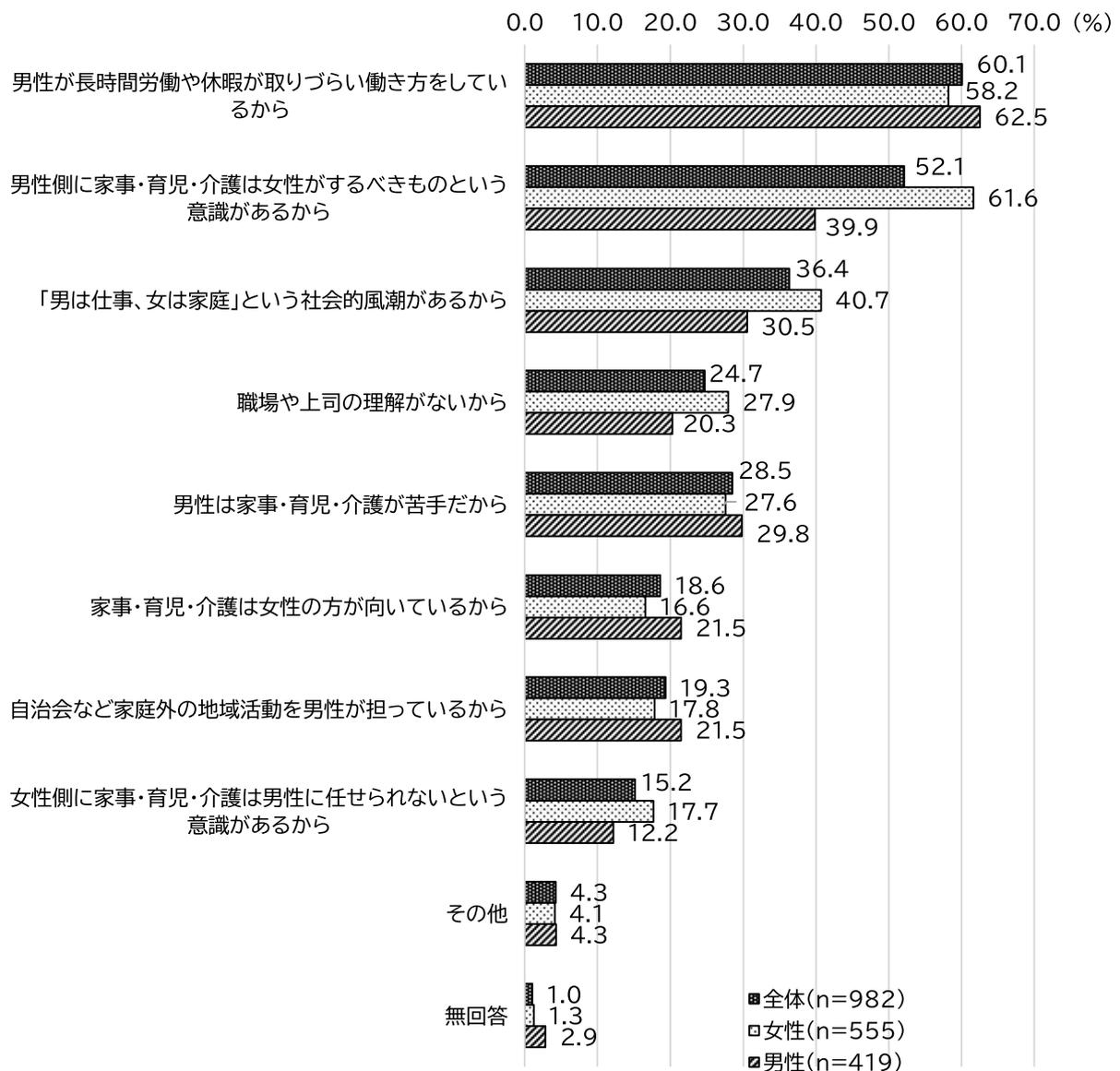


●男女の比較では、全ての分野において、「妻がすることが多い」と回答しているのは女性が多かった。また、食事のかたづけにおいて、「妻がすることが多い」と回答した割合は、女性71.0%、男性53.0%、「妻と夫が同じ程度分担」については女性17.4%、男性29.5%、「夫がすることが多い」については女性5.4%、男性14.6%と女性と男性の回答に差が見られた。



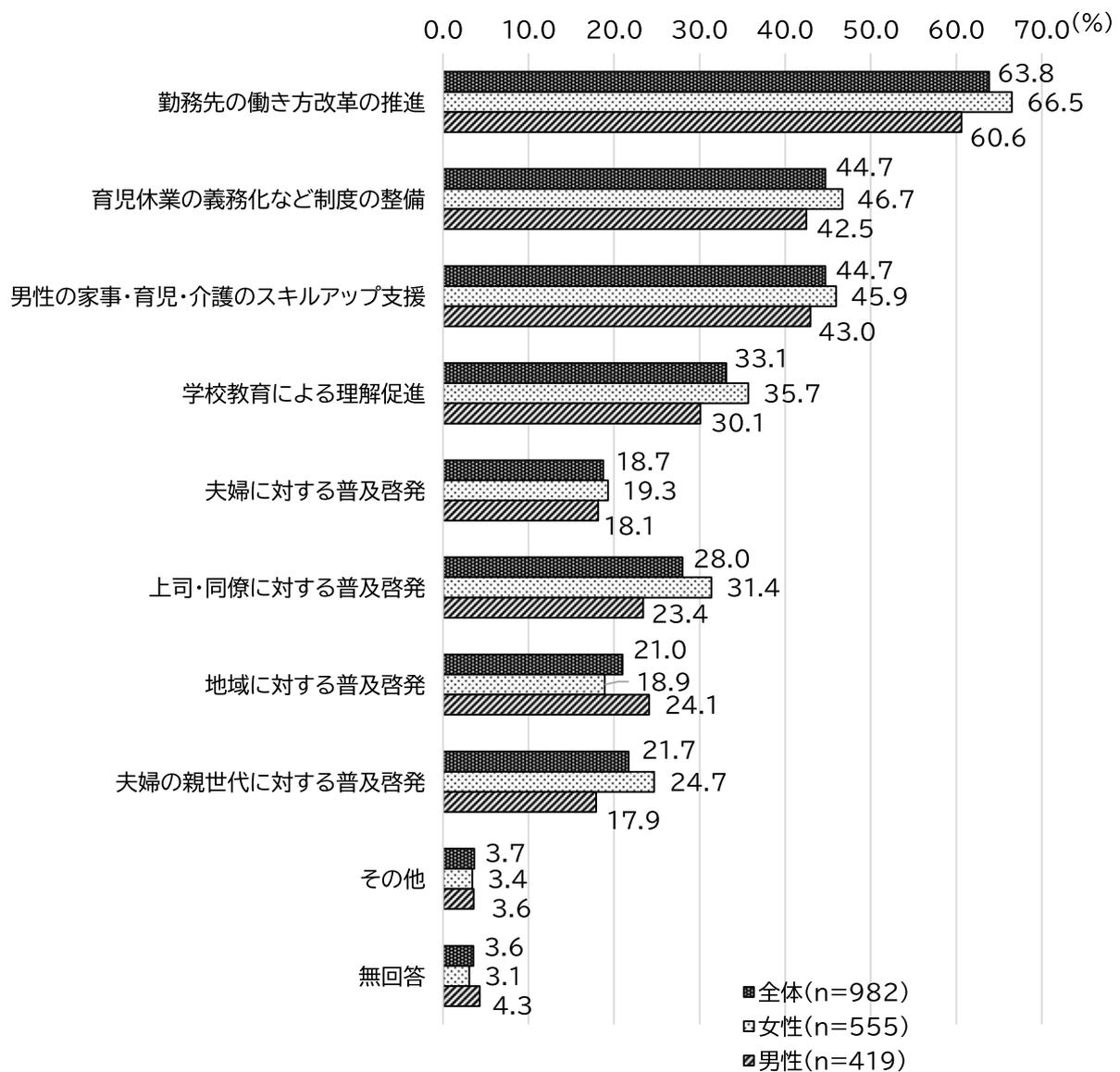
**問 9 島根県では、女性に比べて男性の家事・育児・介護の時間が短い状況にあります。あなたは、男性の家事・育児・介護の時間が短いのはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)**

- 男性の家事・育児・介護の時間が短いことについて、全体としては「男性が長時間労働や休暇が取りづらい働き方をしているから」が60.1%、次いで「男性側に家事・育児・介護は女性がすべきものという意識があるから」が52.1%であった。これは男性においても同様の傾向であった。
- 女性は「男性側に家事・育児・介護は女性がすべきという意識があるから」が61.6%と最も多い回答であり、男性の39.9%と21.7ポイントの差が見られた。



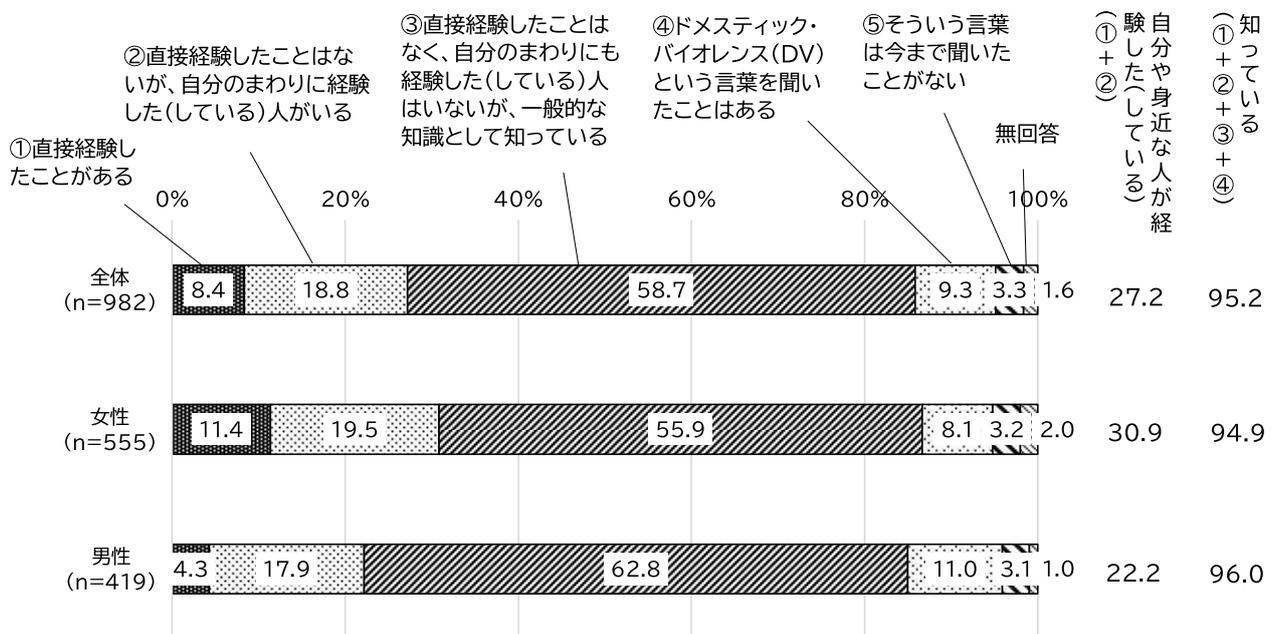
**問 10 男性の家事・育児・介護への参画を進めるために行政が取り組むべきことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)**

- 男性の参画を進めるために行政が取り組むべきことについては、「勤務先の働き方改革の推進」が63.8%と最も多く、次いで「育児休業の義務化など制度の整備」、「男性の家事・育児・介護のスキルアップ支援」が44.7%であった。
- 男女ともに「勤務先の働き方改革の推進」と回答した割合が最も高かった。一方、男女で差が大きかったのは、「上司・同僚に対する普及啓発」8.0ポイント差（女性31.4%、男性23.4%）、次いで「夫婦の親世代に対する普及啓発」6.8ポイント差（女性24.7%、男性17.9%）となっている。男性の方が女性より多かったのは、「地域に対する普及啓発」のみであり、5.2ポイント差（女性18.9%、男性24.1%）となっている。



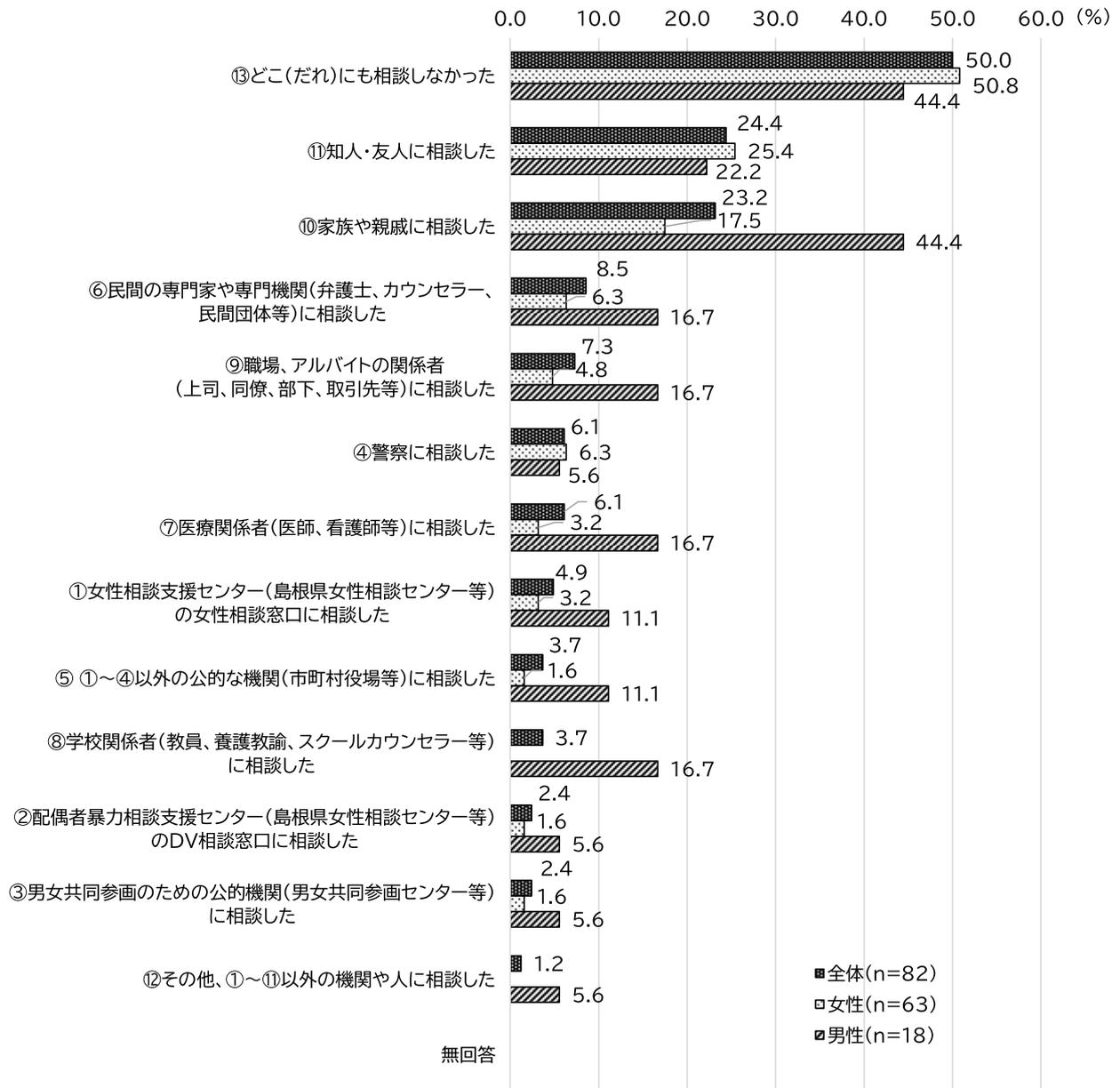
**問 12 配偶者(事実婚、パートナー等を含む)などふたりの間でふるわれる身体的・精神的・性的など(ドメスティック・バイオレンス(DV))が問題とされていますが、あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)による被害を経験したり見聞きしたことがありますか。(〇は1つ)**

- 「直接経験したことがある」および「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がある」を合わせた回答は27.2%で、さらに「一般的な知識として知っている」、「ドメスティック・バイオレンス(DV)という言葉を見たことはある」まで含めたDVを認知している人の割合は95.2%であった。
- 自分や身近な人が経験した人の割合は女性の方が男性より8.7ポイント上回っているが、認知している割合は男性の方が女性より1.1ポイント上回っている。



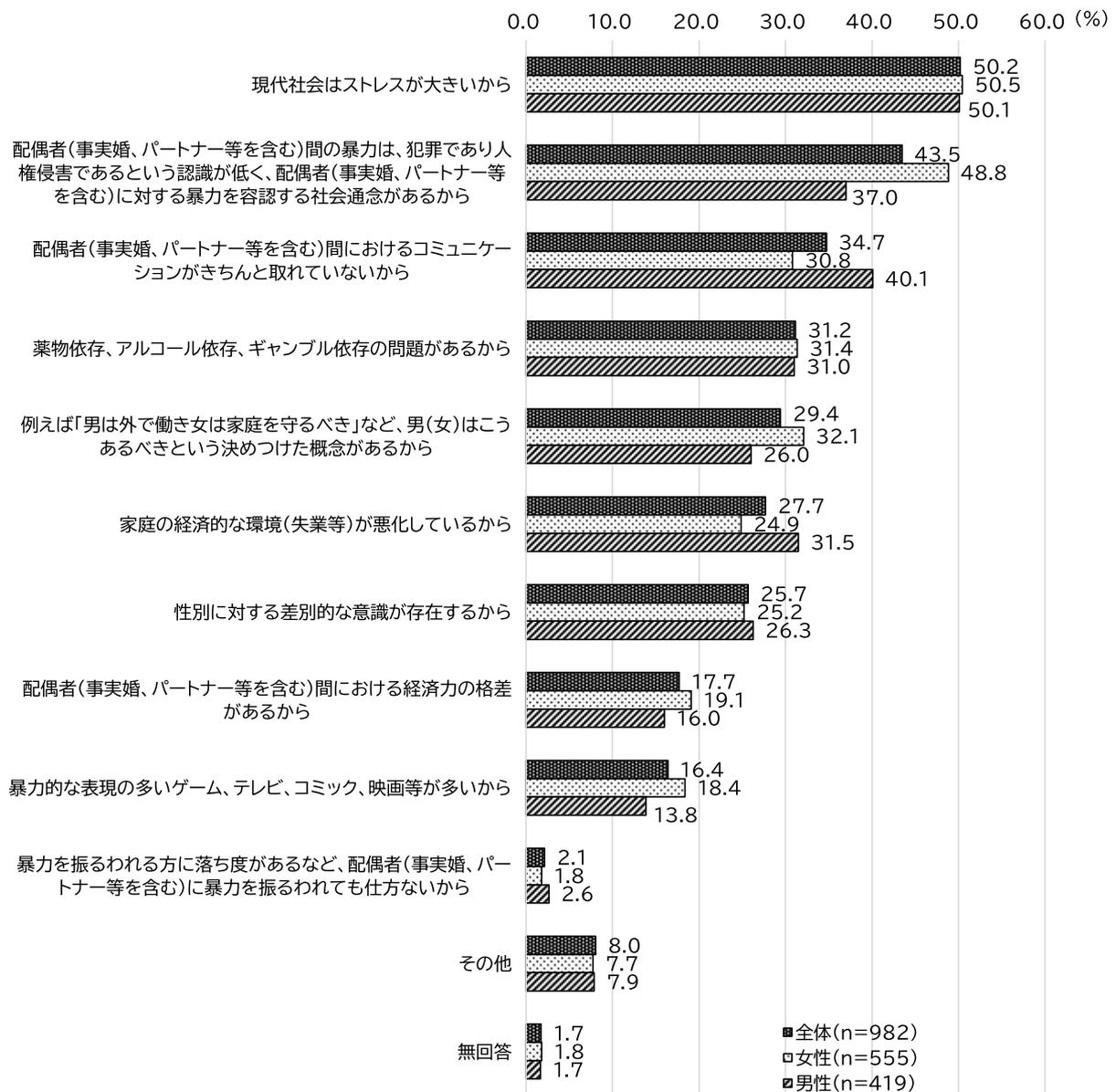
問12-2 あなたはドメスティック・バイオレンス(DV)による被害を経験した際に、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

- DVを経験した際に、誰かに打ち明けたり相談したりしたかについては、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が50.0%と最も多く、次いで「知人・友人に相談した」が24.4%であった。
- 「どこ(だれ)にも相談しなかった」を除き、男性は「家族や親戚に相談した」が44.4%と最も多い回答であった一方、女性は「知人・友人に相談した」25.4%と相談先に違いが見られた。



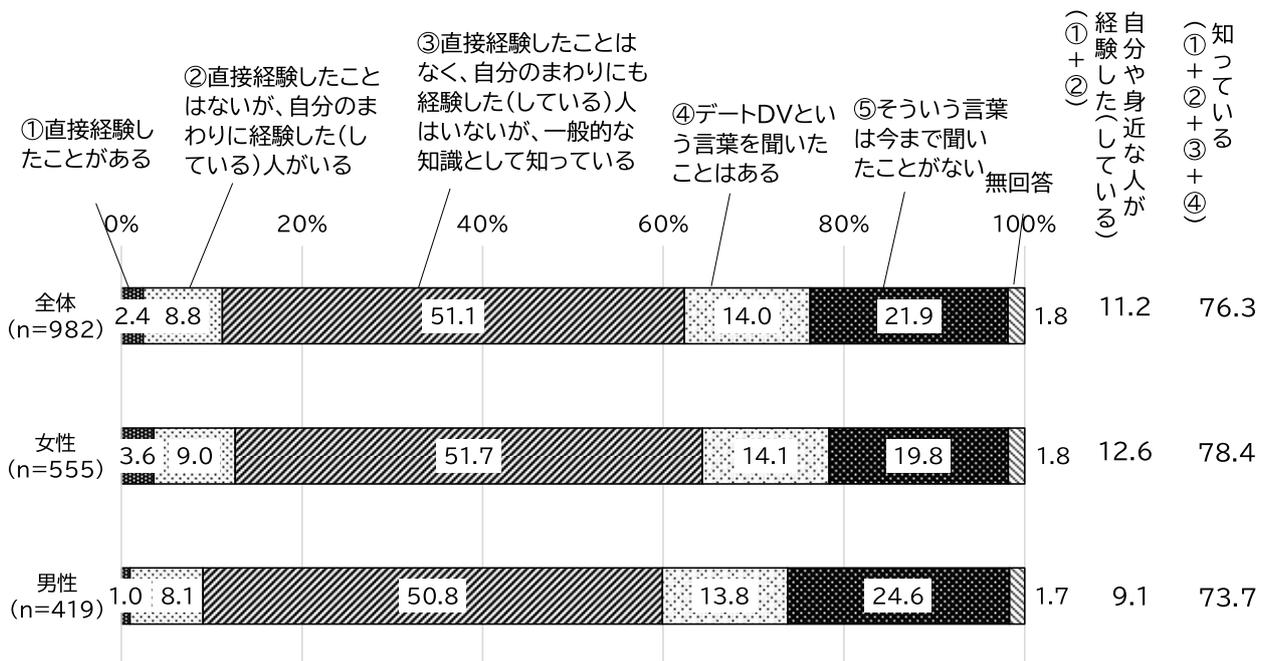
**問 13 ドメスティック・バイオレンス(DV)が起こる背景や要因は何だと思いますか。**  
(〇はいくつでも)

- DVが起こる背景や要因について、最も多いのは、「現代社会はストレスが大きいから」が50.2%であり、回答者の半数以上が選択している。次いで、「配偶者間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者に対する暴力を容認する社会通念があるから」が43.5%、「配偶者間におけるコミュニケーションがきちんとしていないから」が34.7%であった。
- 性別で見ると、女性は「現代社会はストレスが大きいから」が50.5%、次いで「配偶者間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者に対する暴力を容認する社会通念があるから」が48.8%であるのに対し、男性は「現代社会はストレスが大きいから」が50.1%に次いで「配偶者間におけるコミュニケーションがきちんとしていないから」が40.1%であった。



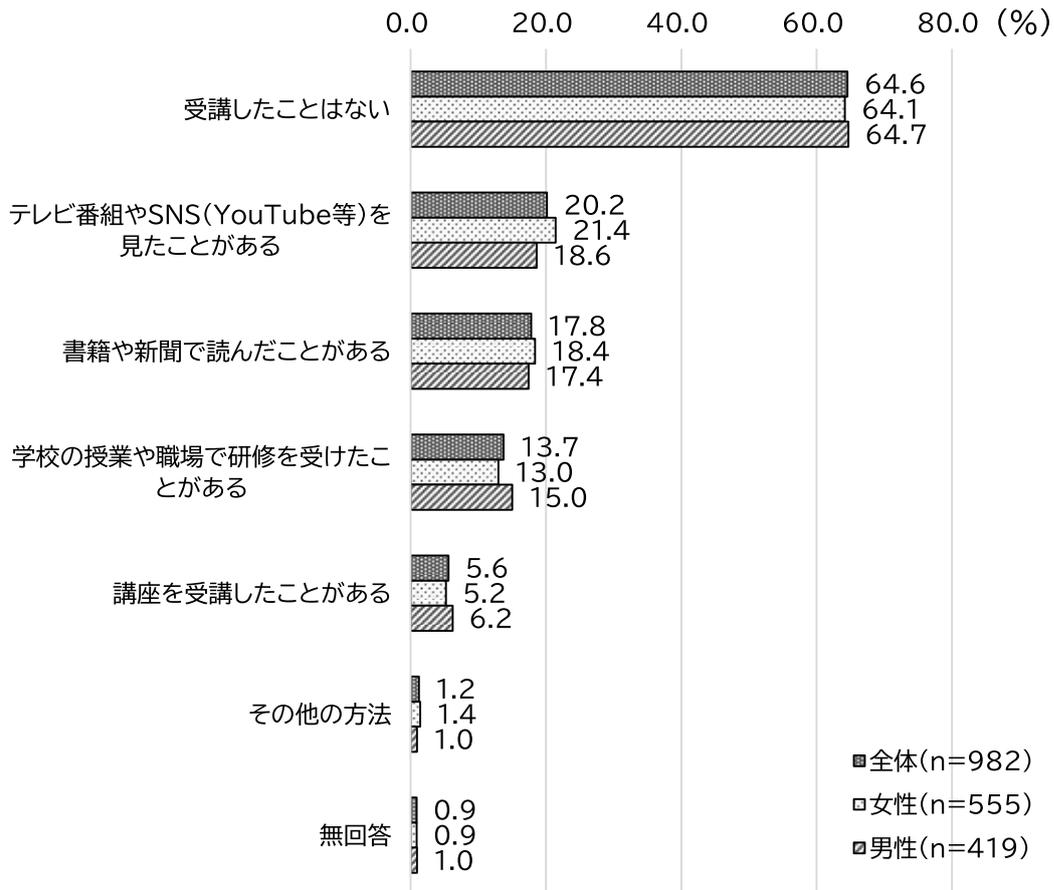
問 14 ドメスティック・バイオレンス(DV)は配偶者(事実婚・パートナー等を含む)間だけの問題ではなく、恋愛関係にある者の間でも同じような暴力(デート DV)が起きています。あなたは、デート DV による被害を経験したり見聞きしたことがありますか。(〇は1つ)

- デート DV については、「直接経験したことがある」および「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がある」を合わせた回答は 11.2%で、「一般的な知識として知っている」「デート DV という言葉を聞いたことがある」を合わせると 76.3%であった。
- 一方、「そういう言葉は今まで聞いたことがない」は 21.9%とドメスティック・バイオレンスに比べて、デート DV の認知については、低い傾向であった。



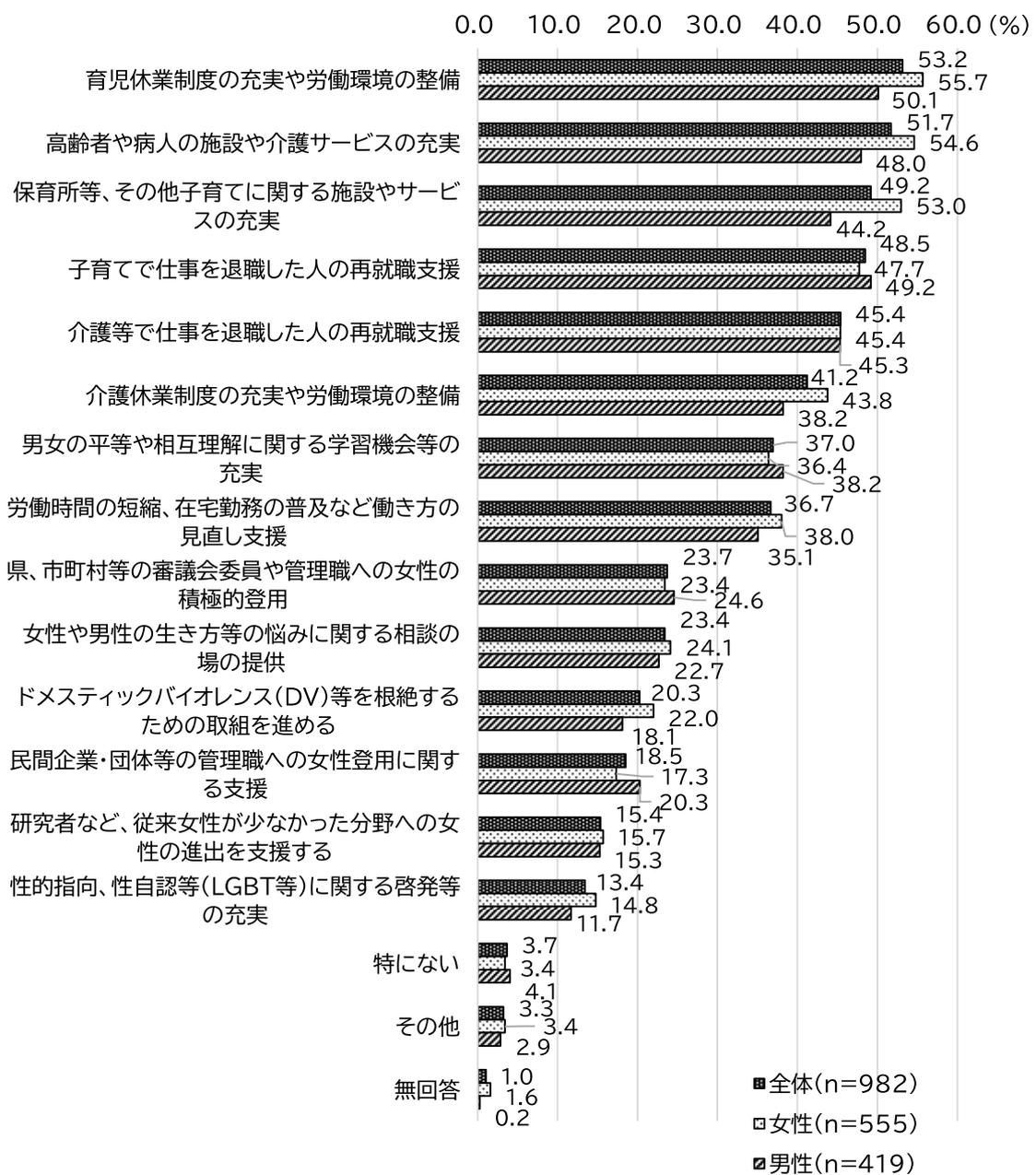
**問 15 これまで、ドメスティック・バイオレンス(DV)またはデート DV について、講座や研修等を受講したことがありますか。(〇はいくつでも)**

- 講座や研修等を受講したことがあるかについては、「講座を受講したことはない」と回答した人は64.6%と半数以上であった。
- 講座や研修を受講したことがある人について、「テレビ番組やSNS (YouTube等)を見たことがある」が20.2%と最も多かった。



**問 17 男女共同参画を進めていくために、行政が力を入れるべきことは何だと思われますか。  
(〇はいくつでも)**

- 行政が力を入れるべきことについて、「育児休業制度の充実や労働環境の整備」が53.2%と最も多く、次いで「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」が51.7%、「保育所等、その他子育てに関する施設やサービスの充実」が49.2%であった。
- 男女の比較では、「保育所等、その他子育てに関する施設やサービスの充実」について、女性が53.0%で、男性の44.2%と差が見られた。男性は「育児休業制度の充実や労働環境の整備」に次いで、「子育てで仕事を退職した人の再就職支援」が49.2%、「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」が48.0%であった。





### Ⅲ 調査結果の分析



# 第1章 男女の平等感、性別役割などについて

## 1.各分野における男女の地位の平等感

- 「学校教育の場」での平等感が高いが、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「政治の場」、「家庭」では「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高い。

「家庭生活」、「職場」、「学校教育」、「政治」、「法律や制度上」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「地域活動」の7つの分野で、男女の地位が平等になっているかという問については、「平等」と回答した割合が最も高かったのは、「学校教育の場」で（69.7%）、次いで「法律や制度上で」（37.2%）であった。

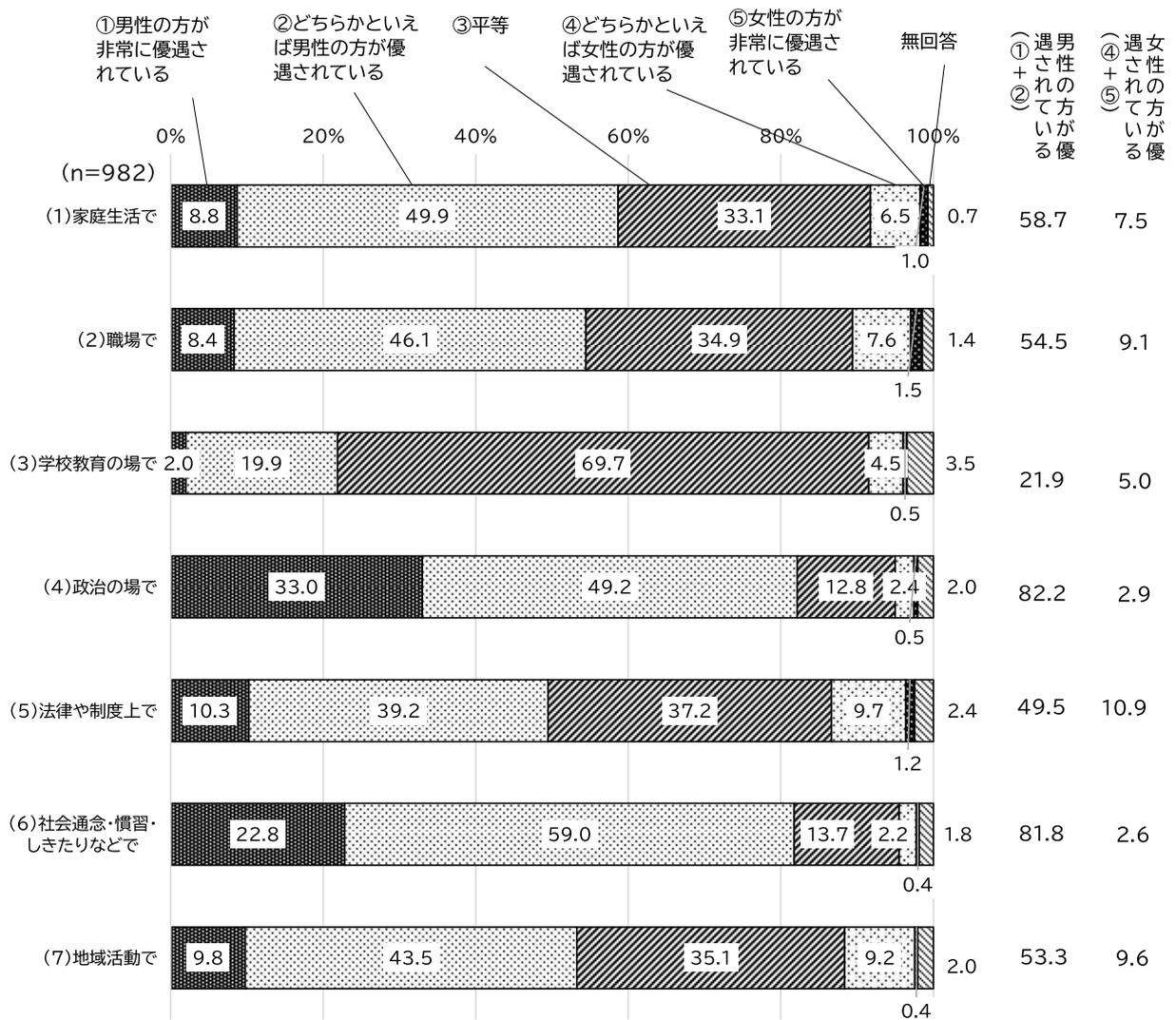
一方、「男性の方が非常に優遇されている」及び「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した割合は、「政治の場で」（82.2%）、「社会通念・慣習・しきたりなどで」（81.8%）と2分野で8割以上の回答が見られた。

令和元年度に行った島根県の「男女共同参画に関する県民の意識・実態調査」（以下「R元調査」）と比較をすると、「男性の方が優遇されている」が「政治の場で」は6.5ポイント、「社会通念・慣習・しきたりなどで」は4.7ポイント上昇している。一方、「女性の方が優遇されている」は「社会通念・慣習・しきたりなどで」を除く全ての分野でR元調査よりも上昇している。「平等」と回答した割合は、「職場で」3.4ポイント、「学校教育の場で」6.4ポイント上昇している。

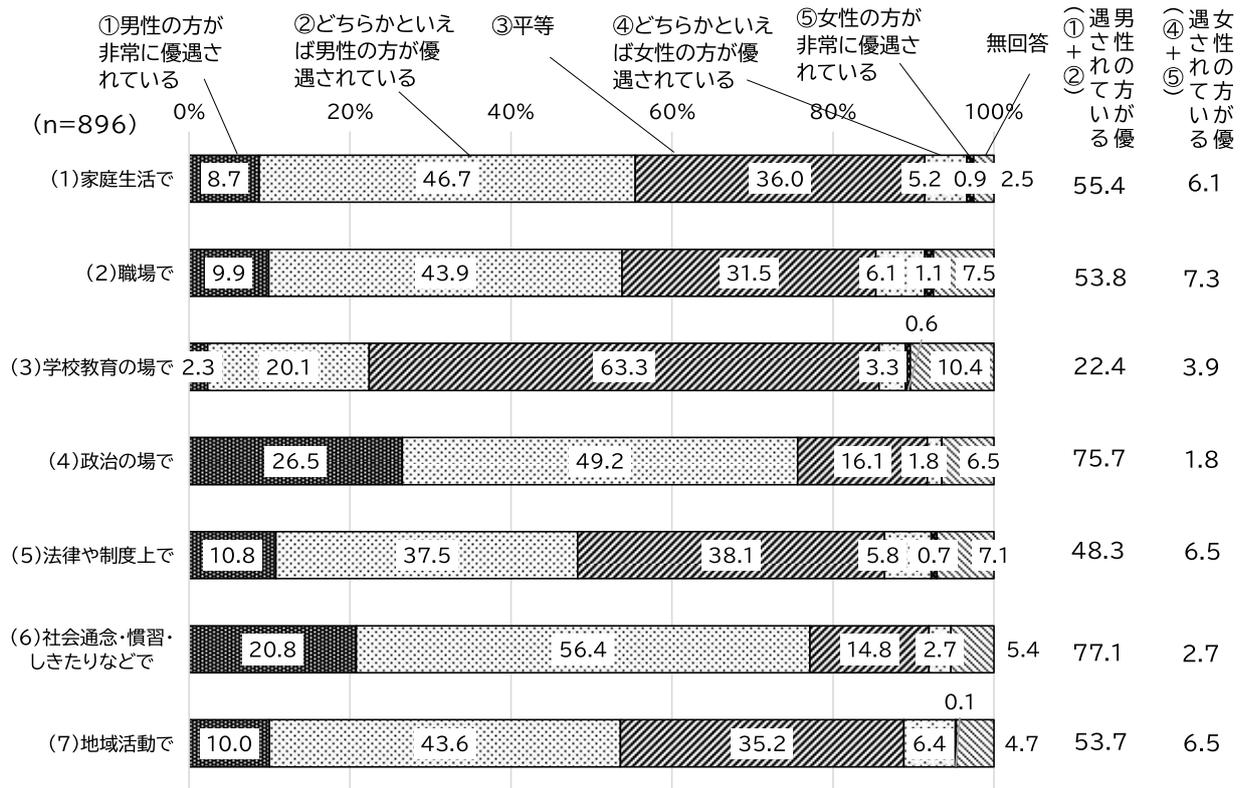
令和6年9月に内閣府が行った「男女共同参画社会に関する世論調査」（以下「R6内閣府調査」）と比較すると、「男性の方が優遇されている」は「家庭生活で」が2.0ポイント、「職場で」が9.3ポイント低い。一方、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が3.6ポイント、「地域活動で」が6.3ポイント高くなっている。

問1 次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
 (○はそれぞれ1つずつ)

図1-1 各分野における男女の地位の平等感

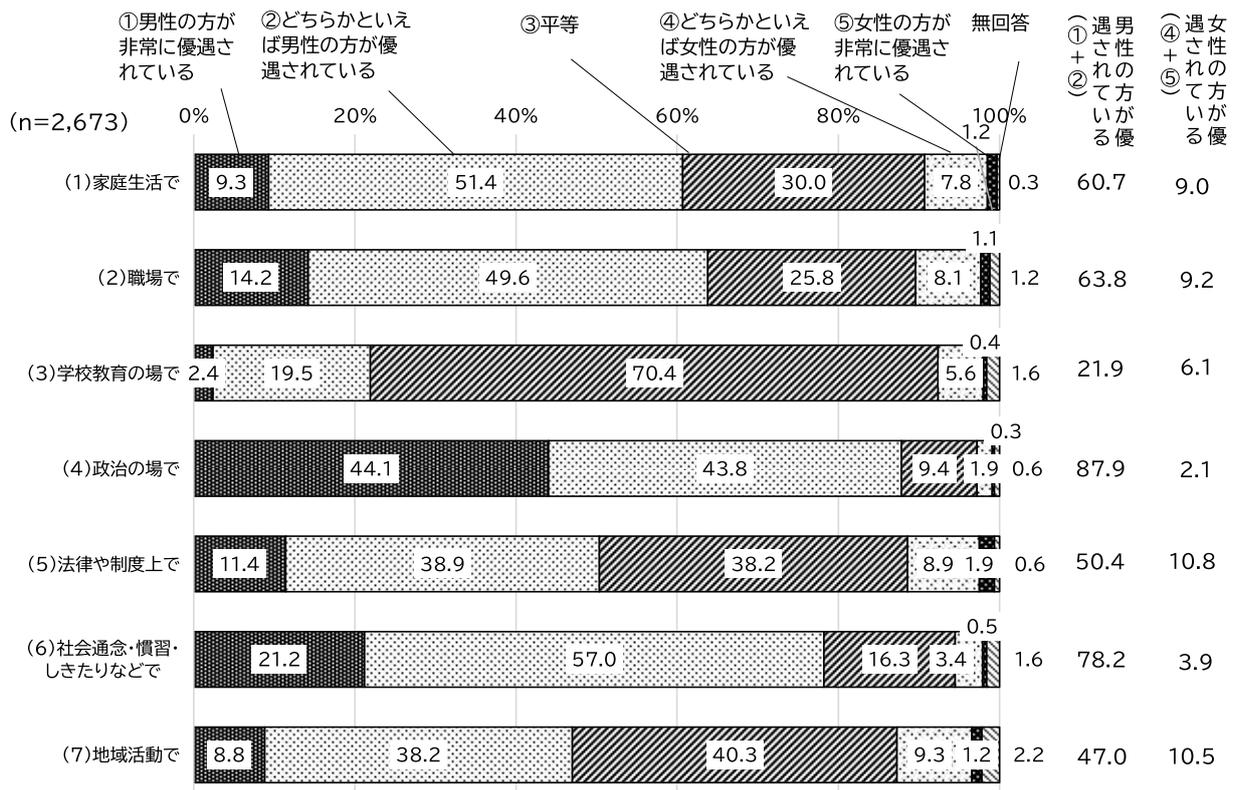


比較 令和元年度島根県調査(全体)



参考 「各分野の男女の地位の平等感」について

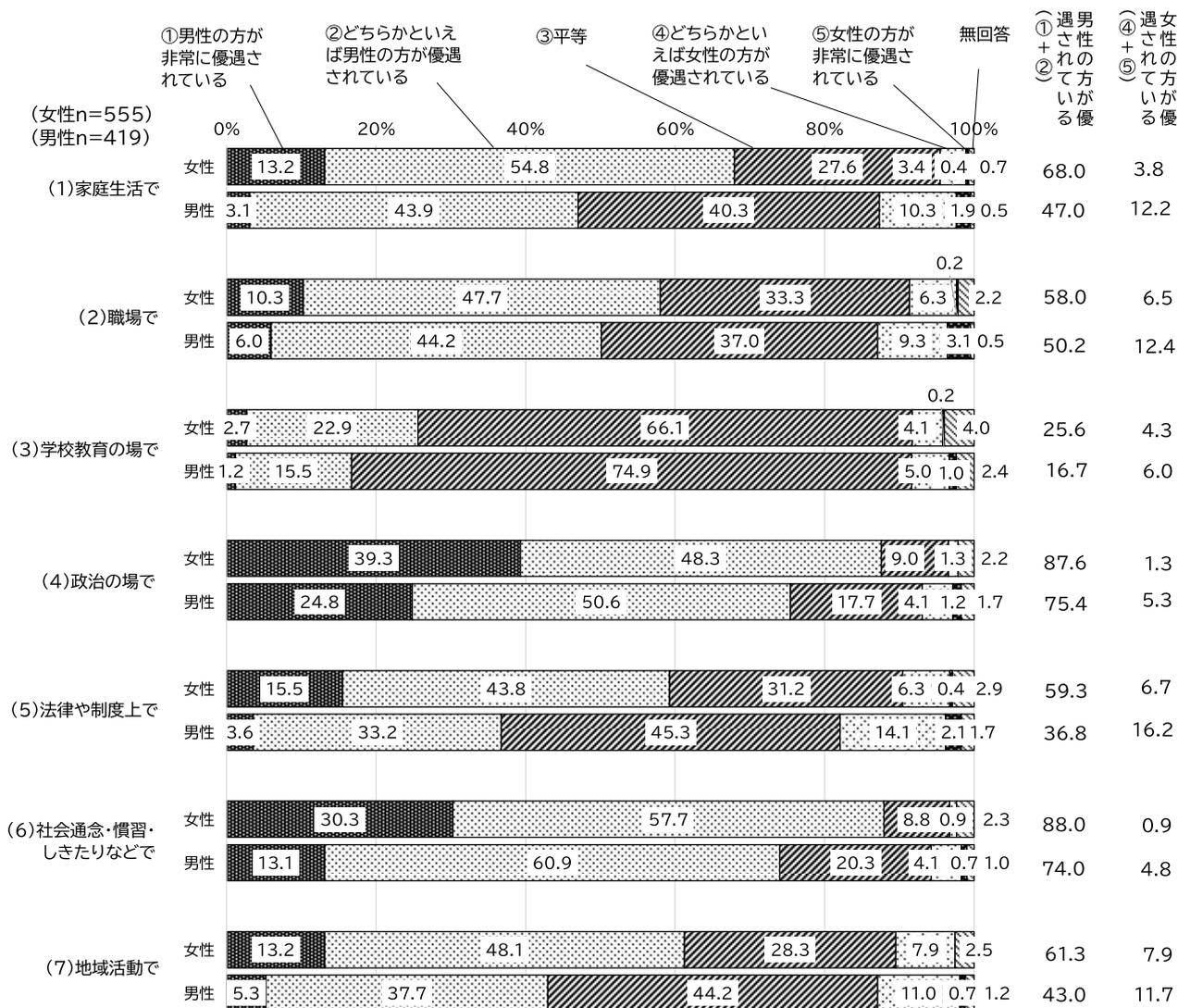
(内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月))



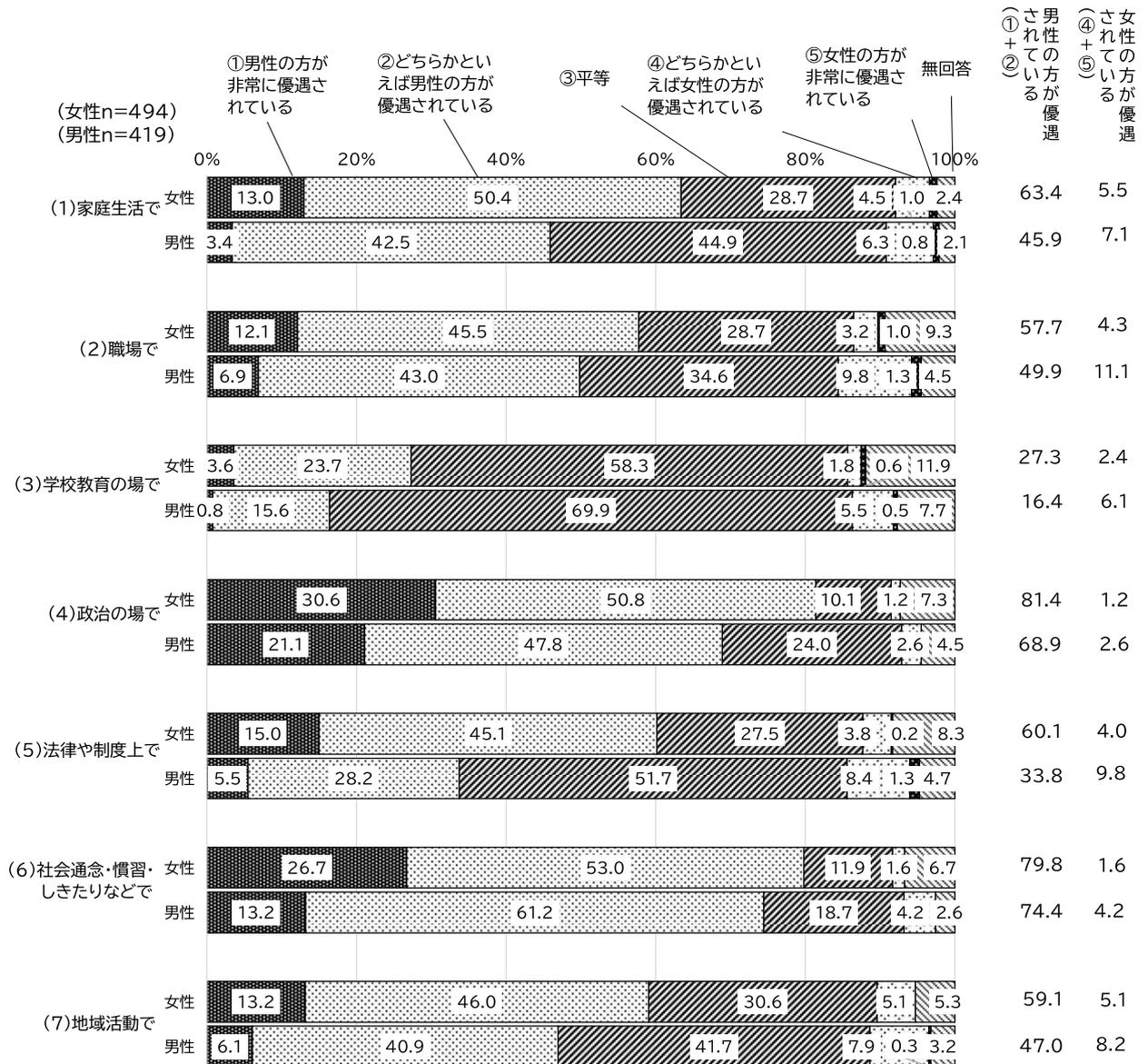
また、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」及び「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）と回答した割合を男女別に見ると、7分野すべてで、女性の方が男性よりも高く、特に男女で差が大きく見られたのは「法律や制度上で」（22.5ポイント差）、「家庭生活で」（21.0ポイント差）、「地域生活で」（18.3ポイント差）である。

R元調査と比較すると、男性の方が優遇されていると回答した割合が高くなった項目が増えており、特に女性では「社会通念・慣習・しきたりなどで」が、8.2ポイント上昇している。

図1-1-1 各分野における男女の地位の平等感(性別)



比較 令和元年度島根県調査(性別)



7つの分野ごとに、分析を行う。

### (1)家庭生活で

全体で見ると「男性の方が優遇されている」が58.7%と半数を超え、「平等」が33.1%、「女性の方が優遇されている」が7.5%であった。

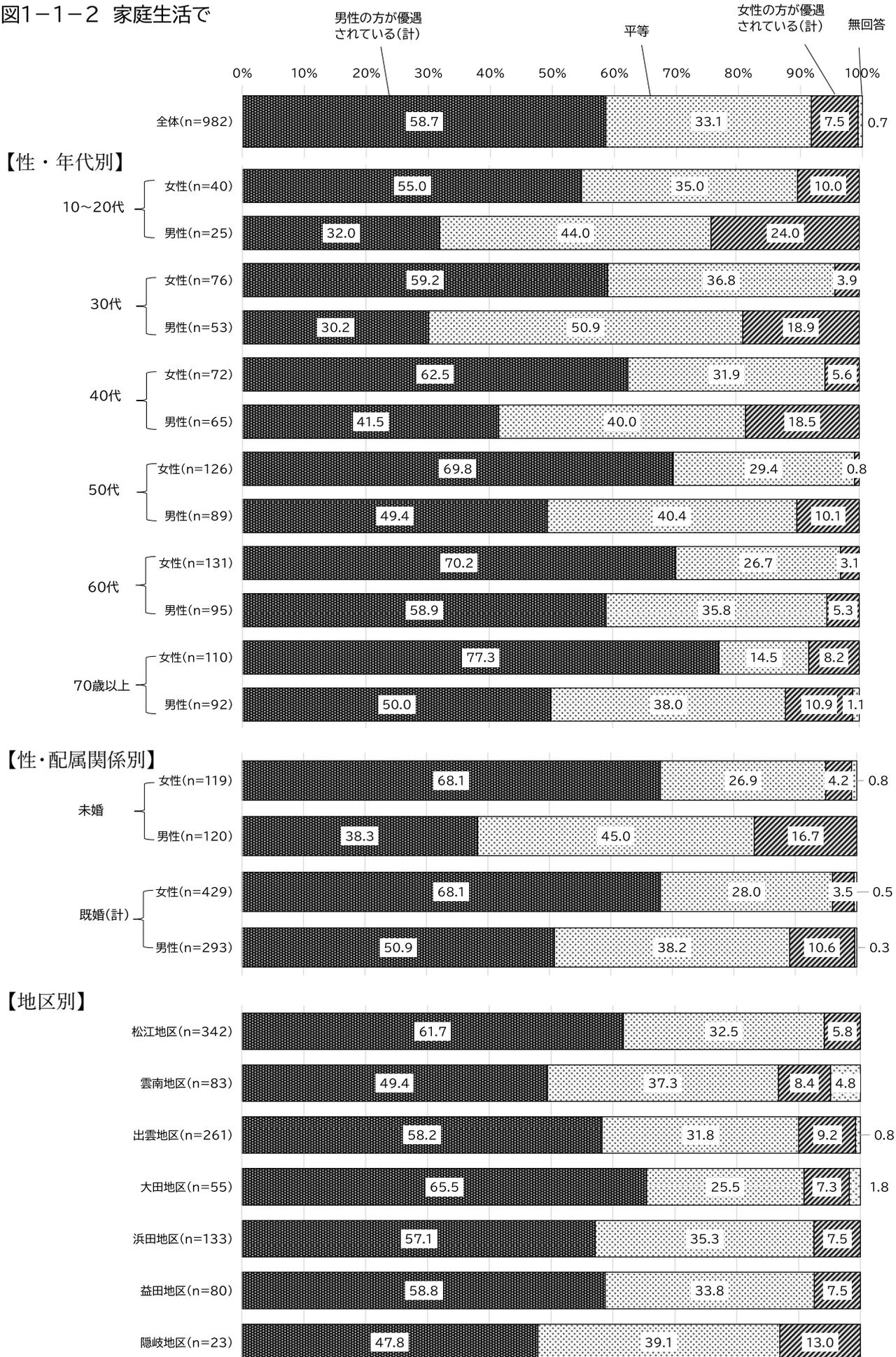
性・年代別に特徴を見てみると、女性はいずれの年代でも「男性の方が優遇されている」が「平等」を上回っている。特に、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高いのは70歳以上の女性である。30代女性は「男性の方が優遇されている」が59.2%、平等が36.8%であるのに比べ、30代男性は、女性とは反対に半数以上が「平等」と回答している。

性・配偶関係別に見ると、女性は未婚、既婚の差は見られず、「男性の方が優遇されている」が「平等」より高くなっている。一方、男性も、未婚、既婚で大きな差は見られないが、女性に比べて「平等」と回答した割合が高くなっている。

地区別では、大田地区が「男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高く65.5%、次いで松江地区61.7%、益田地区58.8%であった。

雲南地区および隠岐地区では「男性の方が優遇されている」が半数を下回っていたが、全ての地区で、「平等」と回答した割合の方が低くなっている。

図1-1-2 家庭生活で



## (2)職場で

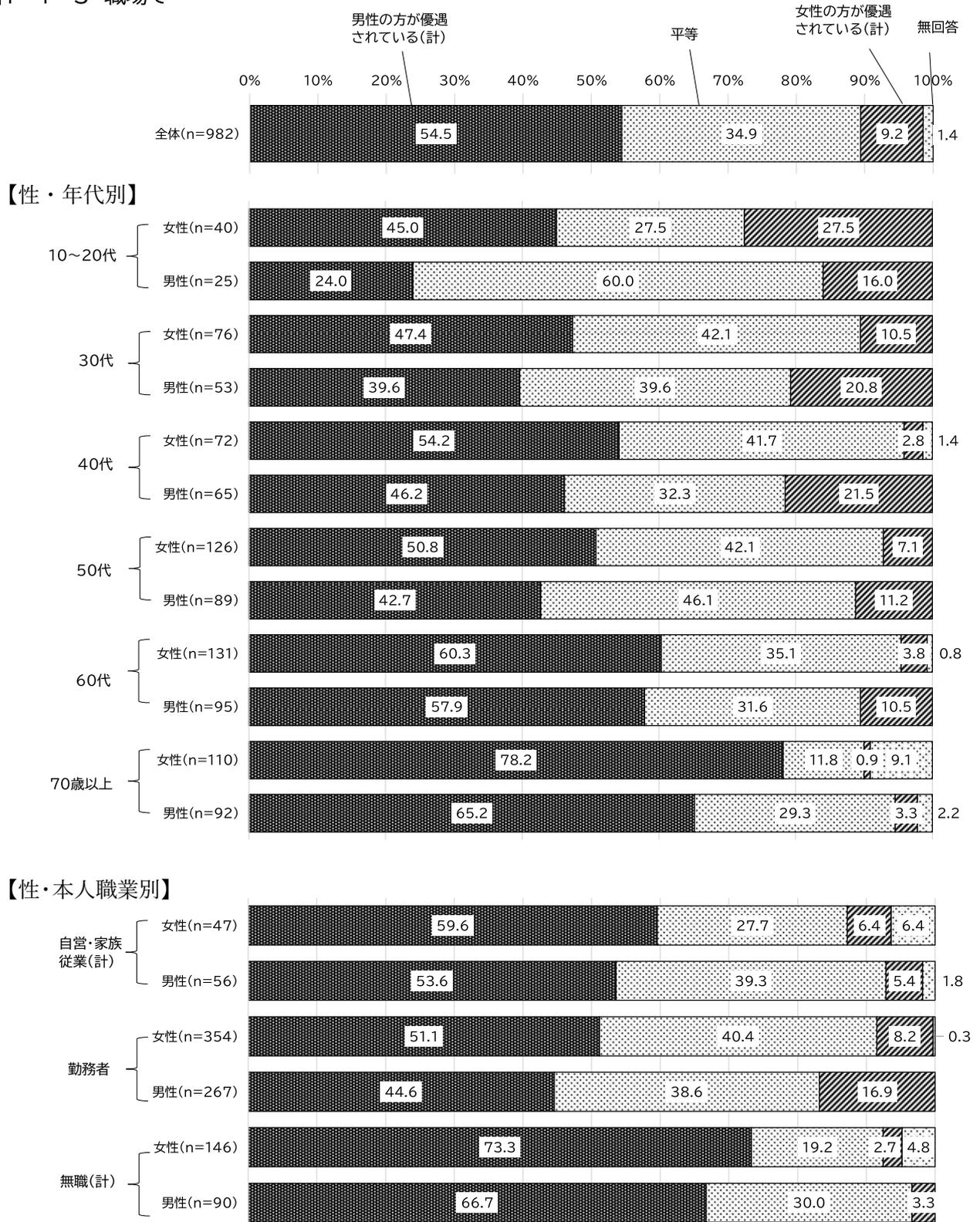
全体で見ると、「男性の方が優遇されている」が54.5%、「平等」が34.9%、「女性の方が優遇されている」が9.2%であった。

性・年代別に特徴を見てみると、特に70歳以上の女性で「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高い。「平等」については、10～20代男性で60.0%と最も多く、半数以上の割合であるが、それ以外では、「平等」と感じている割合が半数以下である。

性・本人職業別に見ると、勤務者の男性は「女性の方が優遇されている」が16.9%と最も高く、「男性の方が優遇されている」が44.6%と最も低い割合となっている。一方、勤務者の女性は「男性の方が優遇されている」が51.1%と半数以上の割合であったが、「平等」が40.4%と最も高い割合であった。

無職（計）では、男女とも「男性の方が優遇されている」が最も高く、「平等」が最も低い回答であった。

図1-1-3 職場で



### (3)学校教育の場で

全体で見ると、「男性の方が優遇されている」が21.9%、「平等」が69.7%、「女性の方が優遇されている」が5.0%であり、「平等」と回答した割合が最も高かった。

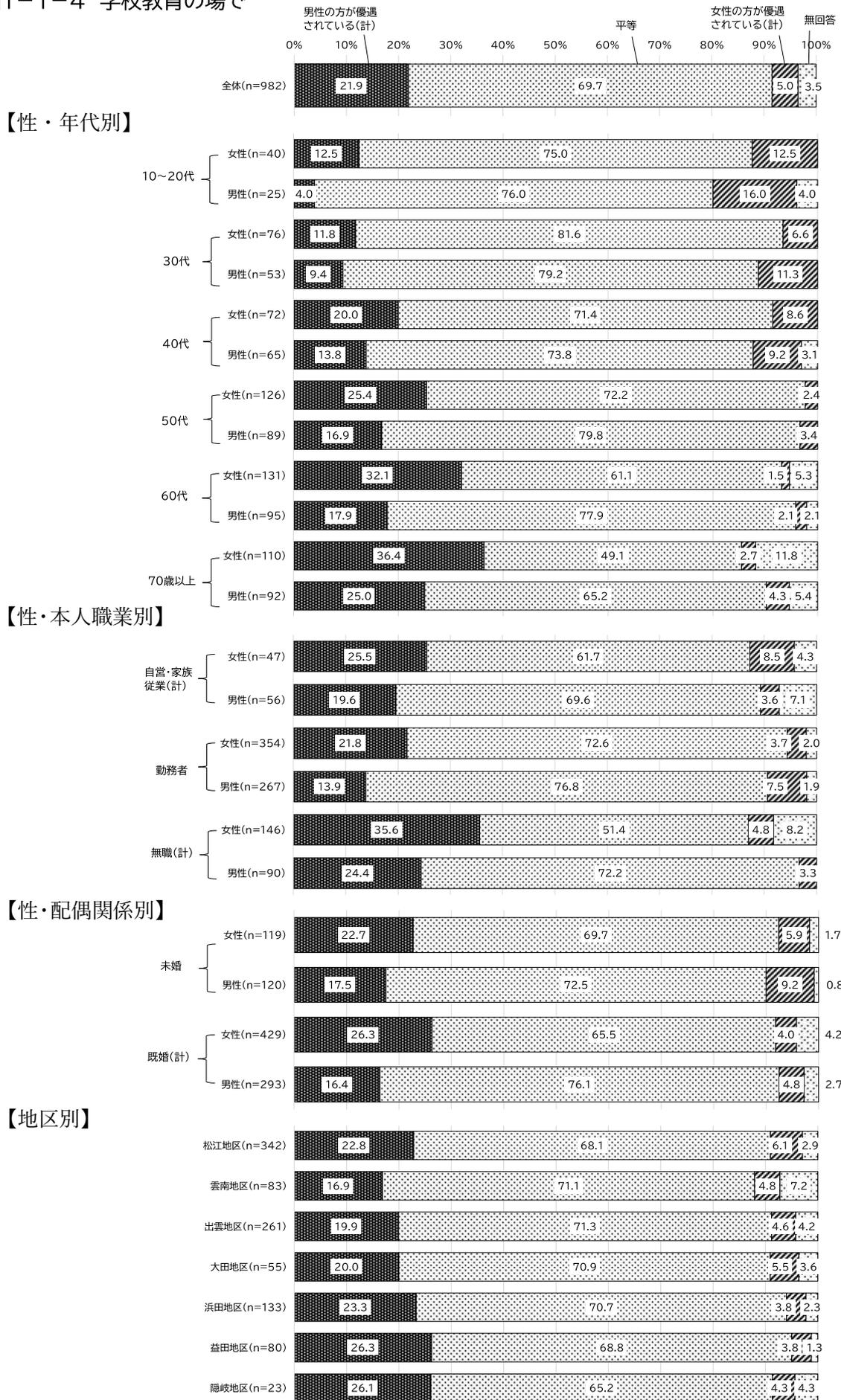
性・年代別に見てみると、男性に比べて女性の方が、「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっているが、70歳以上女性を除くと、「平等」と回答した割合が半数以上であり、特に30代女性は81.6%と最も高い割合であった。

性・本人職業別に見ると、「男性の方が優遇されている」が最も高いのは無職（計）の女性で35.6%、次いで自営・家族従業（計）の女性が25.5%であった。また、無職（計）の女性が「平等」と回答した割合は51.4%と最も低かった。

性・配偶関係別に見ると、配偶関係による大きな差は見られなかったが、未婚の男性においては、「女性の方が優遇されている」が9.2%と最も高かった。

地区別では、隠岐地区が「男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高く26.1%、次いで益田地区26.3%、浜田地区23.3%であった。他の地区でも「男性の方が優遇されている」と回答した割合は2割前後であった。また、「平等」については7割前後と地区によって大きな違いは見られなかった。

図1-1-4 学校教育の場で



#### (4)政治の場で

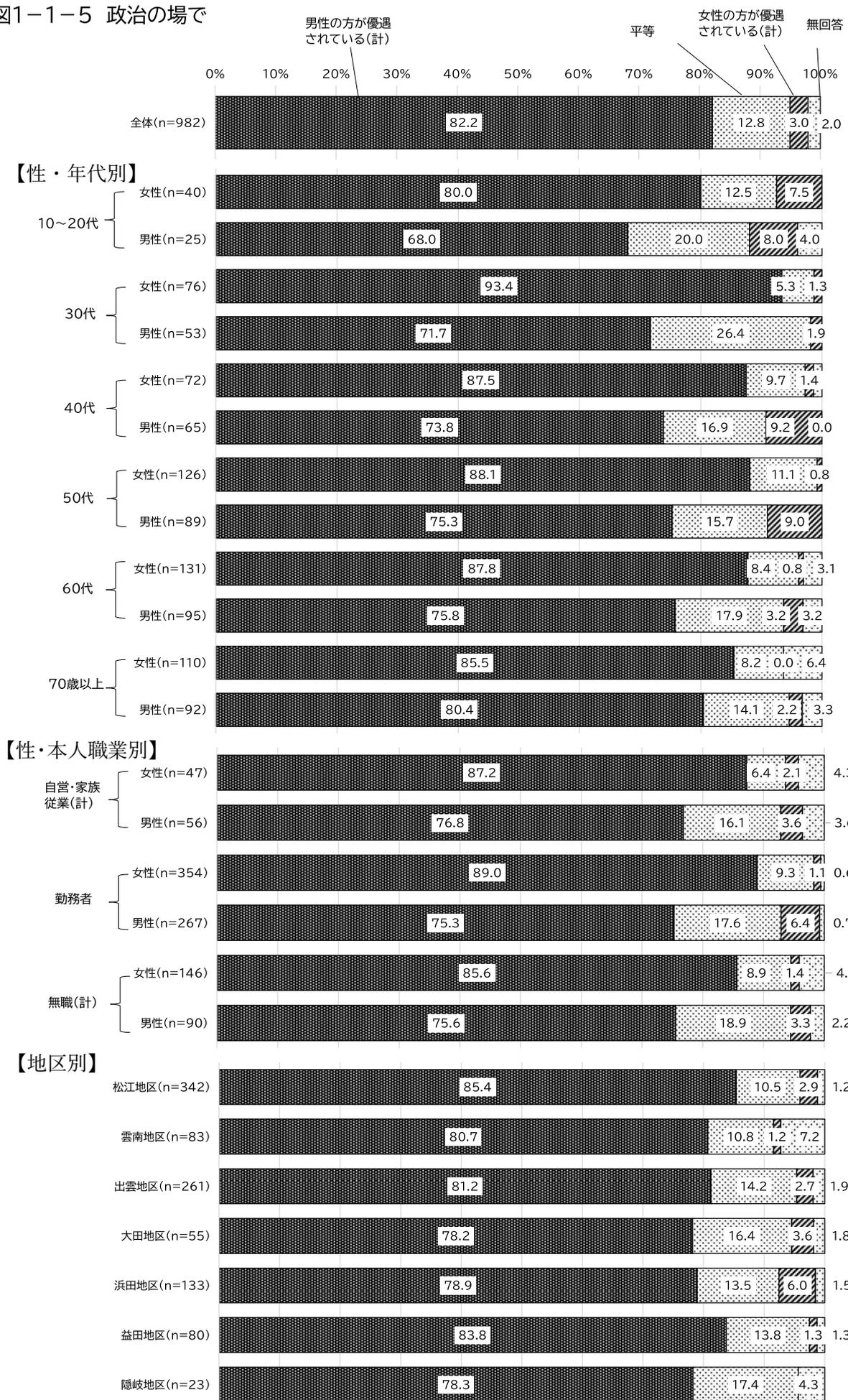
全体で見ると、「男性の方が優遇されている」が82.2%と最も高く、「平等」が12.8%、「女性の方が優遇されている」が3.0%で、最も差が大きい分野であった。

性・年代別に見ると、女性では「男性の方が優遇されている」と感じている割合は全ての年代で8割以上となっている。また、女性に比べて男性は、「女性の方が優遇されている」の割合が10～20代、30代で2割を超える回答が見られた。

性・本人職業別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合はどの職業でも男女とも7割以上であり、「平等」と回答した割合は女性が1割未満である一方、男性は2割程度の回答があった。

地区別に見ると、どの地区でも「男性の方が優遇されている」が8割程度、「平等」が2割程度、「女性の方が優遇されている」が1割未満と、地区によって大きな違いは見られなかった。

図1-1-5 政治の場で



## (5)法律や制度上で

全体で見ると、「男性の方が優遇されている」が49.5%、「平等」が37.2%、「女性の方が優遇されている」が10.9%であった。

性・年代別に見ると、40代以上の女性では「男性の方が優遇されている」が6割以上、「平等」が3割程度と「男性の方が優遇されている」の方が高くなっている。一方、40代以上の男性は「男性の方が優遇されている」が2~3割程度、「平等」が4~5割程度と「男性の方が優遇されている」に比べて「平等」と回答した割合が高くなっている。

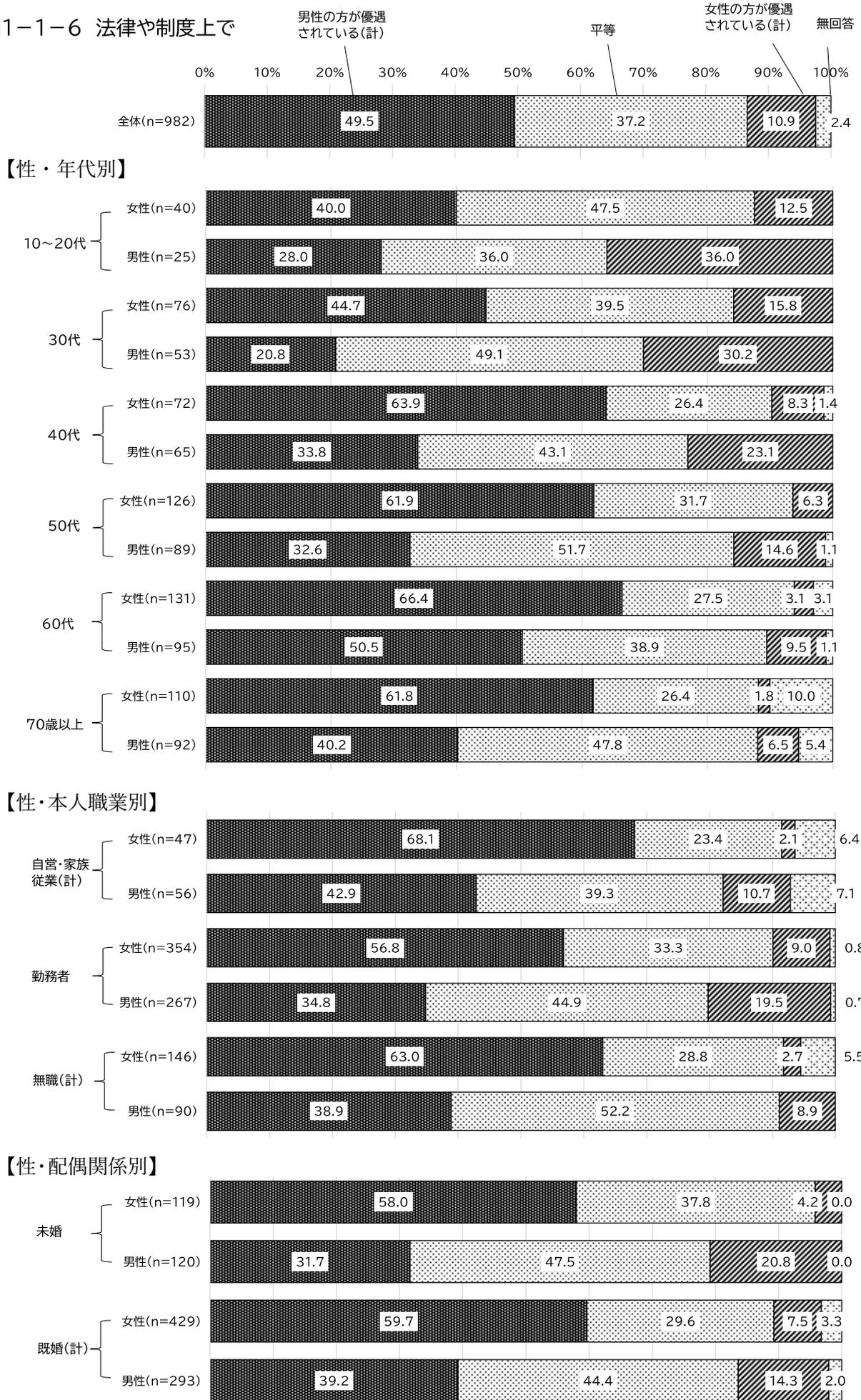
また、男性の10~20代と30代では「女性の方が優遇されている」が3割以上で、「男性の方が優遇されている」より高い割合となっている。

50代では、「男性の方が優遇されている」は女性が61.9%、男性が32.6%、「平等」は女性が31.7%、男性が51.7%、「女性の方が優遇されている」は女性が6.3%、男性が14.6%であり、他の年代に比べて、男女で大きな差が見られた。

性・本人職業別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高いのは自営・家族従業（計）の女性で68.1%、次いで無職（計）の女性で63.0%であった。「平等」と回答した割合が最も高いのは無職（計）の男性で52.2%、次いで勤務者の男性で44.9%であった。

性・配偶関係別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高いのは既婚（計）の女性で59.7%、次いで未婚の女性で58.0%となっている。男性に比べて女性は「男性の方が優遇されている」と感じている割合が高く、半数を超えている。

図1-1-6 法律や制度上で



## (6)社会通念・慣習・しきたりなどで

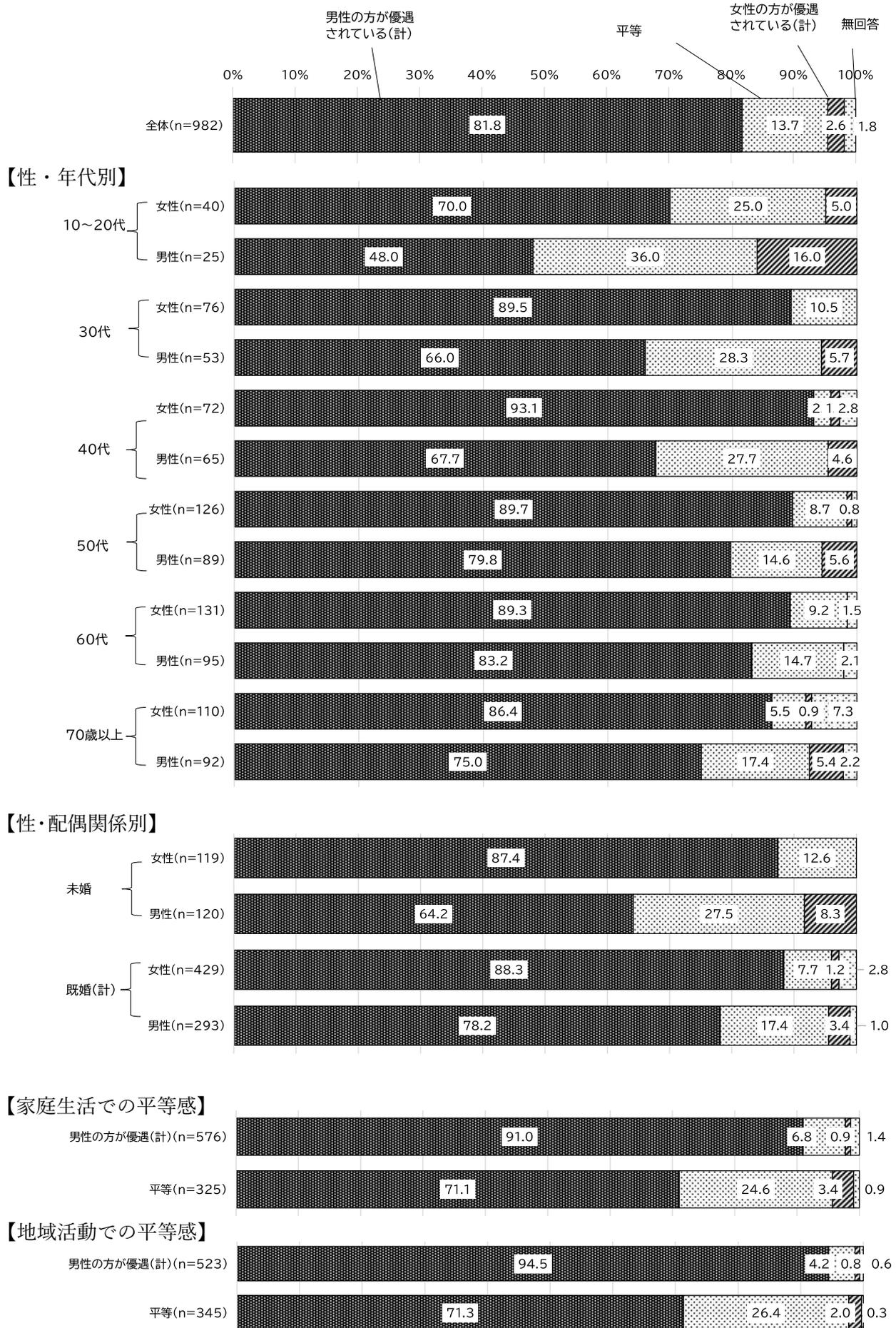
全体で見ると、「男性の方が優遇されている」が81.8%、「平等」が13.7%、「女性の方が優遇されている」が2.6%であった。

性・年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」の割合が最も高いのは40代女性で93.1%、次いで50代女性で89.7%、30代女性で89.5%であった。

性・配偶関係別に見ると、女性は未婚と既婚に大きな違いは見られなかったが、男性は未婚の方が「男性の方が優遇されている」と回答した割合が低かった。

家庭生活、地域活動といった他分野での男女の地位に関する平等感別に見ると、それぞれの分野で「男性の方が優遇されている」と回答した人は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」でも「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっている。

図1-1-7 社会通念・慣習・しきたりなどで



## (7)地域活動で

全体で見ると、「男性の方が優遇されている」が53.3%、「平等」が35.1%、「女性の方が優遇されている」が9.6%であった。

性・年代別に見ると、10～20代では男女で大きな差は見られず、「平等」が半数以上を占めている。30代以上では、「男性の方が優遇されている」と回答した女性が、全ての年代で5～6割程度である一方、男性は30代～50代で3～4割、60代以上では半数を超えている。

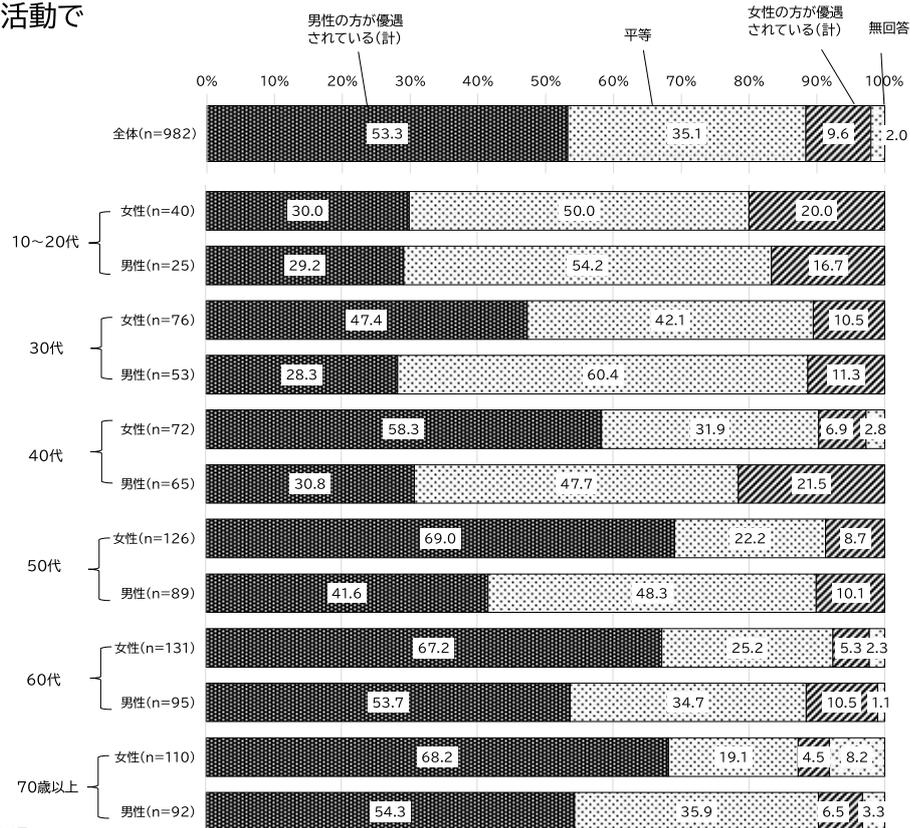
「平等」と回答した割合は、30代男性では60.4%であるのに対し、70歳以上の女性では19.1%と性・年代別でも大きな違いが見られた。

性・本人職業別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高いのは自営・家族従業（計）の女性66.0%、次いで勤務者の女性61.0%、「平等」は勤務者の男性47.9%、次いで無職（計）の男性38.9%、「女性の方が優遇されている」は自営・家族従業（計）の男性14.3%、次いで勤務者の男性13.1%であった。

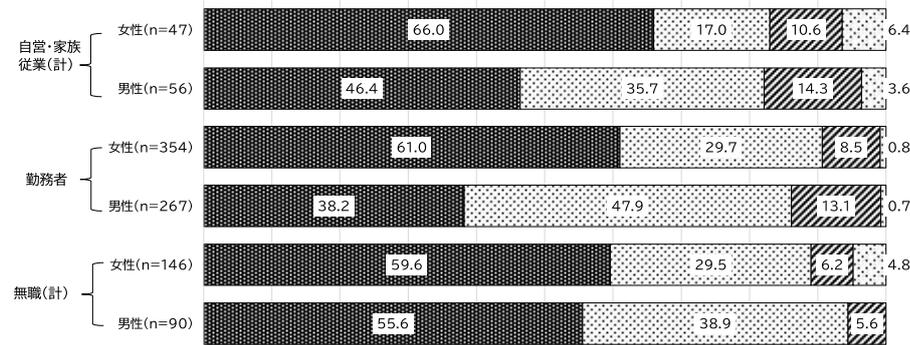
性・配偶関係別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、未婚の女性56.3%、未婚の男性35.0%、既婚（計）の女性62.7%、既婚（計）の男性46.4%といずれも女性の方が高かった。

図1-1-8 地域活動で

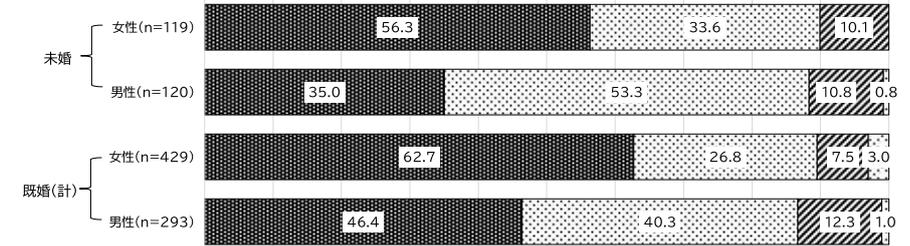
【性・年代別】



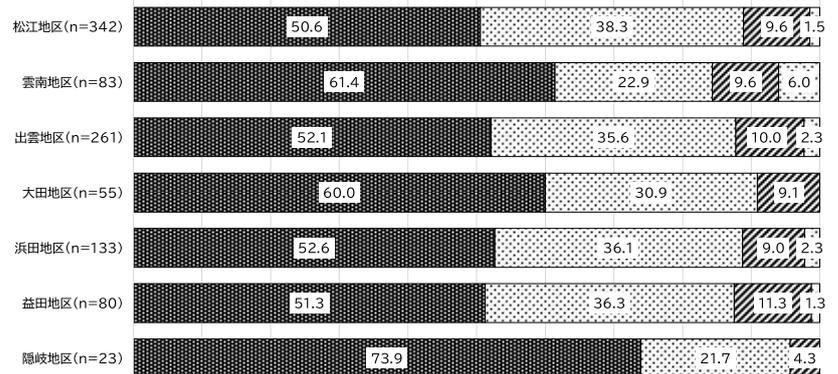
【性・本人職業別】



【性・配偶関係別】



【地区別】



## 2.社会全体における男女の地位の平等感

●社会全体では「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高く、「平等」は2割程度にとどまっている。

社会全体でみた場合、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）と回答した割合は、全体で76.3%と、「女性の方が優遇されている」（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）と回答した割合5.7%に比べて「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっている。

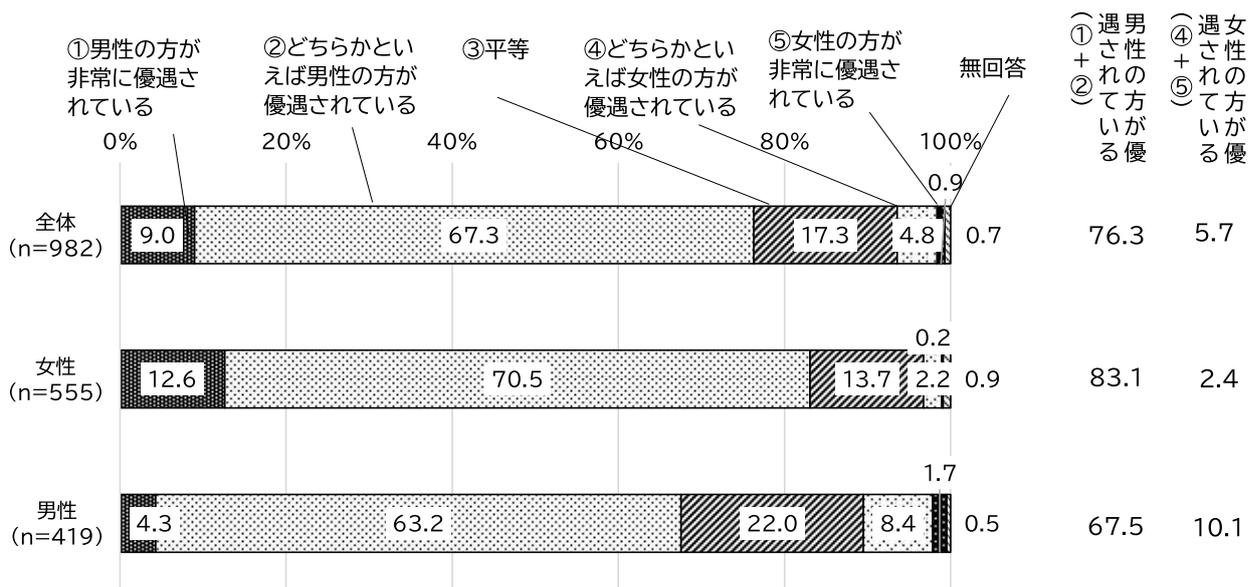
女性は「男性の方が優遇されている」が83.1%、「女性の方が優遇されている」が2.4%、男性は「男性の方が優遇されている」が67.5%、「女性の方が優遇されている」が10.1%と、全体や女性に比べて、男性は「女性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっている。

R元調査と比べると、大きな変化は見られないが、全体で平等と回答した割合が15.7%から17.3%と1.6ポイント、「女性の方が優遇されている」が4.0%から5.7%と1.7ポイント増えた。女性、男性それぞれでみても、「平等」及び「女性の方が優遇されている」と回答した割合がやや増えている。

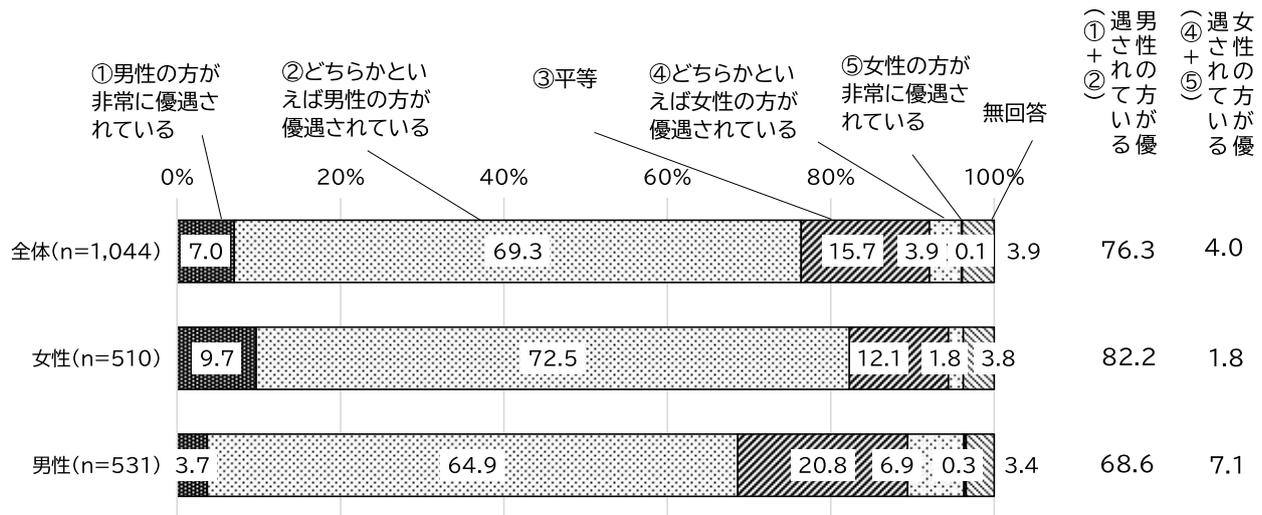
R6内閣府調査と比べると、全体として「平等」と感じる割合は島根県の方が高くなっているが、「男性の方が優遇されている」との回答割合が高いのは同様である。

問1-2では、社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(○は1つ)

図1-2 社会全体でみた男女の地位の平等感

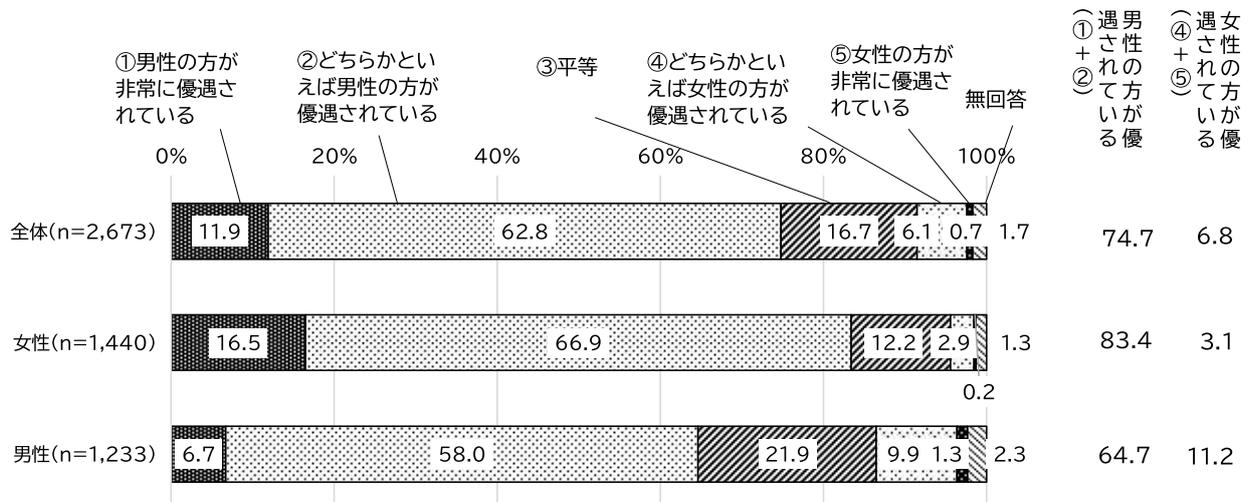


比較 令和元年度島根県調査



参考 「社会全体における男女の地位の平等感」について

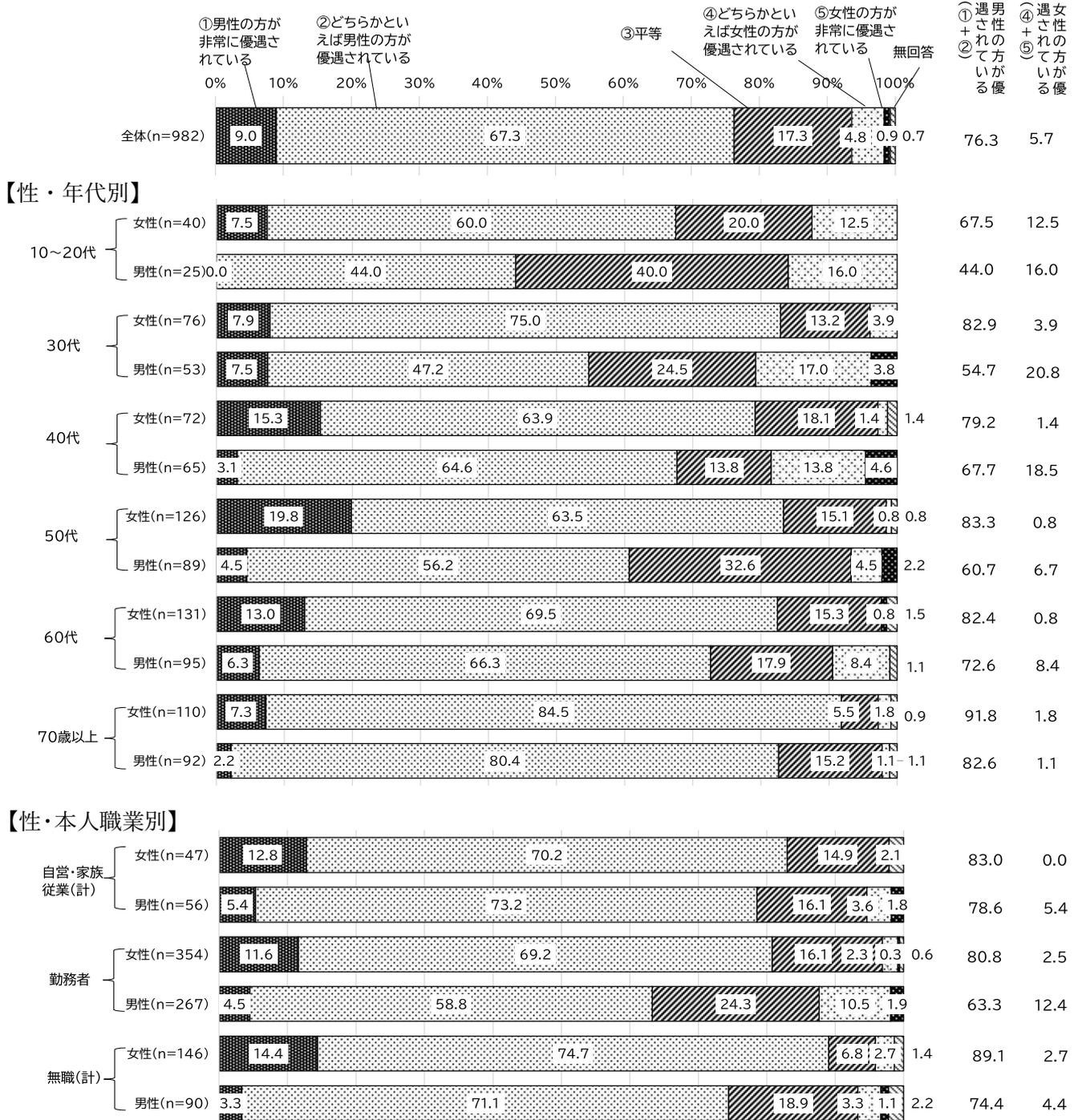
(内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月))



性・年代別で見ると、「男性の方が優遇されている」との回答割合が最も高いのは70歳以上の女性91.8%、次いで50代女性83.3%、「平等」は10~20代男性の40.0%が最も高く、次いで50代男性32.6%、「女性の方が優遇されている」は30代男性20.8%、次いで40代男性18.5%であった。

性・本人職業別で見ると、職業別に大きな差は見られなかったが、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっている。

図1-2-1 社会全体でみた男女の地位の平等感



### 3.性別役割等に関する意識

- すべての項目において、否定的な割合が半数以上となっており、R元調査に比べて高くなっている。特に「男は仕事、女は家庭」に否定的な割合は8割以上となっている。

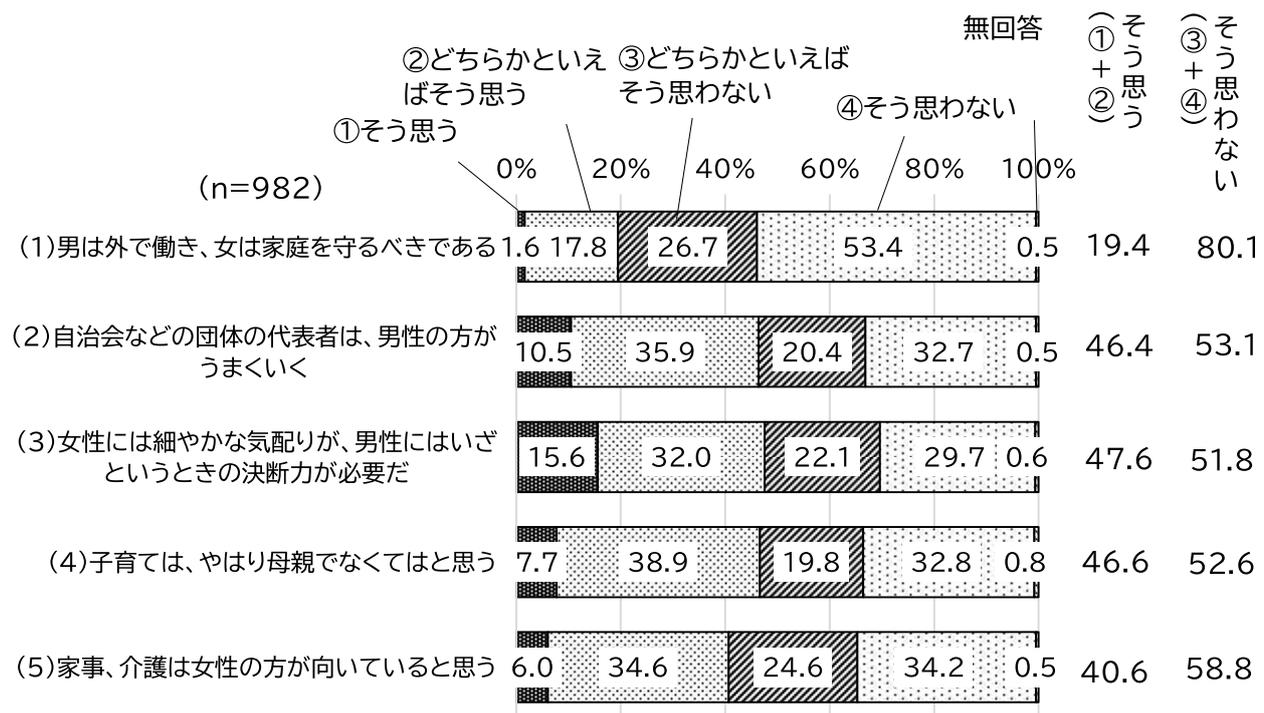
性別役割等に関する肯定または否定意識について5つの項目を用いた設問では、典型的な性別役割分担意識を示す「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」については、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の否定的に考える人の合計が80.1%とR元調査の70.7%と比べて9.4ポイント増えている。

また、R6内閣府調査の同様の設問では、否定意識64.8%、肯定意識33.1%となっており、全国と比べても島根県の「男は仕事、女は家庭」に対する否定意識は高くなっている。

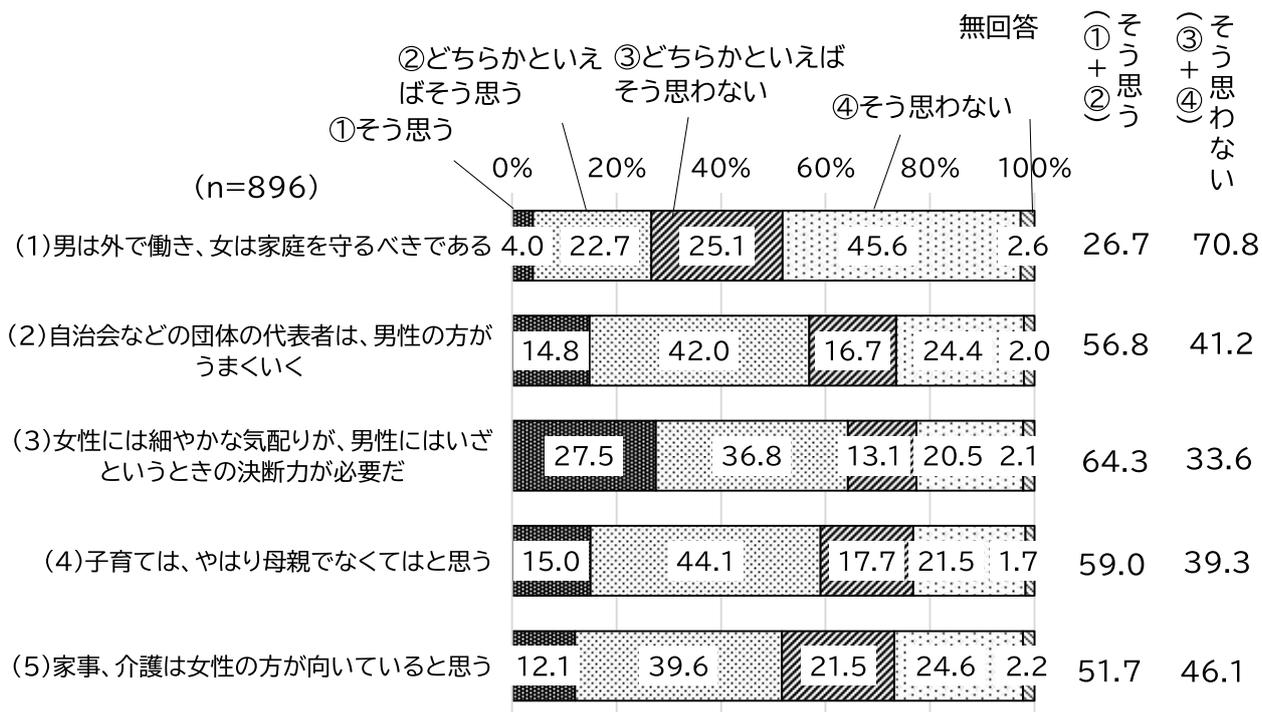
さらに、他の4つの項目においても、肯定意識に比べて否定意識の割合の方が高く、半数を超えている。R元調査では、肯定意識が否定意識に比べて高かったのに対し、今回調査では、否定意識の方が高くなっている。

問2 次にあげることがらについて、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

図1-3 性別役割等に関する意識(全体)



比較 令和元年度島根県調査(全体)

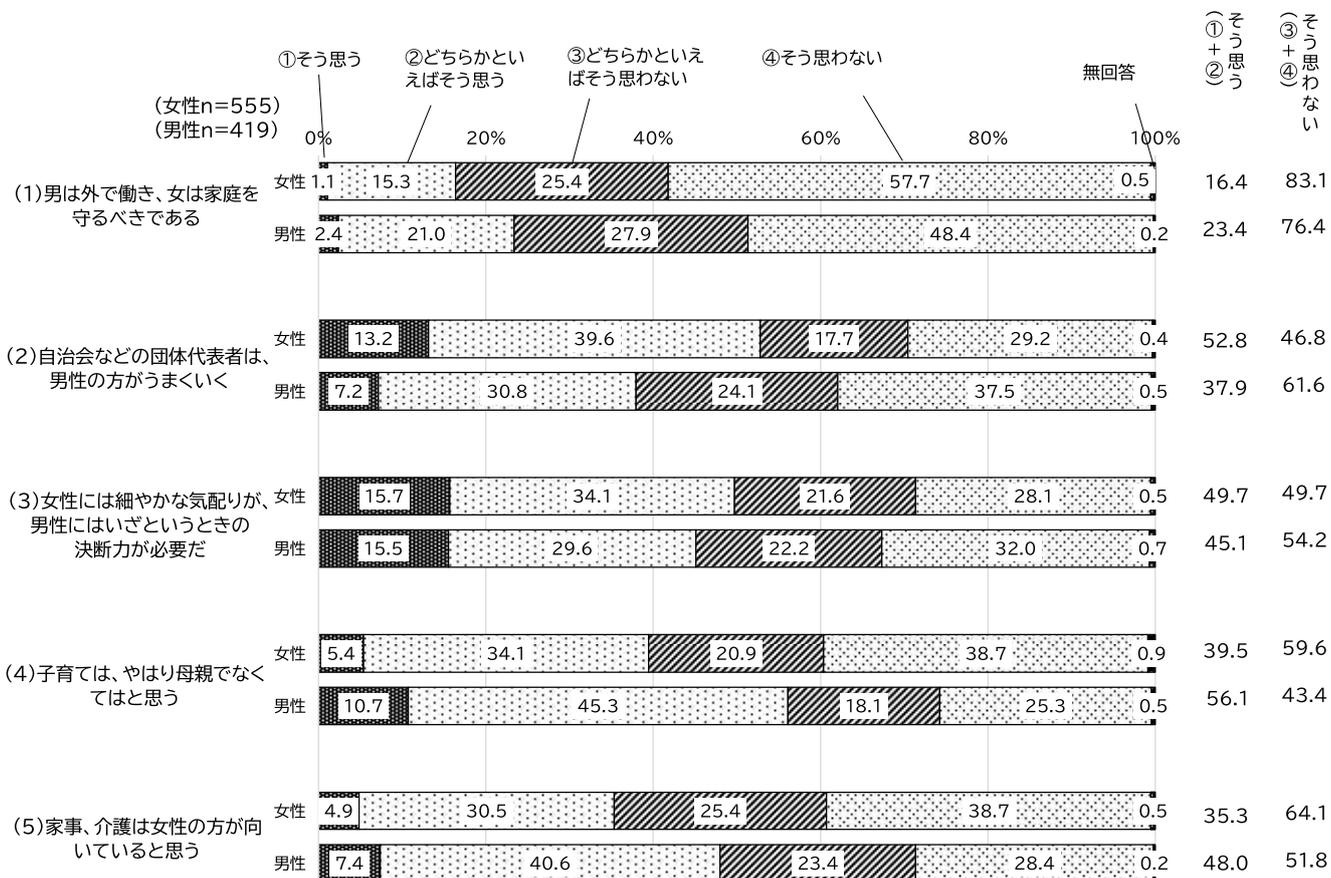


男女別にクロス集計をすると、男性と女性との意識について差が見られたのは、「自治会などの団体の代表者は男性」、「子育ては、母親」についてであった。

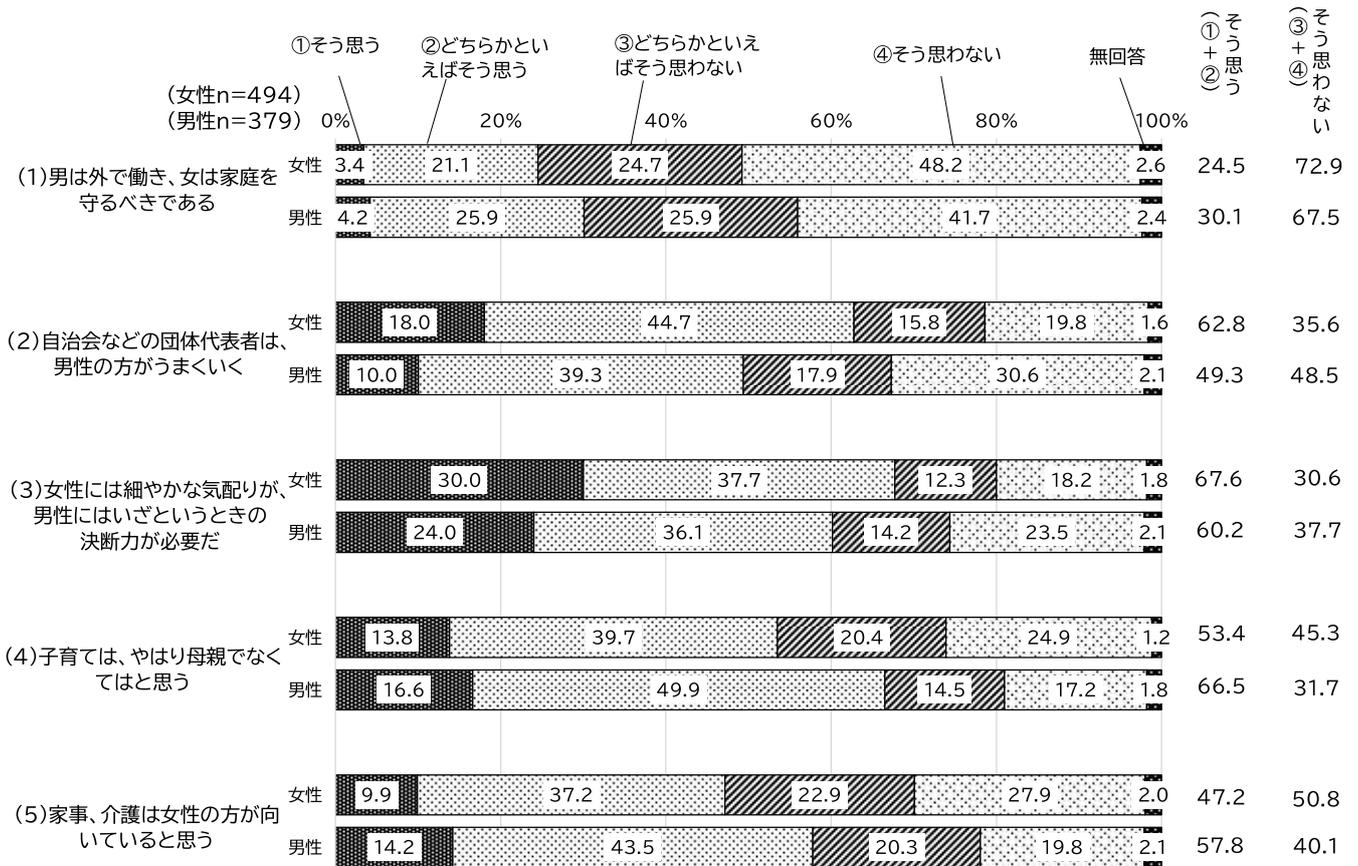
「自治会などの団体の代表者は男性」については、女性は否定意識（46.8%）に比べて肯定意識（52.8%）の方が高い一方、男性は肯定意識（37.9%）に比べて否定意識（61.6%）の方が高くなっている。また、「子育ては、母親」については、女性は肯定意識（39.5%）に比べて否定意識（59.6%）の方が高い一方で、男性は否定意識（43.4%）に比べて肯定意識（56.1%）が高くなっており、女性と男性の意識に差が見られた。

R元調査と比較をすると、すべての項目において肯定意識が減り、否定意識の割合が増えている。特に、「女性には細やかな気配り、男性には決断力が必要」において、R元調査では男女ともに肯定意識が6割以上あったが、今回調査では、ともに半数以下と下がっている。

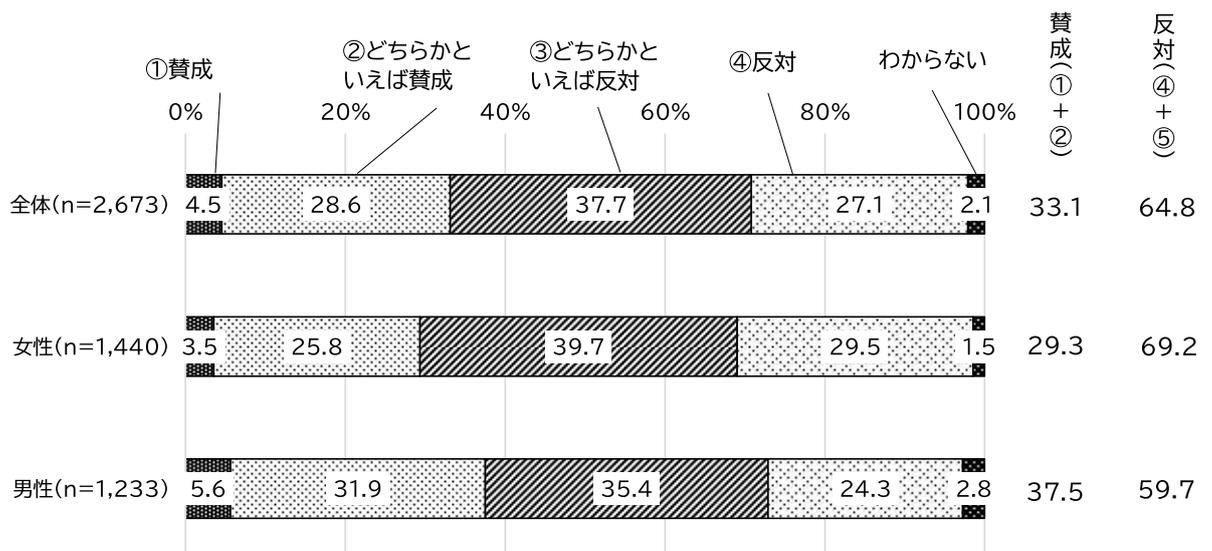
図1-3-1 性別役割等に関する意識(性別)



比較 令和元年度島根県調査(性別)



参考 「夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである」という考え方に対する意識  
(内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月))

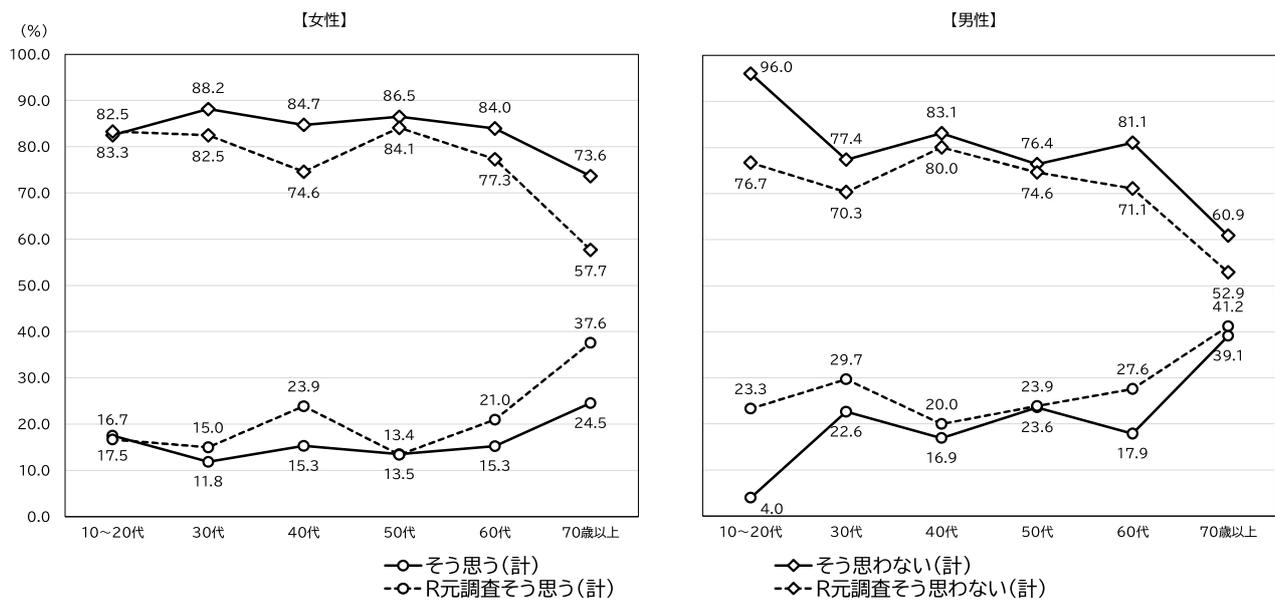


各設問において、分析を行う。

(1)男は外で働き、女は家庭を守るべきである

「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という項目について、性・年代別に R 元調査と比較すると、女性では、全体的に肯定意識が低くなり、否定意識が高くなっている。特に 40 代、60 代、70 歳以上で差が大きく見られる。男性でも同様、R 元調査と比較して肯定意識が低くなり、否定意識が高くなっている。特に 10～20 代、60 代で R 元調査と大きく差が見られる。

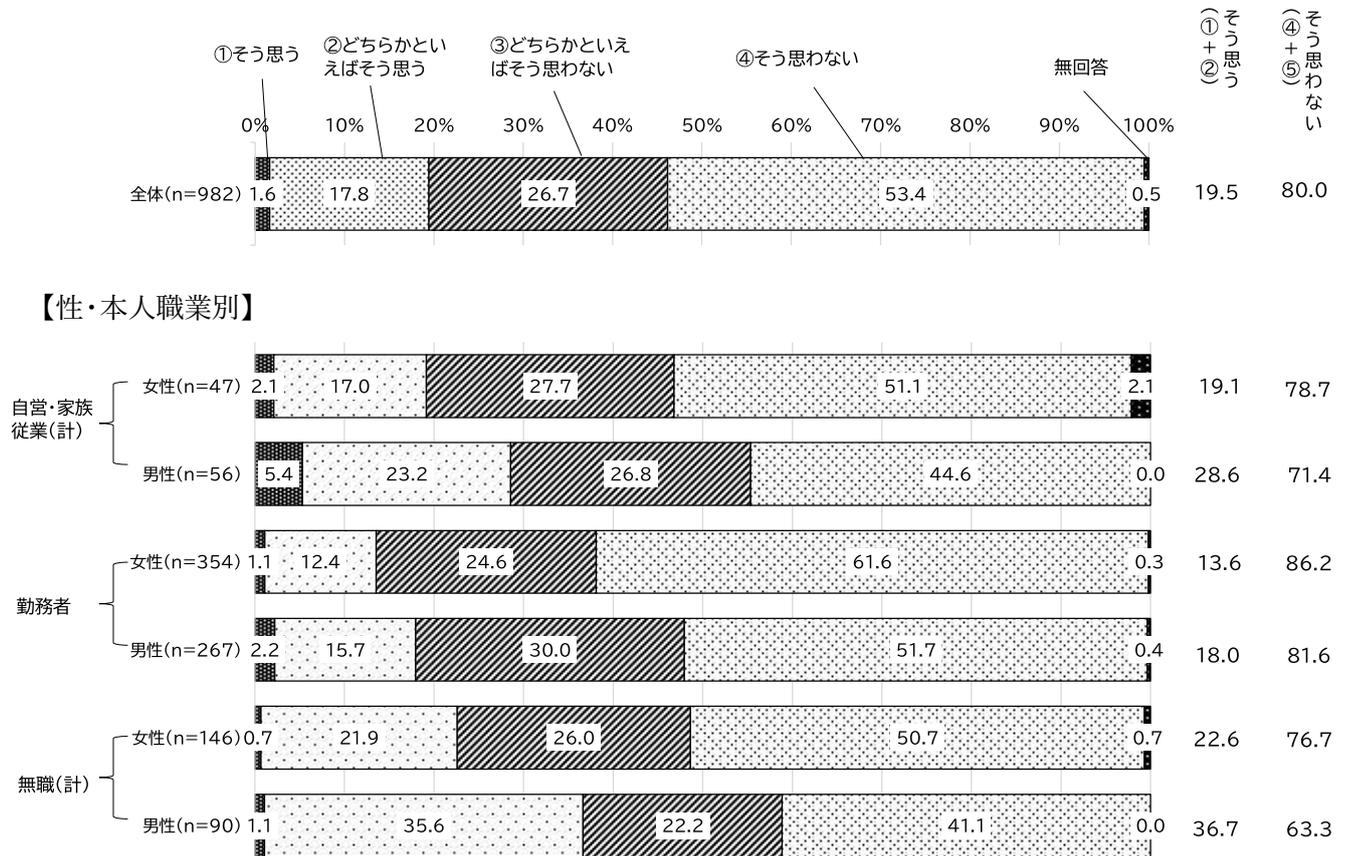
図1-3-2 男は外で働き、女は家庭を守るべきである



性別	年齢	今回調査	R元調査
		n	n
女性	10~20代	40	36
	30代	76	40
	40代	72	67
	50代	126	82
	60代	131	119
	70歳以上	110	149
男性	10~20代	25	30
	30代	53	37
	40代	65	50
	50代	89	67
	60代	95	76
	70歳以上	92	119

また、性・本人職業別に見てみると、「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」について、半数以上が否定意識となっている。特に否定意識が高いのは、勤務者の女性86.2%、次いで勤務者の男性81.6%となっている。一方、肯定意識が高いのは無職（計）の男性36.7%、次いで自営業・家族従業者（計）の男性28.6%、無職（計）の女性22.6%であった。

図1-3-3 男は外で働き、女は家庭を守るべきである

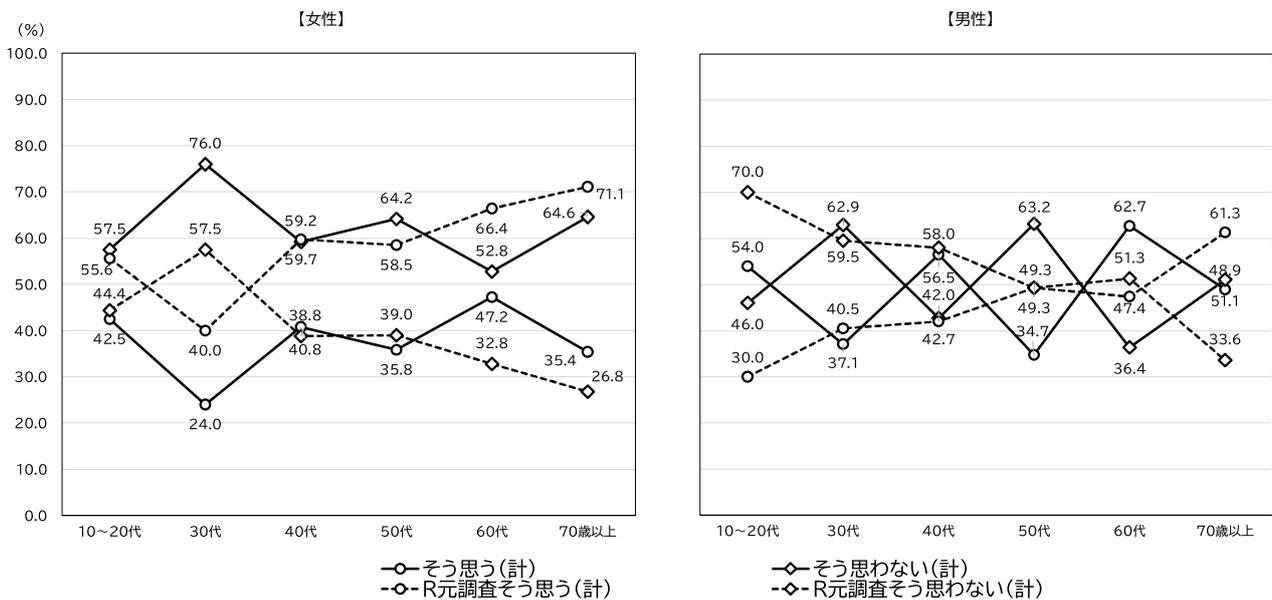


## (2)自治会などの団体の代表者は、男性の方がうまくいく

「自治会などの団体の代表者は、男性の方がうまくいく」という項目について、性・年代別に R 元調査と比較すると、女性の否定意識については、30代が最も高く、今回調査は76.0%と R 元調査の57.5%と比べて18.5ポイント上昇している。一方、女性の肯定意識については今回調査で最も高いのは60代の47.2%で、R 元調査で最も高かった70歳以上の71.1%と比べて23.9ポイント減少している。

男性については、今回調査の否定意識は50代が63.2%、次いで30代62.9%となっており、肯定意識は60代が62.7%、次いで40代56.5%と年代によって意識の差が大きい。

図1-3-4 自治会などの団体の代表者は、男性の方がうまくいく



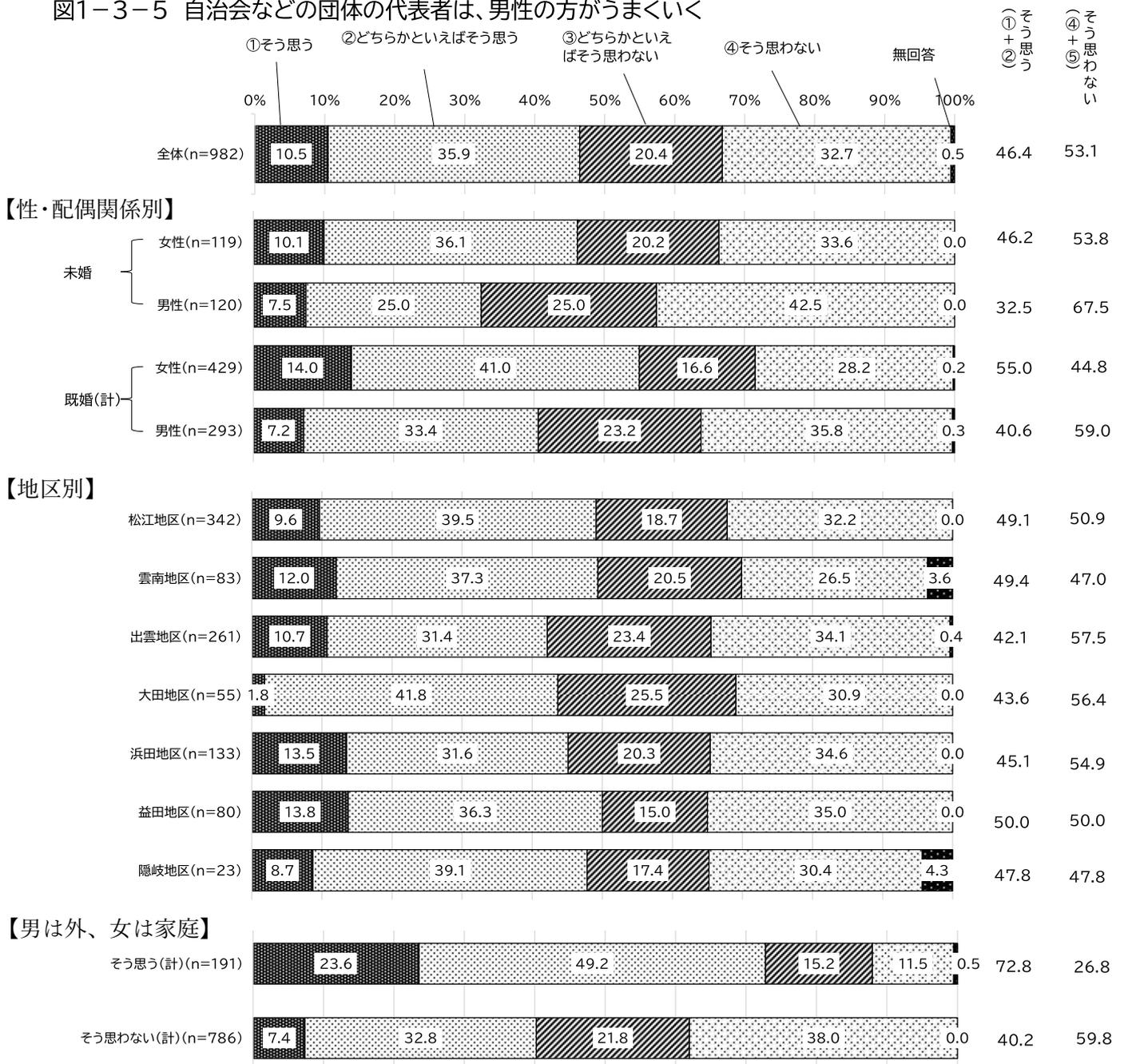
性別	年齢	今回調査	R元調査
		n	n
女性	10~20代	40	36
	30代	76	40
	40代	72	67
	50代	126	82
	60代	131	119
	70歳以上	110	149
男性	10~20代	25	30
	30代	53	37
	40代	65	50
	50代	89	67
	60代	95	76
	70歳以上	92	119

また、性・配偶関係別に見てみると、「自治会などの団体の代表者は、男性の方がうまくいく」について、否定意識が高いのは未婚の男性 67.5%、次いで既婚（計）の男性 59.0%となっている。一方、肯定意識が高いのは既婚（計）の女性 55.0%、次いで未婚の女性 46.2%と、男性に比べて女性は肯定意識が高くなっている。

地区別に見ると、否定意識、肯定意識の大きな違いは見られないが、大田地区では①そう思うが 1.8%と他の地区よりも低い割合となっている。

「(1) 男は外で働き、女は家庭を守るべきである」で回答した関係で見ると、①そう思う②どちらかといえばそう思うかといえばそう思うを合計した、そう思う（計）は肯定の割合が高く 72.8%である一方、③どちらかといえばそう思わない④そう思わないを合計した、そう思わない（計）と回答した人は 40.2%であった。(1)と同様に肯定の考えの割合が高い方が「自治会などの団体の代表者は、男性の方がうまくいく」でも肯定的な意見が多かった。

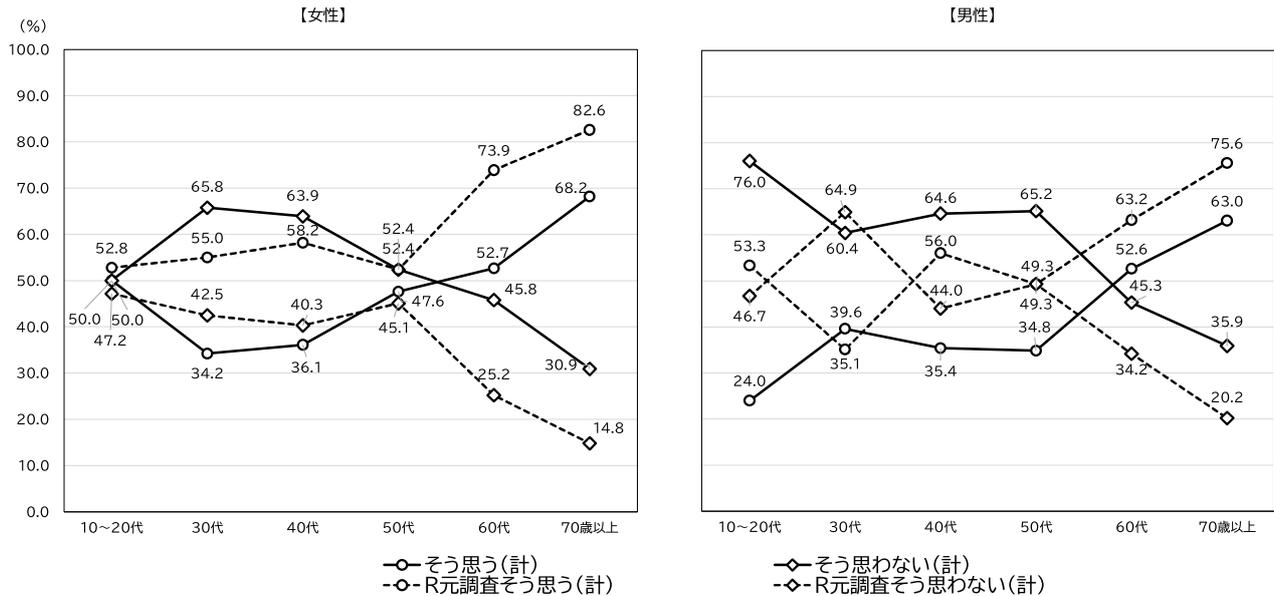
図1-3-5 自治会などの団体の代表者は、男性の方がうまくいく



### (3)女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ

「女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ」という項目について、性・年代別に R 元調査と比較すると女性の 70 歳以上は肯定意識が 82.6%から 68.2%となり、否定意識が 14.8%から 30.9%となっている。R 元調査では 60 代以上の肯定意識が高く、否定意識が低かったが、今回調査は否定意識が高くなり、特に 30 代、40 代では 6 割以上が否定意識の割合となっている。

図1-3-6 女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ

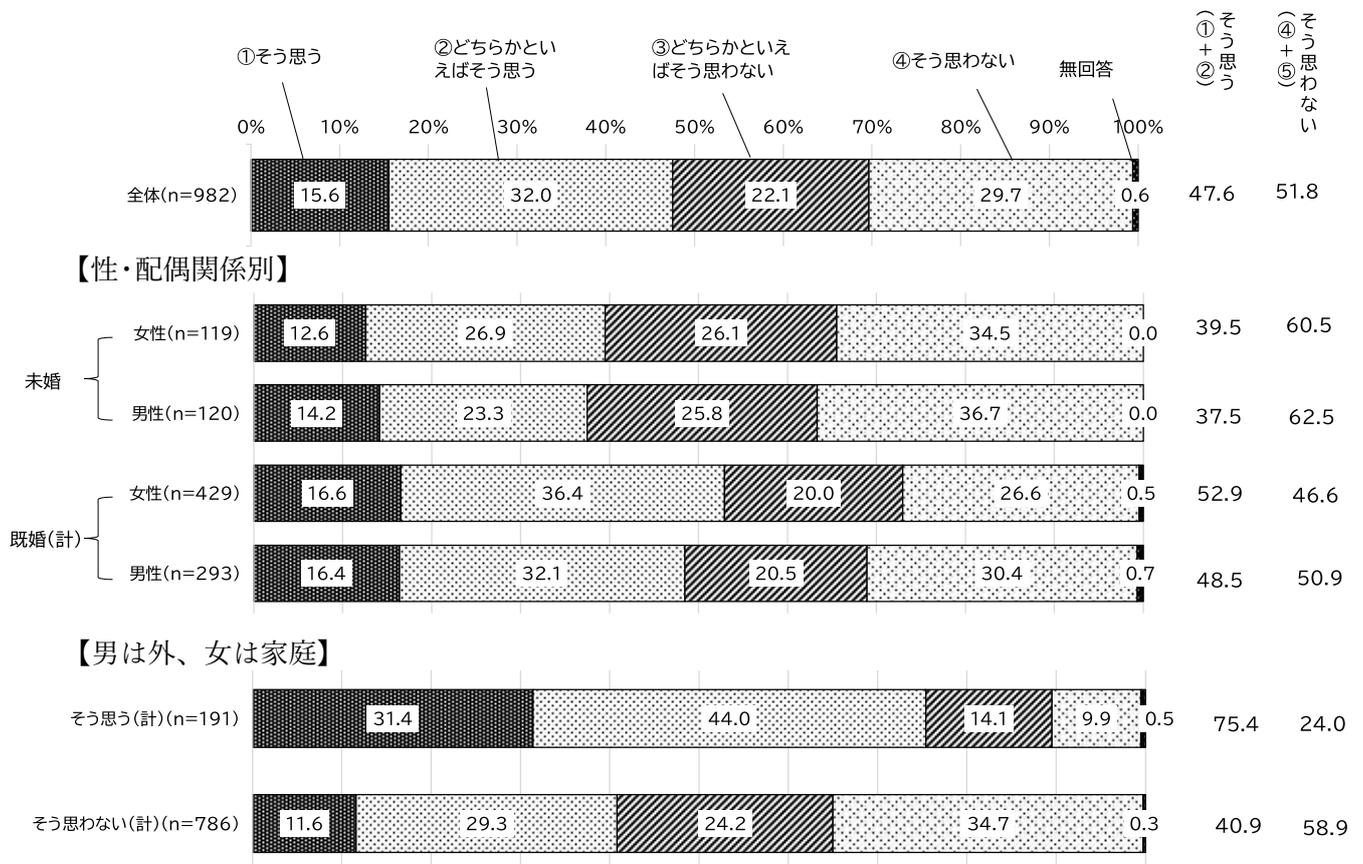


性別	年齢	今回調査	R元調査
		n	n
女性	10~20代	40	36
	30代	76	40
	40代	72	67
	50代	126	82
	60代	131	119
	70歳以上	110	149
男性	10~20代	25	30
	30代	53	37
	40代	65	50
	50代	89	67
	60代	95	76
	70歳以上	92	119

性・配偶関係別に見てみると、「女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ」について、未婚では否定意識が高く6割以上となっている一方で、既婚（計）の女性では肯定意識が半数以上の52.9%と否定意識より高くなっている。既婚（計）の男性も未婚に比べて否定意識が低く肯定意識が高くなっており、未婚と既婚とで意識の違いが見られた。

「(1) 男は外で働き、女は家庭を守るべきである」で回答した関係で見ると、そう思う（計）と回答した人は肯定の割合が高く、75.4%である一方、そう思わない（計）と回答した人は40.9%であった。(1)と同様に肯定の考えの割合が高い方が「女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ」でも肯定的な意見が多かった。

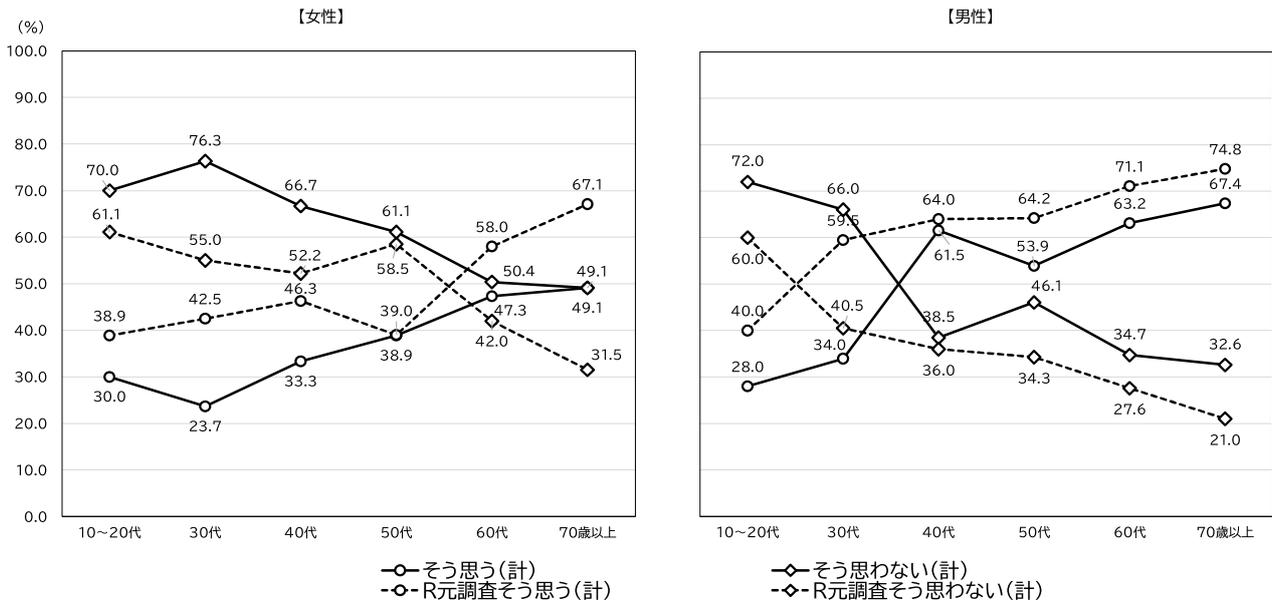
図1-3-7 女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ



#### (4)子育ては、やはり母親でなくてはと思う

「子育ては、やはり母親でなくてはと思う」という項目について、性・年代別に比較すると、女性では、R元調査と比べて、全ての年代で否定意識が高くなっており、特に10代～50代では否定意識の割合が高い。60代以上の世代でも、R元調査に比べて肯定意識の割合は減っている。

図1-3-8 子育ては、やはり母親でなくてはと思う



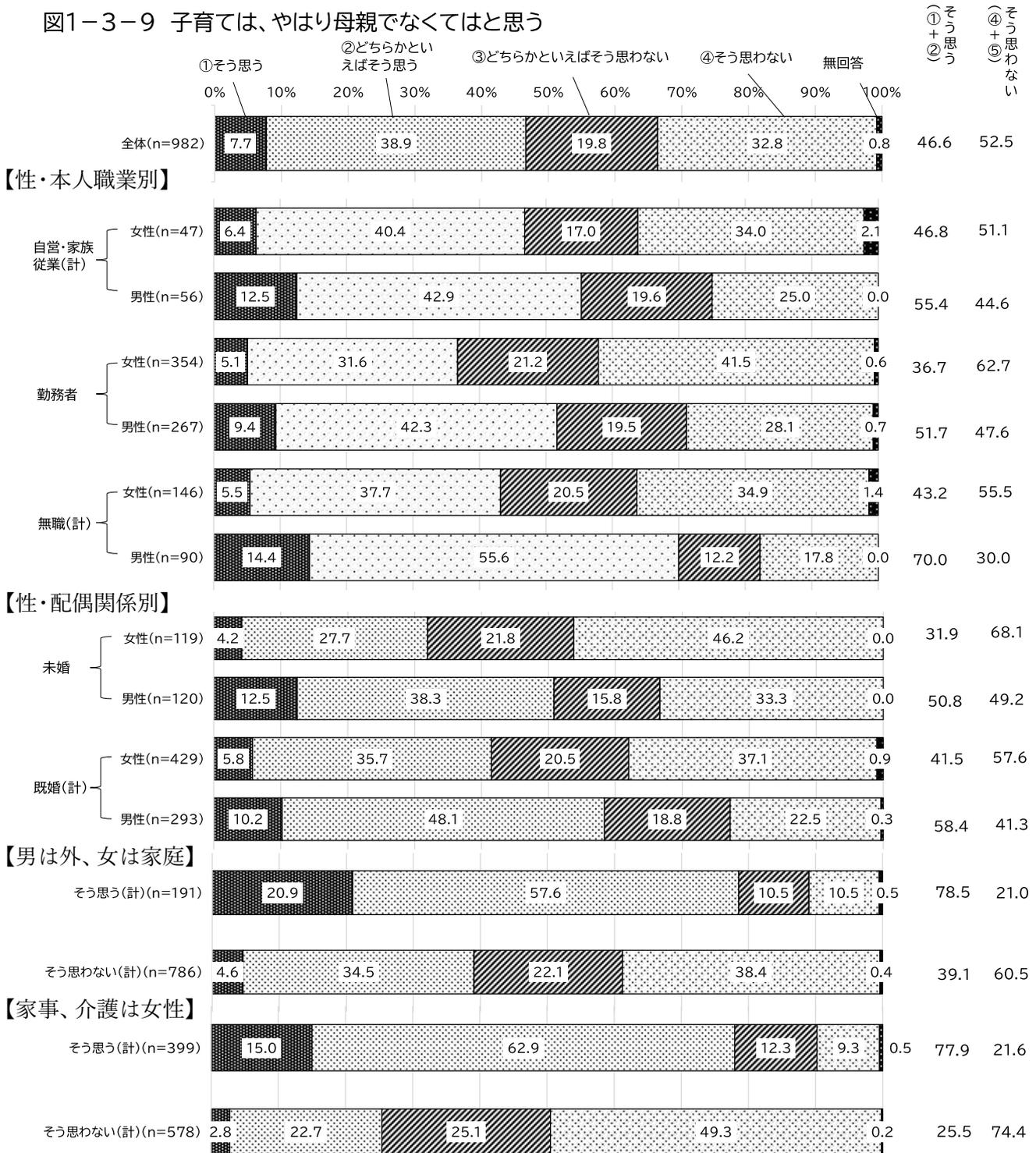
性別	年齢	今回調査	R元調査
		n	n
女性	10~20代	40	36
	30代	76	40
	40代	72	67
	50代	126	82
	60代	131	119
	70歳以上	110	149
男性	10~20代	25	30
	30代	53	37
	40代	65	50
	50代	89	67
	60代	95	76
	70歳以上	92	119

性・本人職業別に見てみると、「子育ては、やはり母親でなくてはと思う」について、肯定意識が最も高かったのは無職（計）の男性で70.0%であった。一方、否定意識が高いのは勤務者の女性で62.7%、次いで無職（計）の女性55.5%であった。

性・配偶関係別に見ると、肯定意識が高いのは既婚（計）の男性で58.4%、次いで未婚の男性50.8%、否定意識が高いのは未婚の女性68.1%、既婚（計）の女性57.6%であった。既婚に比べて未婚の方の否定意識が高かった。

「(1) 男は外で働き、女は家庭を守るべきである」、「(5) 家事、介護は女性の方が向いていると思う」で回答した関係で見ると(1)、(5)と同様に肯定の考えの割合が高い方が「子育ては、やはり母親でなくてはと思う」でも肯定的な意見が多かった。

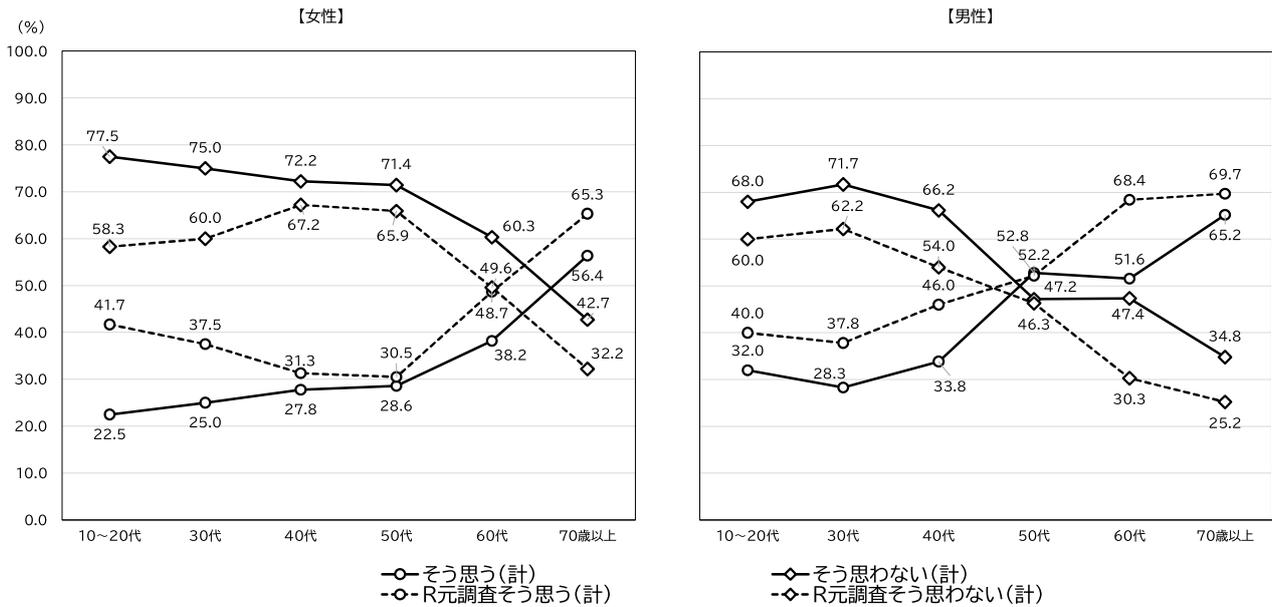
図1-3-9 子育ては、やはり母親でなくてはと思う



(5)家事、介護は女性の方が向いていると思う

「家事、介護は女性の方が向いていると思う」という項目について、性・年代別に R 元調査と比較すると、男性は R 元調査と比べて全ての年代で肯定意識が下がり否定意識が上がっているが、どの年代でも女性に比べて肯定意識の割合が高い。特に女性に比べて男性は 50 代以上の肯定意識の割合が高くなっている。

図1-3-10 家事、介護は女性の方が向いていると思う



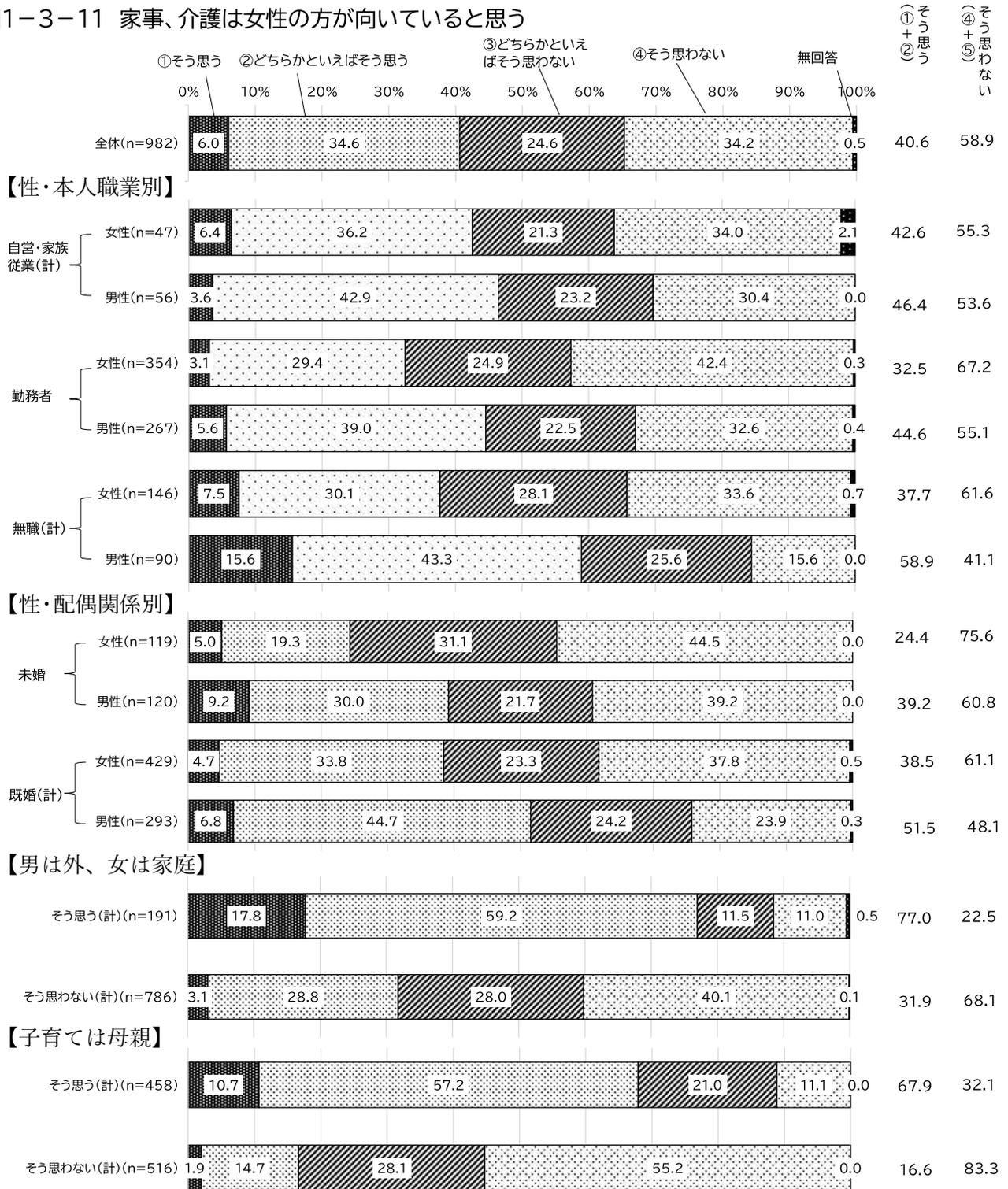
性別	年齢	今回調査	R元調査
		n	n
女性	10~20代	40	36
	30代	76	40
	40代	72	67
	50代	126	82
	60代	131	119
	70歳以上	110	149
男性	10~20代	25	30
	30代	53	37
	40代	65	50
	50代	89	67
	60代	95	76
	70歳以上	92	119

性・本人職業別に見てみると、「家事、介護は女性の方が向いていると思う」について、無職（計）の男性は否定意識41.1%より肯定意識58.9%が高かったが、その他では肯定意識に比べて否定意識の割合が高くなっている。また、勤務者の女性は否定意識が67.2%と最も高かった。

性・配偶関係別に見ると、肯定意識が高いのは既婚（計）の男性51.5%、否定意識が高いのは未婚の女性75.6%となっている。

「(1) 男は外で働き、女は家庭を守るべきである」、「(4) 子育ては、やはり母親でなくてはと思う」で回答した関係で見ると(1)、(4)と同様に肯定の考えの割合が高い方が「家事、介護は女性の方が向いていると思う」でも肯定的な意見が多かった。

図1-3-11 家事、介護は女性の方が向いていると思う



## 第2章 女性の社会参画について

### 1. 女性の意見の反映度

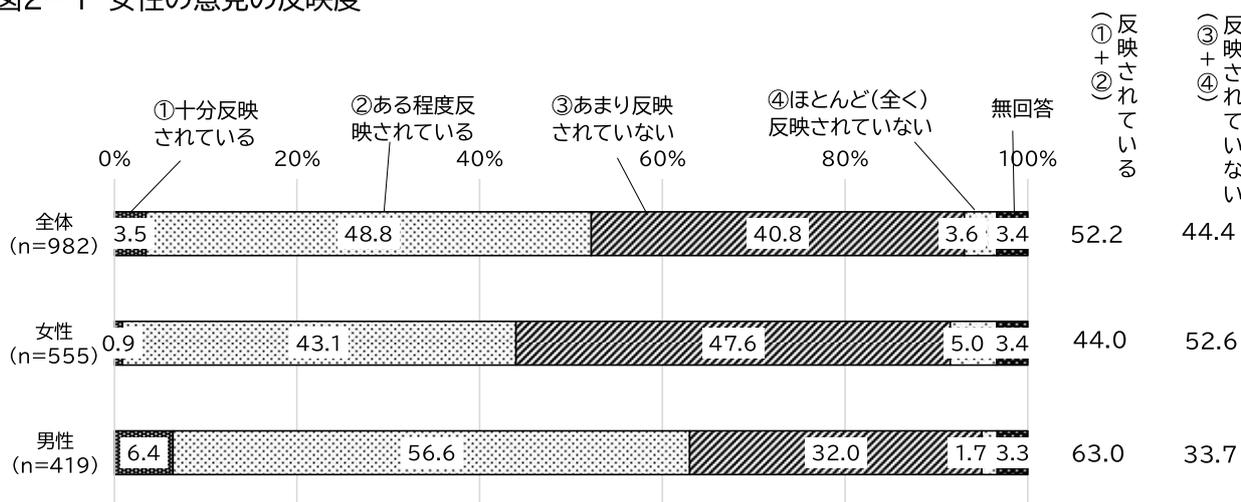
●県の政策に関する女性の意見の反映度について、男性に比べて女性は反映されていると回答した割合が低くなっている。

女性の意見の反映度については、反映されていると回答した割合は全体で52.2%であった。男性では63.0%と6割程度が反映されていると感じている一方、女性は44.0%と4割程度であった。

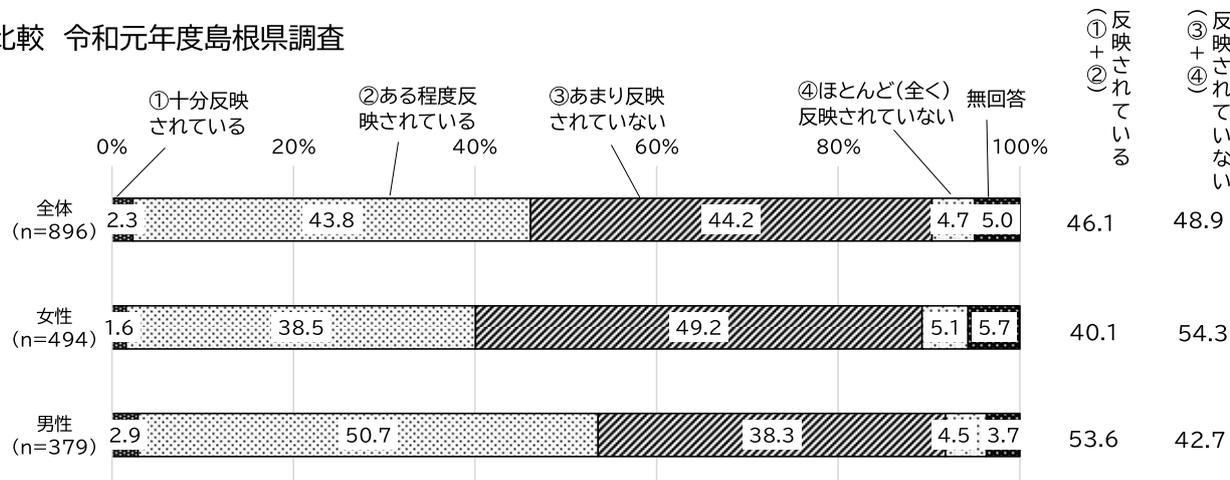
R元調査では反映されていると回答した割合は全体で46.1%、女性は40.1%、男性は53.6%で、今回調査では全体・男女ともに増加していた。

問3 あなたは、県の政策について女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。(〇は1つ)

図2-1 女性の意見の反映度



比較 令和元年度島根県調査

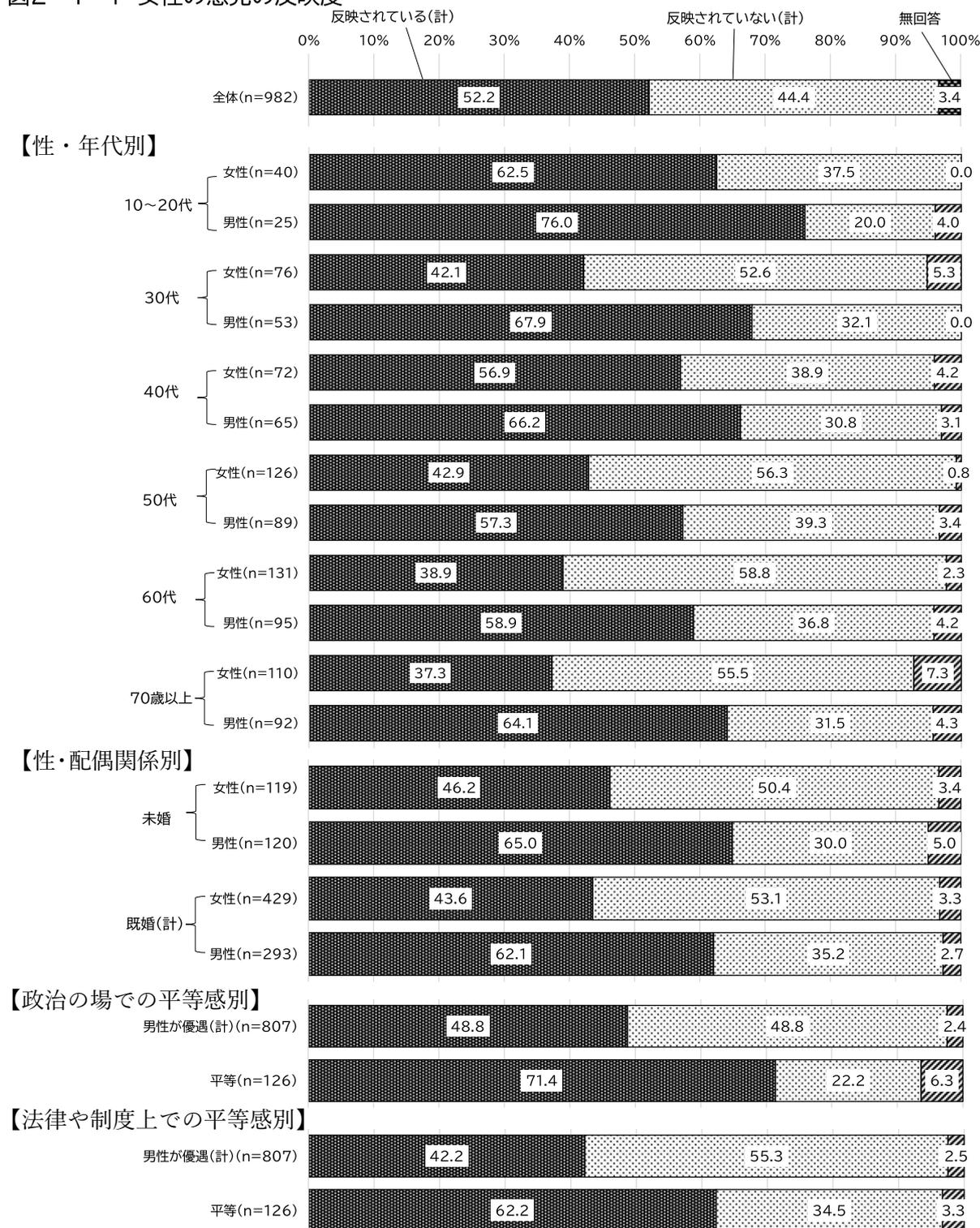


性・年代別に見ると、男性に比べて女性では反映されている(計)と回答した割合が低く、特に10～20代、40代を除き、3～4割と低くなっている。一方、男性では反映されている(計)は6～7割程度となっている。

性・配偶関係別に見ると、反映されている(計)の割合が高いのは未婚の男性65.0%、既婚(計)の男性62.1%となっている。

問1男女の地位について「(4) 政治の場で」、「(5) 法律や制度上で」で回答した関係で見ると、平等と回答した割合が高い方が「反映されている(計)」の回答割合が高かった。

図2-1-1 女性の意見の反映度



## 2.女性の意見が反映されていない理由

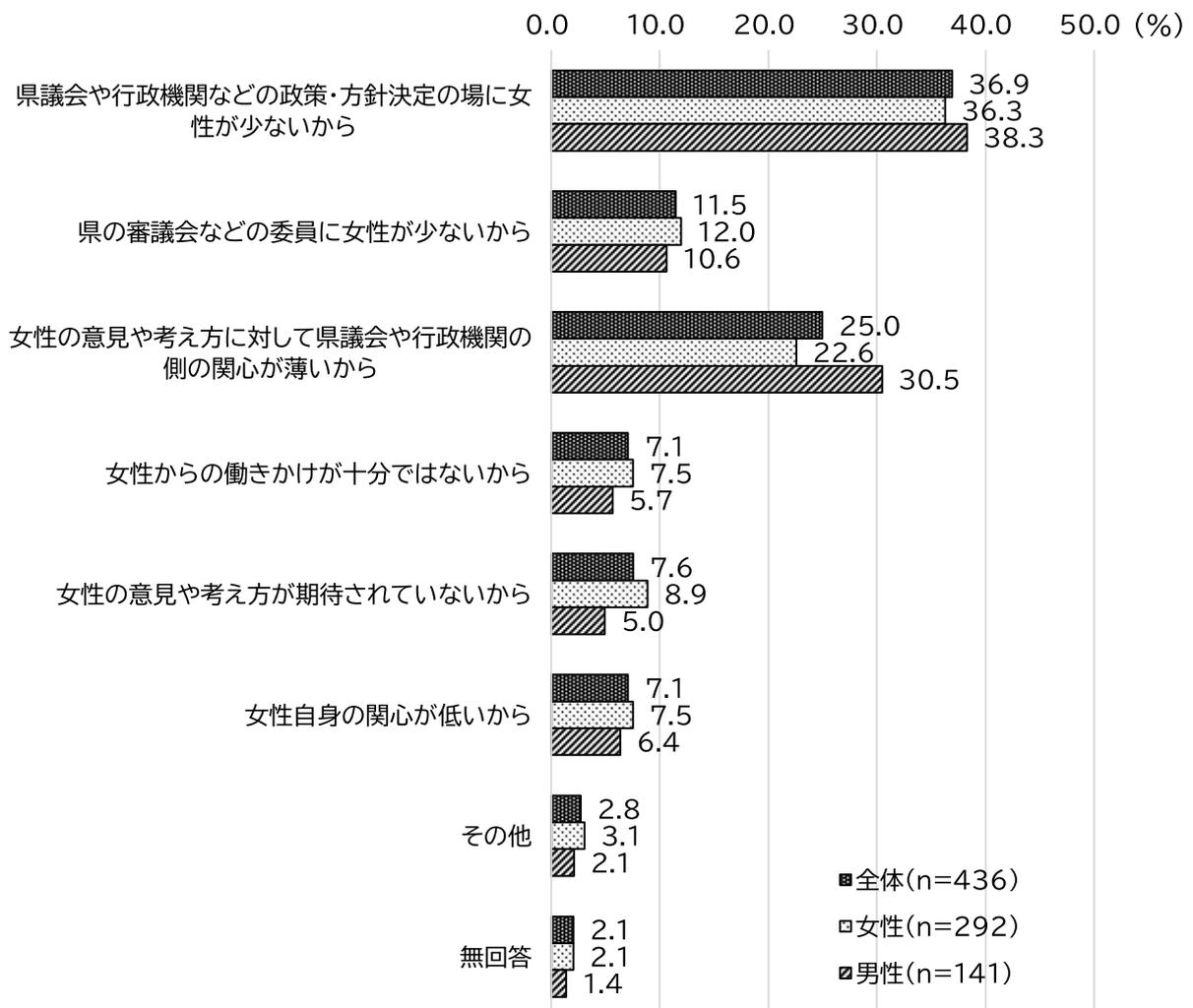
- 女性の意見が反映されていない理由について、「県議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が36.9%と最も高い回答割合であった。

女性の意見が反映されていない理由については、「県議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が最も多く36.9%、次いで「女性の意見や考え方に対して県議会や行政機関の側の関心が薄いから」25.0%であった。

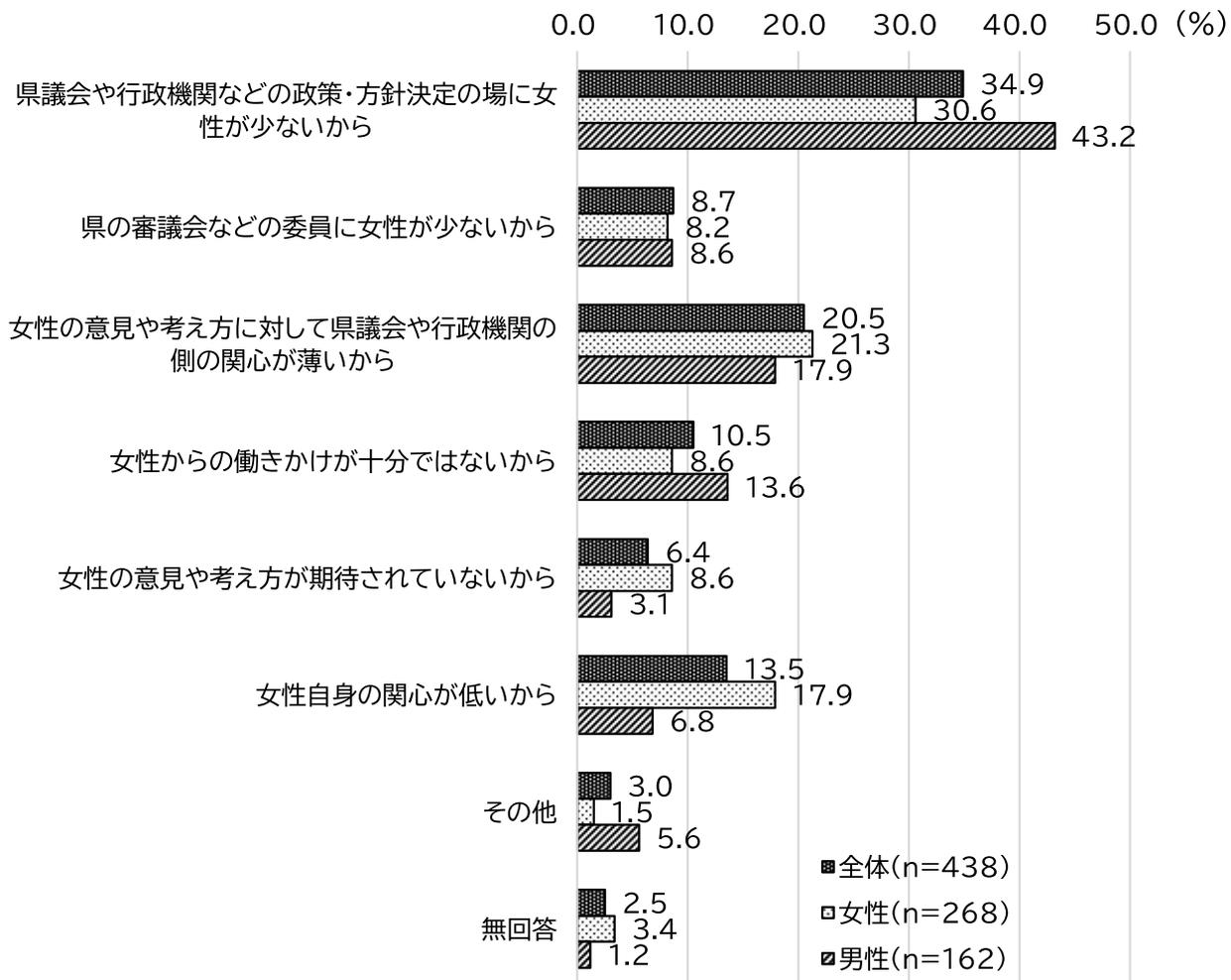
R元調査と比較すると、「女性の意見や考え方に対して県議会や行政機関の側の関心が薄いから」がR元調査の男性は17.9%から、今回調査では30.5%となった。また、「女性自身の関心が低いから」と回答した割合は、女性が17.9%から、今回調査では7.5%と大きく下がった。

### 問 3-2 県の政策に女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由は何ですか。(○は1つ)

図2-2 女性の意見が反映されていない理由



比較 令和元年度島根県調査

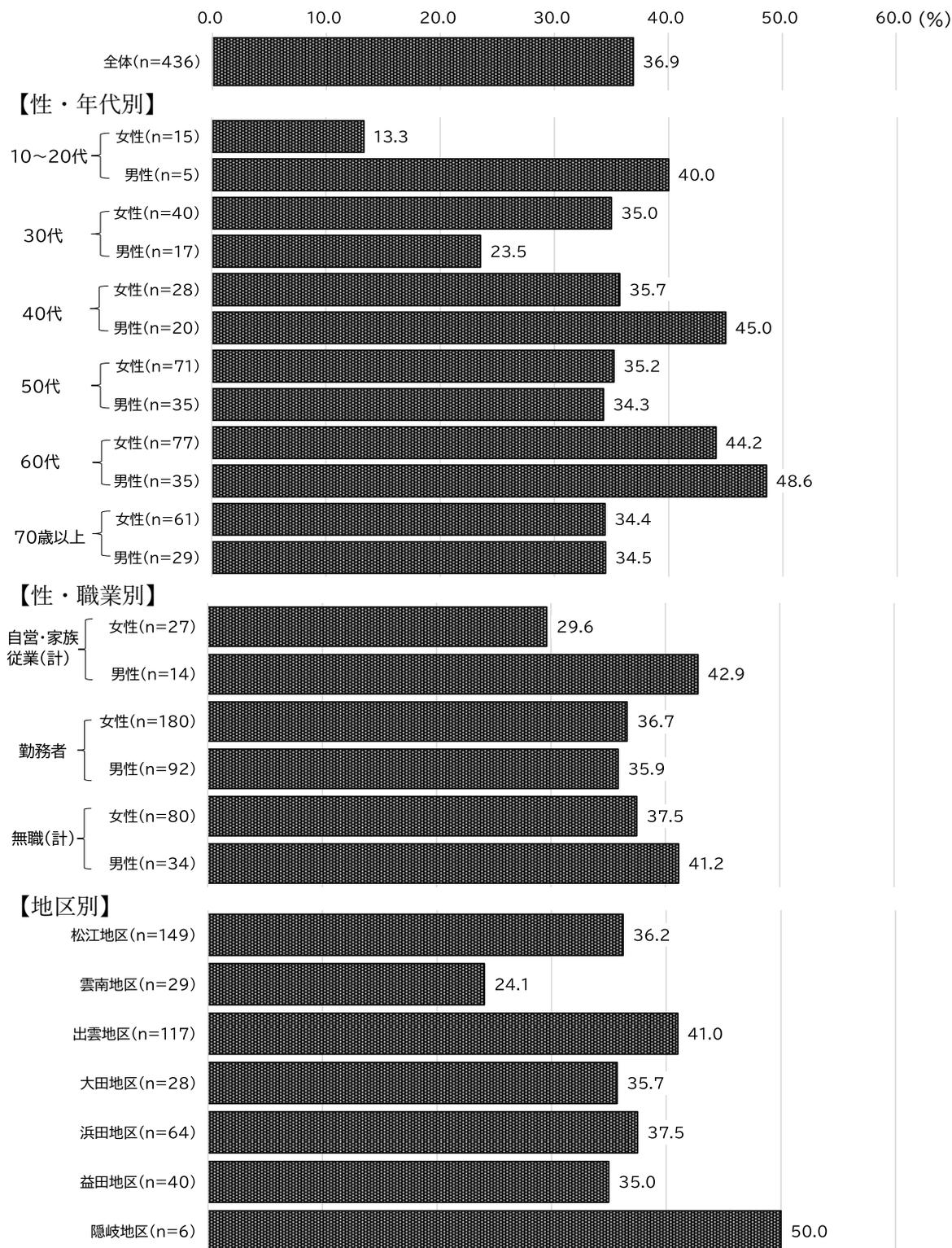


「県議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」について、性・年代別で見ると、60代男性が48.6%と最も高く、次いで40代男性で45.0%、60代女性が44.2%となっている。

性・本人職業別については、自営・家族従業（計）の男性が42.9%、無職（計）の男性が41.2%となっている。

地区別に見ると、隠岐地区50.0%、出雲地区41.0%、松江地区36.2%となっている。

図2-2-1 県議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから



### 第3章 女性と仕事について

#### 1. 女性の就業パターン

●R元調査と比べて、子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよいとの回答が増加している。

女性の就業パターンについては、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の回答が61.0%とR元調査の53.1%より増えており、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい」がR元調査では26.5%だったが、今回調査では17.6%となっている。

平成16年度調査では、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい」が42.2%と最も多い回答割合であったが、今回調査では17.6%と24.6ポイント減少した。

男女別に見ると、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい」が男性は15.3%、女性は19.6%であり、いずれもR元調査より減少した。

問4 一般に女性と仕事について、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

図3-1 女性の就業パターン

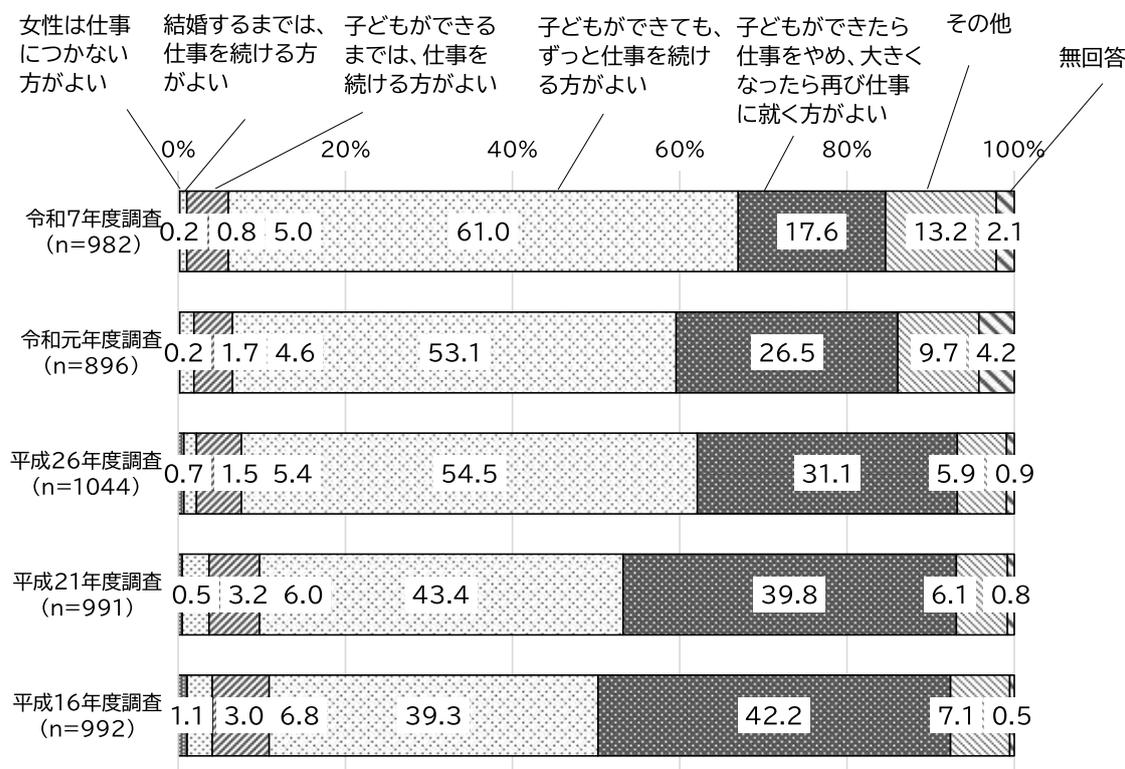
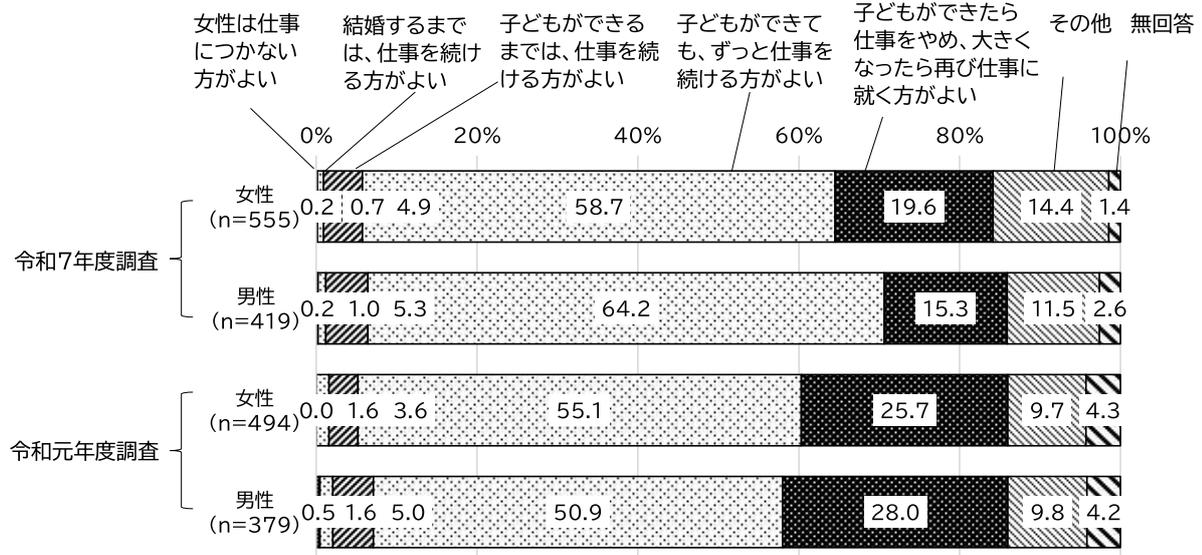
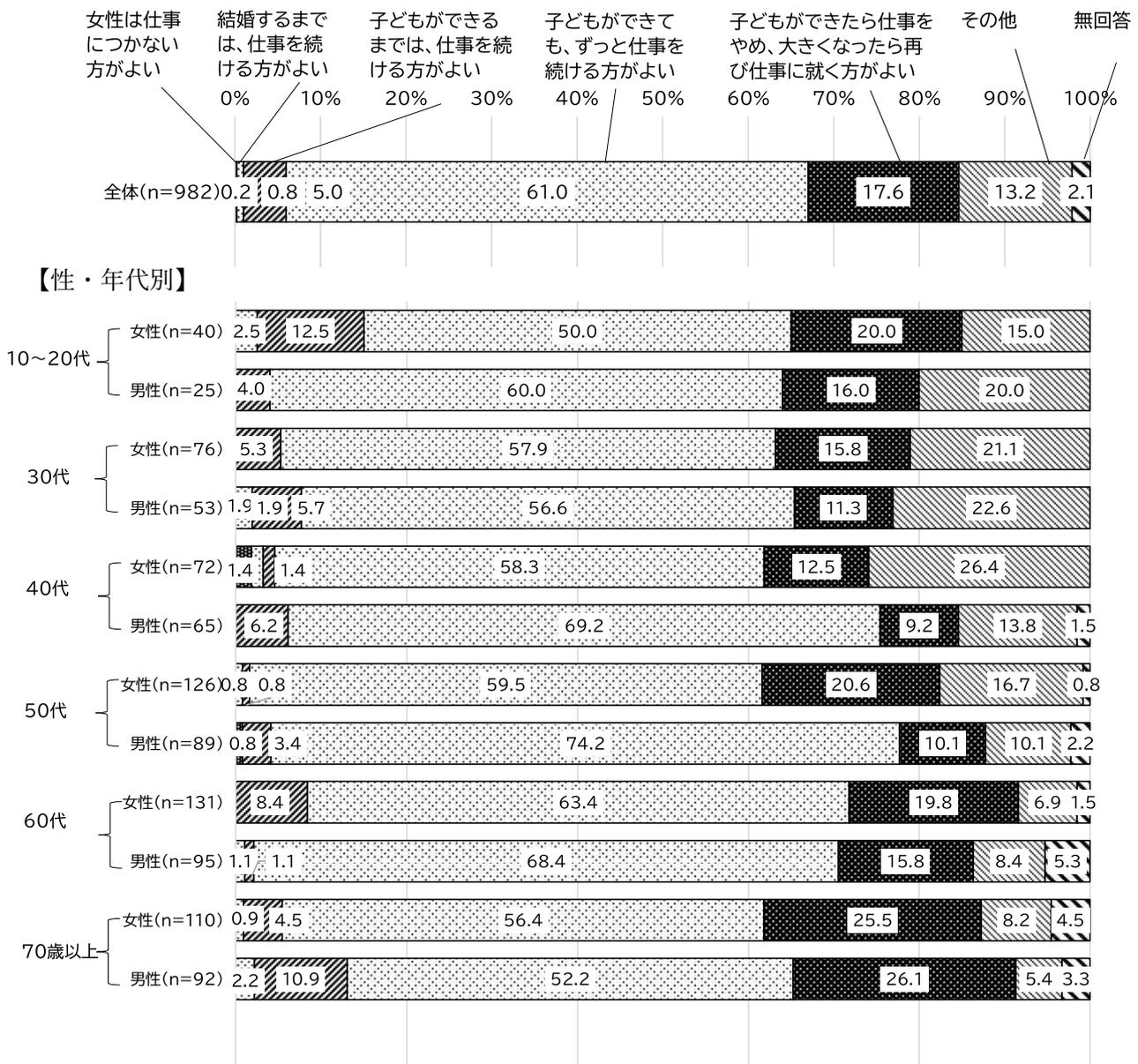


図3-1-1 女性の就業パターン



性・年代別で見ると、全ての年代で「子どもができて仕事が続ける方がよい」とする割合が高く、結婚や出産を理由に退職することを前提としない考え方が主流となっている。一方で、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい」が一定数あり、家庭での役割分担の現状を踏まえた就業観がうかがえる。高年層では「子どもができたなら仕事をやめる」など、固定的な性別役割意識が相対的に強い。

図3-1-2 女性の就業パターン



回答の多かった上位2項目について、回答者の属性を示す。

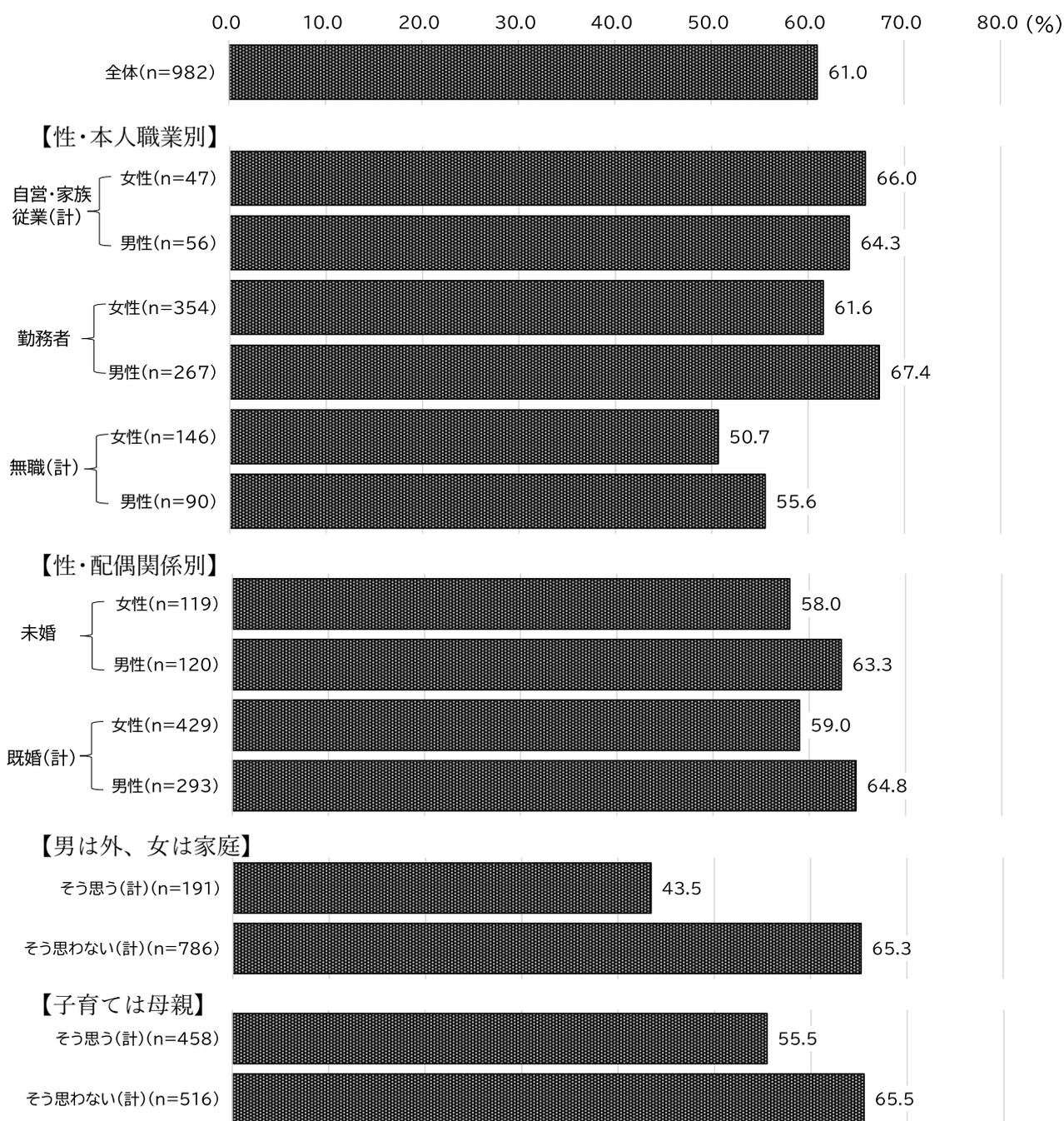
○子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい

性・本人職業別については、勤務者の男性が67.4%と最も回答割合が高く、次いで自営・家族従業（計）の女性66.0%、自営・家族従業（計）の男性64.3%となっている。

性・配偶関係別に見ると、既婚（計）の男性が64.8%、次いで未婚の男性63.3%となっている。

問2（1）「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」の関係で見ると、そう思わない（計）が65.3%と、そう思う（計）の43.5%と違いが見られた。また、（4）「子育ては、やはり母親でなくてはと思う」の関係では、そう思わない（計）65.5%、そう思う（計）55.5%であった。

図3-1-3 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい



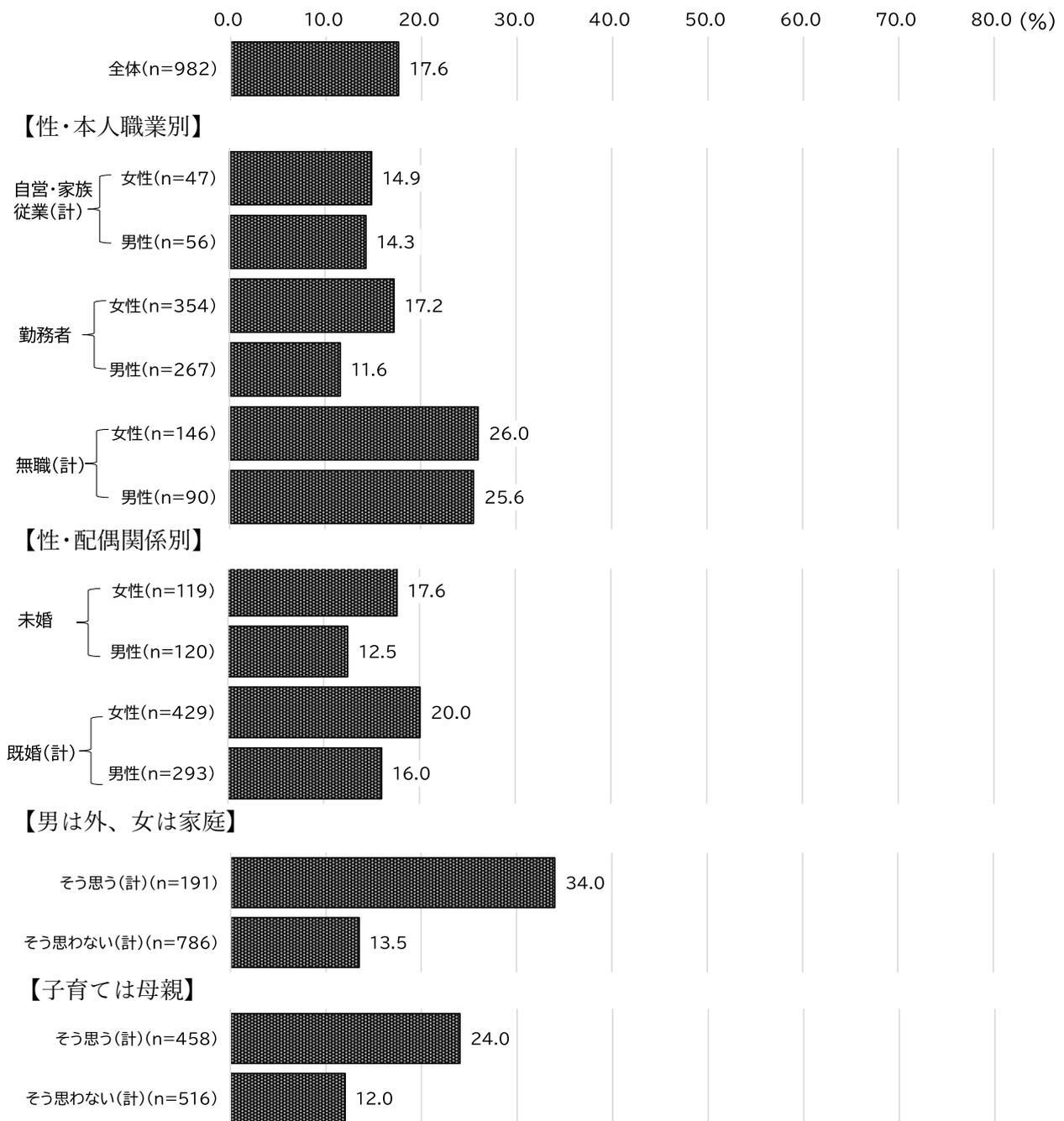
## ○子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい

性・本人職業別については、無職（計）の女性が26.0%、無職（計）の男性が25.6%と最も回答割合が高かった。

性・配偶関係別に見ると、既婚（計）の女性が20.0%、次いで未婚の女性17.6%となっている。

問2（1）「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」との関係で見ると、そう思う（計）が34.0%、そう思わない（計）が13.5%、また、（4）「子育ては、やはり母親でなくてはと思う」の関係では、そう思う（計）が24.0%、そう思わない（計）が12.0%であった。

図3-1-4 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい



## 2.女性の働き続けやすさ

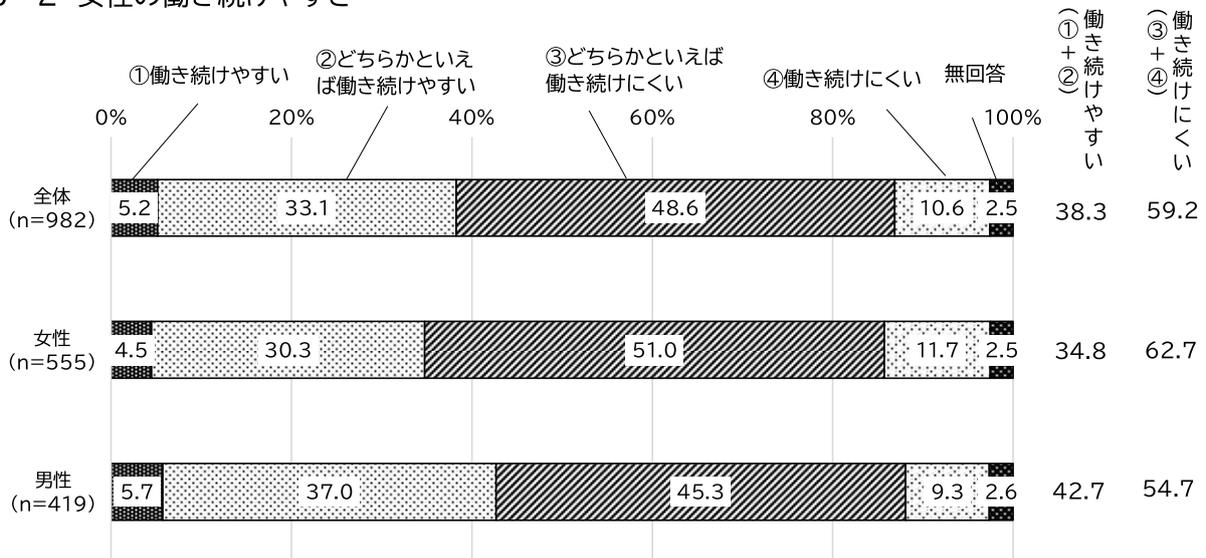
●R元調査と比較して、働き続けやすいと回答した割合が増えているが、半数以上が働き続けにくいと回答している。

女性が働き続けやすい社会になっているかについては、全体で「働き続けやすい」が38.3%、「働き続けにくい」59.2%であった。男性に比べて女性は「働き続けにくい」と回答している割合が高く、男女で差が見られる。

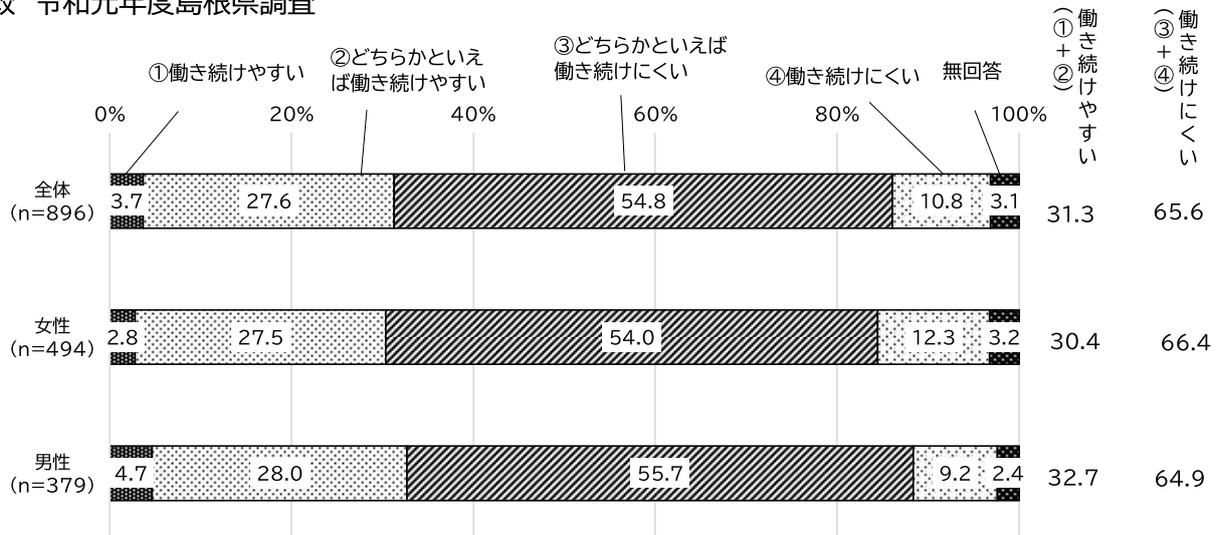
R元調査の、「働き続けやすい」31.3%、「働き続けにくい」65.6%と比べて働き続けにくい割合が減り、働き続けやすい割合が増えているが、半数以上は「働き続けにくい」と回答している。

問5 一般的に、女性が働き続けていくことについて、現在どのような状況にあると思いますか。  
(○は1つ)

図3-2 女性の働き続けやすさ



比較 令和元年度島根県調査

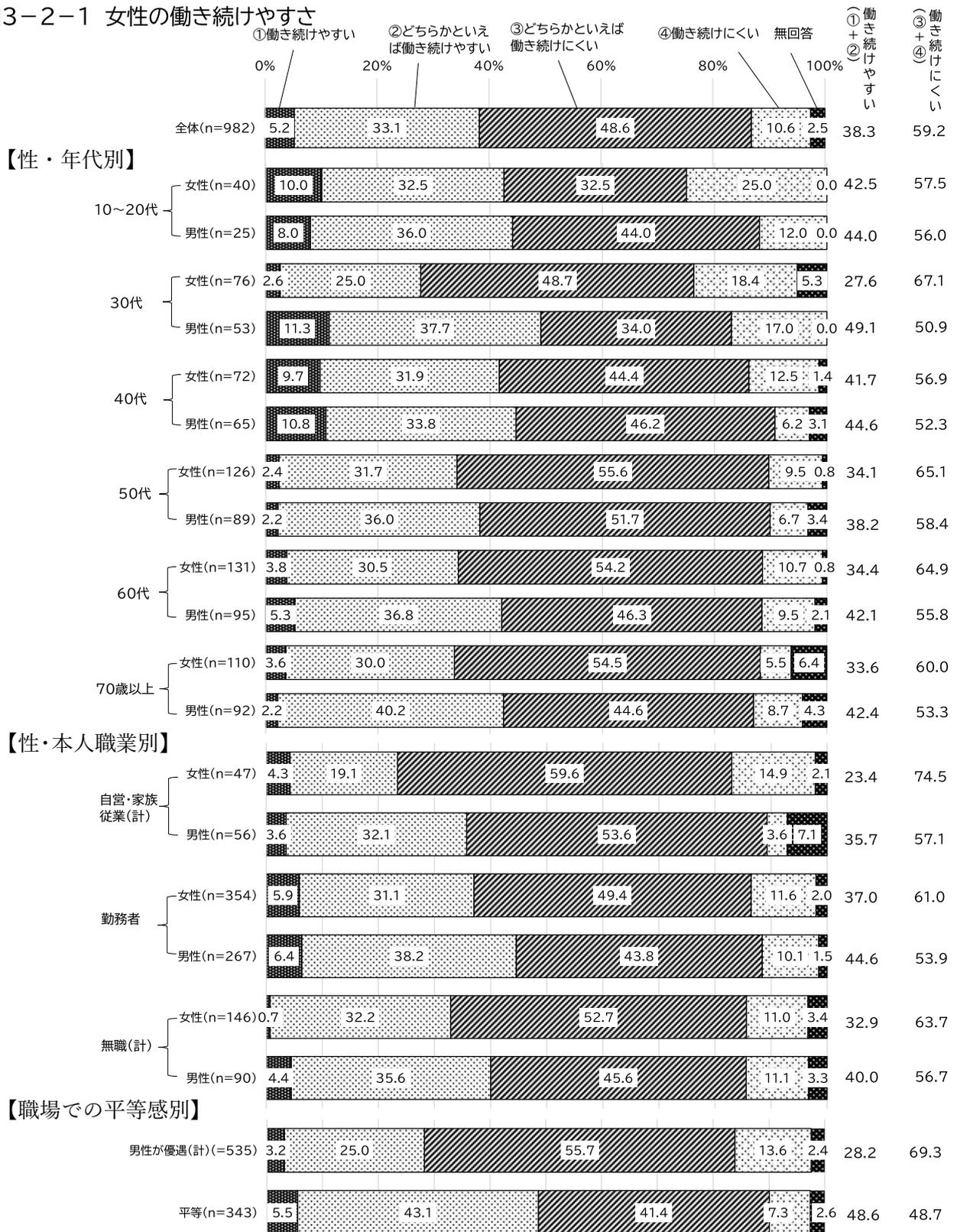


性・年代別に見ると、30代女性は働き続けやすいと回答している割合が27.6%と最も低く、働き続けにくいと回答した割合が67.1%と7割近くが働き続けにくいと感じている。

性・本人職業別に見ると、勤務者、無職（計）に比べて自営・家族従業（計）では男性・女性とも働き続けにくいと回答した割合が高かった。

問1(2)「職場で」の関係で見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人のうち、働き続けにくいと回答した人は69.3%であり、全体と比べて働きにくいと感じている割合が高い。また「平等」と回答した人はどちらも同程度の回答割合であった。

図3-2-1 女性の働き続けやすさ



### 3. 女性が働き続ける上での障害

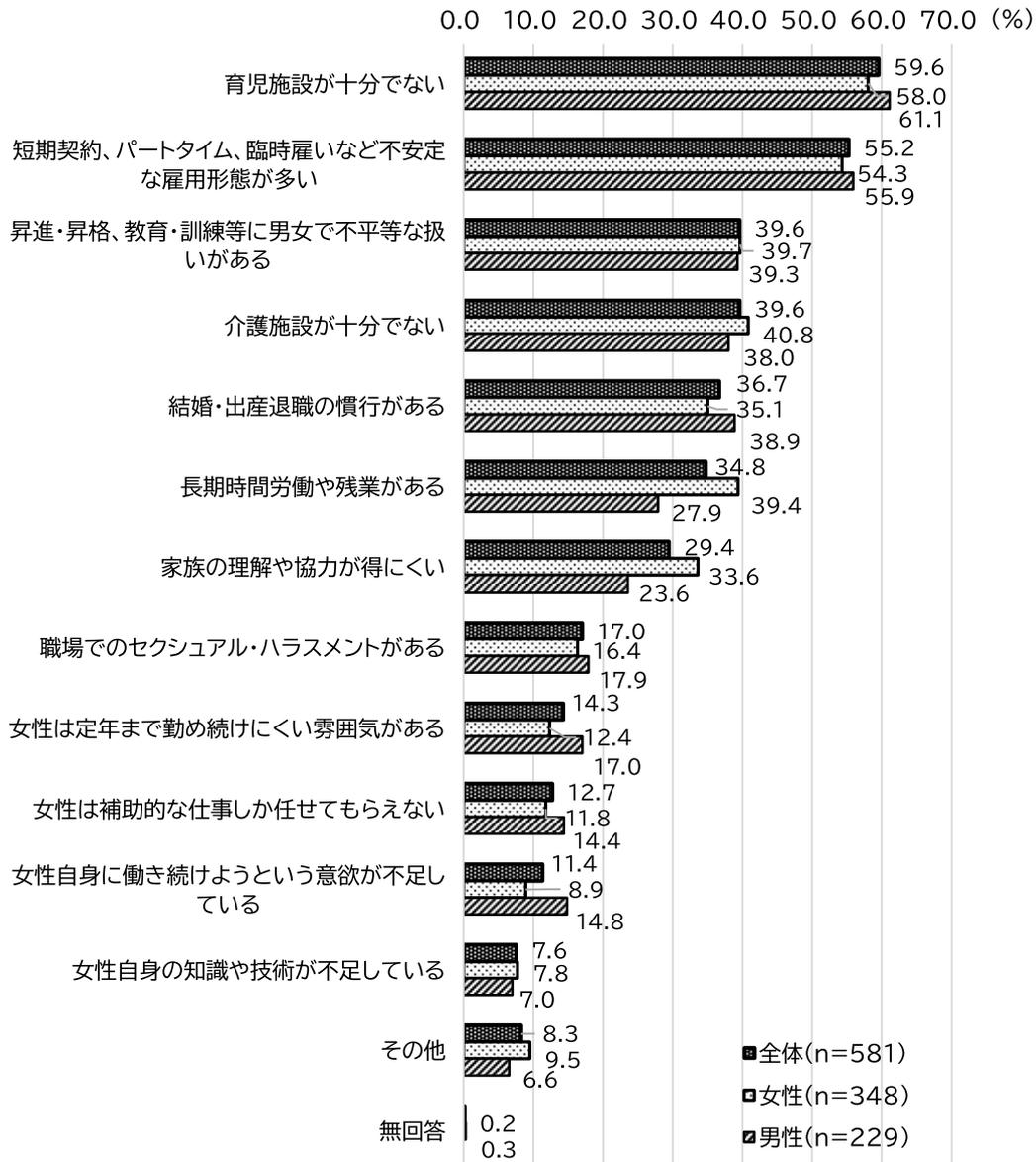
●女性が働き続ける上での障害については「育児施設が十分でない」が最も高く、次いで「短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い」であった。

女性が働き続けるうえでの障害については、「育児施設が十分でない」が全体で59.6%と最も高く、次いで「短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い」55.2%、「介護施設が十分でない」、「昇進、昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある」39.6%であった。

性別で見ると、女性は「長時間労働や残業がある」、「家族の理解や協力が得にくい」について男性より10ポイント以上高かった。

問 5-2 女性が働き続けていく上で、障害となっているのはどのようなことだと思いますか。  
(○はいくつでも)

図3-3 女性が働き続ける上での障害



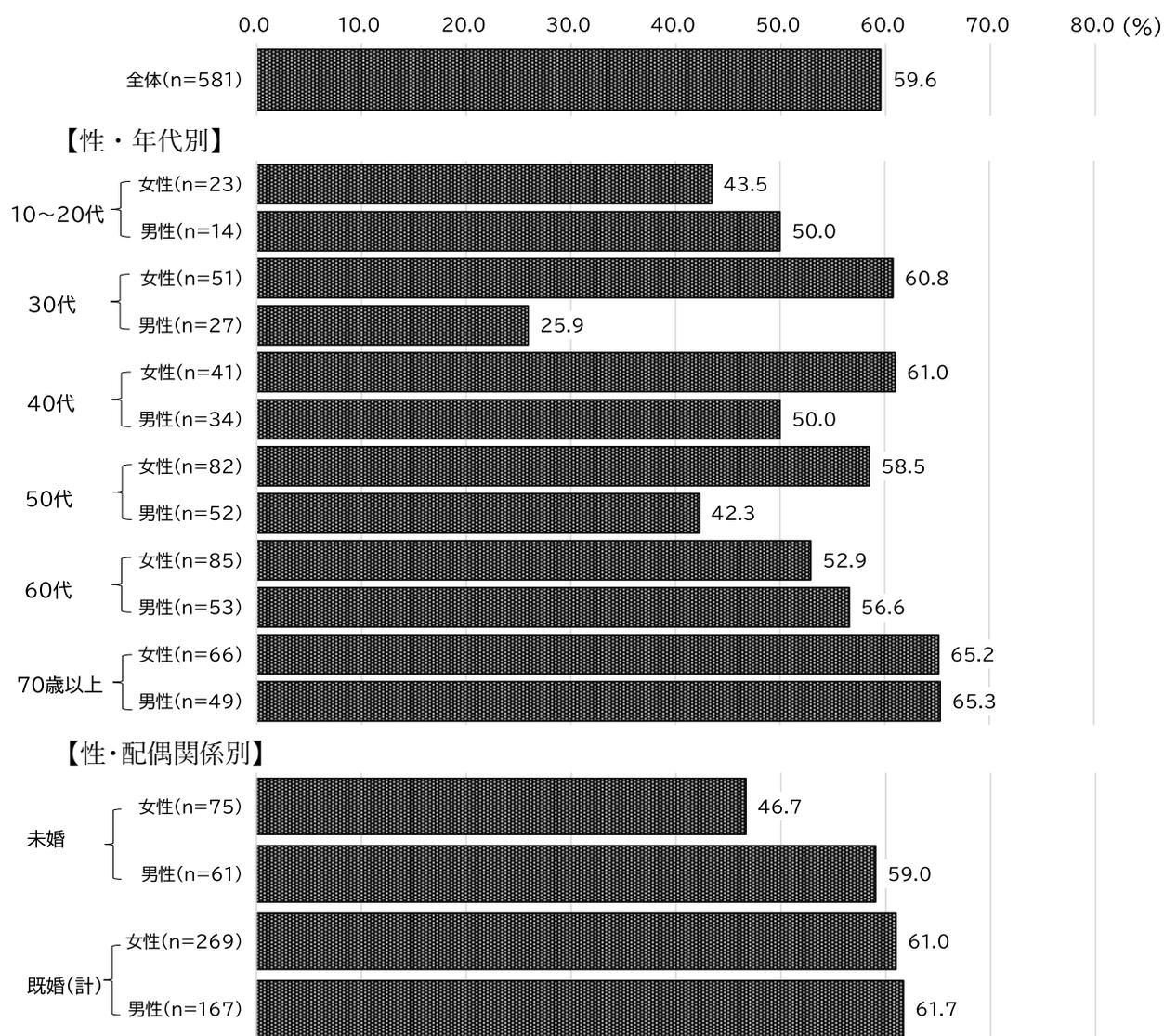
回答の多かった上位5項目について、回答者の属性を示す。

### ○育児施設が十分でない

「育児施設が十分でない」については、30代、40代の女性、また、70歳以上の女性と男性で6割以上が回答している。一方、30代男性は25.9%と一番低い回答であった。

また、性・配偶関係別で見ると、既婚（計）の回答が6割以上と未婚と比べて高かった。

図3-3-1 育児施設が十分でない

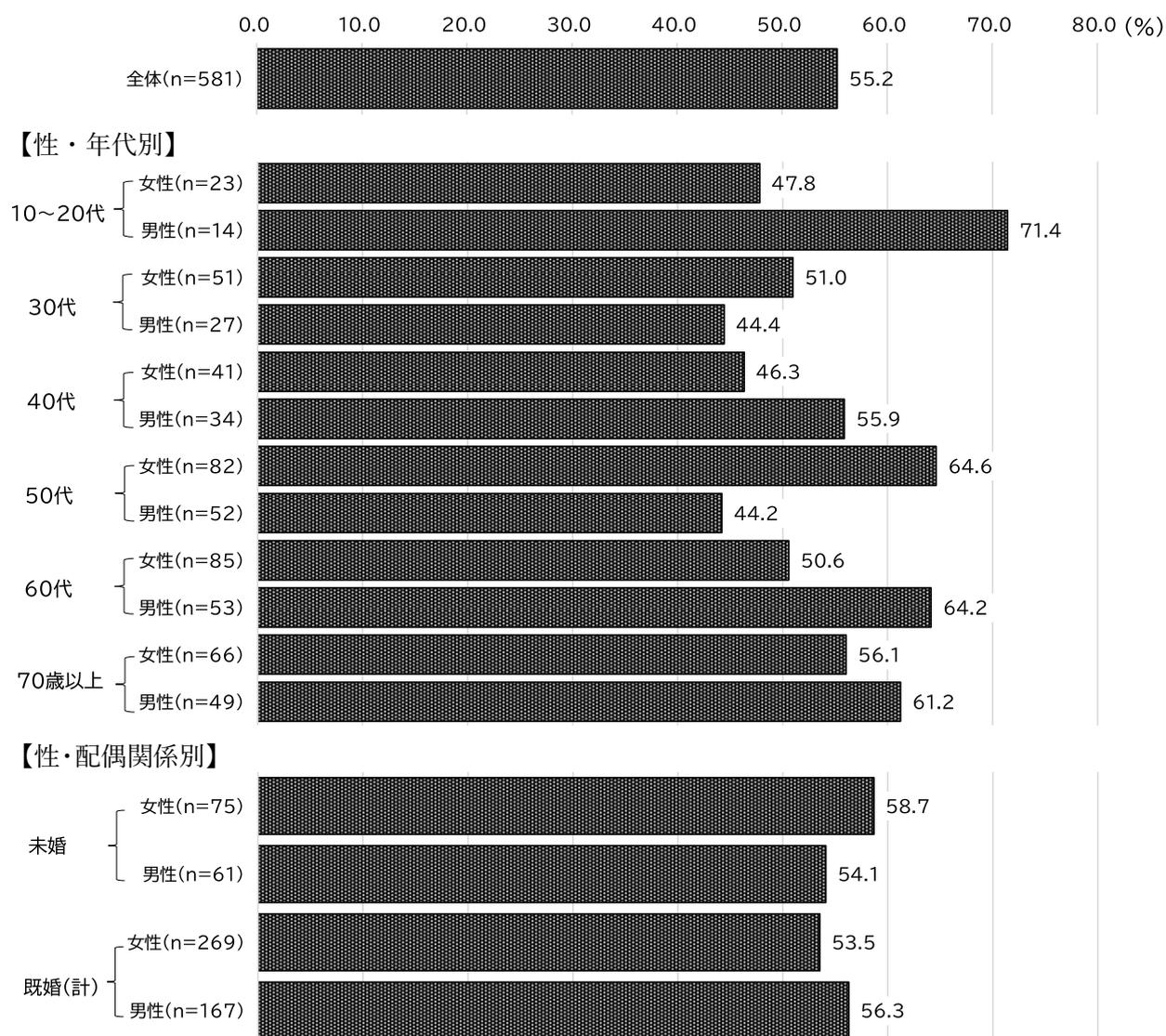


### ○短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い

「短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い」については、性・年代別に見ると、10～20代男性が71.4%と最も高く、次いで50代女性64.6%、60代男性64.2%、70歳以上男性61.2%であった。

また、性・配偶関係別で見ると、未婚の女性が58.7%、次いで既婚（計）の男性56.3%であった。

図3-3-2 短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い

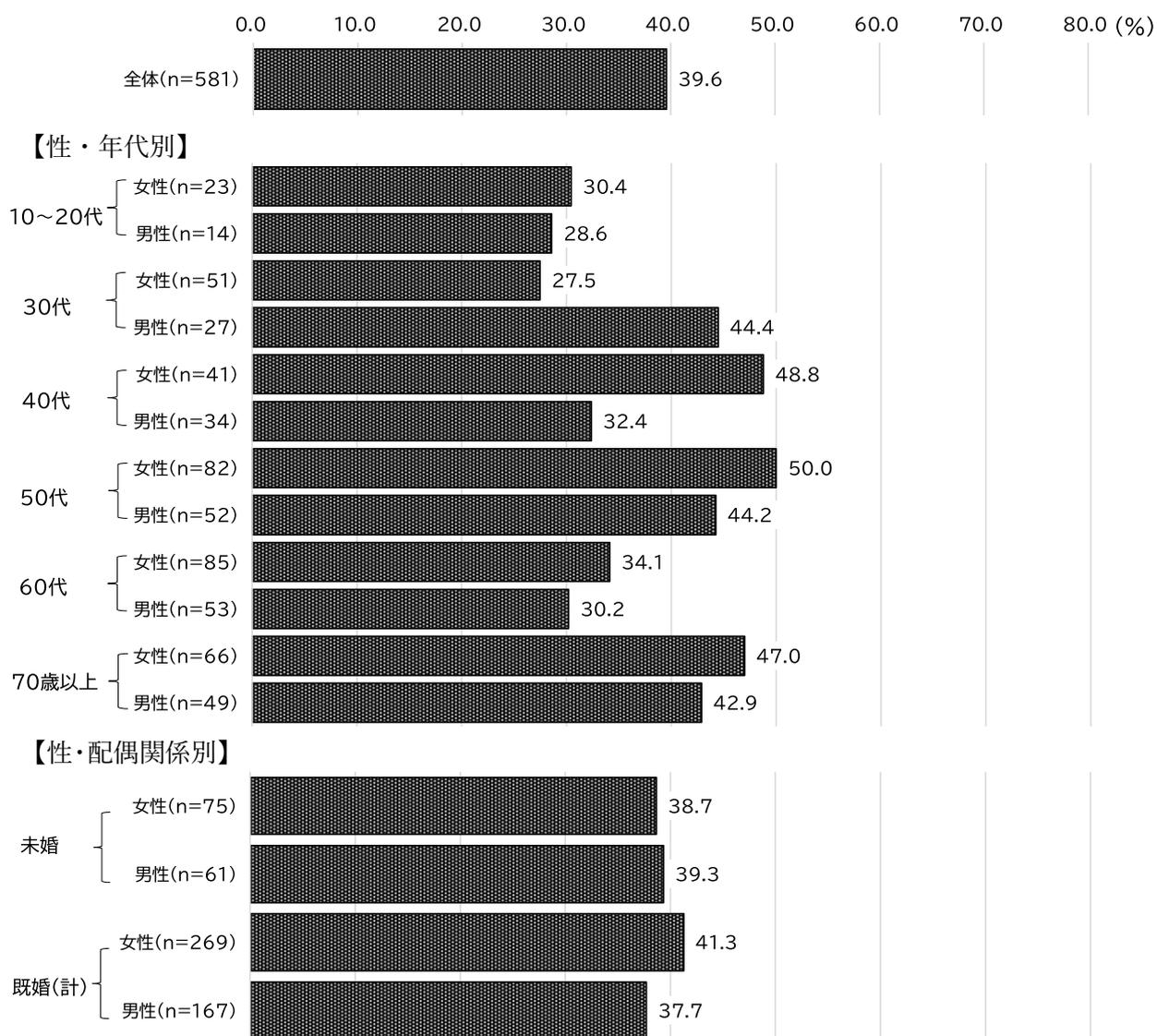


## ○介護施設が十分でない

「介護施設が十分でない」については、年代別に見ると、50代女性 50.0%が最も高く、次いで40代女性 48.8%、70歳以上女性 47.0%であった。

性・配偶関係別で見ると、大きな差はなかった。

図3-3-3 介護施設が十分でない

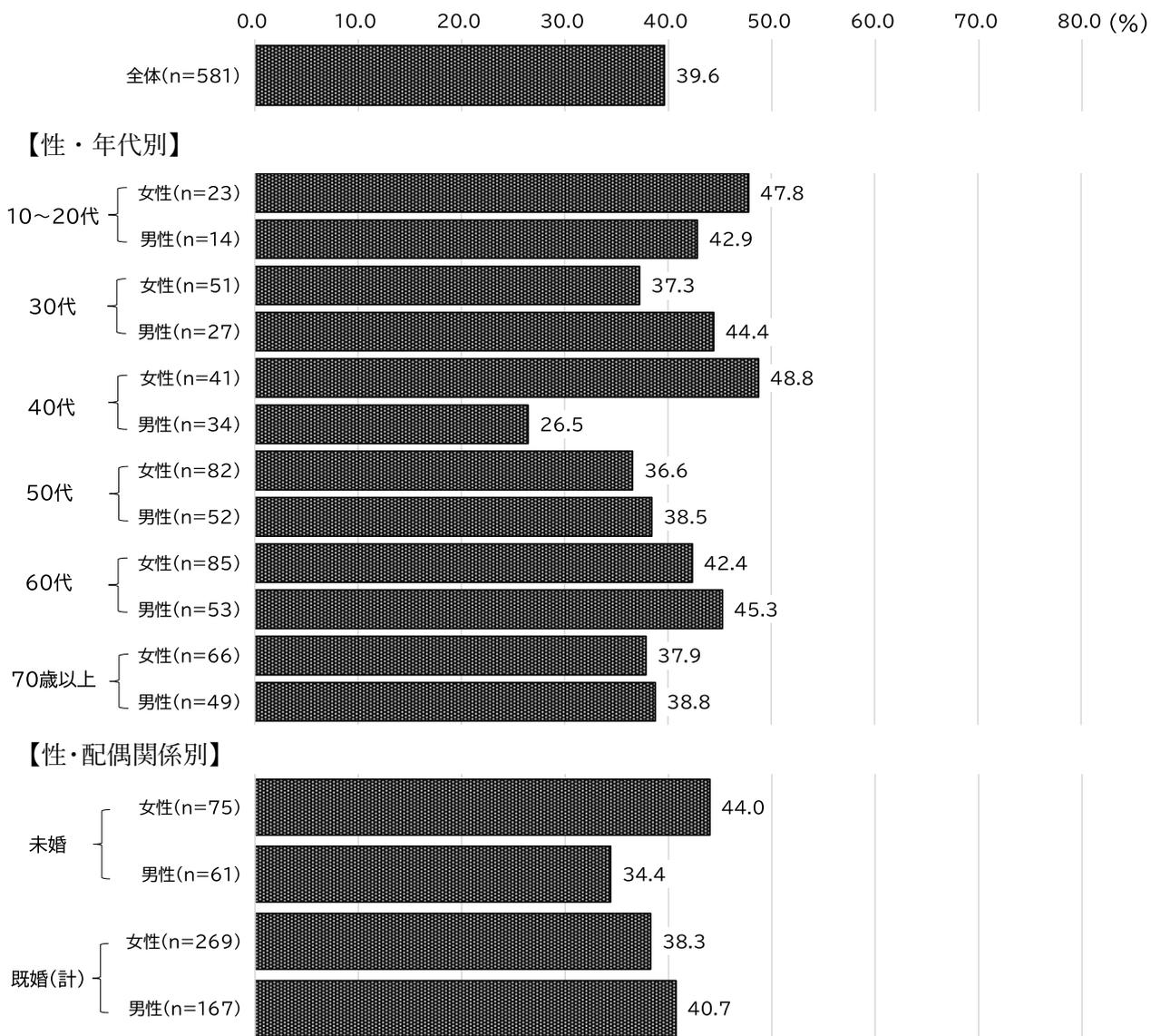


○昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある

「昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある」については、性・年代別に見ると、40代女性 48.8%が最も高く、次いで10~20代女性 47.8%、60代男性 45.3%であった。

性・配偶関係別に見ると、未婚の男女で差が大きかった。

図3-3-4 昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある

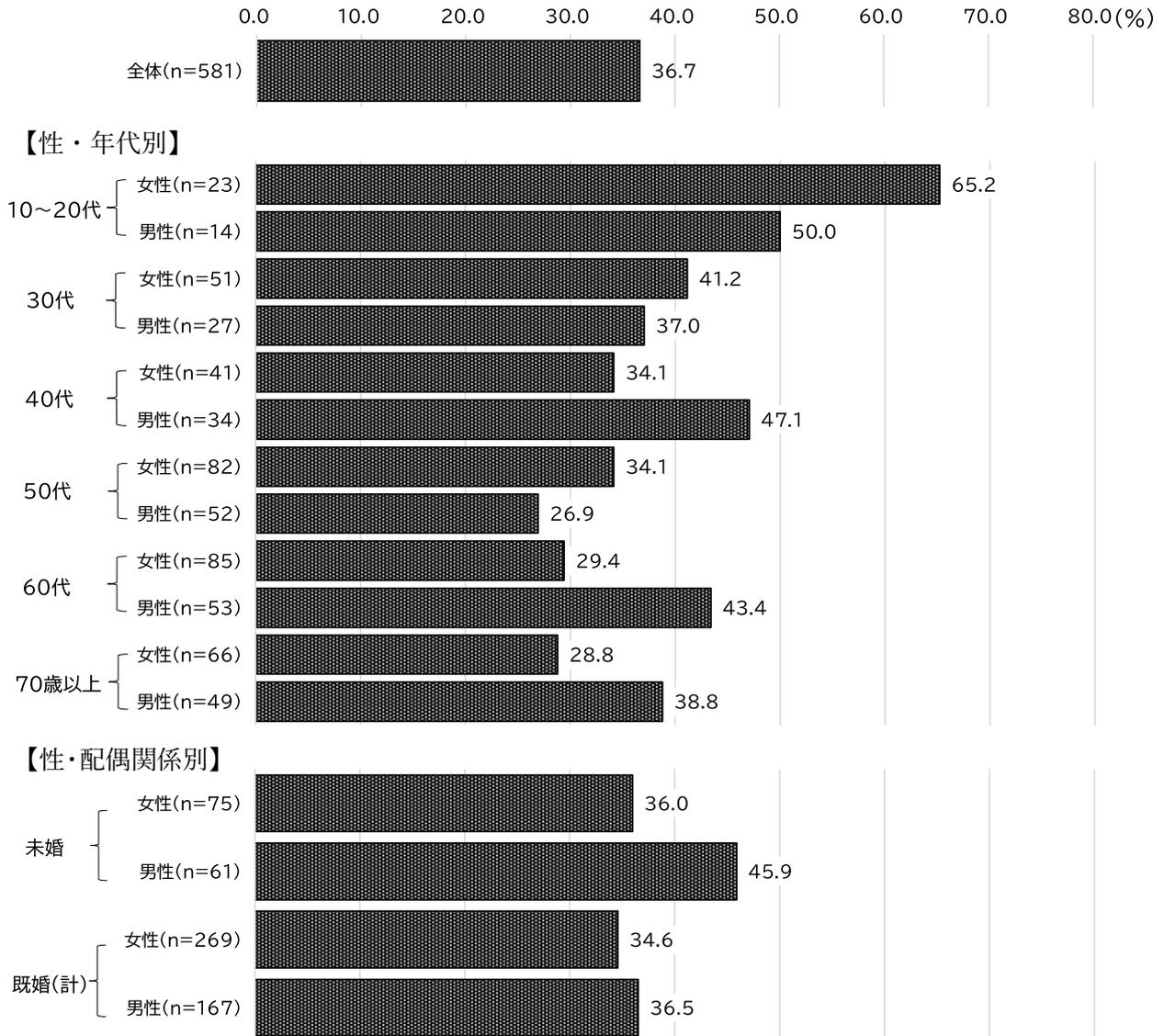


## ○結婚・出産退職の慣行がある

「結婚・出産退職の慣行がある」については、性・年代別に見ると、10～20代女性 65.2%が最も高く、次いで10～20代男性 50.0%、40代男性 47.1%であった。10～20代での回答が多かった。

性・配偶関係別に見ると、未婚の男女で差が大きかった。

図3-3-5 結婚・出産退職の慣行がある



## 第4章 仕事、家庭生活、地域・個人の生活について

### 1.仕事、家庭生活、地域・個人の生活のバランス

- 希望の優先度と現実の優先度ともに「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多いが、希望では「仕事を優先したい」が1割未満に対し、現実では「仕事を優先している」は2～3割程度と高くなっている。また、現実の優先度では女性は「仕事と家庭生活をともに優先している」、男性は「仕事を優先している」が最も多い回答であった。

#### (1)希望する優先度

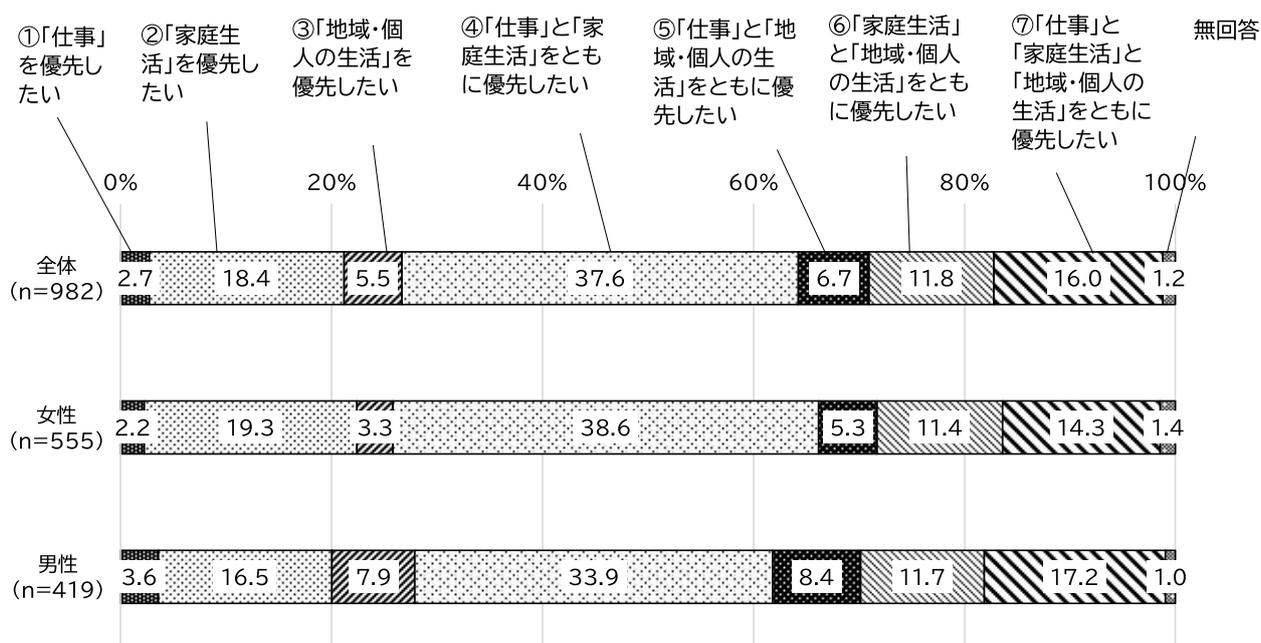
希望の優先度では、「仕事と家庭生活をともに優先したい」が37.6%と最も高く、次いで「家庭生活を優先したい」18.4%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」16.0%となっている。

性別で見ると、男性では、「地域・個人の生活を優先したい」の項目で女性に比べて割合が高くなっている。

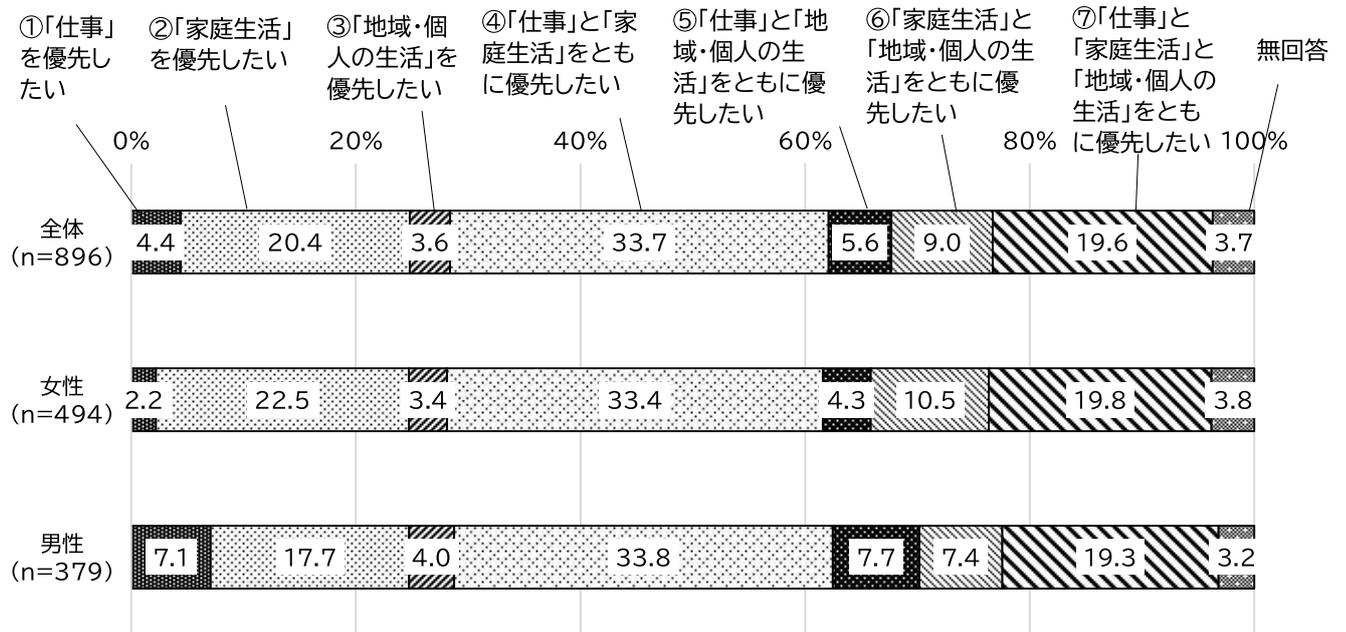
R元調査と比較すると、男性では、「仕事を優先したい」の割合が7.1%から3.6%と3.5ポイント減少し、「地域・個人の生活を優先したい」の割合が4.0%から7.9%と3.9ポイント上昇している。

問6 生活の中での、仕事と家庭生活または地域・個人の生活の優先度について、お聞かせください。まず、あなたの希望に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

図4-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の希望について

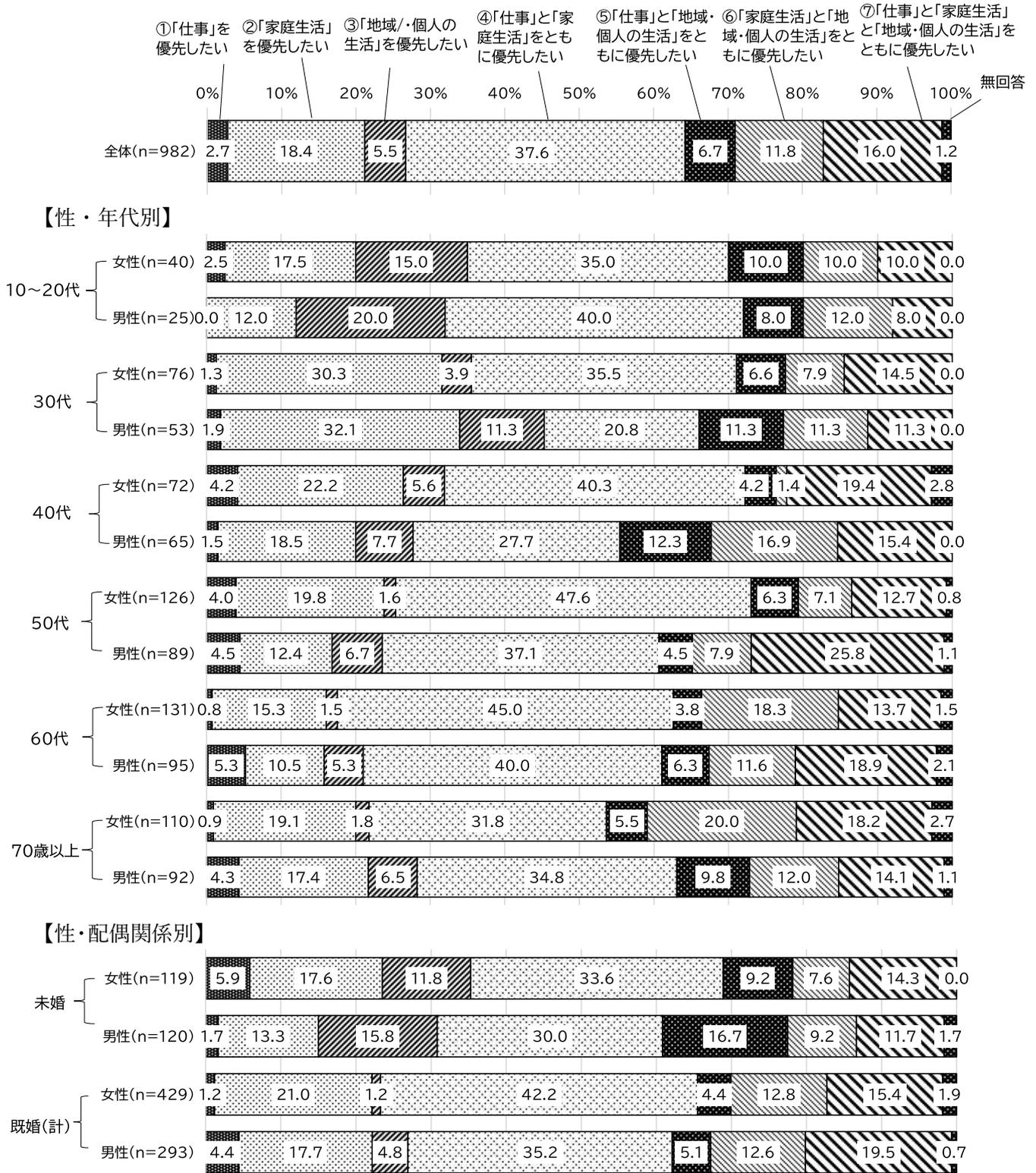


比較 令和元年度島根県調査



性・年代別では、10～20代が「地域・個人の生活を優先したい」の割合が他の年代に比べて高かった。また、30代、40代男性は「仕事と地域・個人の生活をともに優先したい」の割合が高かった。「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」は50代男性が25.8%と高い割合であった。

図4-1-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の希望について



## (2)現実の優先度

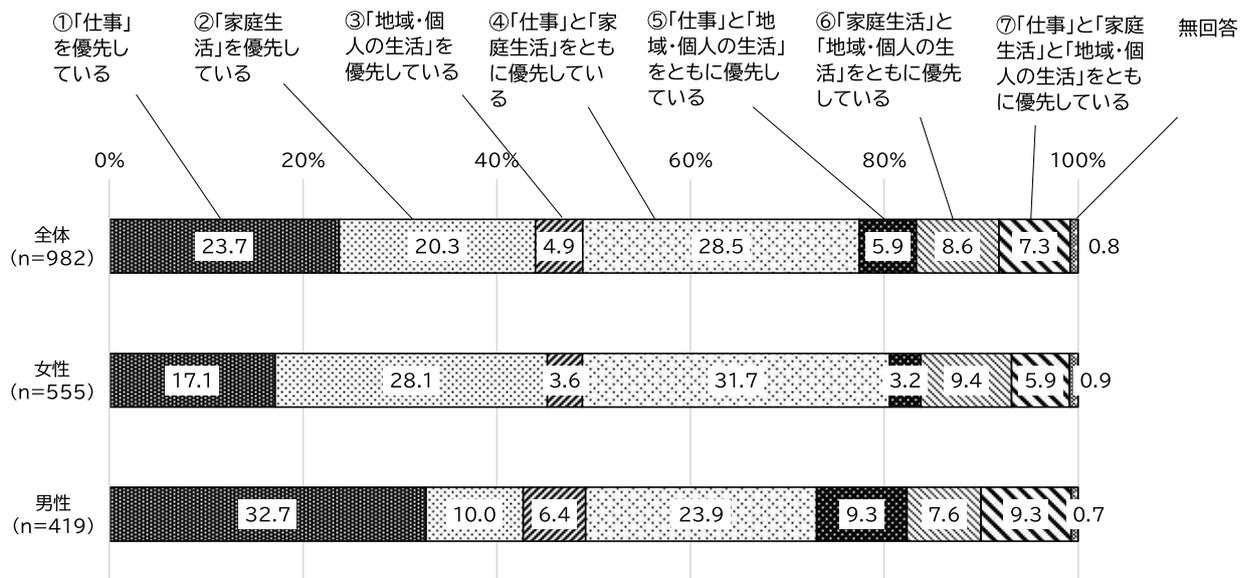
現実の優先度では、「仕事と家庭生活をともに優先している」が28.5%と最も高く、次いで「仕事を優先している」23.7%、「家庭生活を優先している」20.3%となっている。

性別で見ると、女性は「仕事と家庭生活をともに優先している」が31.7%と最も高く、次いで「家庭生活を優先している」28.1%、「仕事を優先している」17.1%であるのに対し、男性は「仕事を優先している」が32.7%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」23.9%、「家庭生活を優先している」10.0%となっている。

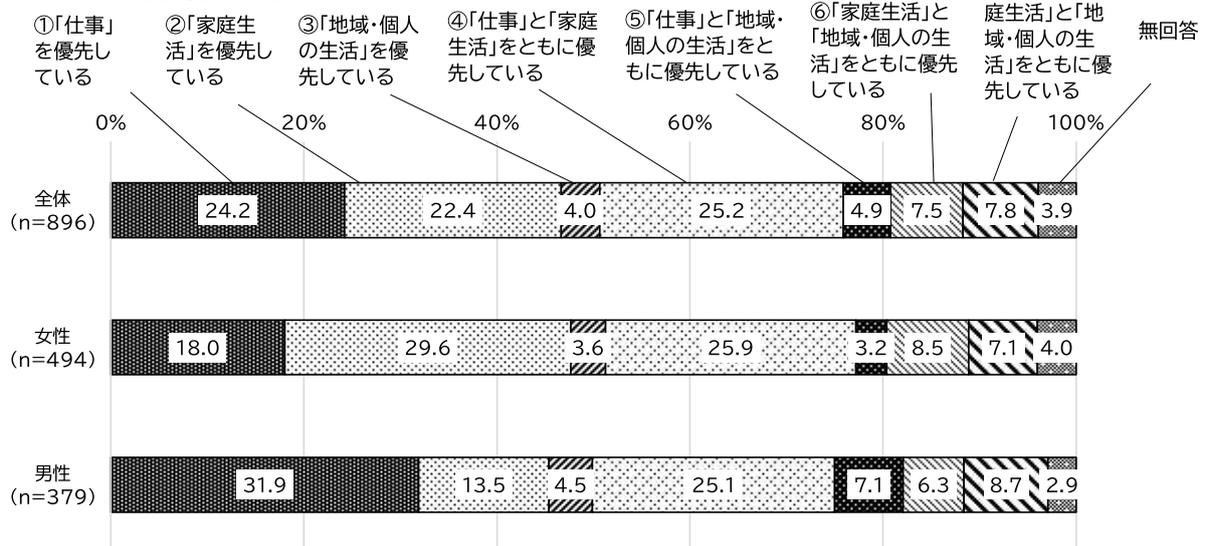
R元調査と比較すると、「仕事と家庭生活をともに優先している」が25.2%から28.5%と3.3ポイント上昇し、「仕事を優先している」が24.2%から23.7%と0.5%減少している。女性はR元調査と比べて「仕事と家庭生活をともに優先している」が25.9%から31.7%と5.8ポイント上昇している。

### 問 6-2 それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

図4-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の現状について



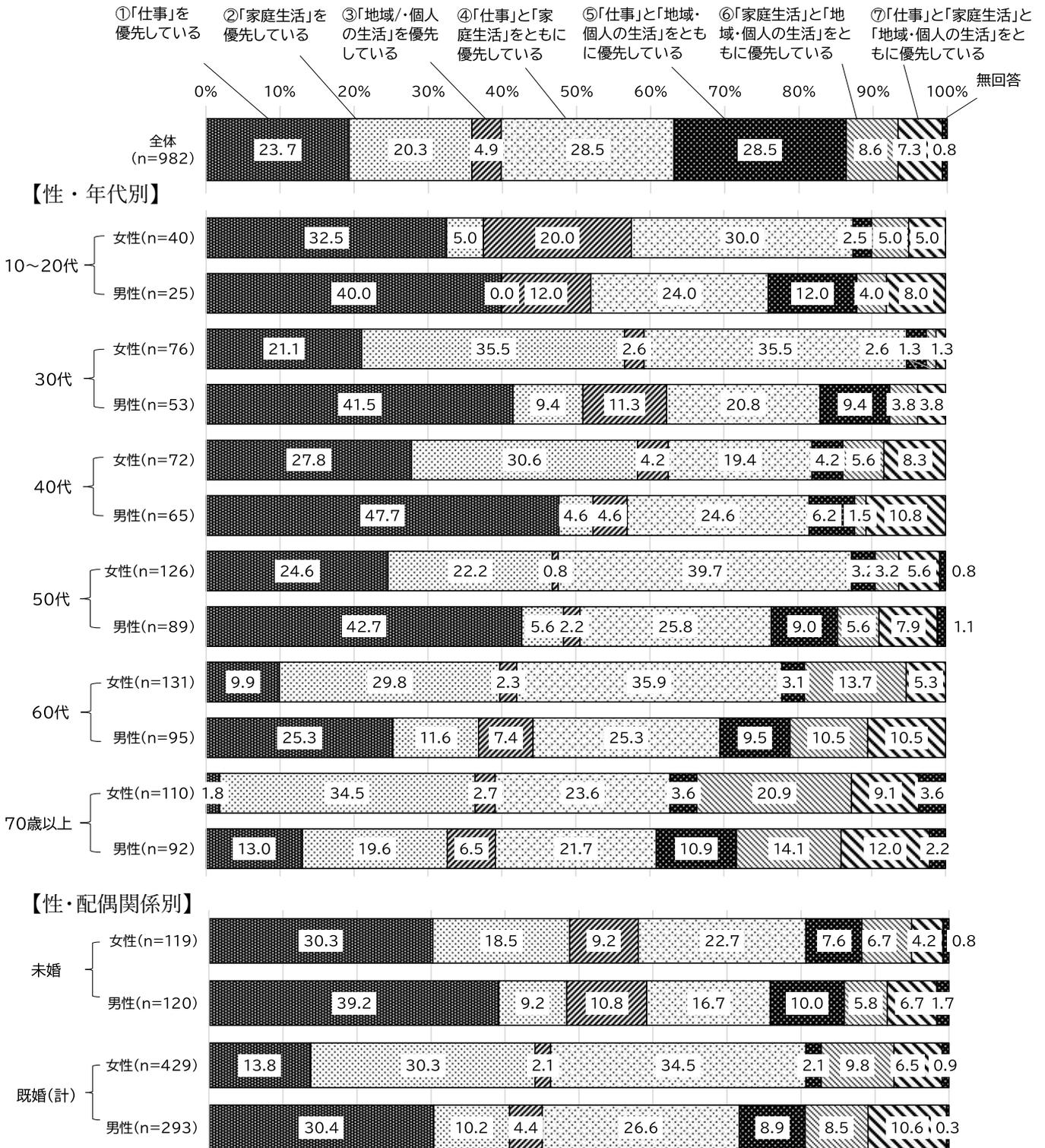
### 比較 令和元年度島根県調査



性・年代別で見ると、10～50代男性では「仕事を優先している」が4割以上と最も高かった。「家庭生活を優先している」及び「仕事と家庭生活をともに優先している」の割合は、40代を除き男性に比べて女性が高くなっている。特に、「家庭生活を優先している」と回答している割合が高いのは、30代、40代の女性で、同年代の男性と比べると25ポイント以上高い割合になっている。

性・配偶関係別に見ると、「仕事を優先している」と回答した割合は、既婚（計）に比べて未婚の女性の方が高く、既婚（計）では男女差が16.6ポイントと大きい。「家庭生活を優先している」、「仕事と家庭生活をともに優先している」と回答した割合は、未婚の男性に比べて既婚（計）の男性の方が高くなっている。

図4-2-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の希望について



## 2.家庭生活、地域・個人の生活、休養の時間は取れているか

●家庭生活の時間が取れている人は多いが、地域・社会活動に参加する時間が取れている人は4割程度であった。

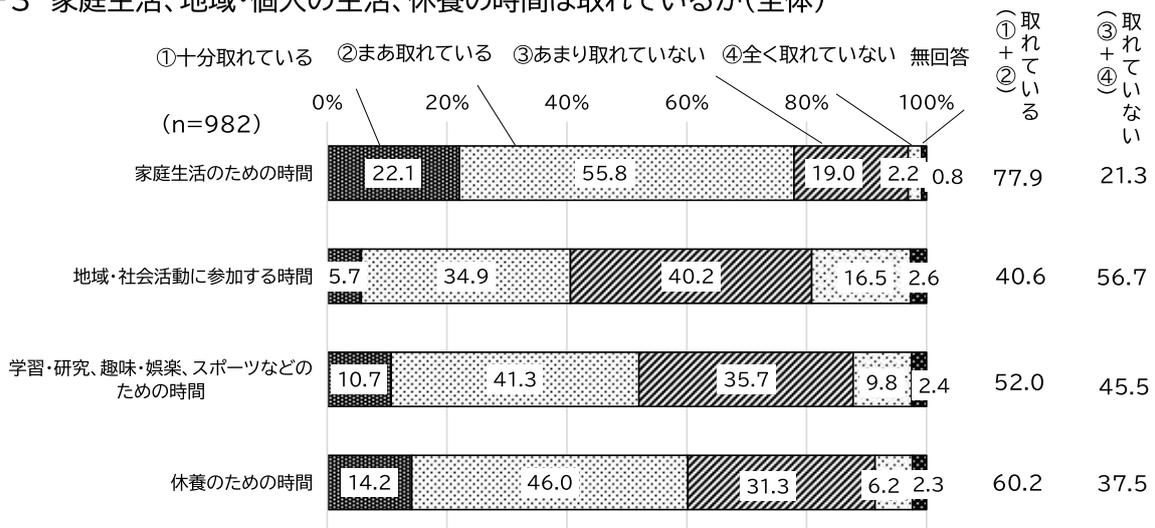
「家庭生活のための時間」、「地域・社会活動に参加する時間」、「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどのための時間」、「休養のための時間」のそれぞれの時間が取れているのかという設問では、「家庭生活のための時間」は77.9%が取れているという回答をしている。「地域・社会活動に参加する時間」は40.6%、「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどのための時間」は52.0%、「休養のための時間」は60.2%が取れていると回答している。

R元調査と比べると、「家庭生活のための時間」が取れていると回答した割合が1.1ポイント、「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどのための時間」が5.5ポイント、「休養のための時間」が0.8ポイント上昇し、「地域・社会活動に参加する時間」は6.5ポイント減少している。

性別で見ると、「家庭生活のための時間」が取れているのは女性が80.9%と男性74.2%に比べて高く、「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどのための時間」が取れているのは女性49.9%に比べて男性55.4%となっている。

### 問7 あなたは次のことがらに十分時間はとれていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

図4-3 家庭生活、地域・個人の生活、休養の時間は取れているか(全体)



### 比較 令和元年度島根県調査(全体)

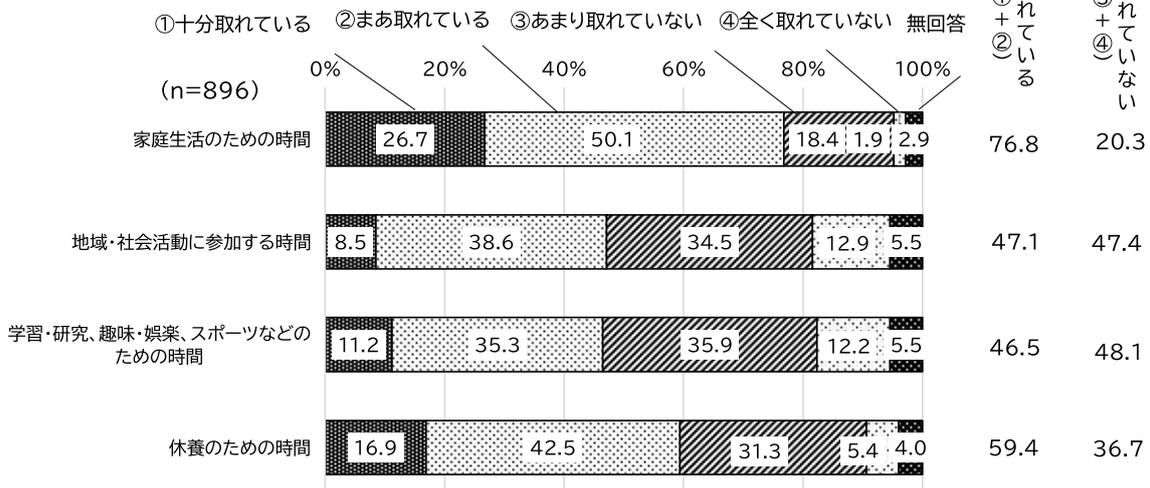
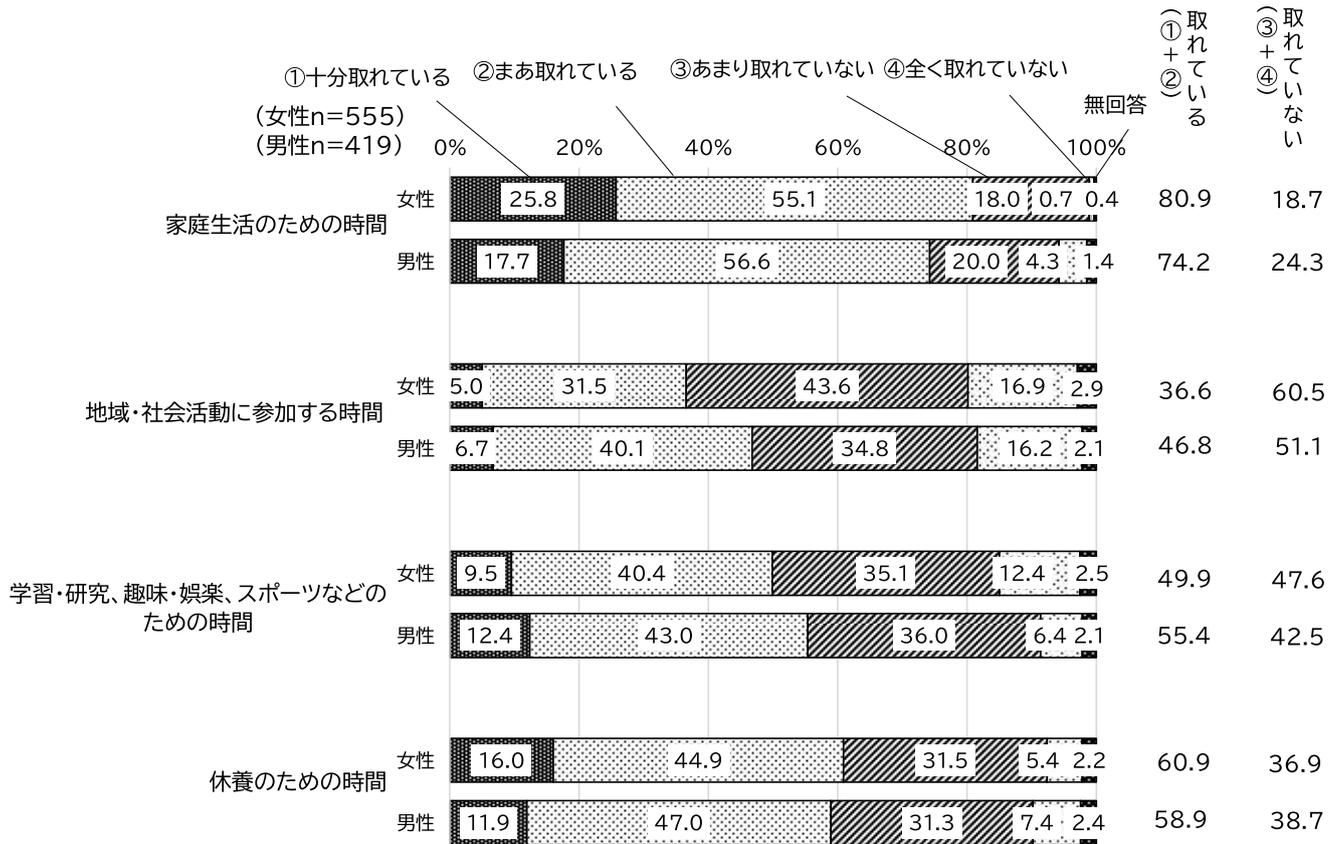
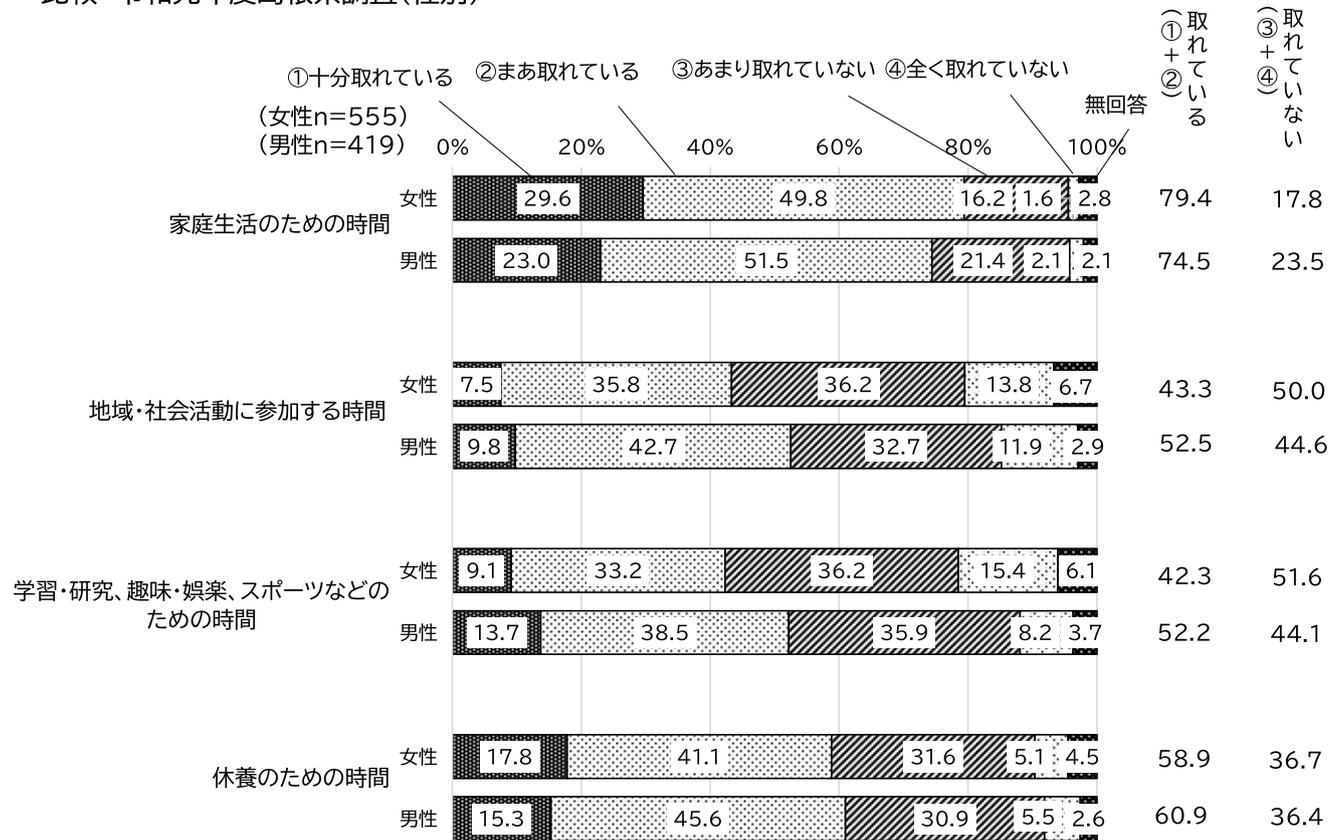


図4-3-1 家庭生活、地域・個人の生活、休養の時間は取れているか(性別)



比較 令和元年度島根県調査(性別)



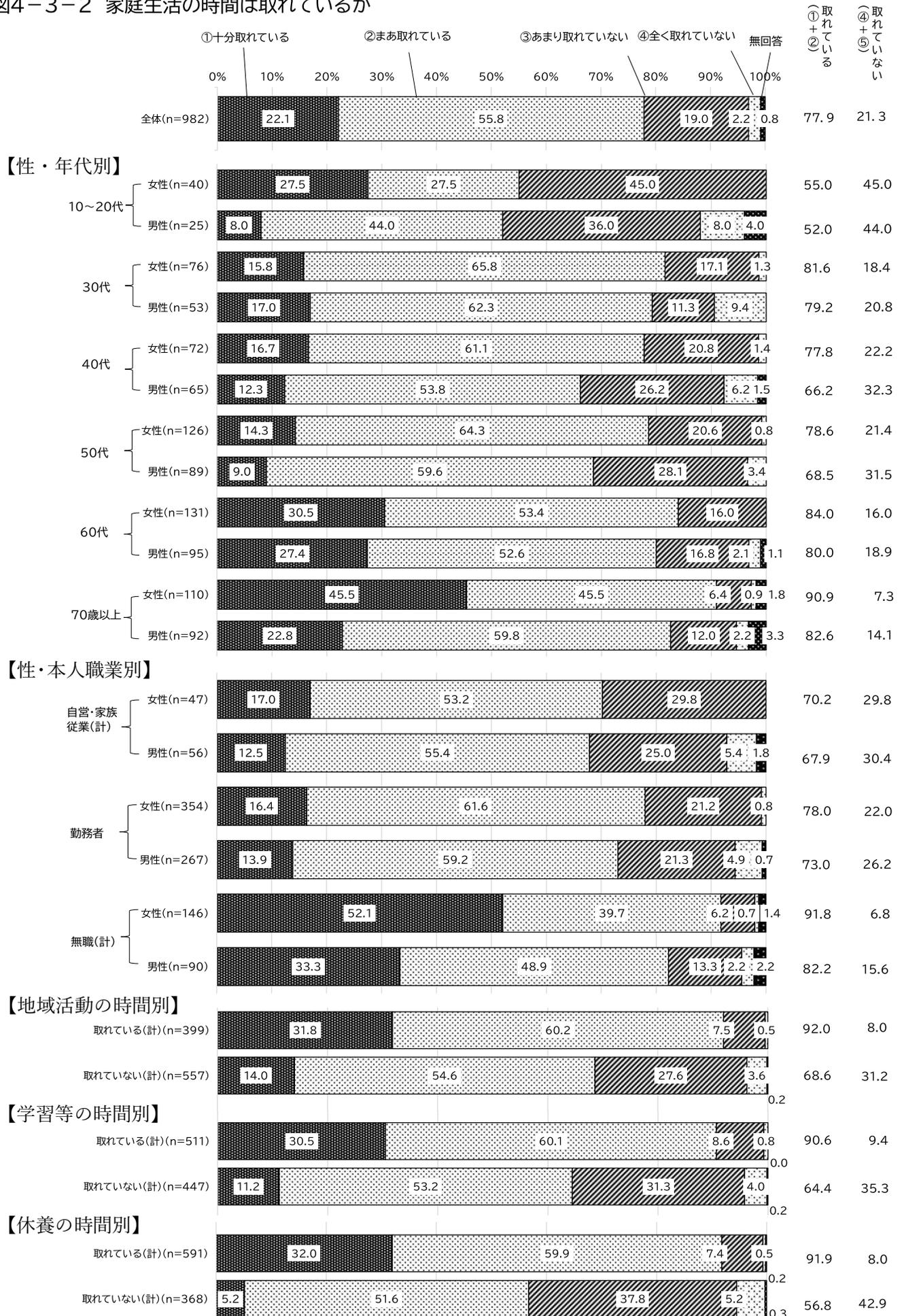
それぞれの生活時間別に、回答者の特徴を示す。

### (1)家庭生活の時間

「家庭生活のための時間」について、取れていると回答した割合は77.9%と高く、性・年代別に見ると、取れている（十分取れている、まあ取れている）との回答が最も高いのは70歳以上女性90.9%、次いで60代女性84.0%、70歳以上男性82.6%となっている。男性の取れていると回答している割合は、全ての年代において女性に比べて低く、特に40代、50代では男性が女性より10ポイント以上低い。

また、「地域活動の時間」、「学習等の時間」、「休養の時間」について時間が取れているのかの関係で見ると、いずれのための時間も取れていると回答した人が「家庭生活の時間」も取れていると回答している割合が高くなっている。

図4-3-2 家庭生活の時間は取れているか

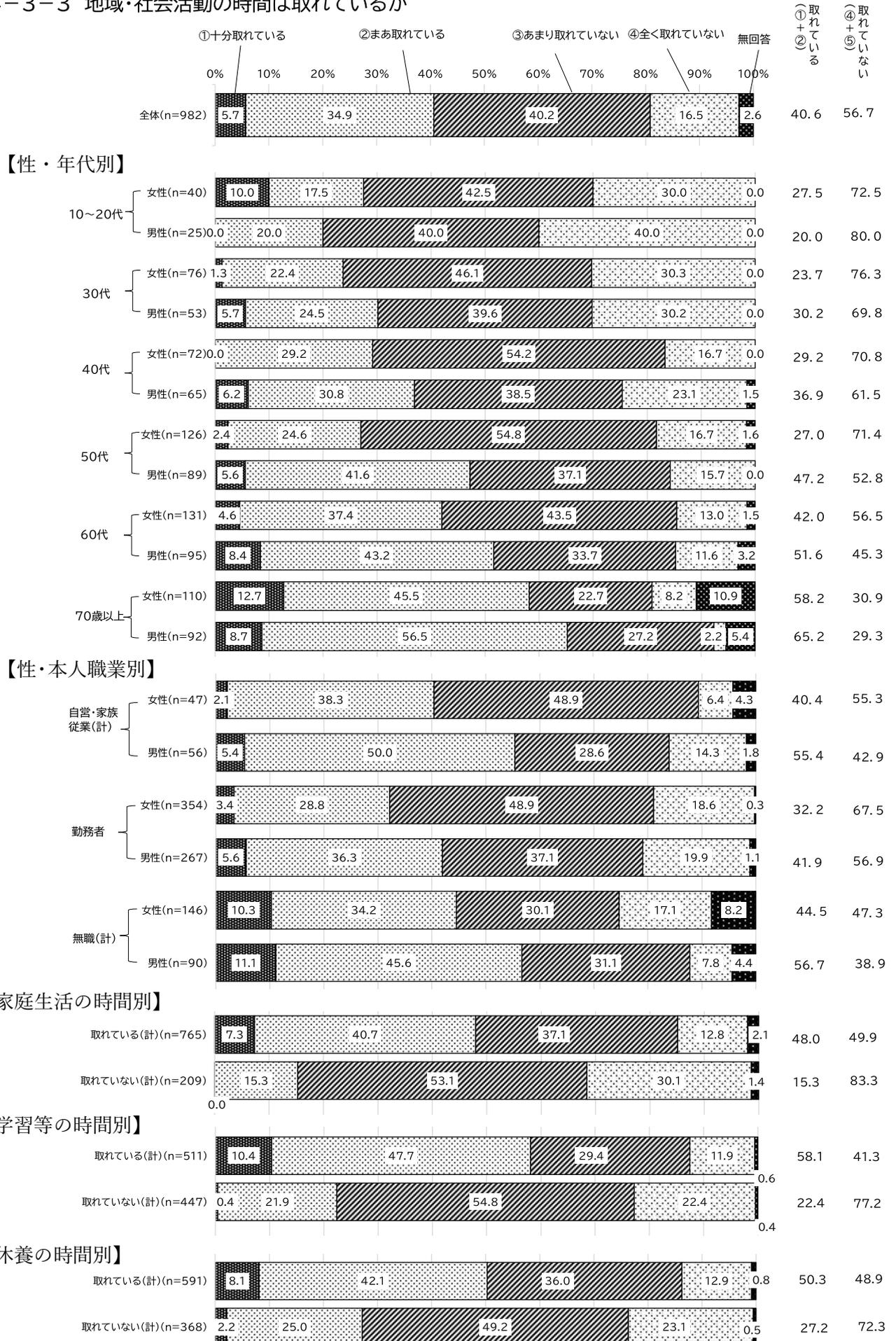


## (2)地域・社会活動の時間

「地域・社会活動に参加する時間」について、取れていると回答した割合よりも、取れていないと回答した割合が高く、特に10～50代では取れていない割合が6割以上となっている。性・年代別に見ると、取れている（十分取れている、まあ取れている）との回答が最も高いのは70歳以上男性65.2%、次いで70歳以上女性58.2%、60代男性51.6%となっている。男性の取れていると回答している割合は、30代以上においては高く、特に50代では女性より20.2ポイント高い。

「家庭生活の時間」、「学習等の時間」、「休養の時間」が取れているかどうかの関係で見ると、いずれも取れていると回答している人が「地域・社会活動の時間」も取れていると回答している割合が高くなっている。

図4-3-3 地域・社会活動の時間は取れているか

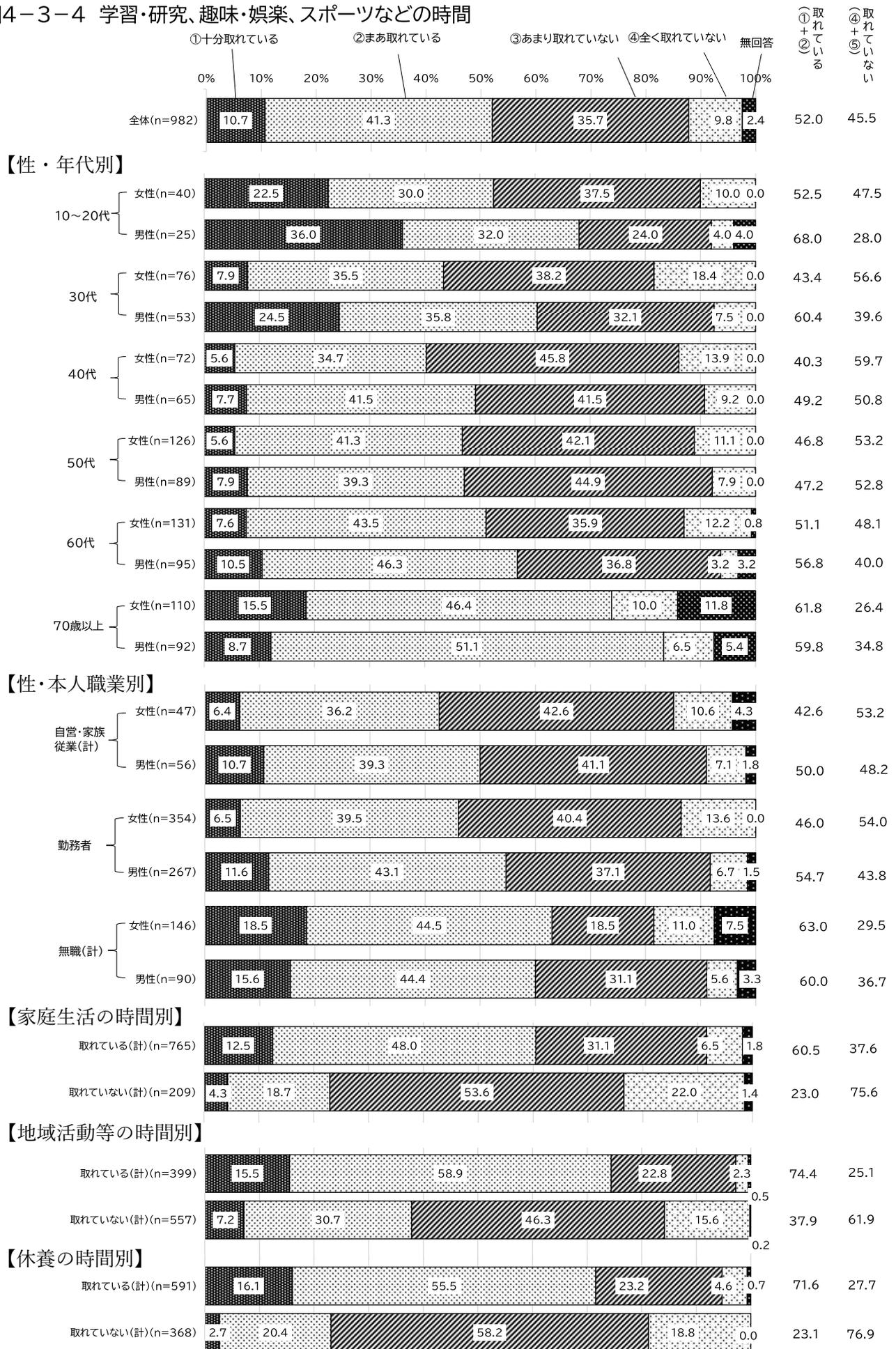


### (3)学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどの時間

「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどのための時間」について、取れていると回答した割合は52.0%と約半数で、性・年代別に見ると、取れている（十分取れている、まあ取れている）との回答が最も高いのは10～20代男性68.0%、次いで70歳以上女性61.8%、30代男性60.4%となっている。30～50代は取れていると回答した割合が半数以下となっている。特に女性は取れていると回答した割合が40代で40.3%、30代で43.4%と低く、また30代では男性との差が17ポイントと大きい。

「家庭生活の時間」、「地域・社会活動の時間」、「休養の時間」が取れているかどうかの関係で見ると、いずれも取れていると回答している人が「学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどの時間」も取れていると回答している割合が高い。いずれの項目でも、時間が取れている（計）と取れていない（計）の回答の差が大きくなっている。

図4-3-4 学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどの時間

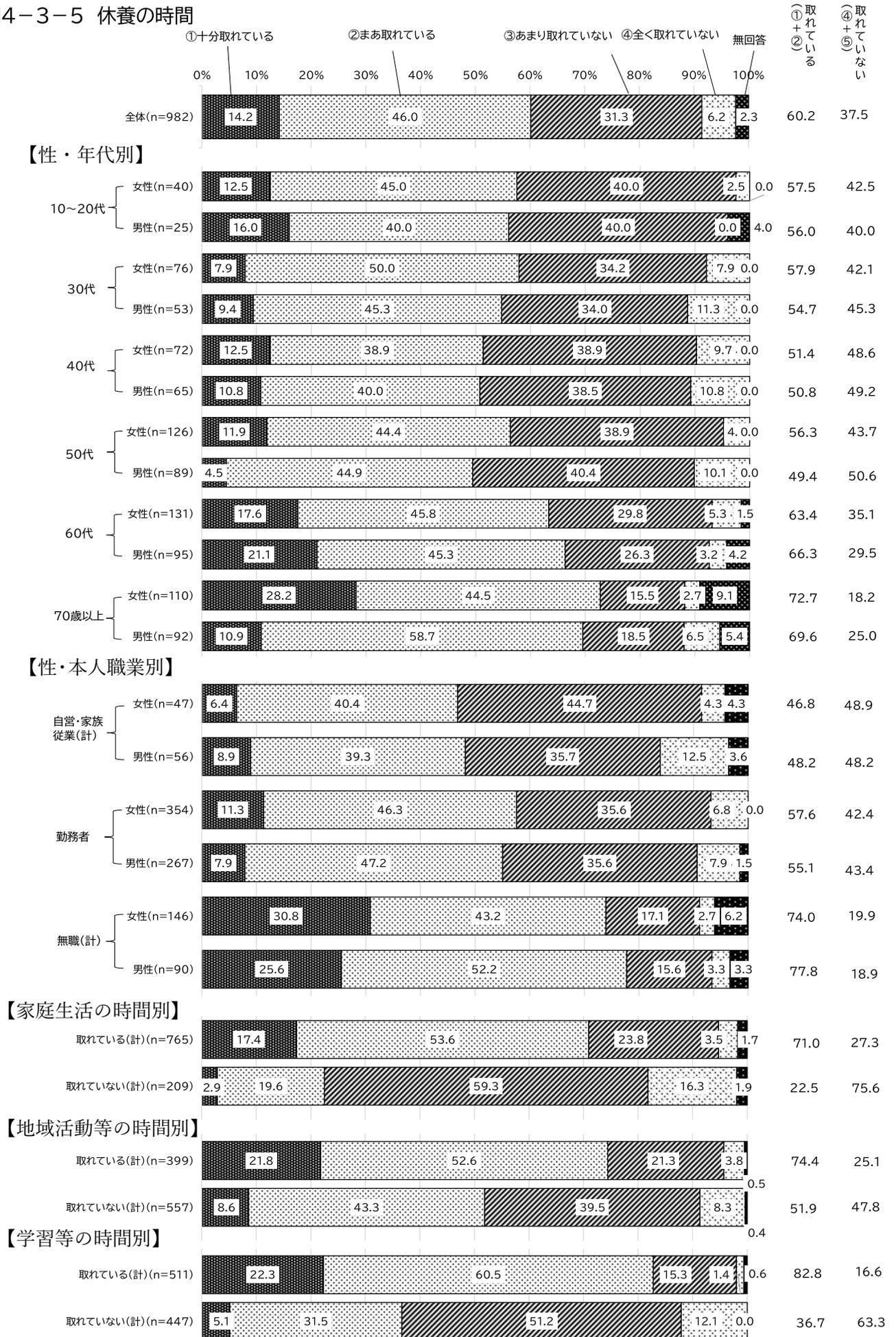


#### (4)休養の時間

「休養の時間」について、取れていると回答した割合は60.2%で、性・年代別に見ると、取れている（十分取れている、まあ取れている）との回答が最も高いのは70歳以上女性72.7%、次いで70歳以上男性69.6%、60代男性66.3%となっている。休養の時間が取れていると回答した割合が6割以上であるのは60代以上であり、10～50代は5割弱となっている。

「家庭生活の時間」、「地域・社会活動の時間」、「学習等の時間」が取れているかどうかの関係で見ると、いずれも取れていると回答している人が「休養の時間」も取れていると回答している割合が高くなった。「地域・社会活動の時間」については、取れていないと回答した人でも、「休養の時間」は取れていると回答している割合が半数以上見られた一方、「家庭生活の時間」、「学習等の時間」では、時間が取れている（計）と取れていない（計）の回答の差が大きくなっている。

図4-3-5 休養の時間



### 3.日常生活における家庭の仕事等の役割分担

- 家事・育児・介護などの家庭の仕事は妻がすることが多く、特に「食事のしたく」、「食事のかたづけ」、「掃除」については6割以上で妻が担当することが多く、「家庭における重大な事柄の決定」、「地域活動への参加(自治会・PTA など)」については夫が担当することが多くなっている。

日常生活における家庭の仕事等の役割分担について、「該当する仕事はない」を除くと、①食事のしたく、②食事のかたづけ、③掃除については、「妻がすることが多い」との回答が最も高く、特に①食事のしたくについては8割以上の回答であった。④小さい子どもの世話、⑤介護の必要な高齢者・病人の世話については、「夫婦以外がすることが多い」となっている。

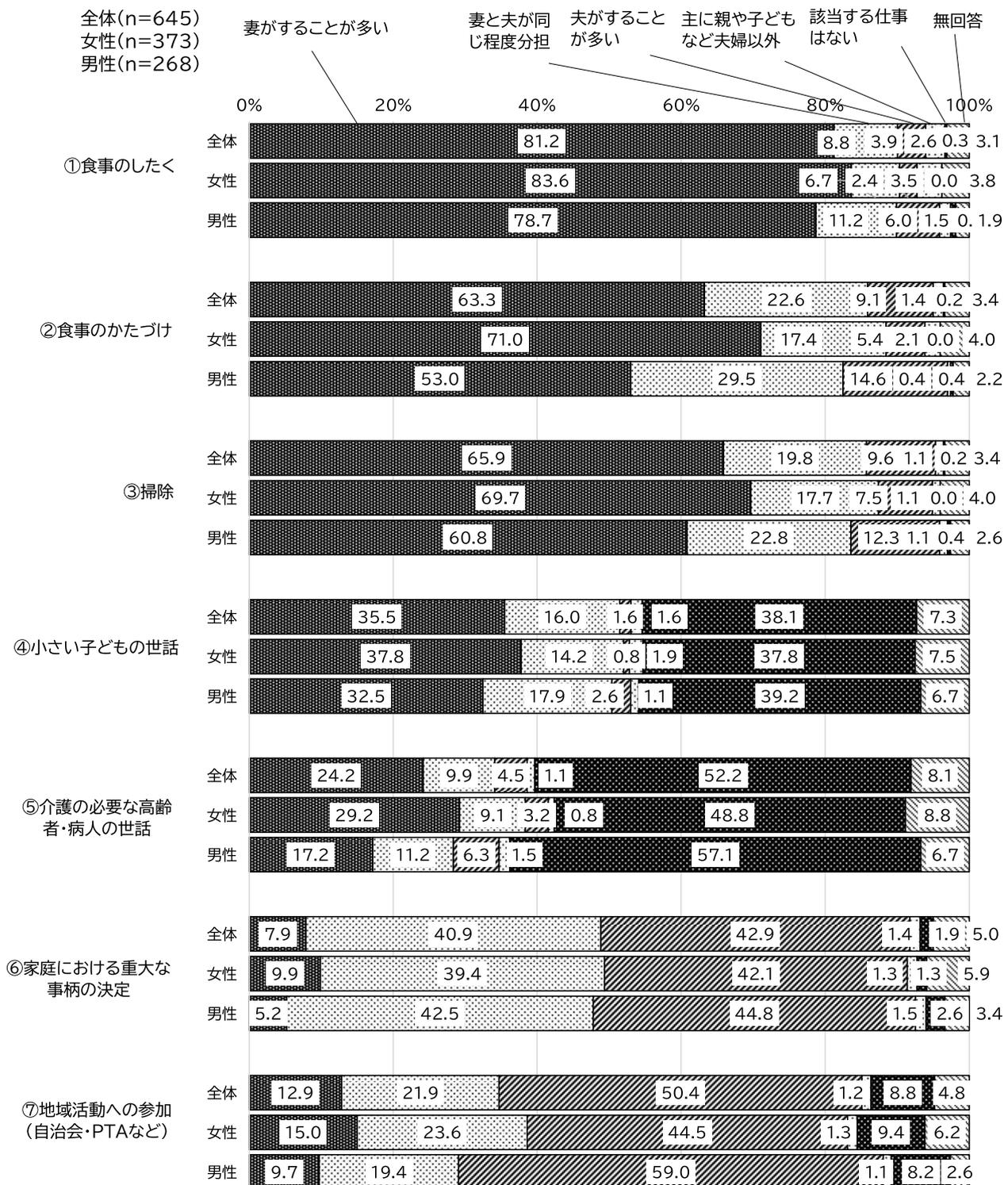
一方、⑥家庭における重大な事柄の決定については、「夫と妻が同じ程度分担」と「夫がすることが多い」が約4割で同程度であり、⑦地域活動への参加(自治会・PTA など)については、「夫がすることが多い」の回答割合が高かった。

性別で見ると、全ての項目で女性の方が男性より「妻がすることが多い」と回答した割合が高くなっている。また、「妻と夫が同じ程度分担」については⑦地域活動への参加を除いた全ての項目で、女性に比べて男性の方が回答している割合が高くなっている。

②食事のかたづけについて「妻がすることが多い」と回答した割合は、女性71.0%、男性53.0%と18.0ポイントの差が、「妻と夫が同じ程度分担」と回答した割合は、女性17.4%、男性29.5%と12.1ポイントの差が見られ、男女で役割分担をしている意識の違いが見られた。

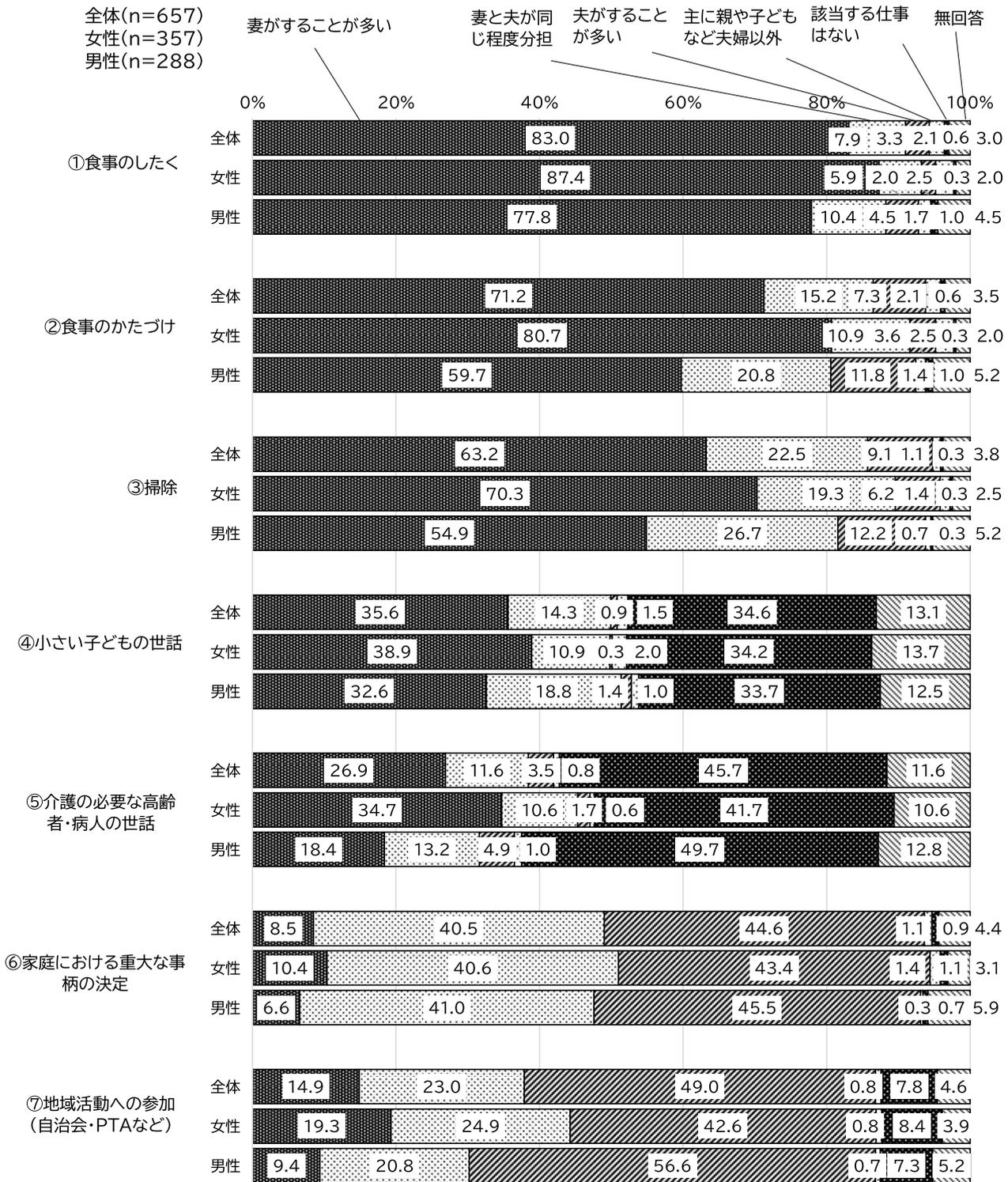
問 8 家庭の中で次の仕事はどなたが担当されていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図4-4 日常生活における家庭の仕事等の役割分担



R元調査と比較すると、全体では、①食事のしたく、②食事のかたづけ、④小さい子どもの世話、⑥家庭における重大な事柄の決定において、「妻と夫が同じ程度分担」と回答した割合が増加している。特に、②食事のかたづけにおいては、R元調査が15.2%だったのに対し、今回調査では22.6%と7.4ポイント増加している。

### 比較 令和元年度島根県調査



## 4.男性の家事・育児・介護の時間について

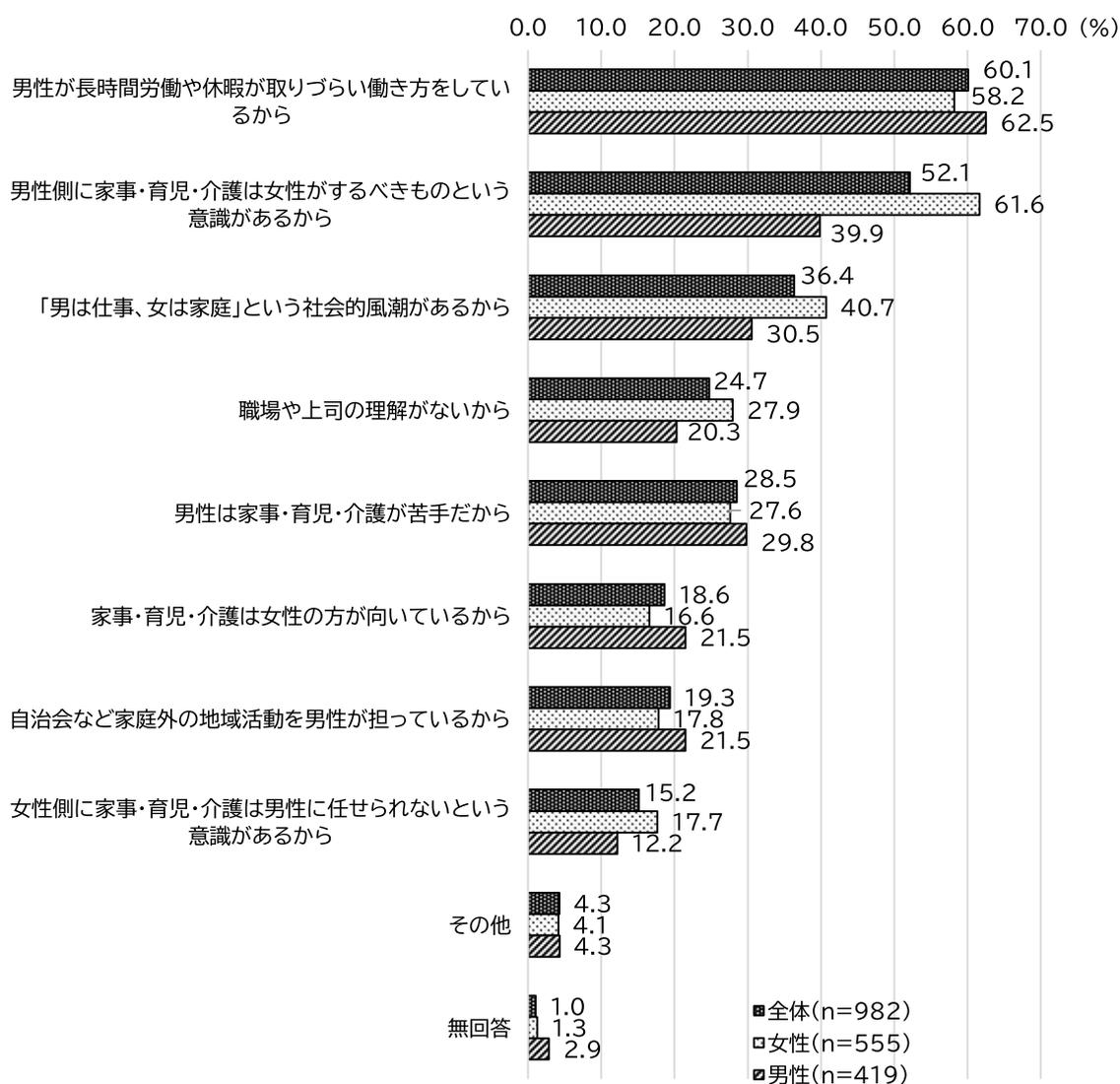
### 男性の家事・育児・介護の時間が短い理由

- 男性の家事・育児・介護の時間が短い理由について回答した割合が最も高かったのは、男性は「男性が長時間労働や休暇が取りづらい働き方をしているから」であった一方で、女性は「男性側に家事・育児・介護は女性がすべきものという意識があるから」であった。

男性の家事・育児・介護の時間が短い理由について、全体では「男性が長時間労働や休暇が取りづらい働き方をしているから」が60.1%と最も高く、次いで「男性側に家事・育児・介護は女性がすべきものという意識があるから」52.1%、「男は仕事、女は家庭という社会的風潮があるから」36.4%であった。「男性側に家事・育児・介護は女性がすべきものという意識があるから」については、女性は61.6%と最も高い回答であった一方、男性は39.9%と男女で21.7ポイントの差が見られた。

問9 島根県では、女性に比べて男性の家事・育児・介護の時間が短い状況にあります。あなたは、男性の家事・育児・介護の時間が短いのはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

図4-5 男性の家事・育児・介護の時間が短い要因



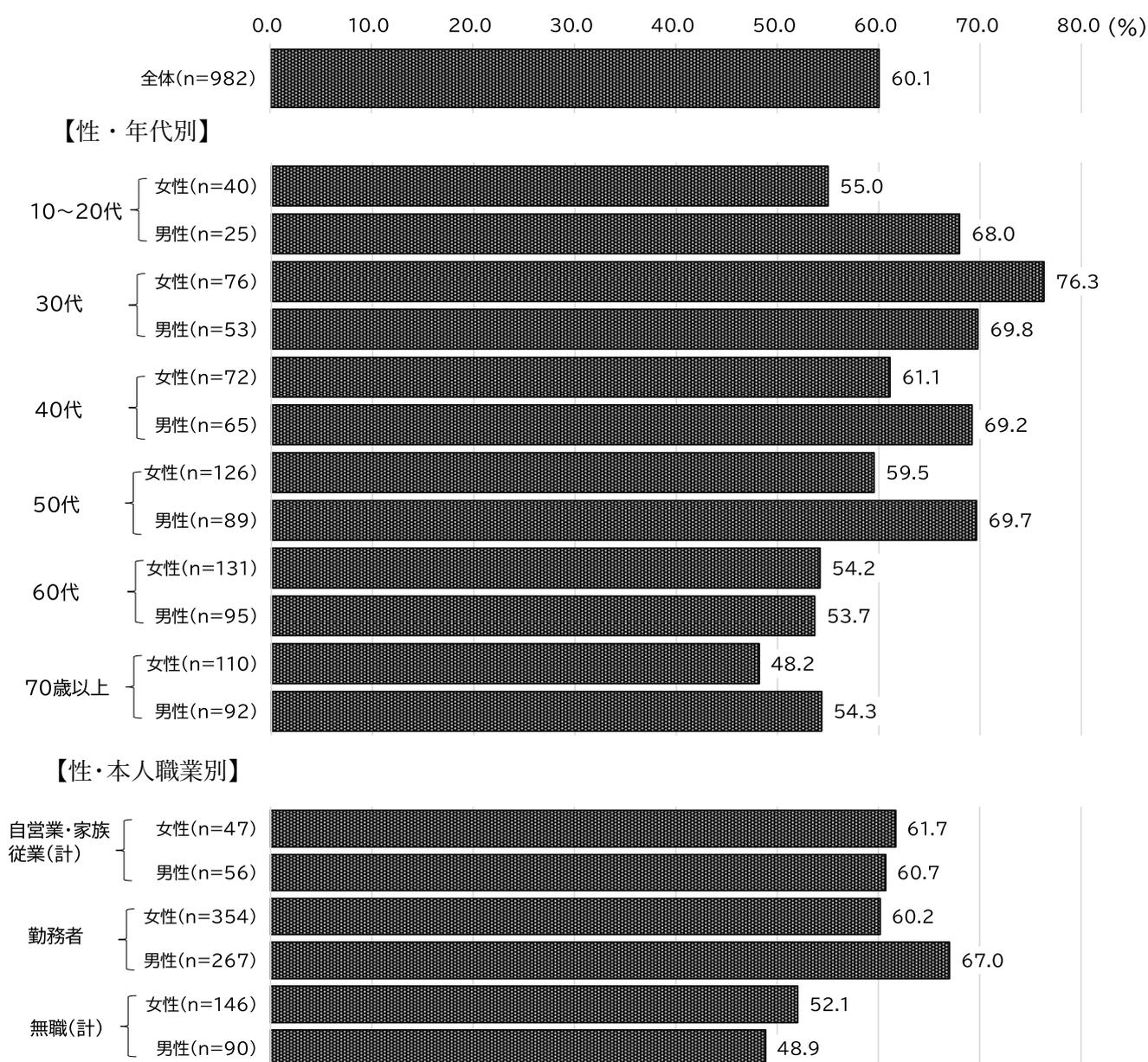
回答の多かった上位2項目について、回答者の属性を示す。

### ○男性が長時間労働や休暇が取りづらい働き方をしているから

「男性が長時間労働や休暇が取りづらい働き方をしているから」については、性・年代別に見ると、30代女性76.3%が最も高く、次いで30代男性69.8%、50代男性69.7%であった。

性・本人職業別に見ると、勤務者の男性が67.0%と最も回答割合が高く、次いで自営・家族従業（計）の女性61.7%、自営・家族従業（計）の男性60.7%であった。

図4-5-1 男性が長時間労働や休暇が取りづらい働き方をしているから

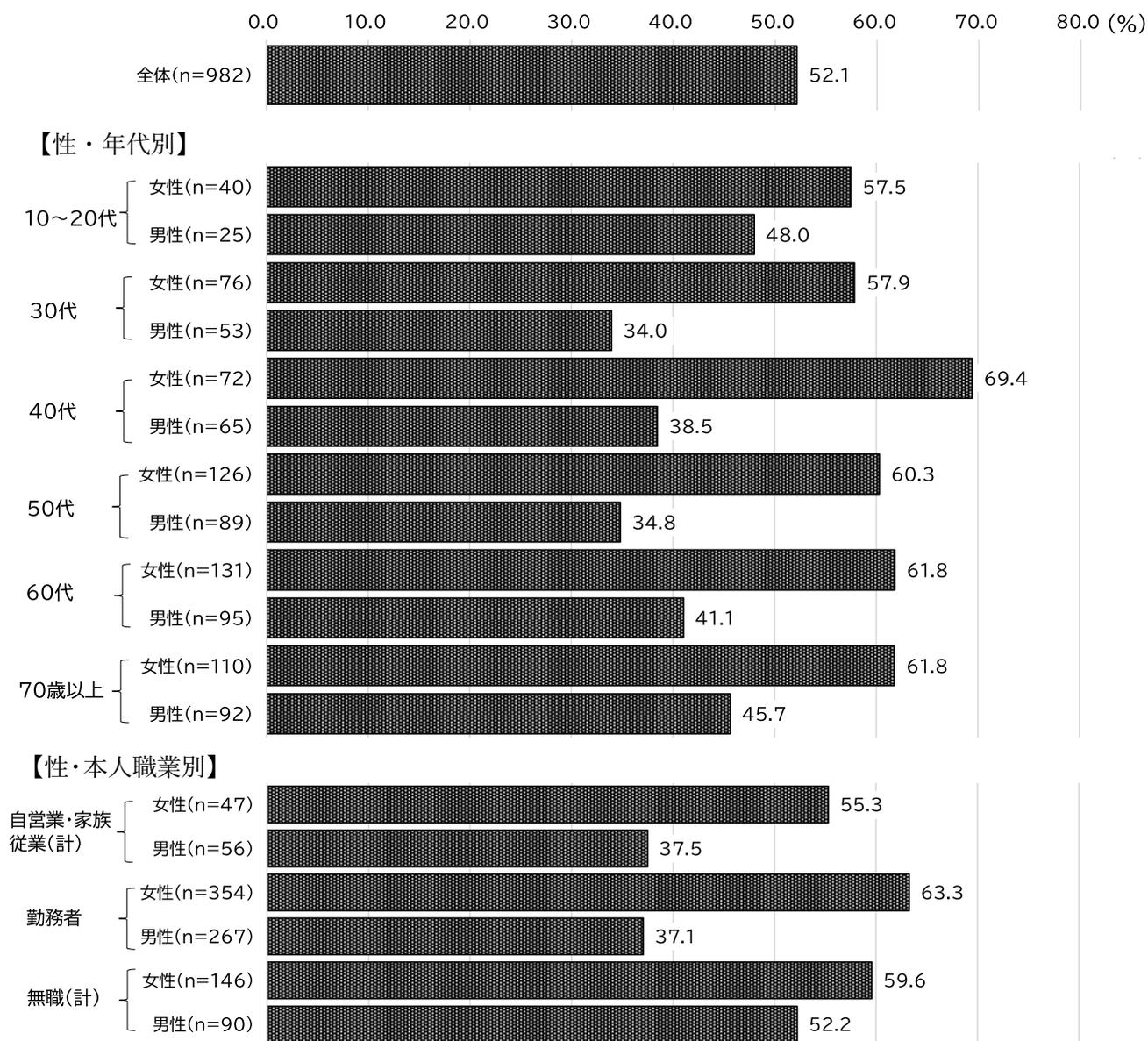


## ○男性側に家事・育児・介護は女性がするべきものという意識があるから

「男性側に家事・育児・介護は女性がするべきものという意識があるから」については、性・年代別に見ると、40代女性69.4%が最も高く、次いで60代、70歳以上女性61.8%、50代女性60.3%であった。男性の回答割合が、30代以上では3割程度である一方、女性の回答割合は6割程度であり、男性に比べて女性の回答が多かった。

性・本人職業別に見ると、勤務者の女性が63.3%と最も回答割合が高く、次いで無職（計）の女性59.6%、自営・家族従業（計）の女性55.3%であった。

図4-5-2 男性側に家事・育児・介護は女性がするべきものという意識があるから



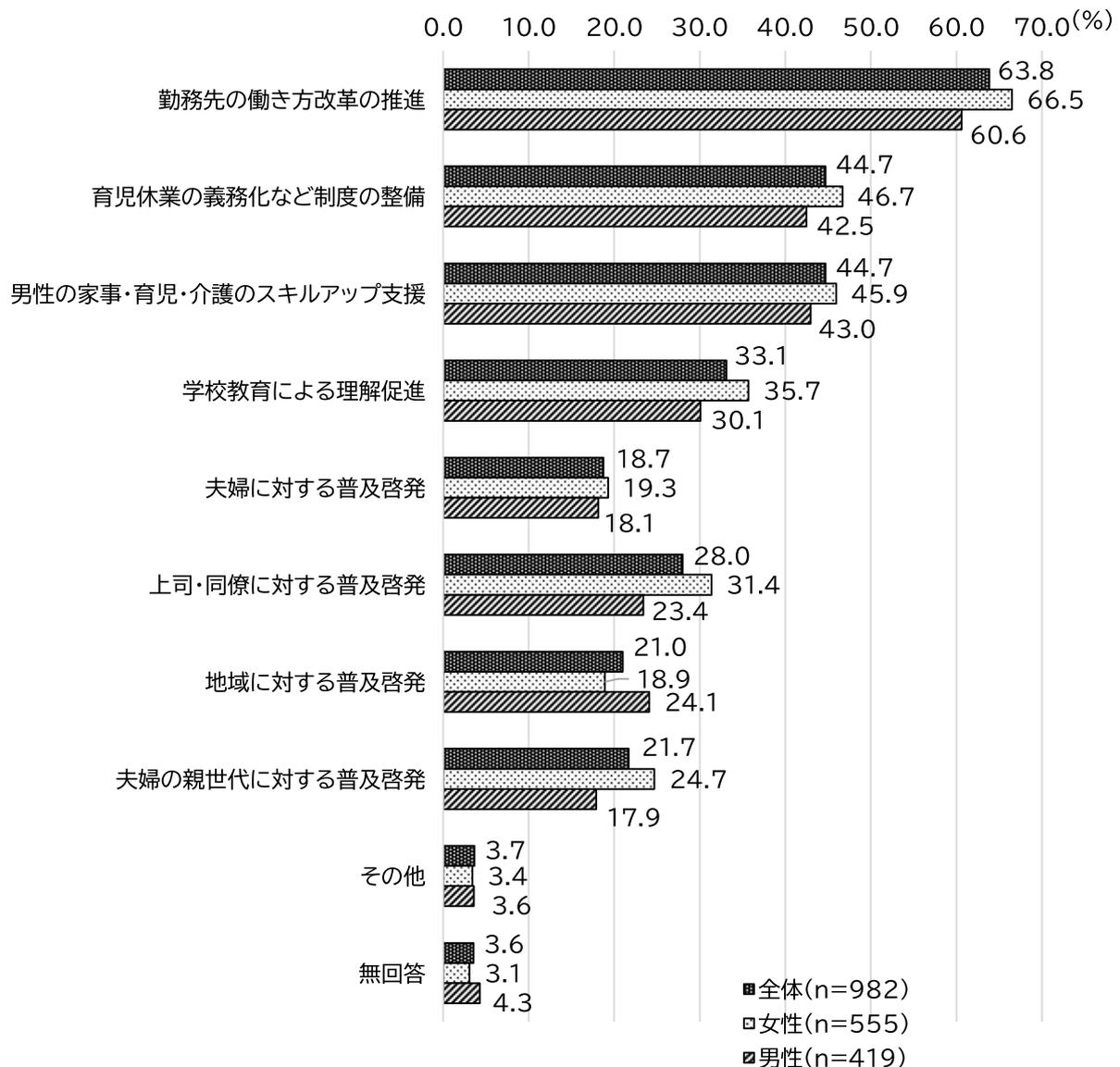
## 5. 男性の家事・育児・介護への参画を進めるために行政が取り組むべきこと

- 男性の家事・育児・介護への参画を進めるために行政が取り組むべきことについて回答した割合が最も高かったのは、「勤務先の働き方改革の推進」であった。

男性の家事・育児・介護への参画を進めるために行政が取り組むべきことについて、「勤務先の働き方改革の推進」63.8%が最も高く、次いで「育児休業の義務化など制度の整備」「男性の家事・育児・介護のスキルアップ支援」44.7%、「学校教育による理解促進」33.1%であった。

問10 男性の家事・育児・介護への参画を進めるために行政が取り組むべきことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

図5-1 行政が取り組むべきこと



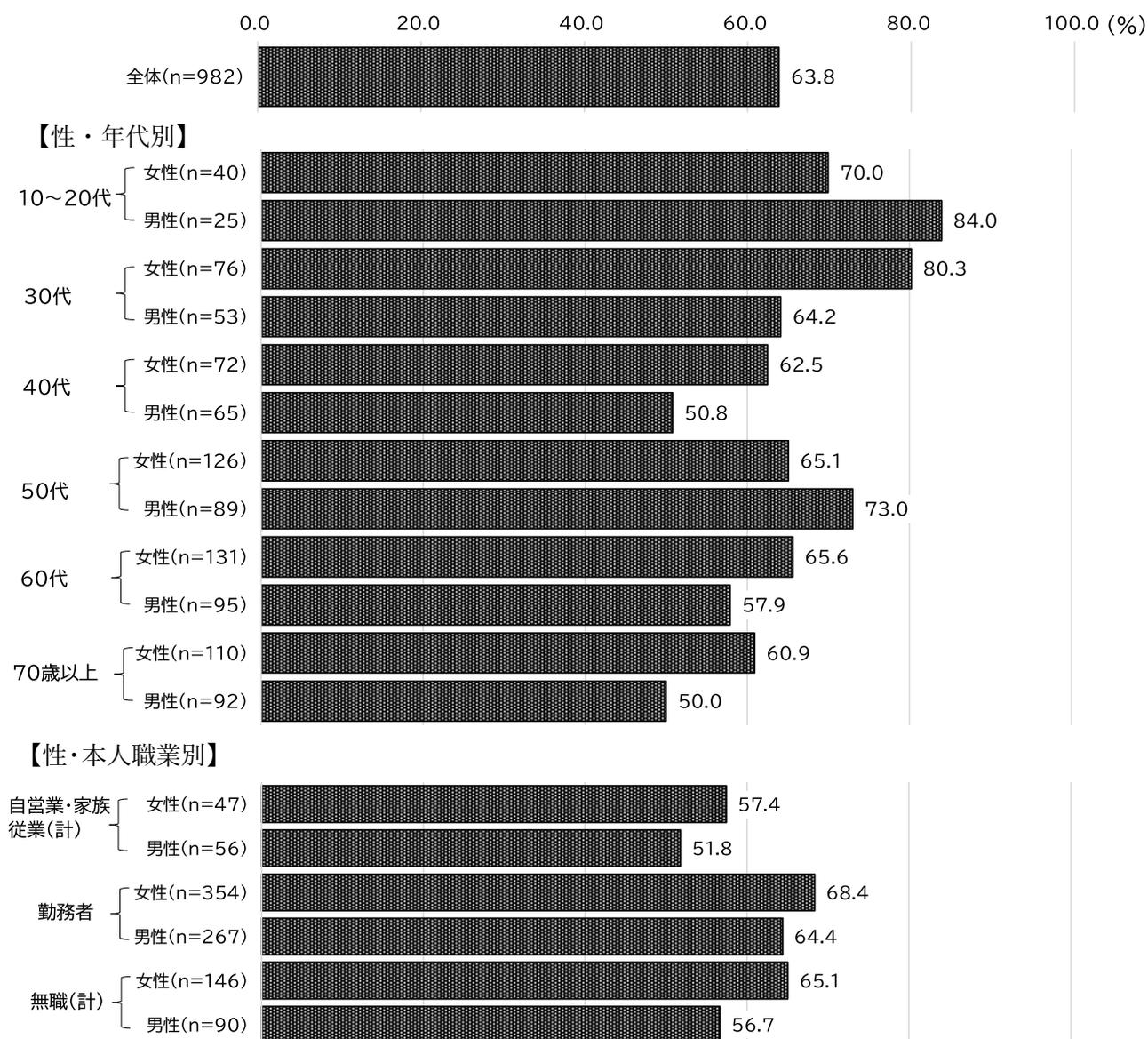
回答の多かった上位2項目について、回答者の属性を示す。

### ○勤務先の働き方改革の推進

「勤務先の働き方改革の推進」については、性・年代別に見ると、10～20代男性84.0%が最も高く、次いで30代女性80.3%、50代男性73.0%であった。

性・本人職業別に見ると、勤務者女性が68.4%と最も回答割合が高く、次いで無職（計）女性65.1%、勤務者男性64.4%であった。

図5-1-1 勤務先の働き方改革の推進

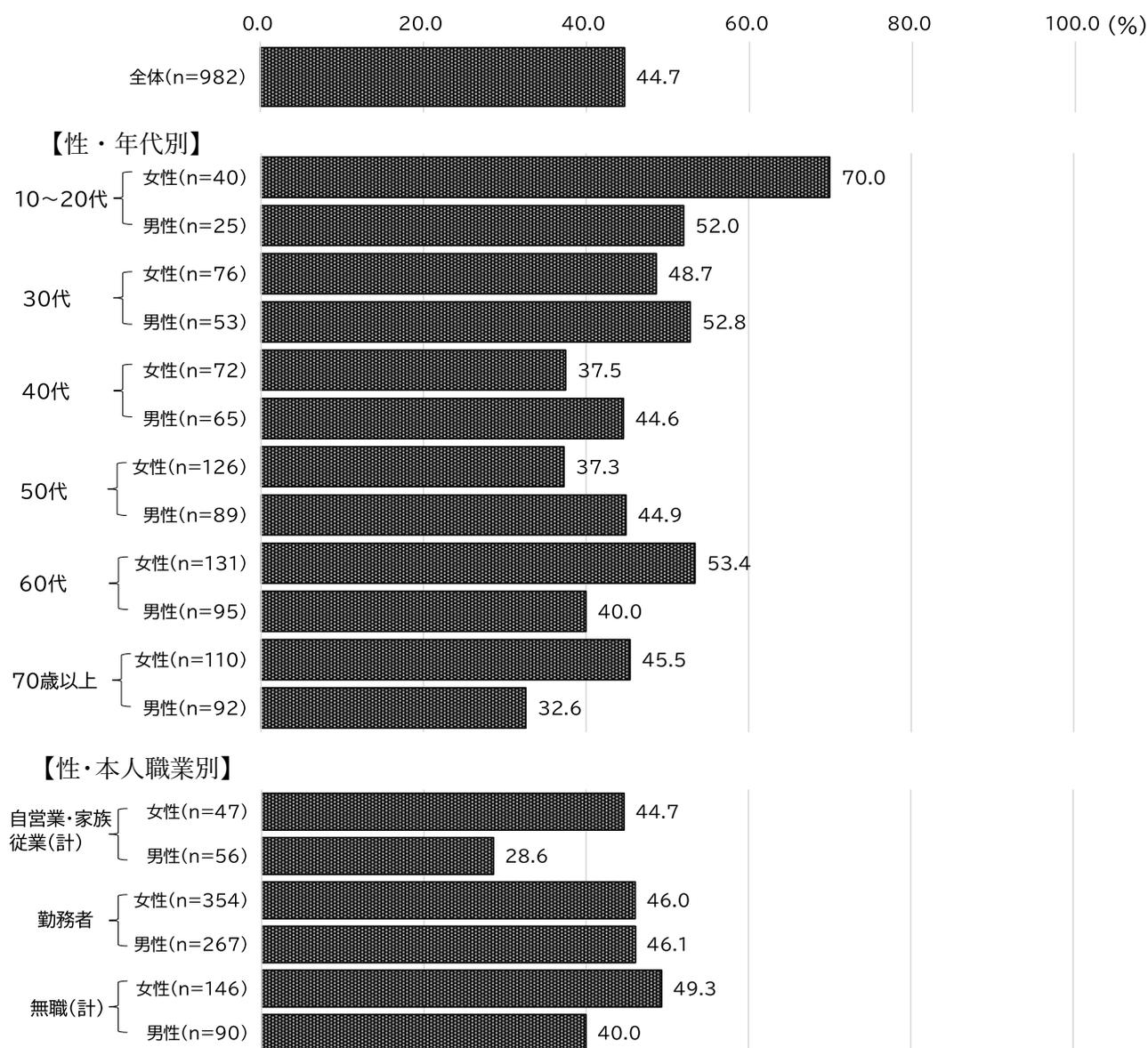


## ○育児休業の義務化など制度の整備

「育児休業の義務化など制度の整備」については、性・年代別に見ると、10～20代女性70.0%が最も高く、次いで60代女性53.4%、30代男性52.8%であった。また、10～20代において男女の差が18ポイントと大きかった。

性・本人職業別に見ると、無職（計）の女性が49.3%と最も回答割合が高く、次いで勤務者の男性46.1%、勤務者の女性46.0%であった。自営業・家族従業（計）で男女の差が大きかった。

図5-1-2 育児休業の義務化など制度の整備



# 第5章 セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスについて

## 1. セクシュアル・ハラスメントの経験

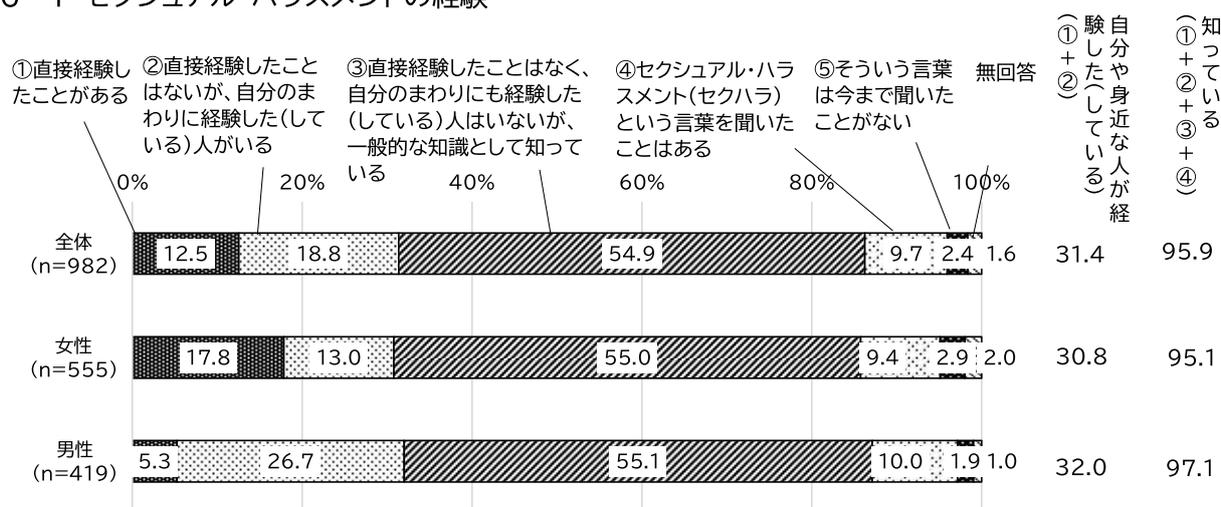
●セクシュアル・ハラスメントの被害を直接経験したことがある人は、全体 12.5%、女性 17.8%、男性 5.3%と R 元調査よりやや増えているが、セクシュアル・ハラスメントの一般的知識や認知度についても増加している。

セクシュアル・ハラスメント（以下「セクハラ」）による被害を経験したり見聞きしたことがあるかどうかについて、「①直接経験したことがある」と回答した割合は 12.5%と、R 元調査の 10.7%よりやや増えている。

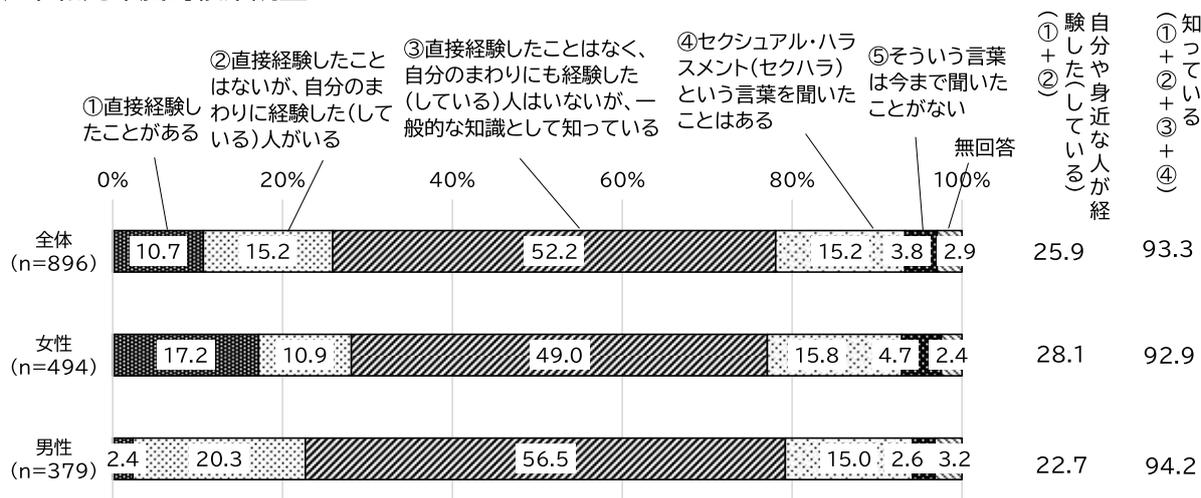
性別で見ると、女性男性ともに、R 元調査と比べてセクハラという言葉について「知っている」と回答した割合が増えており、認識については上昇している。

**問 11 セクシュアル・ハラスメント(性的ないやがらせ)による被害を経験したり見聞きしたことがありますか。(〇は1つ)**

図6-1 セクシュアル・ハラスメントの経験



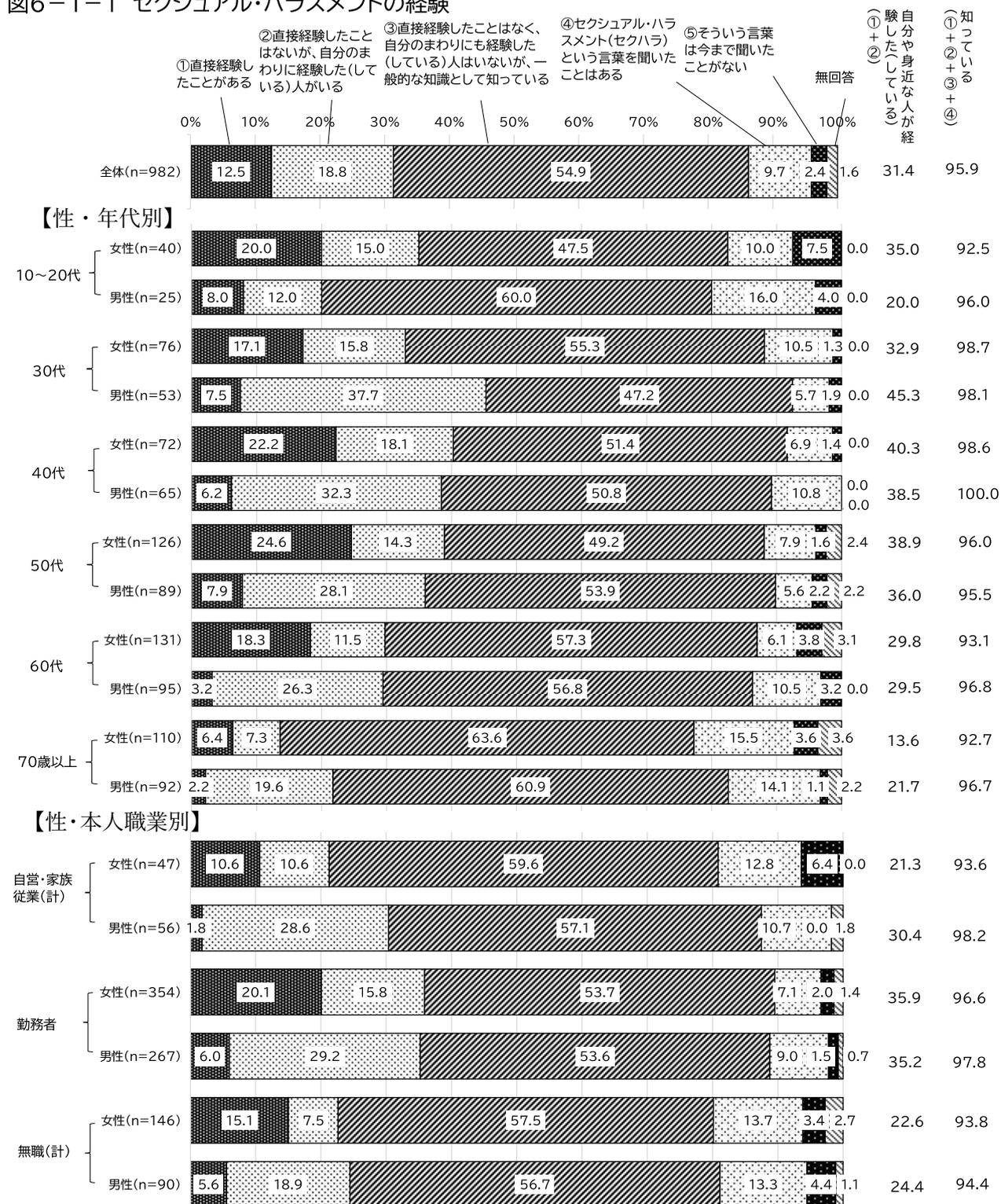
### 比較 令和元年度島根県調査



性・年代別に見ると、①直接経験したことがある②直接経験したことがないが、自分のまわりに経験した（している）人がいるを合わせた「自分や身近な人が経験した（している）」と回答した割合は30代男性が最も高く45.3%、次いで40代女性40.3%、50代女性38.9%であった。また、セクハラという言葉を知っている、聞いたことがあると回答した割合は全ての年代で9割以上の回答があった。

性・本人職業別に見ると、「自分や身近な人が経験した（している）」と回答した割合は勤務者の女性が35.9%と最も回答割合が高く、次いで勤務者の男性35.2%であった。セクハラという言葉を知っている、聞いたことがあると回答した割合はすべての職業で9割以上の回答があった。

図6-1-1 セクシュアル・ハラスメントの経験



## 2.ドメスティック・バイオレンスの経験

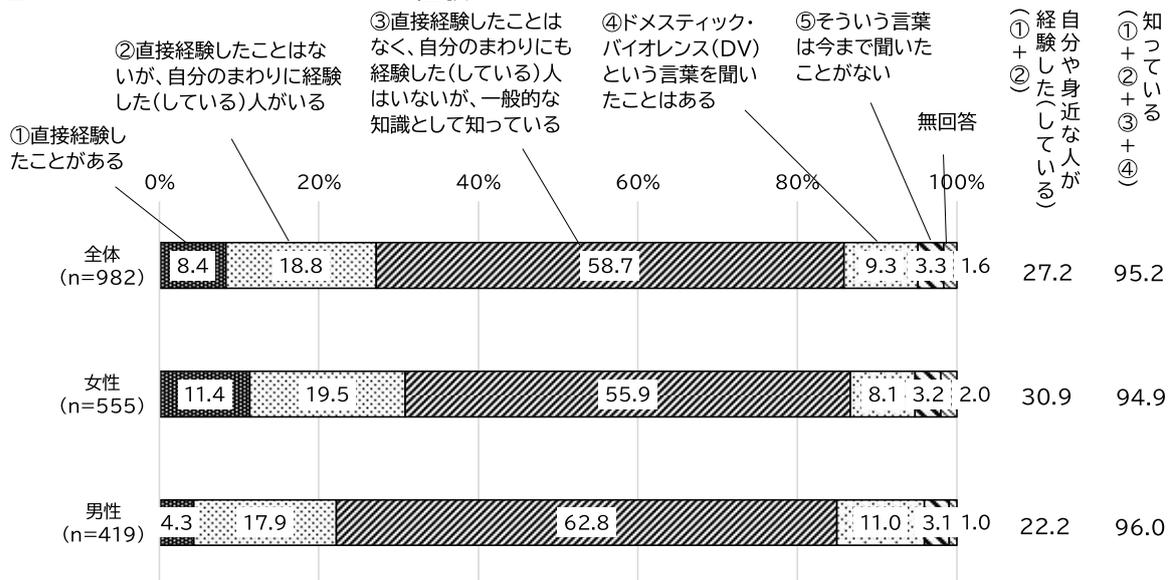
●ドメスティック・バイオレンスの被害を直接経験したことがある人は、全体 8.4%、女性 11.4%、男性 4.3%と全体と女性は R 元調査よりやや増えているが、ドメスティック・バイオレンスの一般的知識や認知度についても増加している。

ドメスティック・バイオレンス（以下「DV」）による被害を経験したり見聞きしたことがあるかどうかについて、「①直接経験したことがある」と回答した割合は 8.4%と、R 元調査の 7.8%よりやや増えている。

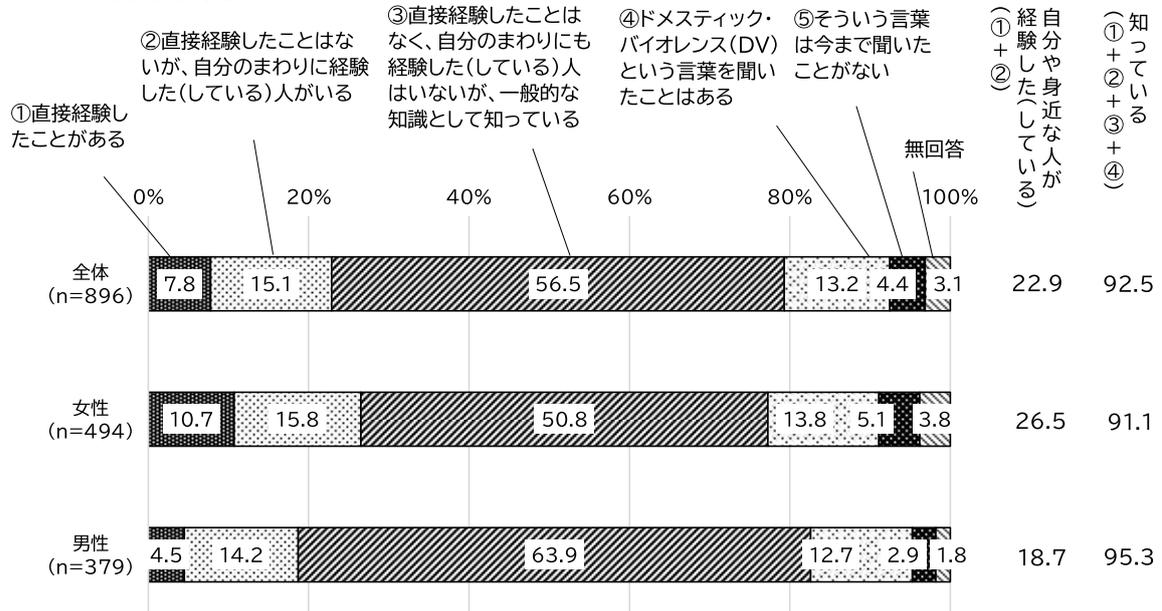
性別で見ると、女性男性ともに、R 元調査と比べて DV という言葉について「知っている」と回答した割合が増えており、認識については上昇している。

問 12 配偶者(事実婚、パートナー等を含む)などふたりの間でふるわれる身体的・精神的・性的な暴力など(ドメスティック・バイオレンス(DV))が問題とされていますが、あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)による被害を経験したり見聞きしたことがありますか。(〇は1つ)

図6-2 ドメスティック・バイオレンスの経験



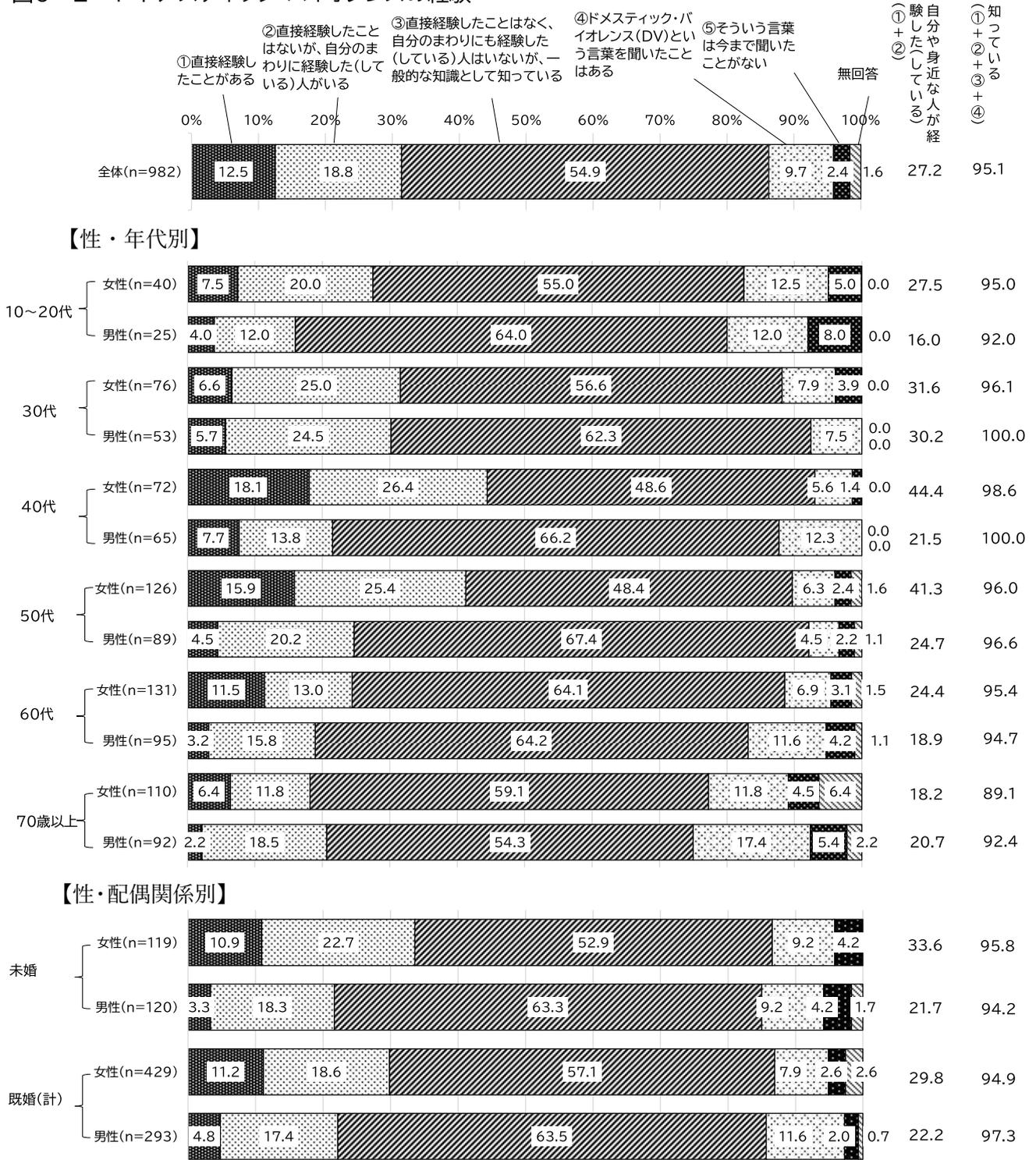
比較 令和元年度島根県調査



性・年代別に見ると、①直接経験したことがある②直接経験したことがないが、自分のまわりに経験した（している）人がいるを合わせた「自分や身近な人が経験した（している）」と回答した割合は40代女性が最も高く44.4%、次いで50代女性41.3%、30代女性31.6%であった。また、DVという言葉を知っている、聞いたことがあると回答した割合は70歳以上女性を除き全ての年代で9割以上の回答があった。

性・配偶関係別に見ると、「自分や身近な人が経験した（している）」と回答した割合は未婚の女性が33.6%と最も回答割合が高く、次いで既婚（計）の女性29.8%であった。DVという言葉を知っている、聞いたことがあると回答した割合はすべて9割以上の回答があった。

図6-2-1 ドメスティック・バイオレンスの経験



### 3.ドメスティック・バイオレンスについての相談先

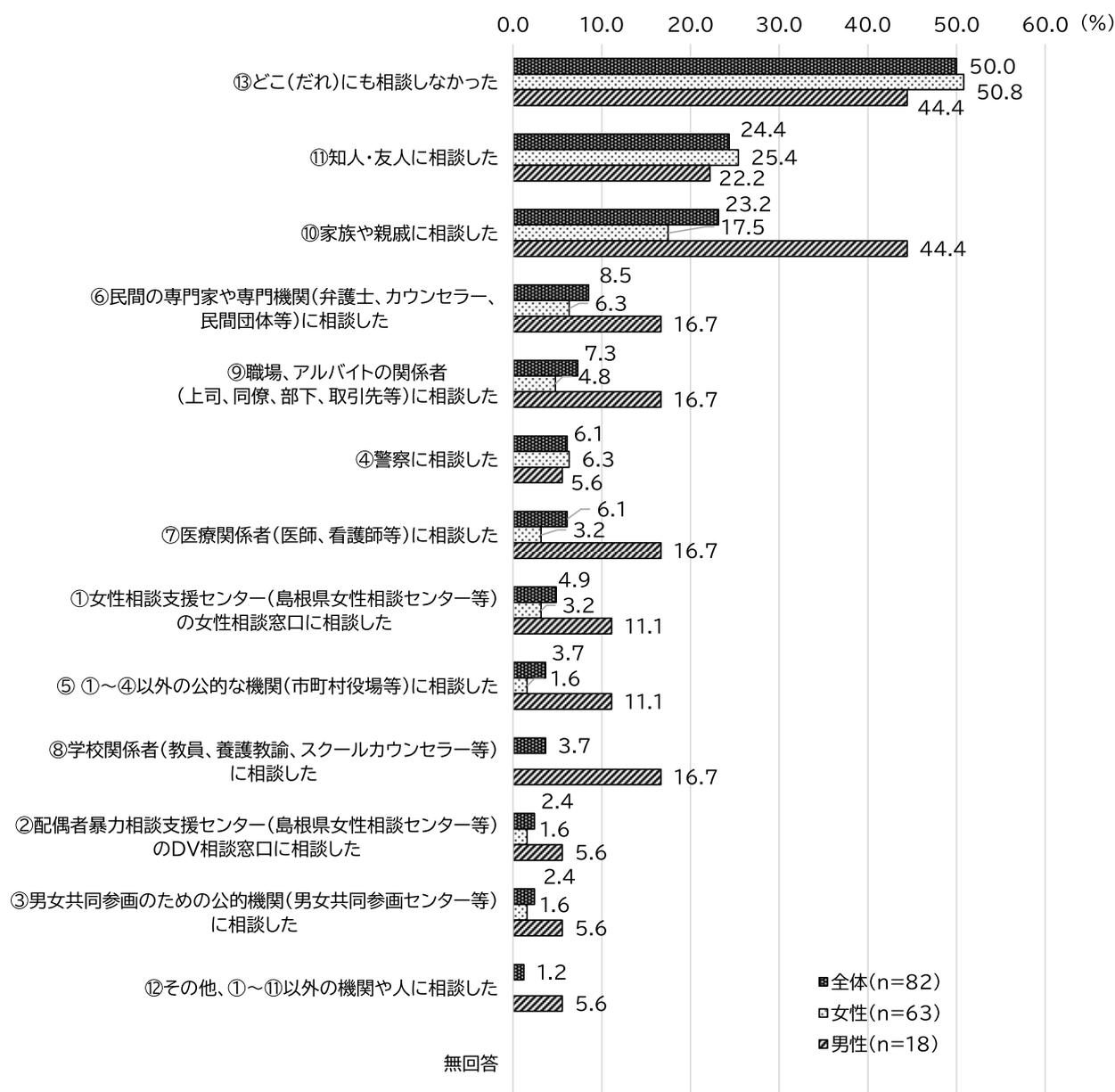
●ドメスティック・バイオレンスの被害を直接経験したことがある人の相談先については、どこ(だれ)にも相談しなかったと回答した割合が最も高かった。

ドメスティック・バイオレンス(以下「DV」)による被害を経験したことがある人で、相談先について、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が50.0%と最も高い回答であった。

女性は「知人・友人に相談した」が25.4%、「家族や親戚に相談した」が17.5%であった一方、男性は「家族や親戚に相談した」が44.4%、「知人・友人に相談した」が22.2%であった。

問12-2 あなたはドメスティック・バイオレンス(DV)による被害を経験した際に、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

図6-3 ドメスティック・バイオレンスについての相談先



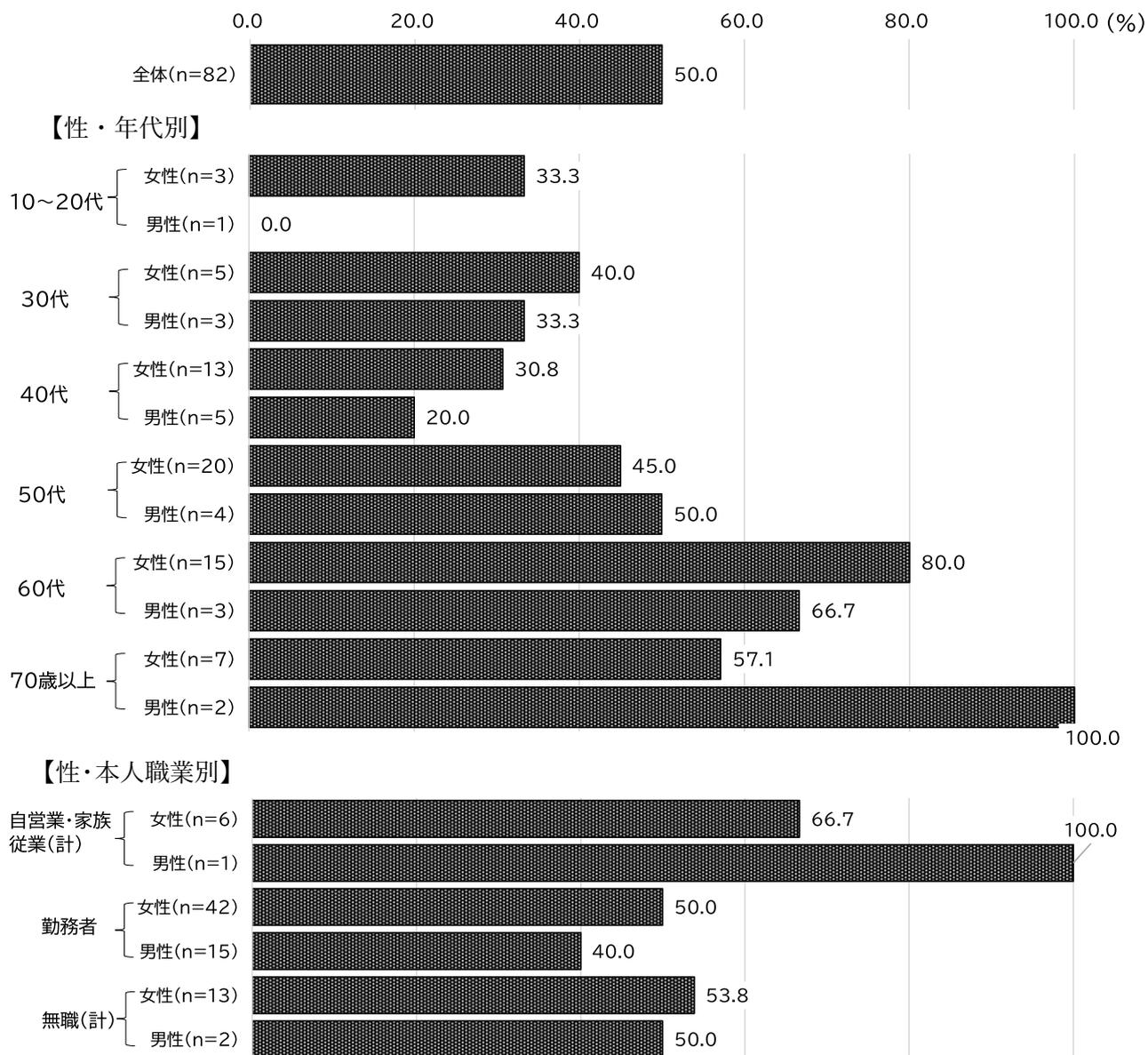
回答の多かった上位3項目について、回答者の属性を示す。

### 〇どこ(だれ)にも相談しなかった

「どこ(だれ)にも相談しなかった」については、性・年代別に見ると、70歳以上男性100.0%が最も回答割合が高く、次いで60代女性80.0%であった。

性・本人職業別に見ると、自営業・家族従業(計)が最も高い回答割合となっている。

図6-3-1 どこ(だれ)にも相談しなかった

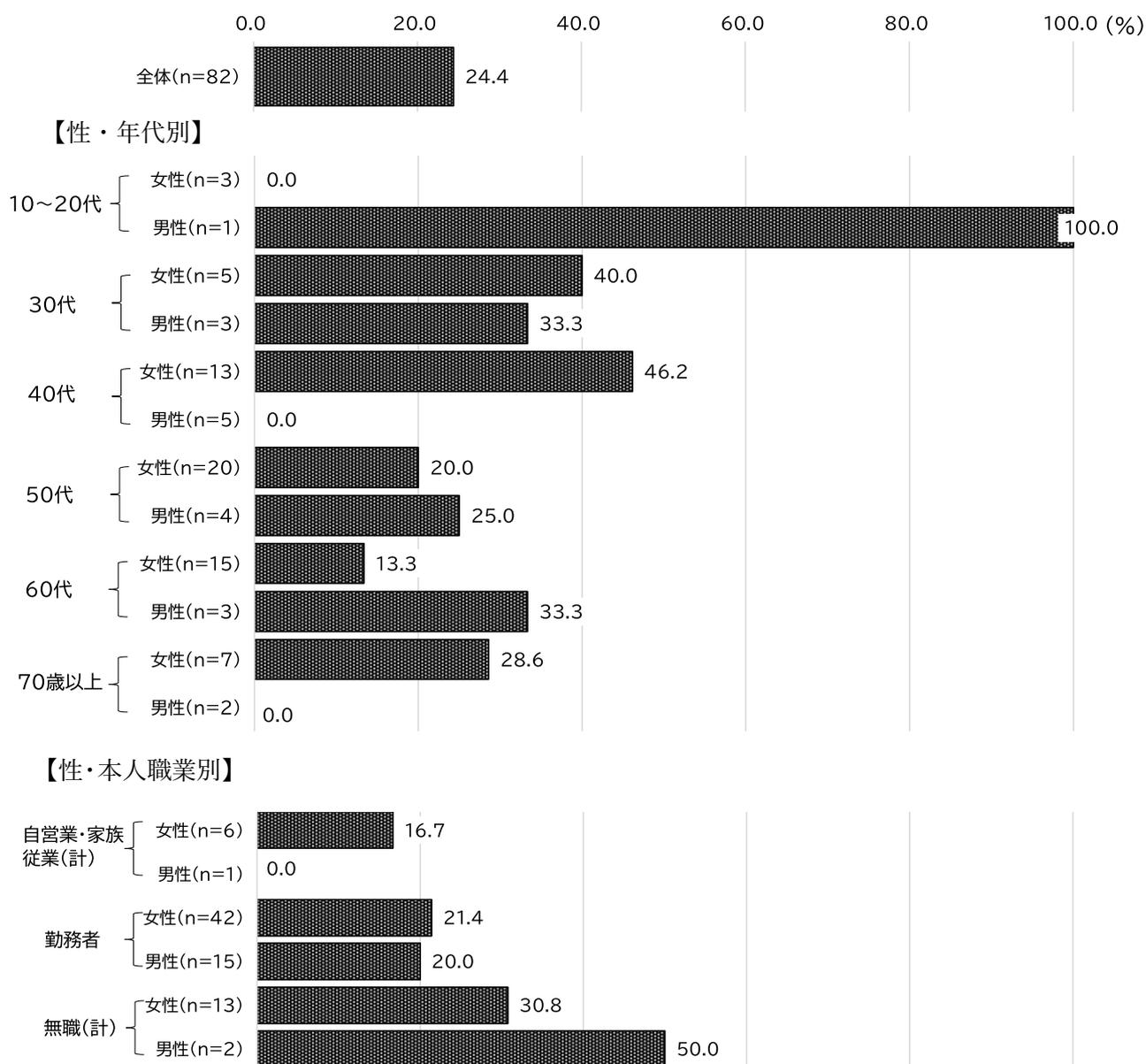


## ○知人・友人に相談した

「知人・友人に相談した」については、性・年代別に見ると、10～20代男性が100.0%と最も回答割合が高く、次いで40代女性46.2%であった。

性・本人職業別に見ると、無職（計）の男性が50.0%、次いで無職（計）の女性30.8%となっている。

図6-3-2 知人・友人に相談した

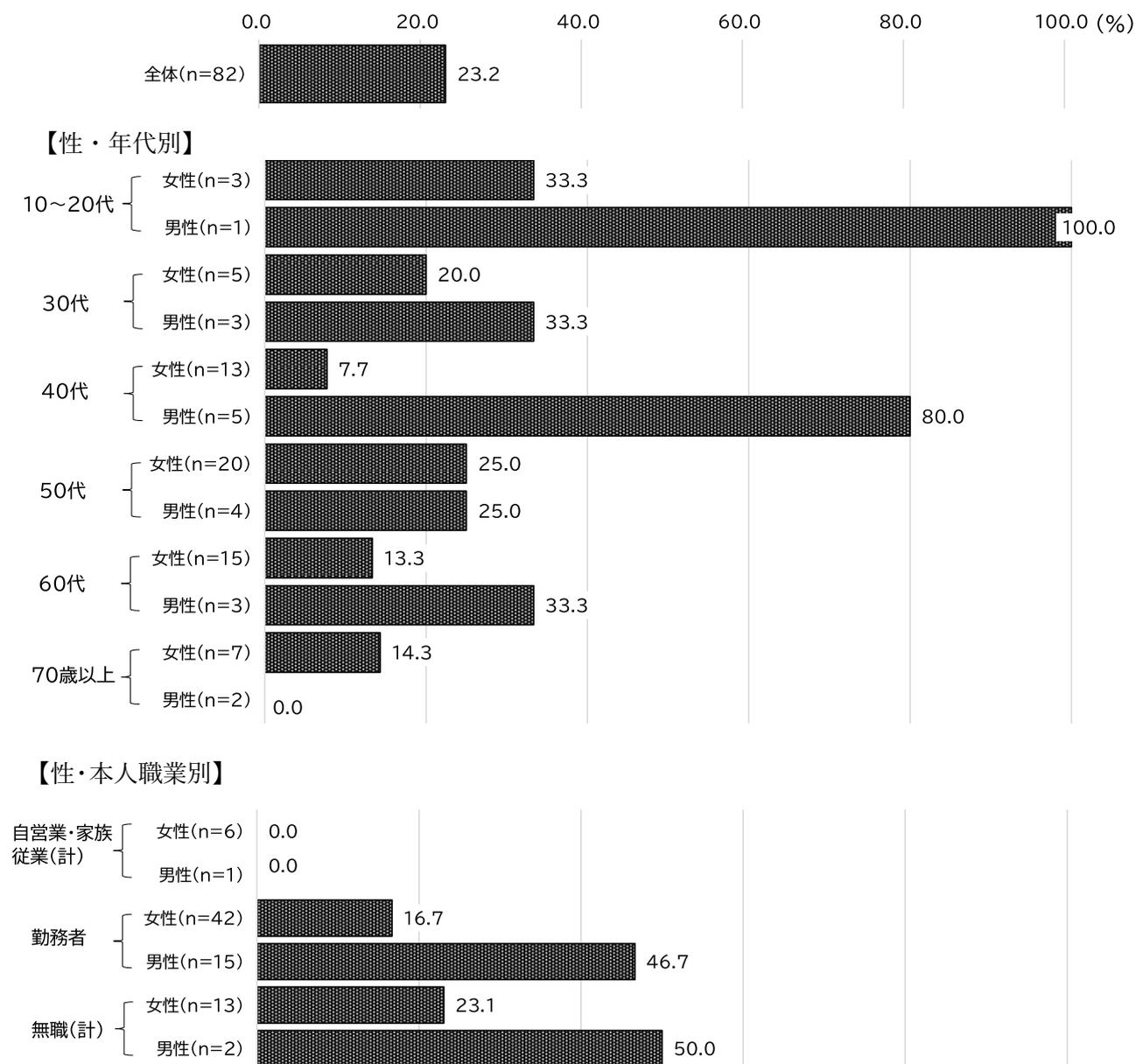


## ○家族や親戚に相談した

「家族や親戚に相談した」については、性・年代別に見ると、10～20代男性 100.0%が最も回答割合が高く、次いで40代女性 80.0%であった。

性・本人職業別に見ると、勤務者、無職（計）ともに女性に比べて男性の回答割合が高くなっている。

図6-3-3 家族や親戚に相談した



## 4.ドメスティック・バイオレンスの背景・要因

●ドメスティック・バイオレンスの背景・要因は、「現代社会のストレス」が50.2%と最も高い回答割合であった。

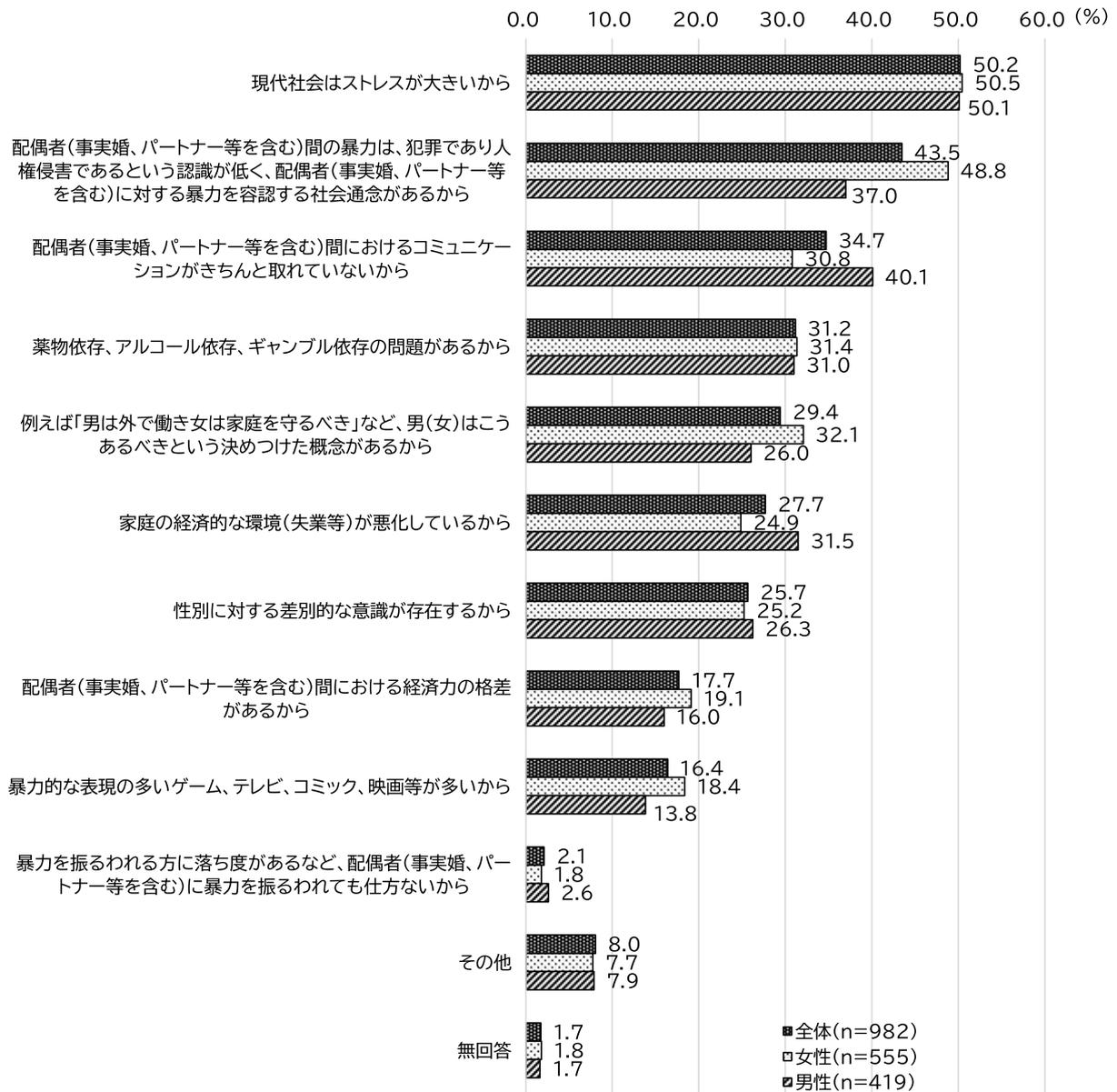
ドメスティック・バイオレンス（以下「DV」）の背景・要因については、「現代社会のストレスが大きいから」が50.2%と最も高く、次いで「配偶者（事実婚、パートナー等を含む）間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者に対する暴力を容認する社会通念があるから」43.5%、「配偶者間におけるコミュニケーションがきちんと取れていないから」34.7%であった。

性別で見ると、男女ともに「現代社会はストレスが大きいから」が最も高いが、次いで女性は「配偶者（事実婚、パートナー等を含む）間の暴力は、犯罪であり人身侵害であるという認識が低く、配偶者に対する暴力を容認する社会通念があるから」48.8%、「例えば男は外で働き女は家庭を守るべきなど男（女）はこうあるべきという決めつた概念があるから」32.1%、「薬物依存、アルコール依存、ギャンブル依存の問題があるから」31.4%となっている一方、男性は「配偶者間におけるコミュニケーションがきちんととれていないから」40.1%、「配偶者間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者に対する暴力を容認する社会通念があるから」37.0%となっている。

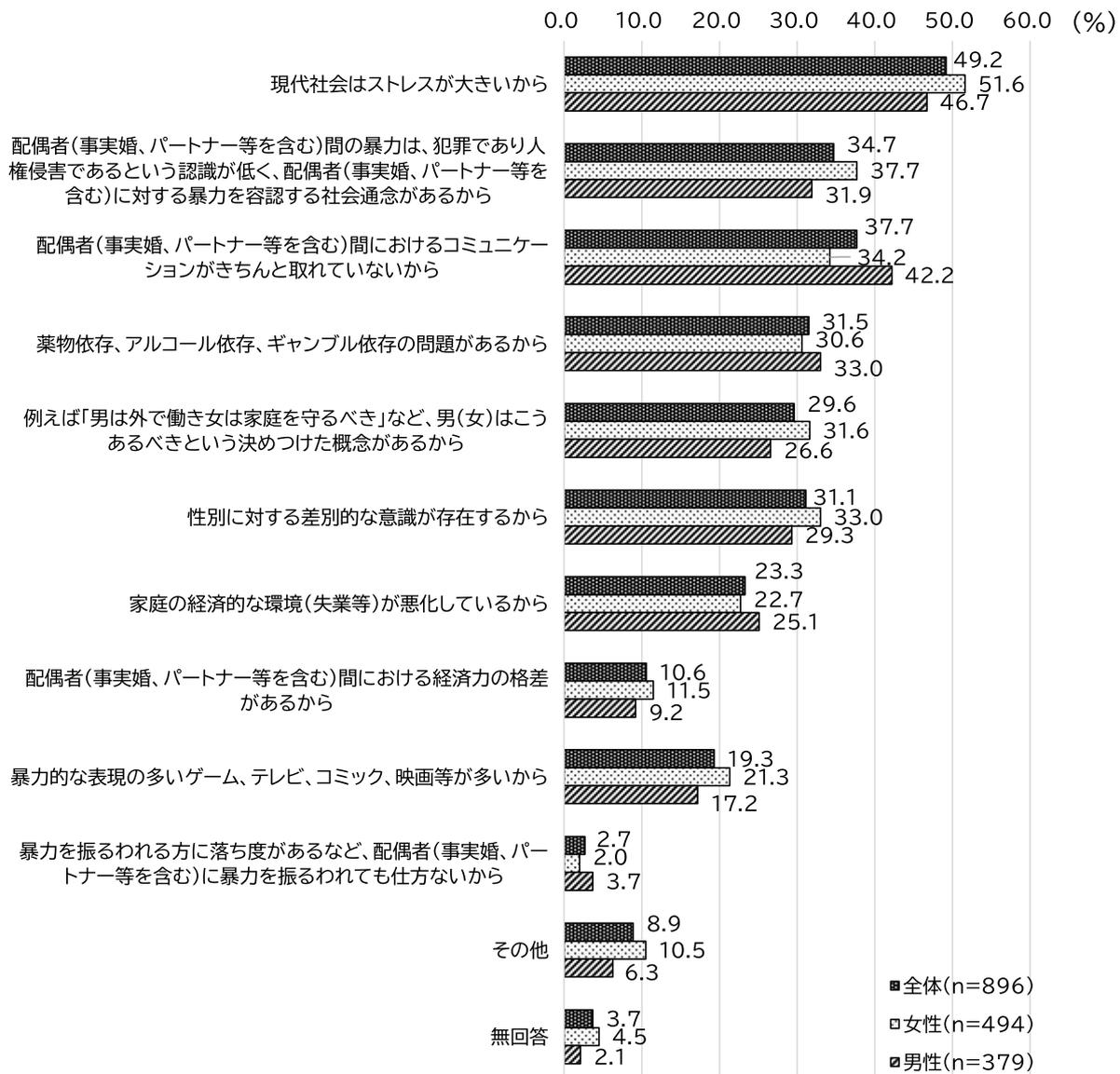
R元調査と比較すると、「現代社会はストレスが大きいから」が最も高い回答割合であるのは変わらないが、「配偶者（事実婚、パートナー等を含む）間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者に対する暴力を容認する社会通念があるから」がR元調査では34.7%であったのに対し、今回調査は43.5%と8.8ポイント増加している。

問 13 ドメスティック・バイオレンス(DV)が起こる背景や要因は何だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

図6-4 ドメスティック・バイオレンスが起こる背景や要因



## 比較 令和元年度島根県調査



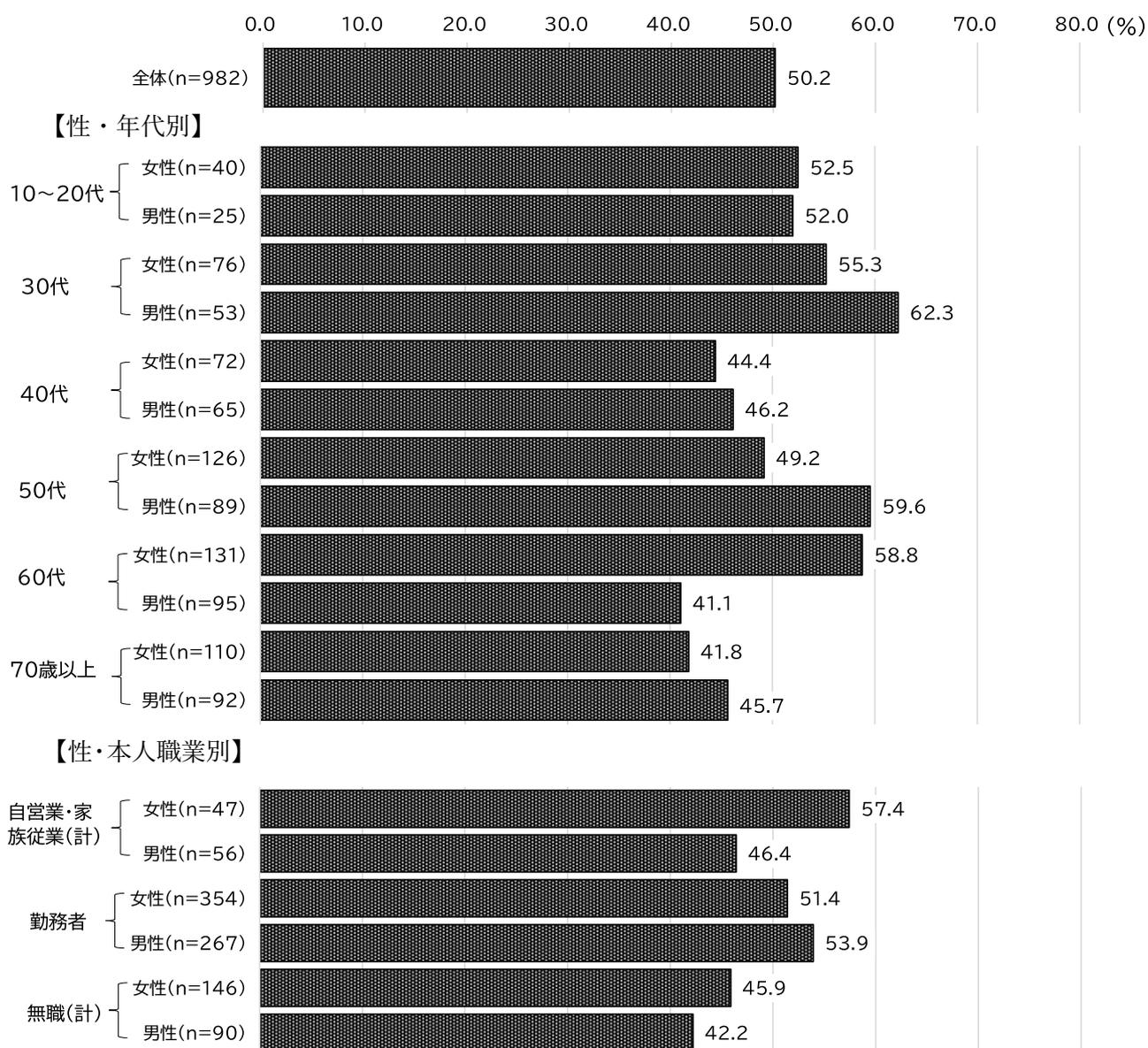
回答の多かった上位3項目について、回答者の属性を示す。

### ○現代社会はストレスが大きいから

「現代社会はストレスが大きいから」については、性・年代別に見ると、30代男性が62.3%と最も回答割合が高く、次いで50代男性59.6%、60代女性58.8%となっている。

性・本人職業別に見ると、自営業・家族従業（計）の女性が57.4%、次いで勤務者の男性53.9%となっている。

図6-4-1 現代社会はストレスが大きいから

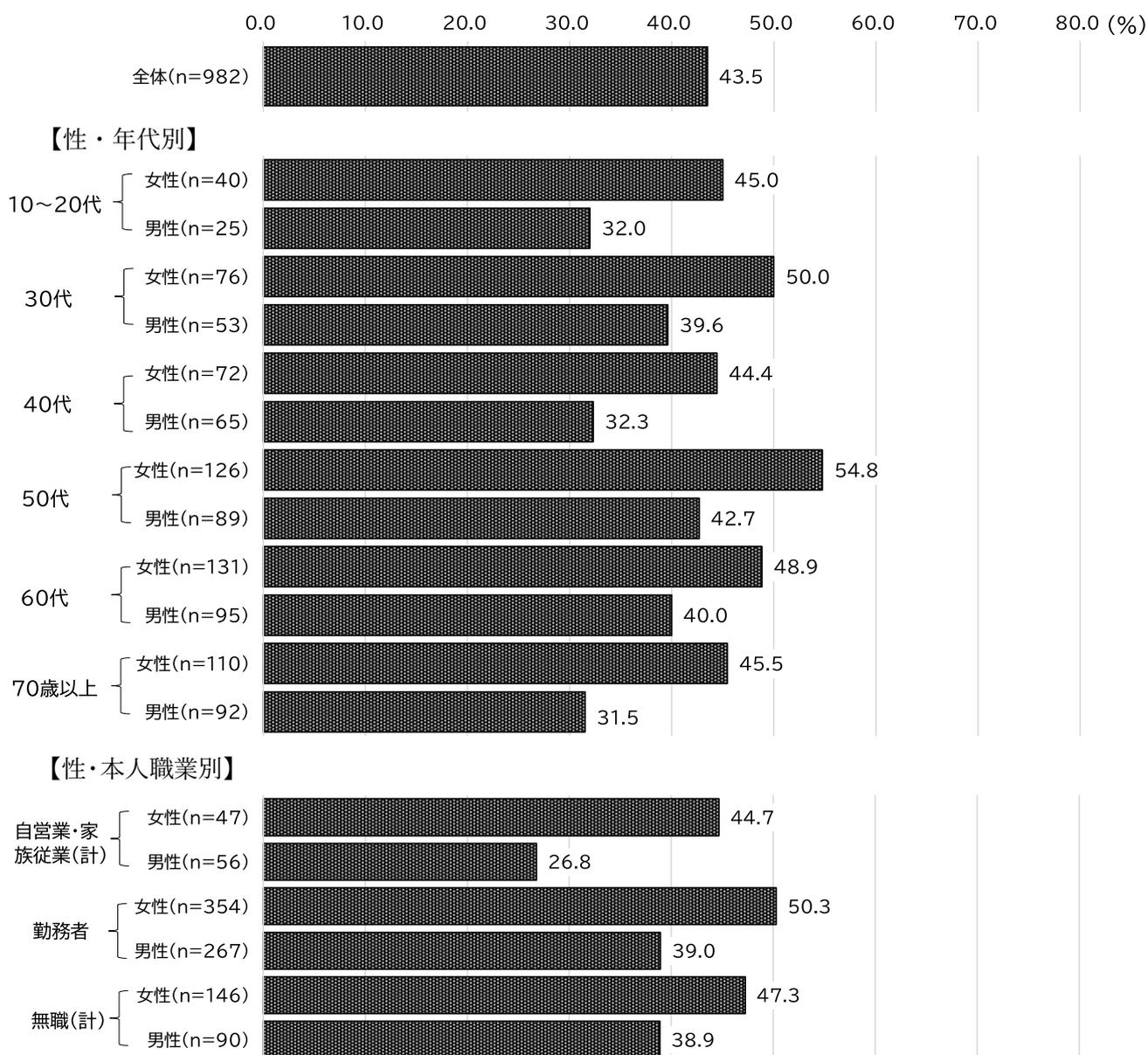


○配偶者(事実婚・パートナー等を含む)間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者(事実婚・パートナー等を含む)に対する暴力を容認する社会通念があるから

「配偶者（事実婚・パートナー等を含む）間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者（事実婚・パートナー等を含む）に対する暴力を容認する社会通念があるから」については、性・年代別に見ると、50代女性が54.8%と最も回答割合が高く、次いで30代女性50.0%、60代女性48.9%となっている。

性・本人職業別に見ると、勤務者の女性が50.3%次いで無職（計）の女性が47.3%、自営業・家族従業（計）の女性が44.7%となっている。

図6-4-2 配偶者間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者に対する暴力を容認する社会通念があるから

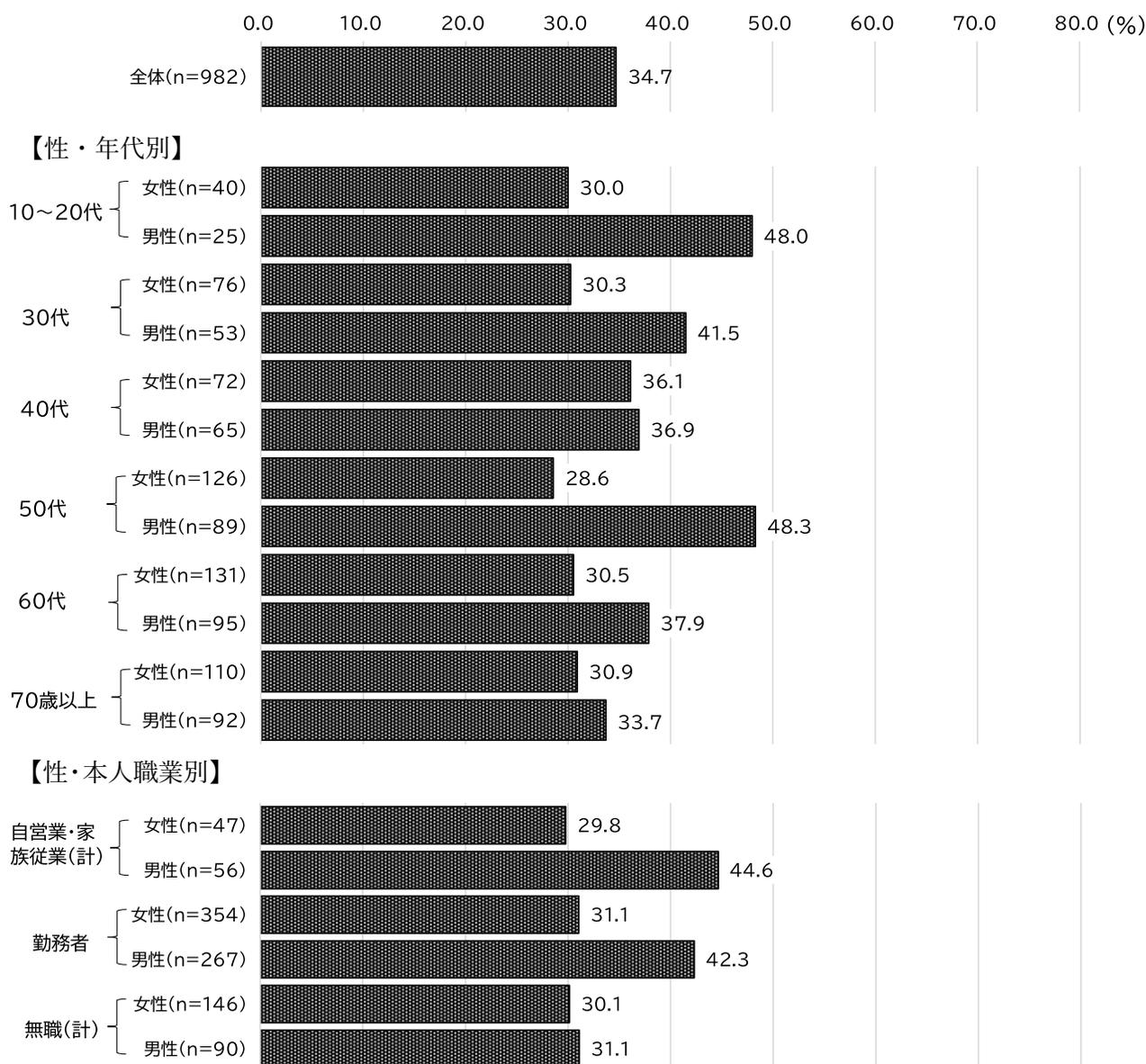


○配偶者(事実婚・パートナー等を含む)間におけるコミュニケーションがきちんと取れていないから

「配偶者(事実婚・パートナー等を含む)間におけるコミュニケーションがきちんと取れていないから」については、性・年代別に見ると、50代男性が48.3%と最も回答割合が高く、次いで10~20代男性48.0%、30代男性41.5%となっている。

性・本人職業別に見ると、自営業・家族従業(計)の男性が44.6%、次いで勤務者の男性が42.3%、勤務者の女性、無職(計)の男性が31.1%となっている。

図6-4-3 配偶者間におけるコミュニケーションがきちんと取れていないから



## 5.デート DV の経験

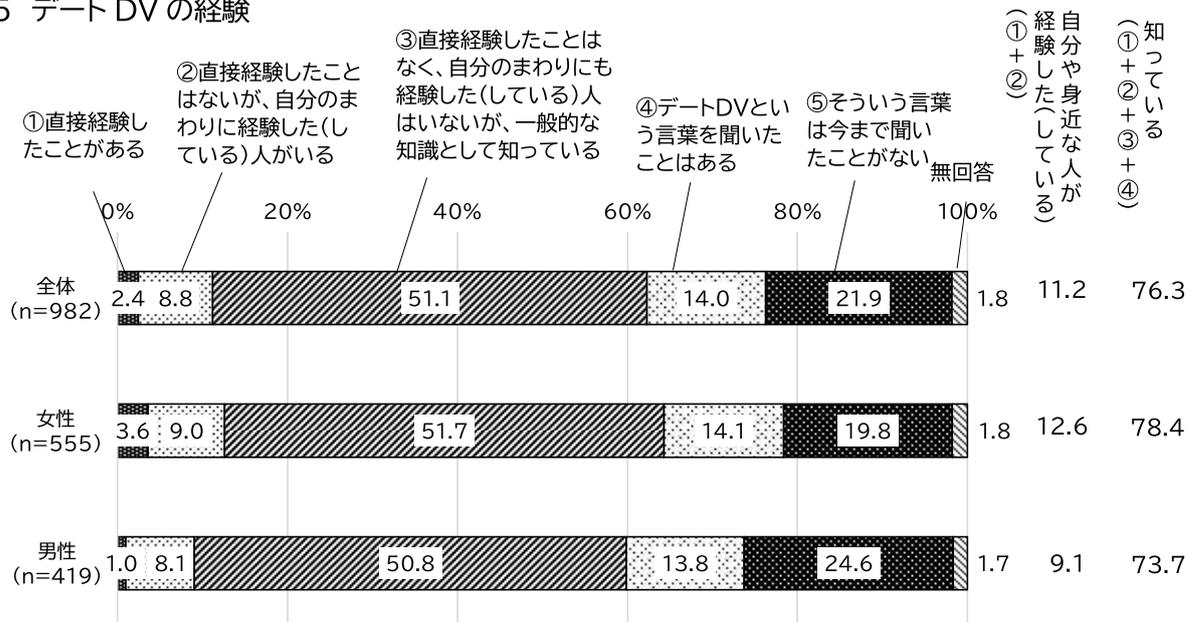
●デート DV 被害を直接経験したことがある人は、全体 2.4%、女性 3.6%、男性 1.0%で、認知度は 76.3%であった。

デート DV の被害を「直接経験したことがある」と回答した人は 2.4%、「自分や身近な人が経験した（している）人（①直接経験したことがある、②直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる）」は 11.2%であった。

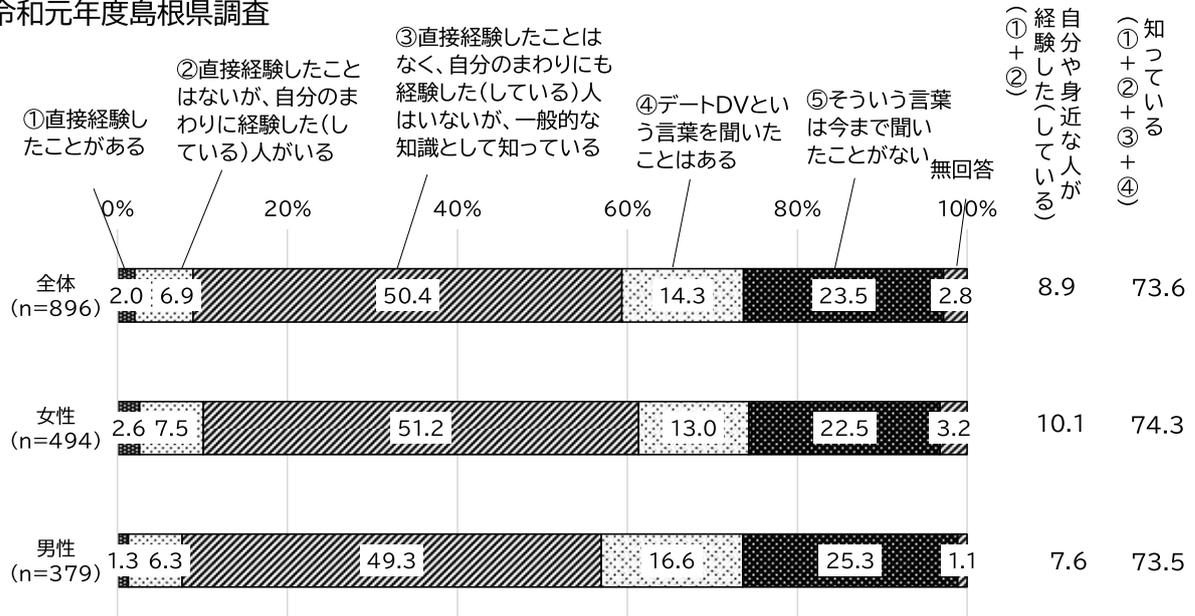
R 元調査と比較すると、「自分や身近な人が経験した（している）」と回答した割合は 8.9%から 11.2%と 2.3 ポイント増加しているが、認知度についても 73.6%から 76.3%と 2.7 ポイント増加しており、デート DV を認知している割合が増えている。

問 14 ドメスティック・バイオレンス(DV)は配偶者(事実婚・パートナー等を含む)間だけの問題ではなく、恋愛関係にある者の間でも同じような暴力(デート DV)が起きています。あなたは、デート DV による被害を経験したり見聞きしたことがありますか。(〇は1つ)

図6-5 デート DV の経験



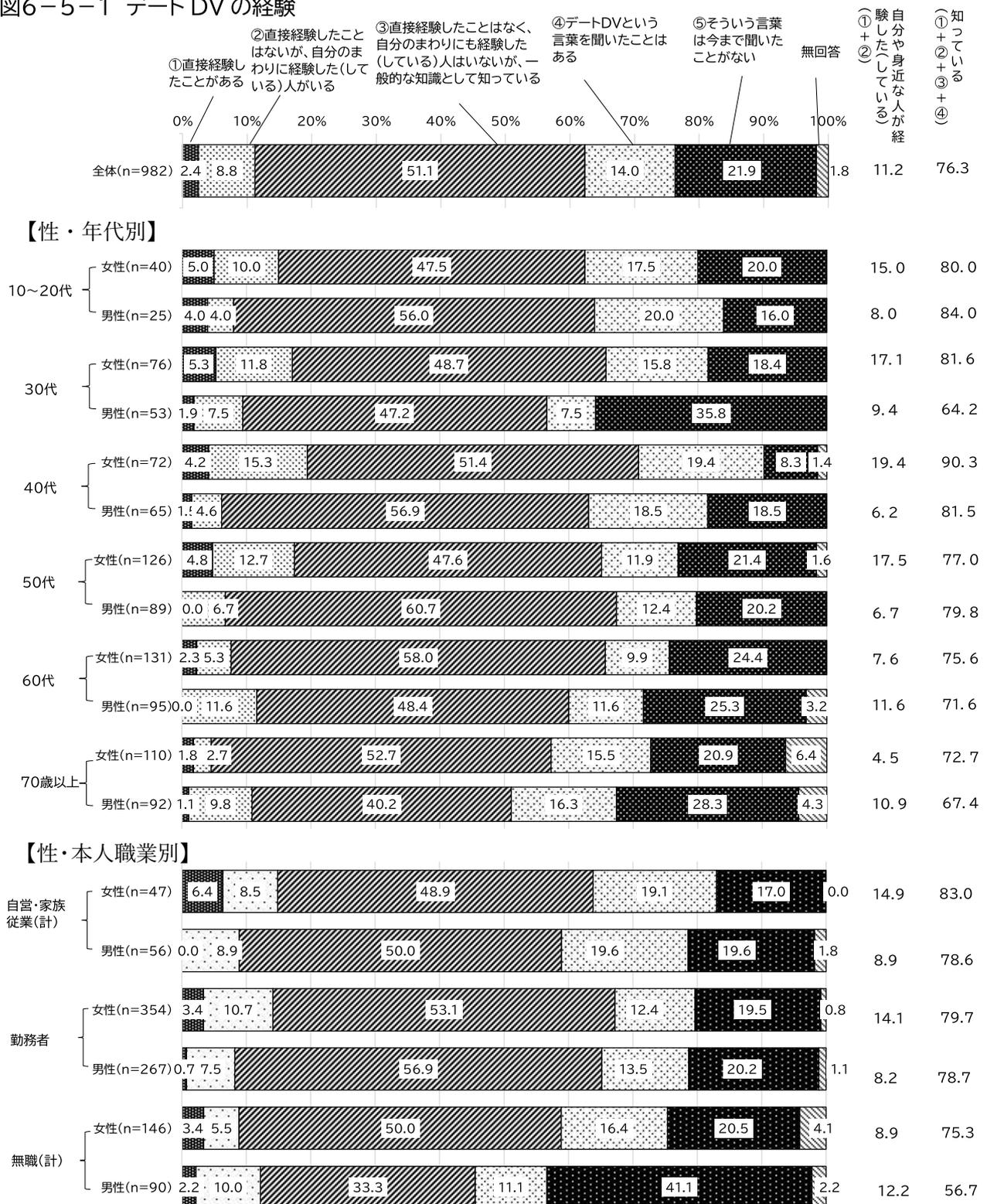
比較 令和元年度島根県調査



性・年代別に見ると、①直接経験したことがある②直接経験したことがないが、自分のまわりに経験した（している）人がいるを合わせた「自分や身近な人が経験した（している）」と回答した割合は40代女性が最も高く19.4%、次いで50代女性17.5%、30代女性17.1%であった。①直接経験したことがあると回答した割合は、男性に比べて女性の方が高い。また、デートDVという言葉を知っている、聞いたことがあると回答した割合は40代女性90.3%が最も高く、次いで10～20代男性84.0%、30代女性81.6%であった。

性・本人職業別に見ると、認知度について無職（計）の男性を除き7割以上の認知度があった。

図6-5-1 デートDVの経験



## 6. 講座や研修等の受講について

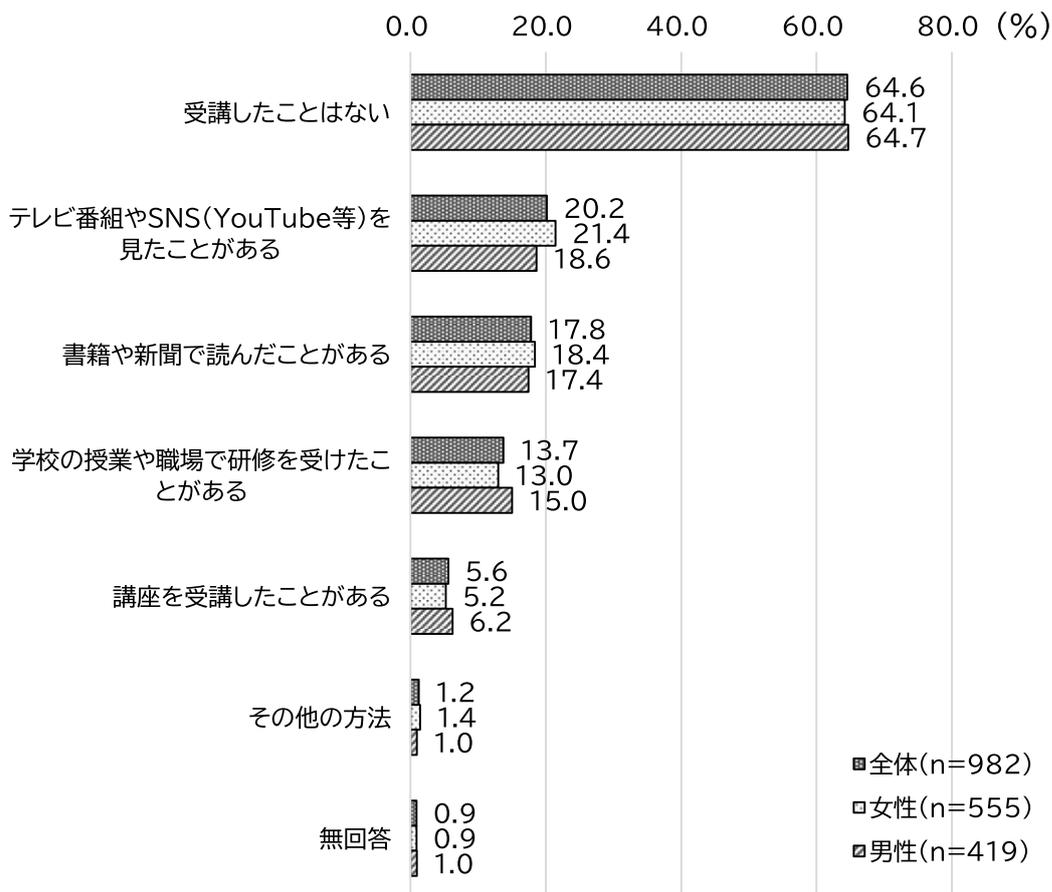
●これまでに DV やデート DV に関する講座の受講有無については、6 割以上が受講したことはないと回答している。

これまでに DV やデート DV に関する講座の受講有無については、「受講したことはない」64.6%と6割以上がないと回答していた。「講座を受講したことがある」との回答は5.6%と1割を満たしていないが、「テレビやSNS（YouTube等）を見たことがある」、「書籍や新聞で読んだことがある」については2割程度の回答があった。

専門的に講座や研修等を受講したことはないが、身近で触れているとの回答が見られた。

問 15 これまで、ドメスティック・バイオレンス(DV)またはデート DV について、講座や研修等を受講したことがありますか。(〇はいくつでも)

図6-6 DV等に関する講座の受講経験



回答の多かった上位3項目について、回答者の属性を示す。

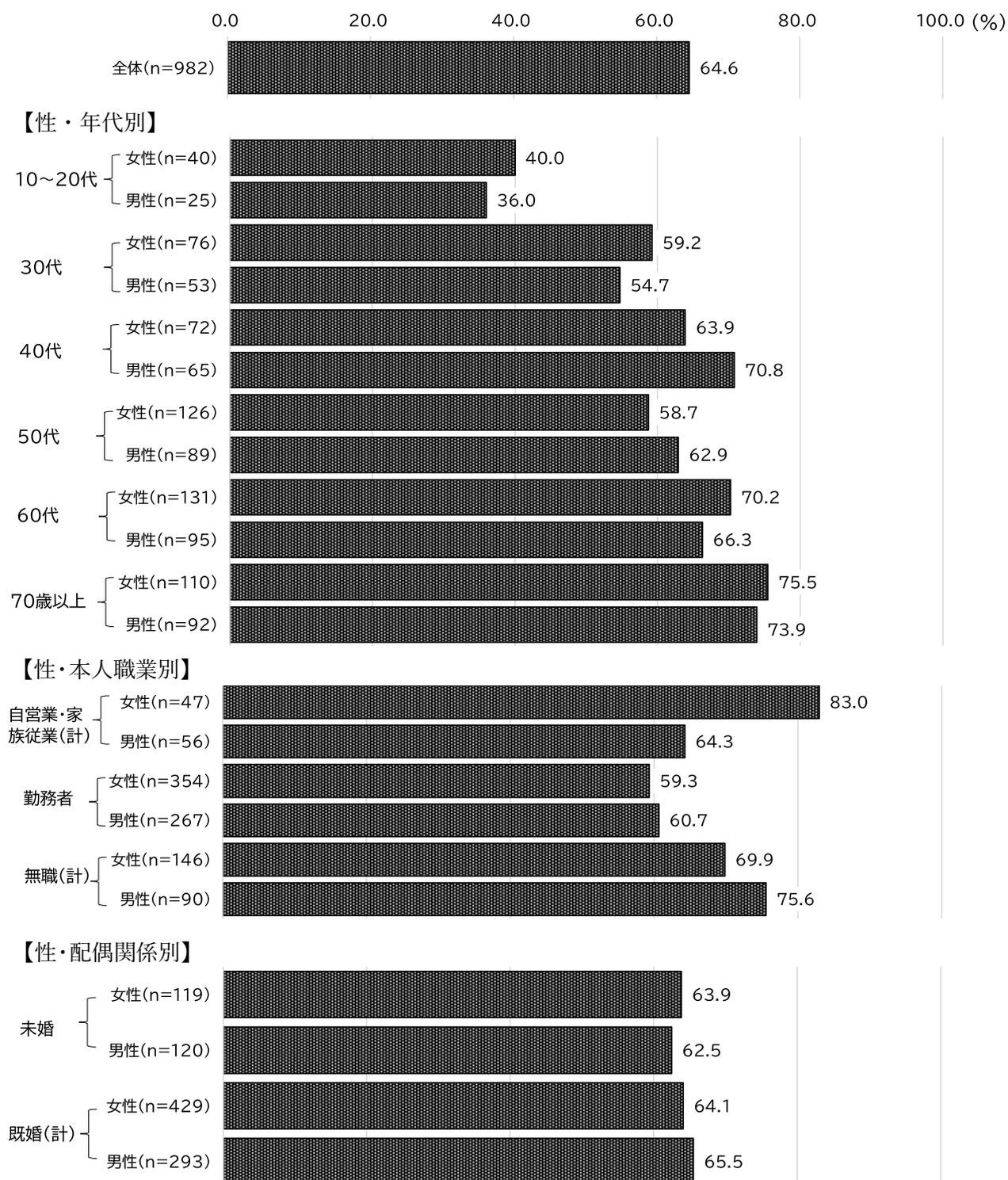
○受講したことはない

講座や研修を受講したことがないと回答した割合が最も高いのは70歳以上女性75.5%、70歳以上男性73.9%、40代男性70.8%であった。若者に比べては高齢者の回答割合が高く見られた。

性・本人職業別に見ると、自営業・家族従業（計）の女性が83.0%、次いで無職（計）の男性75.6%であった。

性・配偶関係別に見ると、全ての6割以上の回答であった。

図6-6-1 受講したことはない



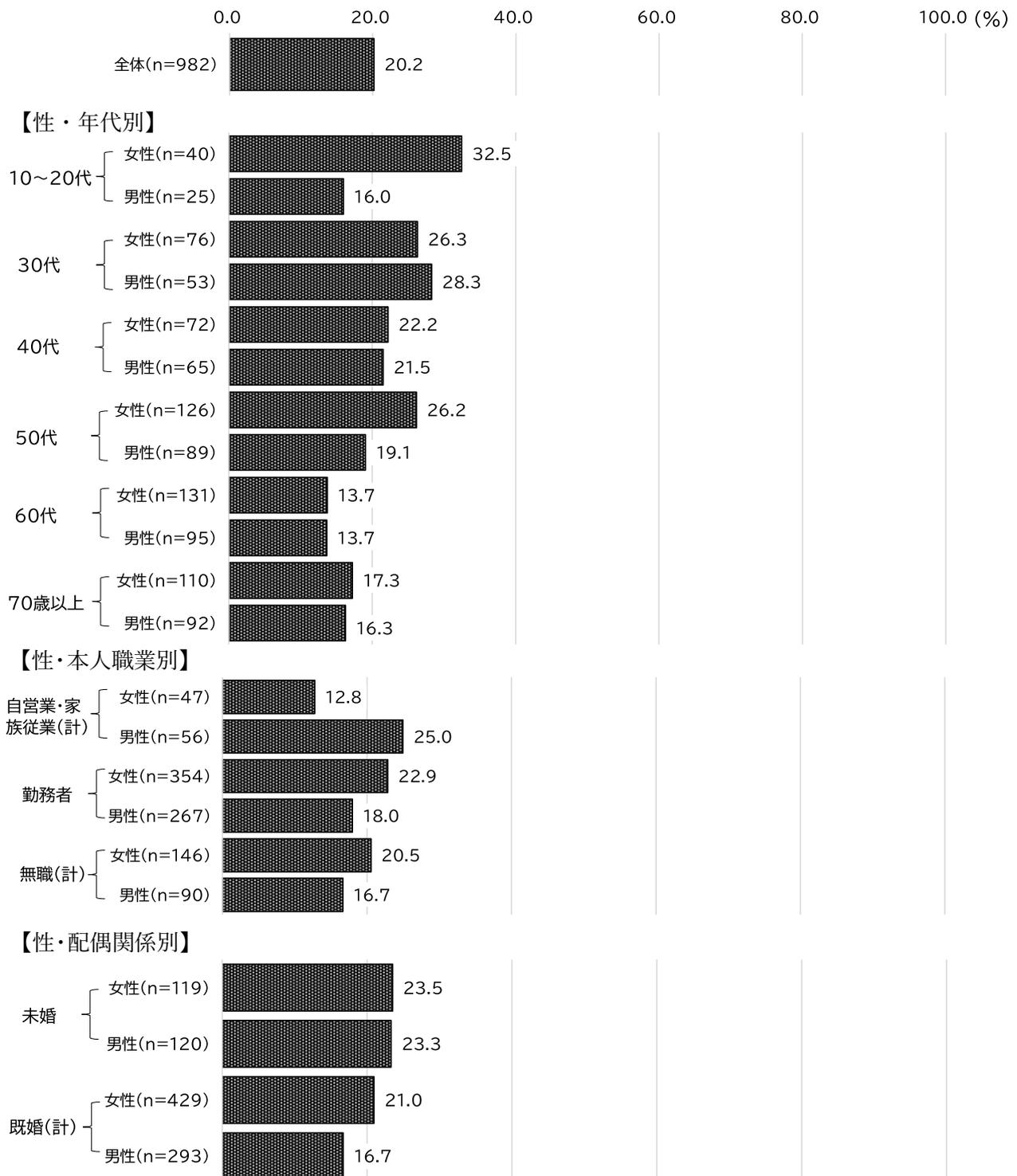
## ○テレビ番組や SNS(YouTube 等)を見たことがある

性・年代別に見ると、10～20代女性が32.5%と最も高い回答割合が高く、次いで30代男性28.3%、30代女性26.3%であった。

性・本人職業別に見ると、自営業・家族従業（計）の男性25.0%、勤務者の女性22.9%、無職（計）の女性20.5%であった。

性・配偶関係別に見ると、未婚の女性23.5%、未婚の男性23.3%であり、既婚に比べて未婚の方が男女ともに回答割合が高かった。

図6-6-2 テレビ番組や SNS(YouTube 等)を見たことがある

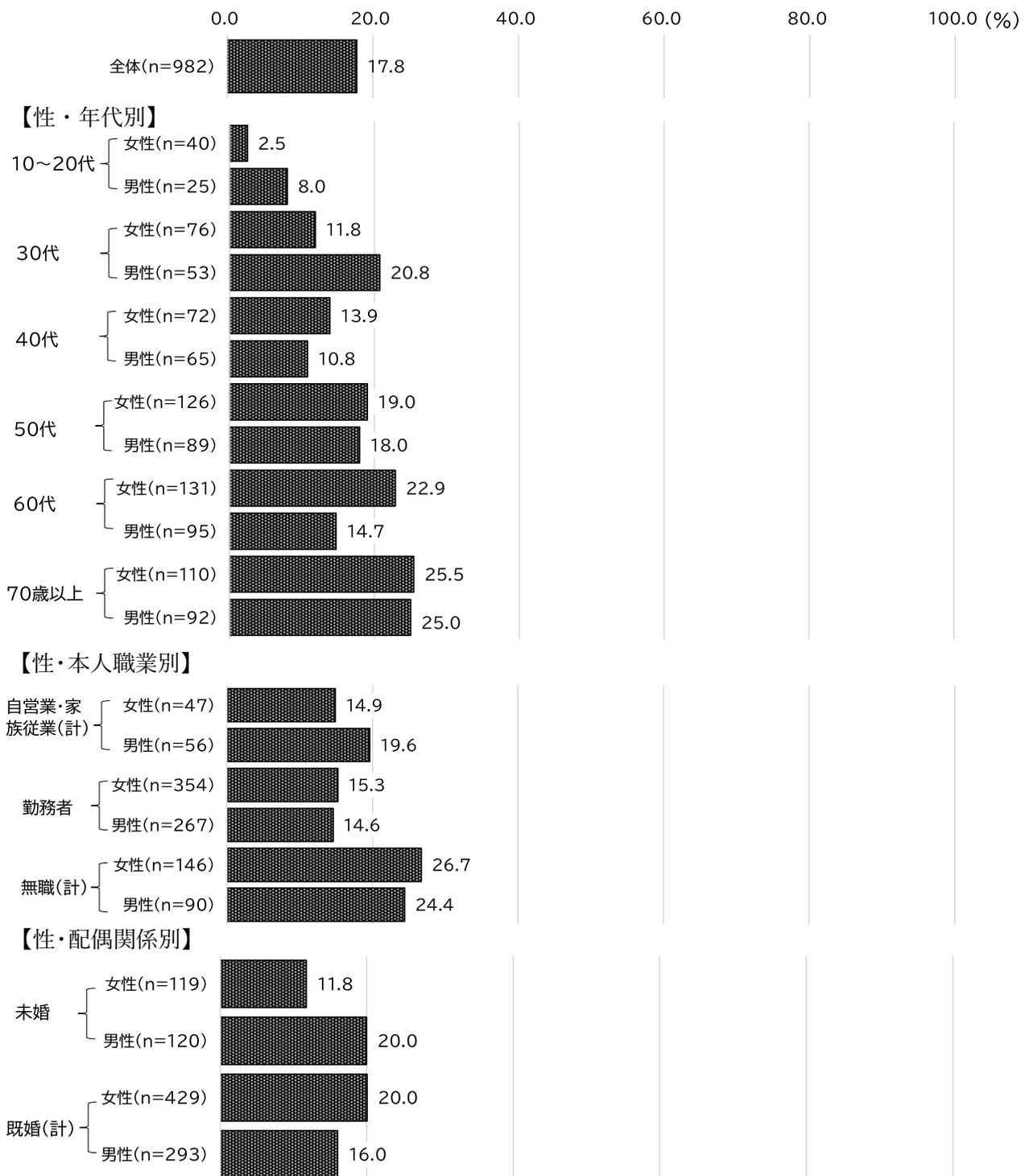


○書籍や新聞で読んだことがある

性・年代別に見ると、70歳以上女性 25.5%が最も高い回答割合が高く、次いで70歳以上男性 25.0%、60代女性 22.9%と若者に比べて高齢者の回答割合が高く見られた。

性・本人職業別に見ると、無職（計）の女性 26.7%が最も高く、次いで無職（計）の男性 24.4%であった。性・配偶関係別に見ると、未婚の男性、既婚（計）の女性が 20.0%であった。

図6-6-3 書籍や新聞で読んだことがある



## 7. 女性への暴力をなくす方策

- 女性への暴力をなくす方策として、「被害者のための相談機関や保護施設等を整備する」が最も多く選択され、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」、「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる」となっている。

女性への暴力をなくす方策として、「被害者のための相談機関や保護施設等を整備する」が52.9%と最も多く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」51.2%、「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる」50.8%といずれも半数以上の回答であった。

性別で見ると、女性は「被害者のための相談機関や保護施設等を整備する」が57.1%と最も多く、次いで、「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる」52.6%、「法律・制度の制定や見直しを行う」50.6%であった。

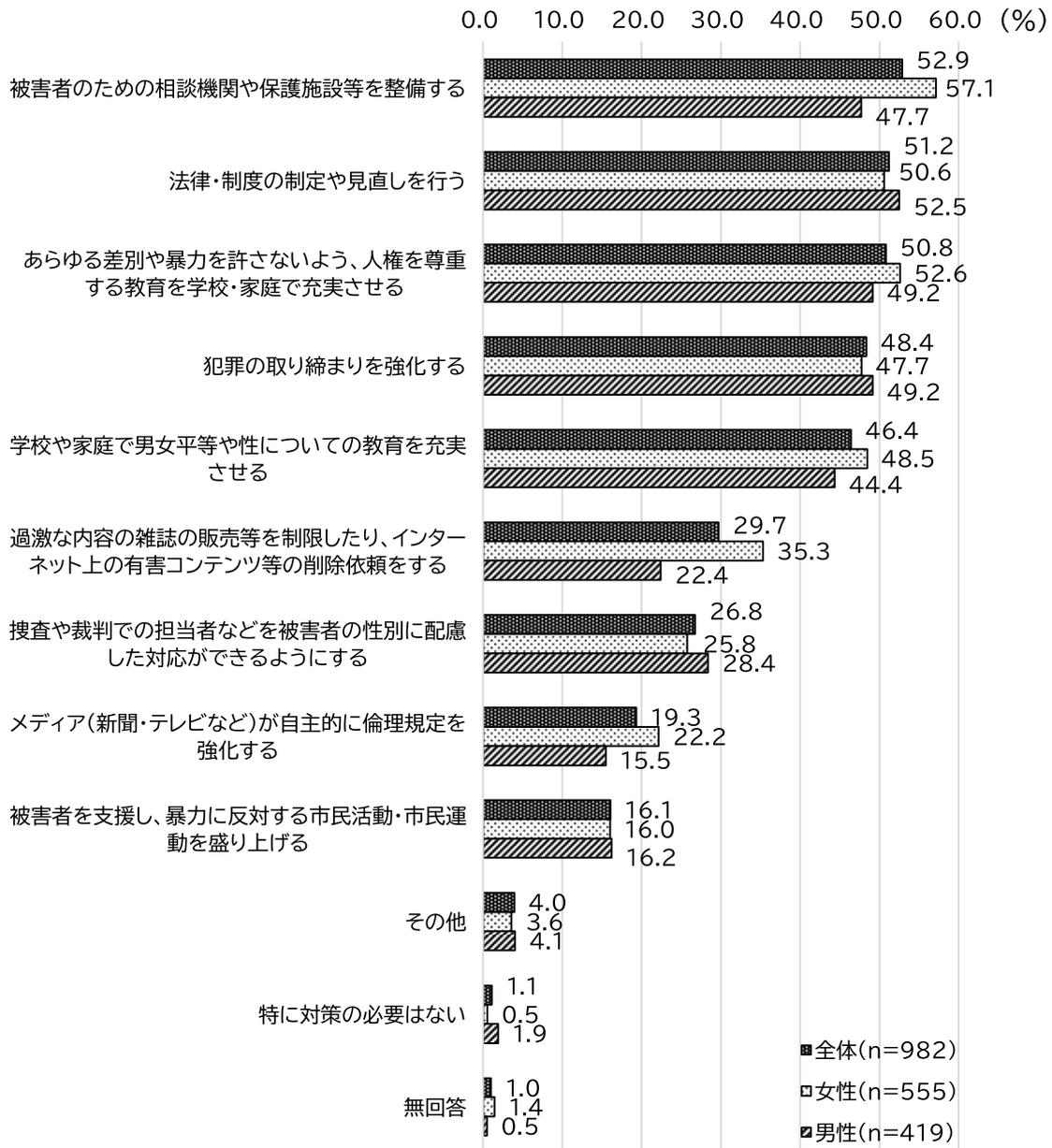
一方、男性は「法律・制度の制定や見直しを行う」が52.5%と最も多く、次いで「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる」、「犯罪の取り締まりを強化する」が49.2%となっている。

R元調査と比較すると、選択項目が異なるたる部分もあるため一概に比較はできないが、今回調査同様、「被害者のための相談機関や保護施設等を整備する」が最も多い回答であった。

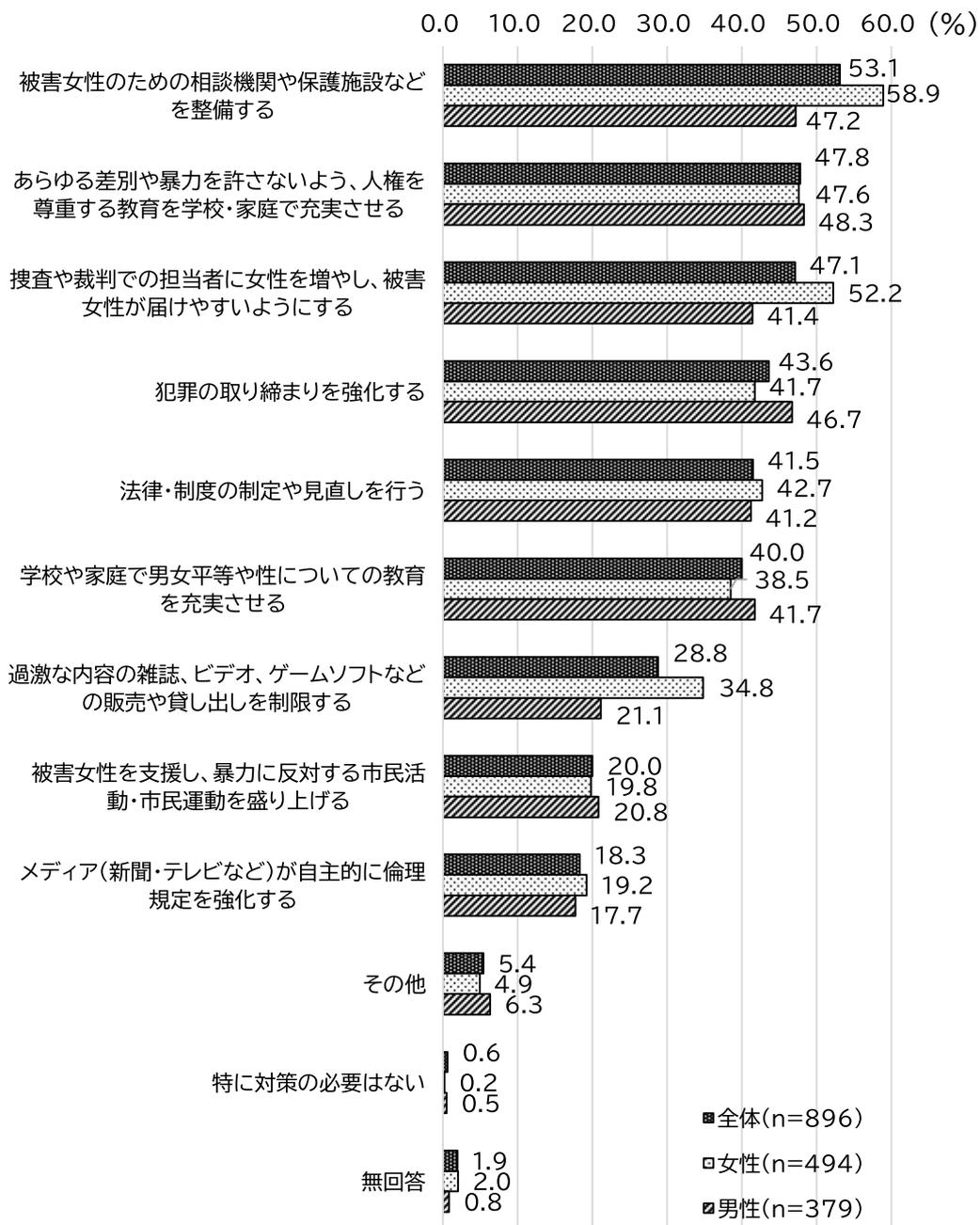
R元調査では「法律・制度の制定や見直しを行う」について41.5%であったが、今回調査は51.2%と9.7ポイント差が見られた。

問 16 性犯罪、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス(DV)などをなくすためにはどうしたら良いと思いますか。(〇はいくつでも)

図6-7 女性への暴力をなくす方策



比較 令和元年度島根県調査



回答の多かった上位3項目について、回答者の属性を示す。

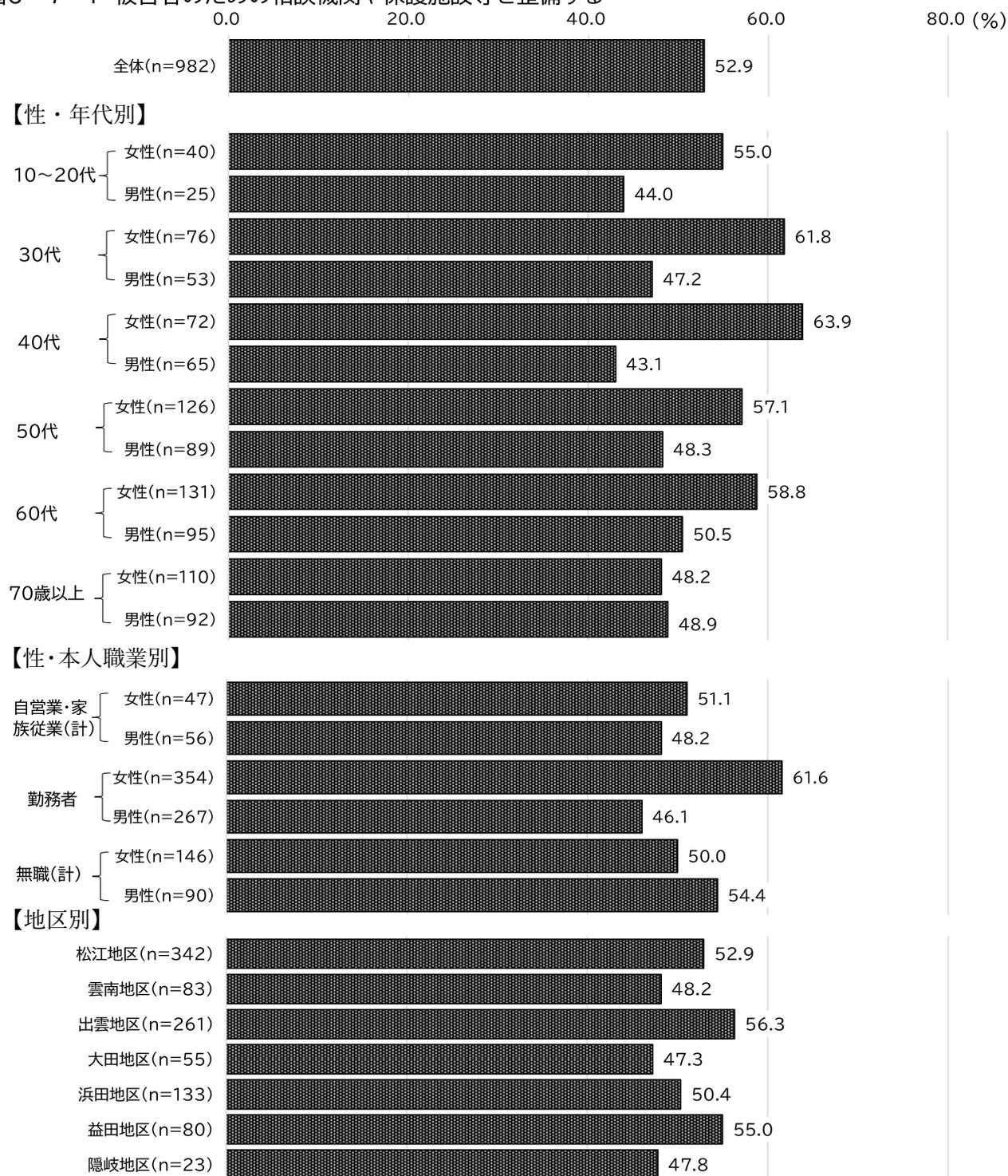
○被害者のための相談機関や保護施設等を整備する

性・年代別に見ると、40代女性が63.9%と最も回答割合が高く、次いで30代女性61.8%、60代女性58.8%であった。男性に比べて女性の回答割合が高くなっている。

性・本人職業別に見ると、勤務者の女性61.6%、無職（計）の男性54.4%、自営業・家族従業（計）の女性51.1%であった。

地区別に見ると、出雲地区56.3%が最も高く、次いで益田地区55.0%、松江地区52.9%、であった。

図6-7-1 被害者のための相談機関や保護施設等を整備する



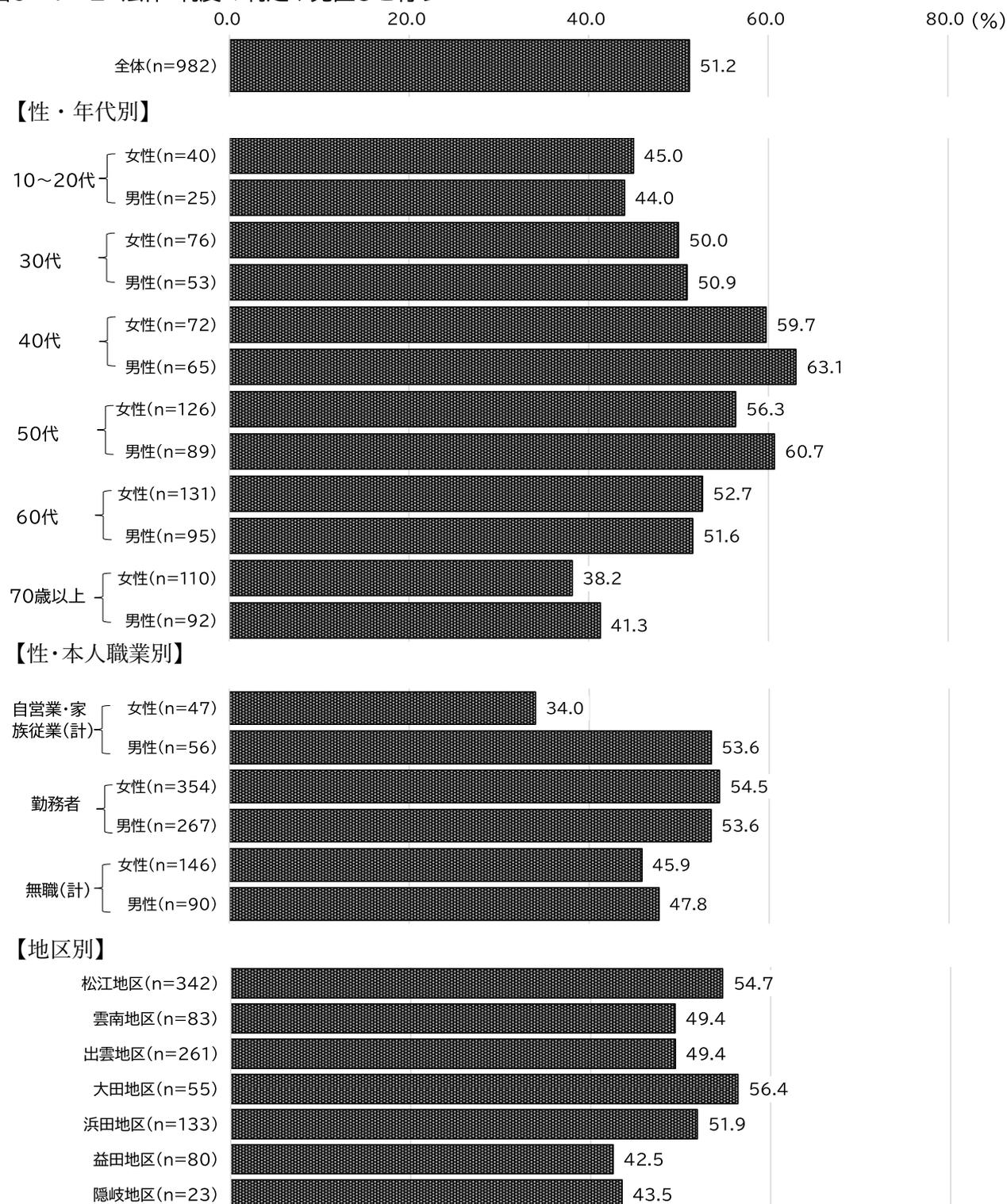
## ○法律・制度の規定や見直しを行う

性・年代別に見ると、40代男性が63.1%と最も回答割合が高く、次いで50代男性60.7%、40代女性59.7%と中堅の年代の回答が高い傾向となっている。

性・本人職業別に見ると、勤務者の女性54.5%、自営業・家族従業（計）の男性、勤務者の男性が53.6%となっている。

地区別に見ると、大田地区56.4%が最も高く、次いで松江地区54.7%、浜田地区51.9であった。

図6-7-2 法律・制度の制定や見直しを行う



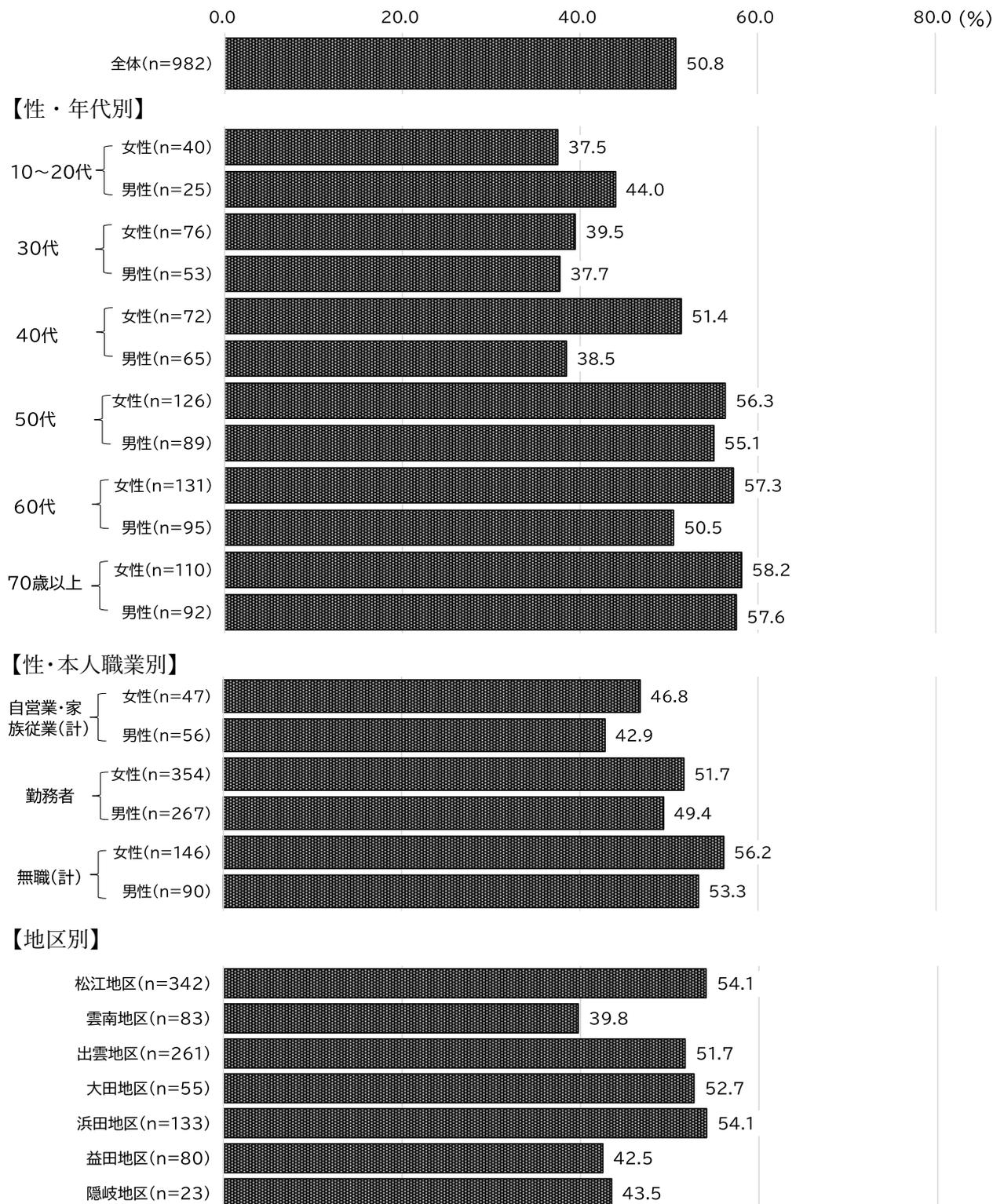
○あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる

性・年代別に見ると、70歳以上女性が58.2%と最も回答割合が高く、次いで70歳以上男性57.6%、60代女性57.3%と50代以上の回答が半数以上と多く見られた。

性・本人職業別に見ると無職（計）の女性56.2%、無職（計）の男性53.3%、勤務者の女性51.7%となっている。

地区別に見ると、松江地区、浜田地区54.1%が最も高く、次いで大田地区52.7%であった。

図6-7-3 あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる



## 第6章 男女共同参画に関する行政への要望

### 1.男女共同参画に関する行政への要望

- 行政が力を入れることとして、「育児休業の充実や労働環境の整備」が最も多く、次いで「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」、「保育所等、その他子育てに関する施設やサービスの充実」となっている。

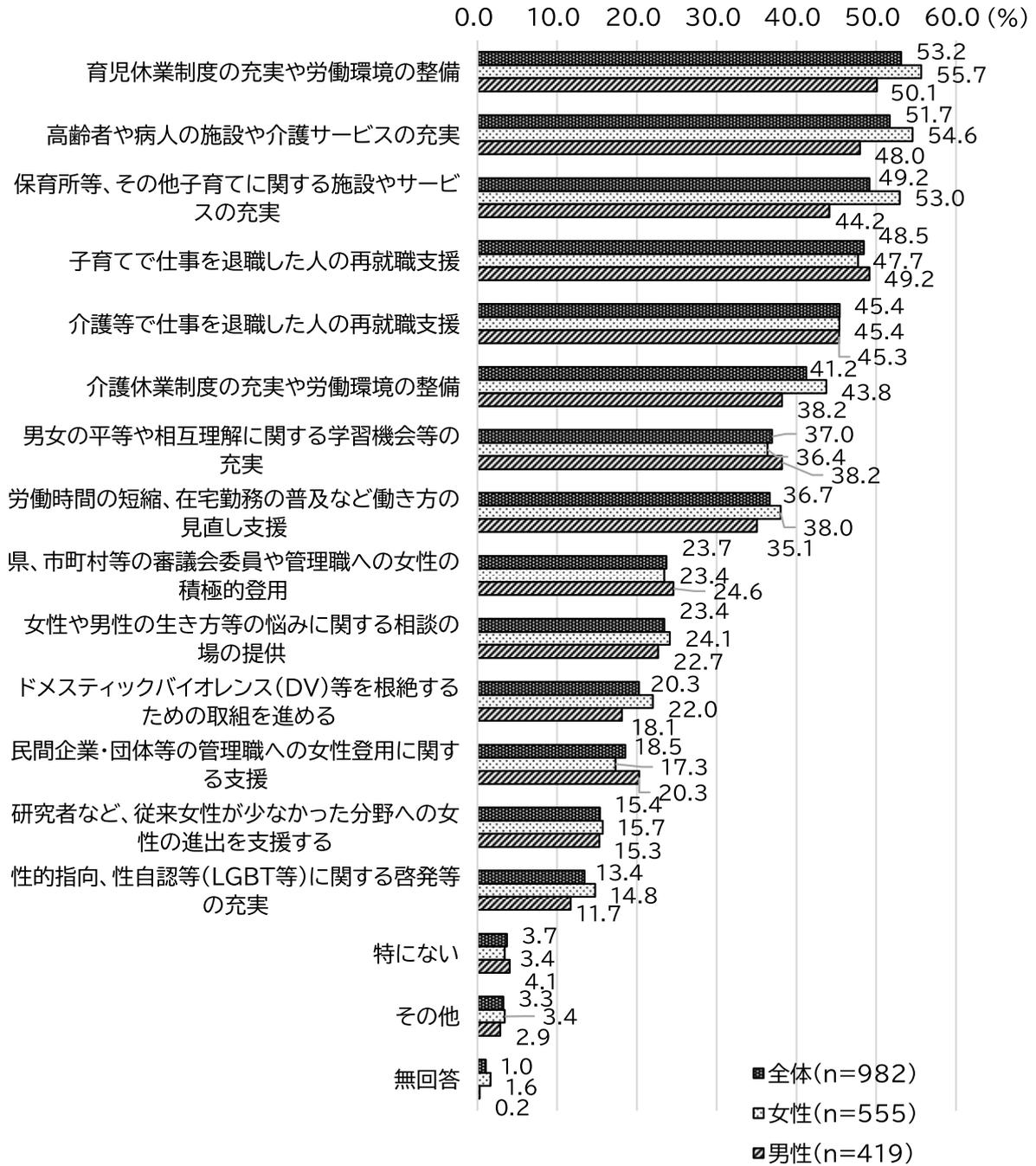
男女共同参画を進めていくために行政が力を入れることについては、「育児休業制度の充実や労働環境の整備」が53.2%と最も高く、次いで「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」51.7%、「保育所等、その他子育てに関する施設やサービスの充実」49.2%となった。

性別で見ると、女性は上位3つとも全体と回答の多い順は変わらず、どれも半数以上の女性が回答していた。男性は、「育児休業制度の充実や労働環境の整備」50.1%に次いで「子育てで仕事を退職した人の再就職支援」が49.2%となった。

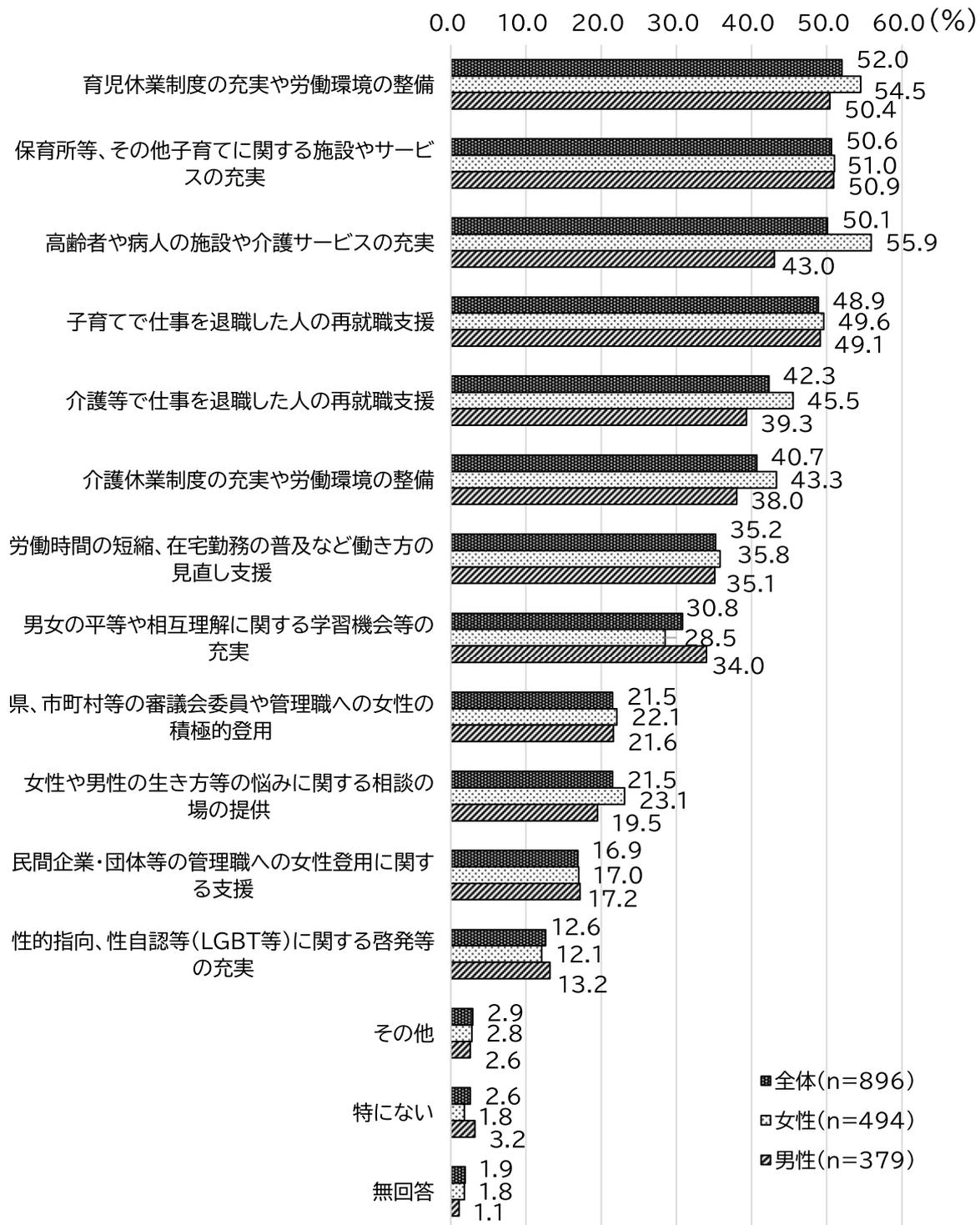
R元調査と比較すると、今回調査において追加となっている選択項目もあるが、R元調査同様、「育児休業制度の充実や労働環境の整備」が最も高く、上位6項目は変わらなかった。

問 17 男女共同参画を進めていくために、行政が力を入れるべきことは何だと思われますか。  
(〇はいくつでも)

図7-1 男女共同参画に関する行政への要望



比較 令和元年度島根県調査



回答の多かった上位3項目について、回答者の属性を示す。

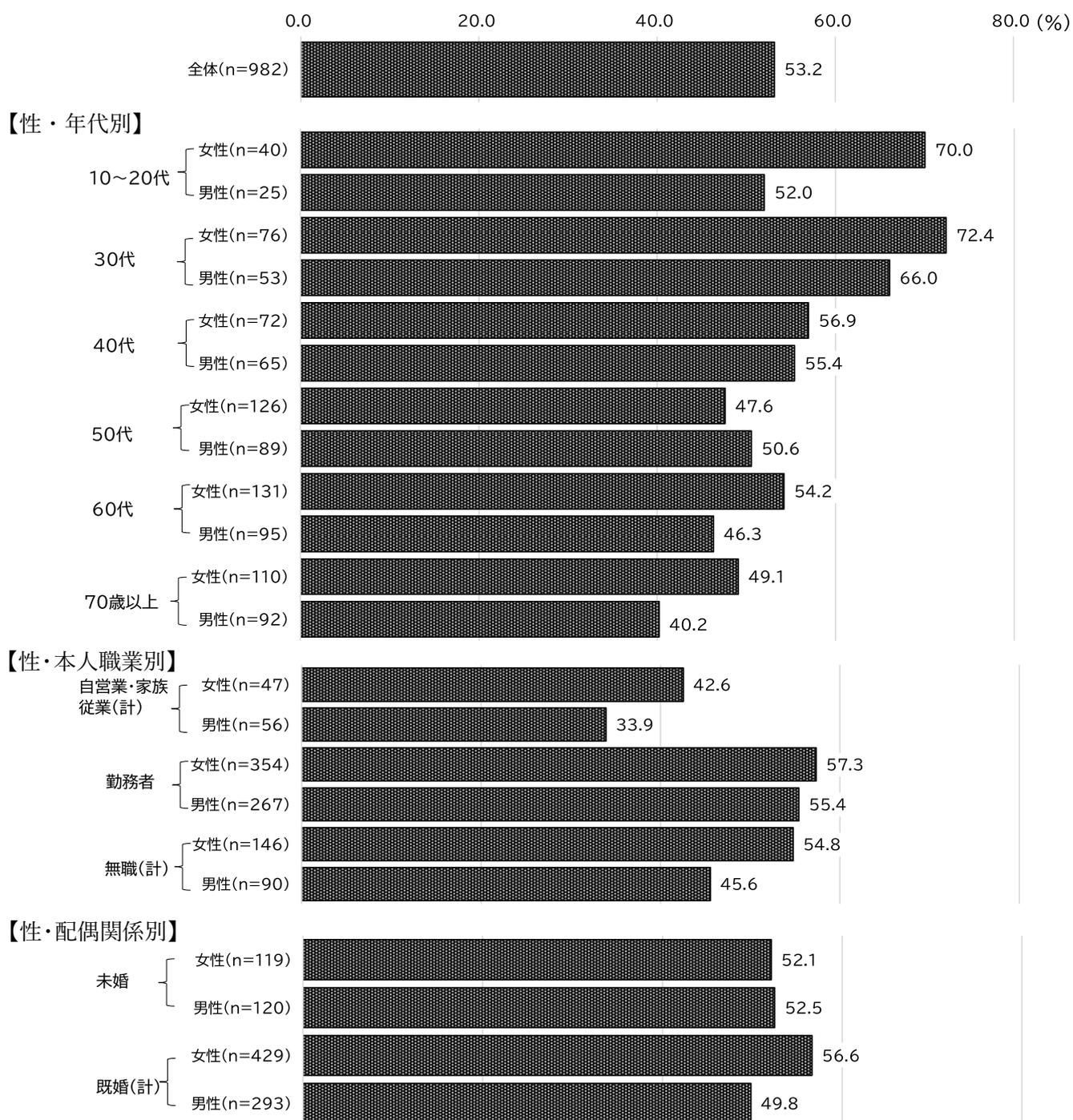
### ○育児休業制度の充実や労働環境の整備

性・年代別に見ると、30代女性が72.4%と最も回答割合が高く、次いで10～20代女性70.0%、30代男性66.0%と若い世代の回答割合が高かった。特に10～20代女性では、男性より18ポイント高かった。

性・本人職業別に見ると勤務者の女性57.3%、勤務者の男性55.4%、無職（計）の女性が54.8%となった。

性・配偶関係別に見ると、既婚（計）の女性が56.6%、次いで未婚の男性52.5%、未婚の女性52.1%となった。

図7-1-1 育児休業制度の充実や労働環境の整備



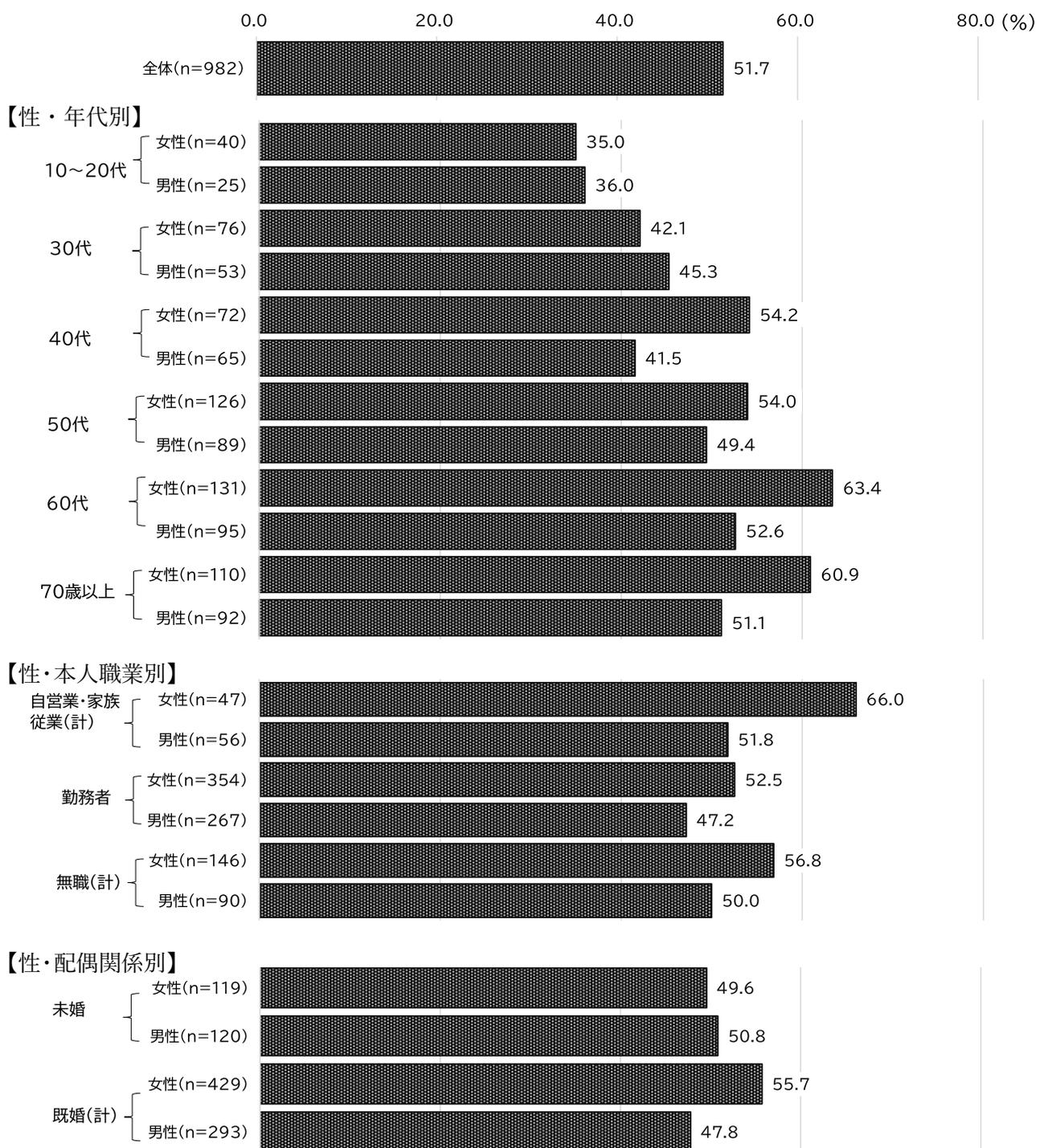
## ○高齢者や病人の施設や介護サービスの充実

性・年代別に見ると、60代女性が63.4%と最も回答割合が高く、次いで70歳以上女性60.9%、40代女性54.2%、50代以上50.0%と「育児休業制度の充実や労働環境の整備」と異なり高齢世代の回答割合が高く、また全ての年代において、女性の方が男性よりも高かった。

性・本人職業別に見ると自営業・家族従業（計）の女性66.0%、無職（計）の女性56.8%、勤務者の女性52.5%と女性の回答割合が高く、特に自営業・家族従業（系）では、女性と男性の差が14.2ポイントと大きかった。

性・配偶関係別に見ると、既婚（計）の女性が55.7%、次いで未婚の男性50.8%、未婚の女性49.6%となった。

図7-1-2 高齢者や病人の施設や介護サービスの充実



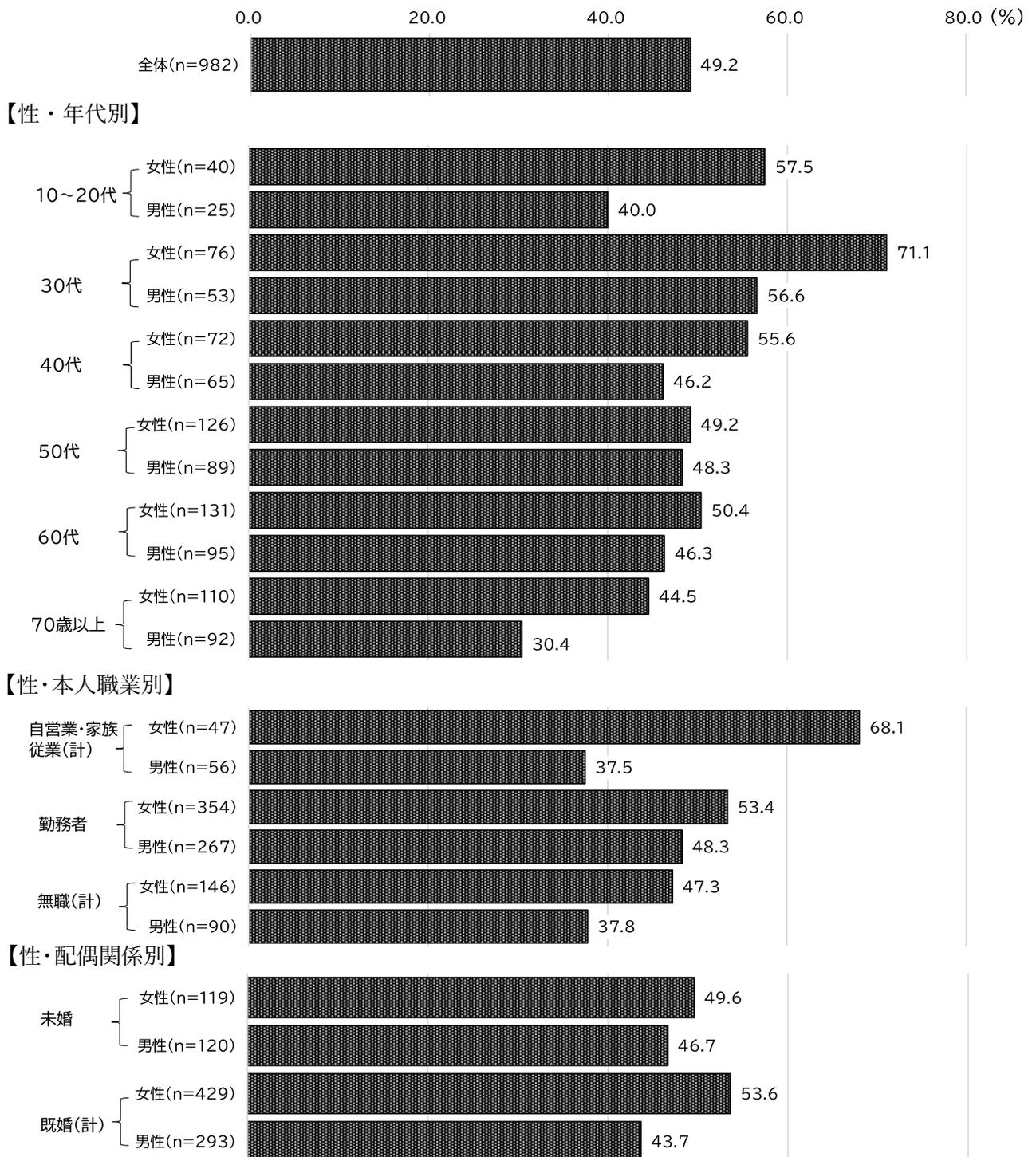
## ○保育所等、その他子育てに関する施設やサービスの充実

性・年代別に見ると、30代女性が71.1%と最も回答割合が高く、次いで10~20代女性57.5%と、30代以下の女性の回答が多く見られた。

性・本人職業別に見ると自営業・家族従業（計）の女性68.1%、勤務者の女性53.4%、勤務者の男性48.3%であった。特に自営業・家族従業（計）の女性の回答割合が高く、男性との差は30.6ポイントと大きかった。

性・配偶関係別に見ると、既婚（計）の女性が53.6%、次いで未婚の女性49.6%、未婚の男性46.7%と、男性に比べて女性の回答が多く見られた。

図7-1-3 保育所等、その他子育てに関する施設やサービスの充実



## 第7章 男女共同参画に関する制度や機関について

### 1.男女共同参画に関する制度等の認知度

- 認知度が高いのは「男女雇用機会均等法」が78.8%と高く、認知度が低いのは「第4次島根県男女共同参画計画」が21.8%となっている。

男女共同参画に関する用語等の認知度については、①概要を知っていると回答した割合が最も高かったのは、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）」27.9%で、②名称を聞いたことはあると合わせ、知っている（①+②）78.8%と8割近い回答であった。

次いで、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」を知っている割合は77.1%、「島根県立男女共同参画センター（あすてらす）」を知っている割合は61.7%であった。

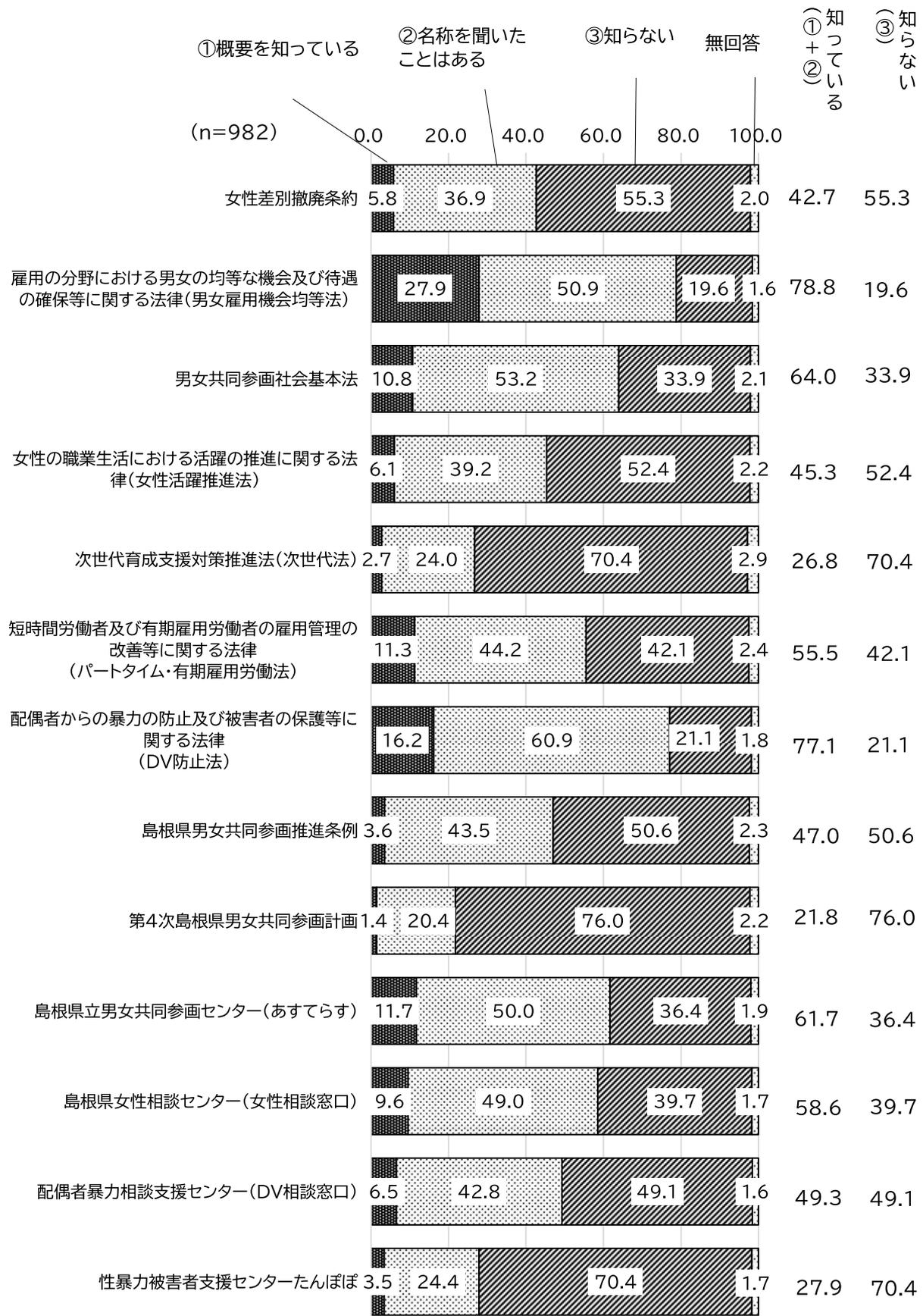
一方、③知らないと回答した割合が高かったのは、「第4次島根県男女共同参画計画」76.0%、「次世代育成支援対策推進法（次世代法）」、「性暴力被害者支援センターたんぼぼ」70.4%であった。

R元調査と比較すると、選択肢がなくなった項目もあるため、今回調査にもある項目のみで見ると、最も認知度が高いのはR元調査と同様、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）」であった。また、「短時間労働者及び有期雇用労働者の雇用管理の改善等に関する法律（パートタイム・有期雇用労働法）」について、知っていると回答した割合はR元調査は51.0%であったが、今回調査では55.5%と4.5ポイント増加した。

また、男女で比較すると、「島根県立男女共同参画センター（あすてらす）」、「島根県女性相談センター（女性相談窓口）」、「配偶者暴力相談支援センター（DV相談窓口）」、「性暴被害者支援センターたんぼぼ」といった相談窓口については、男性に比べて女性が知っているという回答した割合が高かった。

問 18 男女共同参画に関する次の制度や機関について知っていますか。(〇それぞれ1つずつ)

図8-1 男女共同参画に関する用語等の認知



比較 令和元年度島根県調査

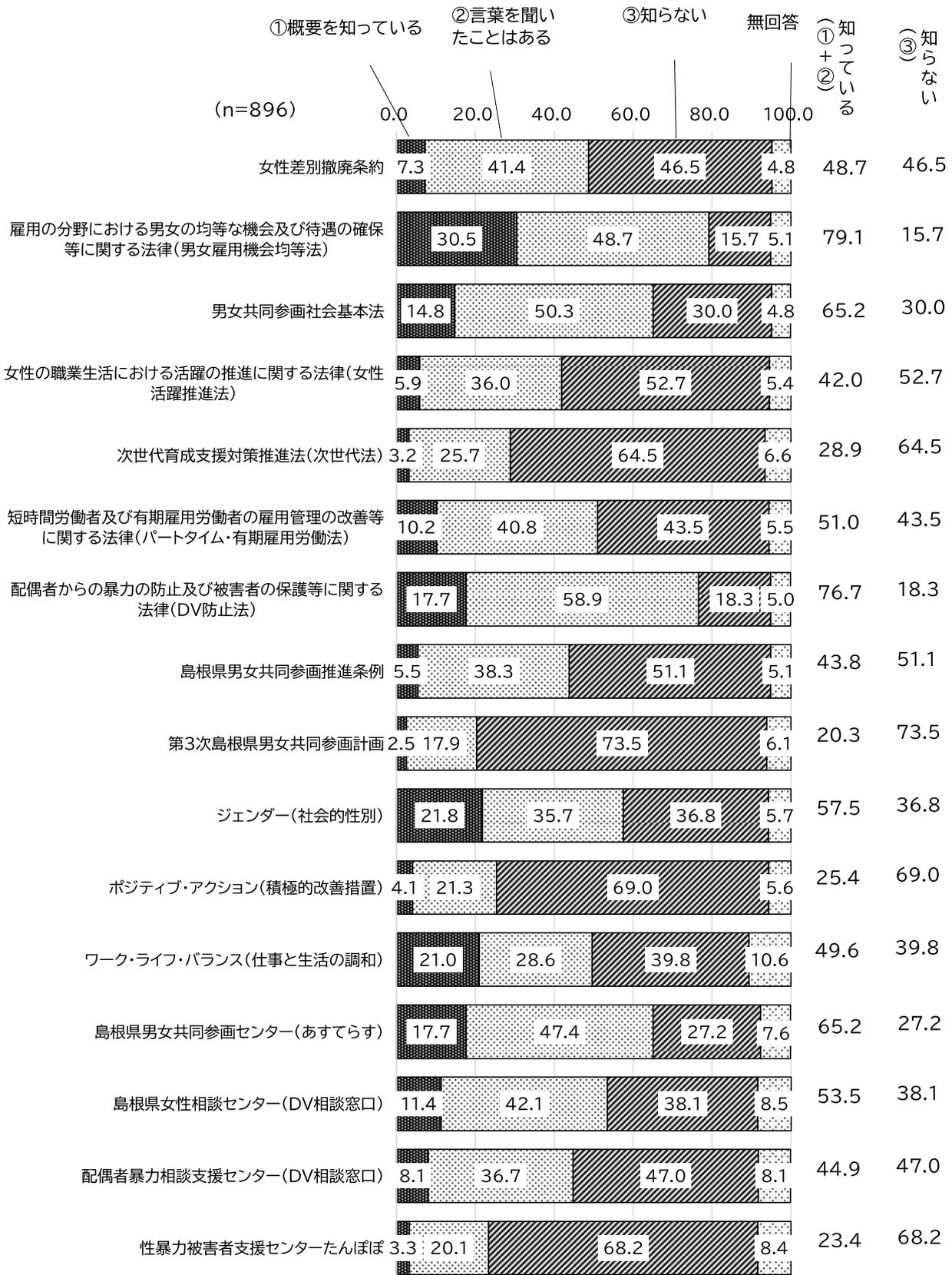
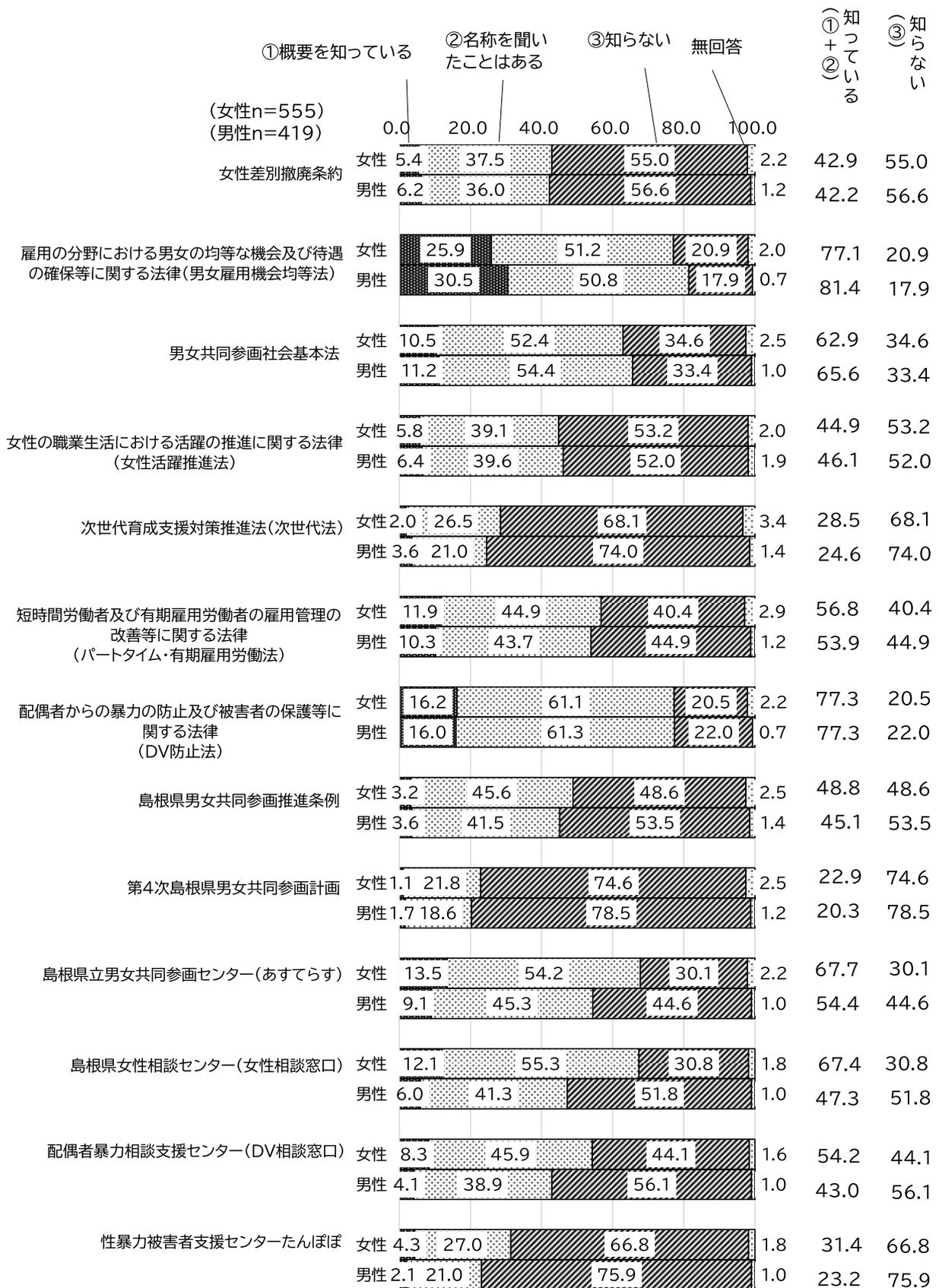


図8-1-1 男女共同参画に関する用語等の認知(性別)



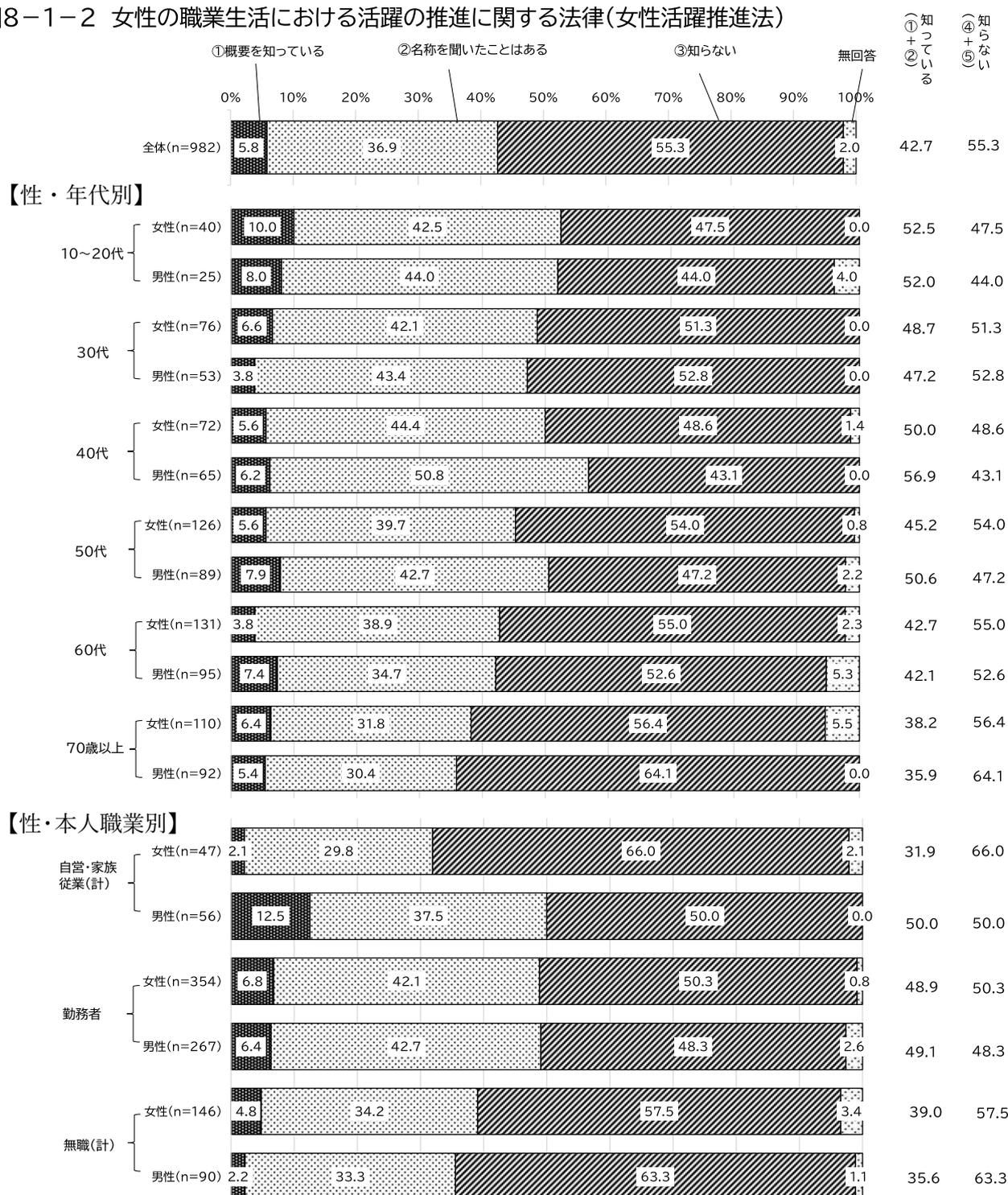
回答の多かった上位3項目について、回答者の属性を示す。

### ○女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)

性・年代別に見ると、①概要を知っていると回答した割合が高いのは10～20代女性10.0%、次いで10～20代男性8.0%、50代男性7.9%であった。①概要を知っている②名称を聞いたことはある、を合わせて知っている(①+②)と回答した割合が高いのは、40代男性56.9%、10～20代女性52.5%、10～20代男性52.0%となった。

性・本人職業別に見ると、①概要を知っていると回答した割合が高いのは自営・家族従業(計)の男性12.5%で、知っていると回答した割合は50.0%と半数以上の回答があった。

図8-1-2 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)

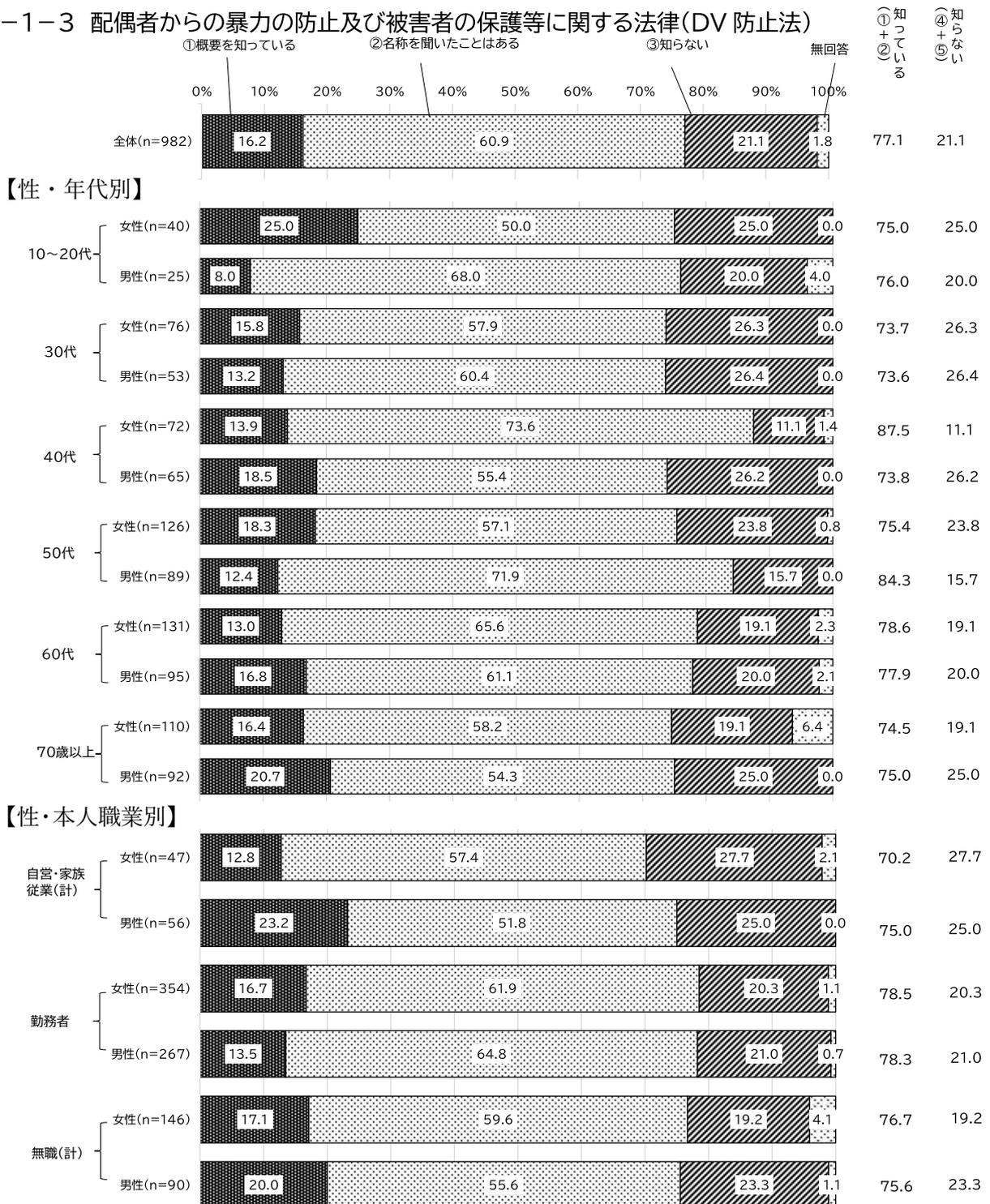


## ○配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)

性・年代別に見ると、①概要を知っていると回答した割合が高いのは10～20代女性25.0%、次いで70歳以上男性20.7%、40代男性18.5%であった。①概要を知っている②名称を聞いたことはある、を合わせて知っている(①+②)と回答した割合が高いのは、40代女性87.5%、次いで50代男性84.3%、60代女性78.6%となっている。

性・本人職業別に見ると、①概要を知っていると回答した割合が高いのは自営・家族従業(計)の男性23.2%、次いで無職(計)の男性20.0%、知っていると回答した割合が高いのは勤務者の女性78.5%、勤務者の男性78.3%であった。

図8-1-3 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)

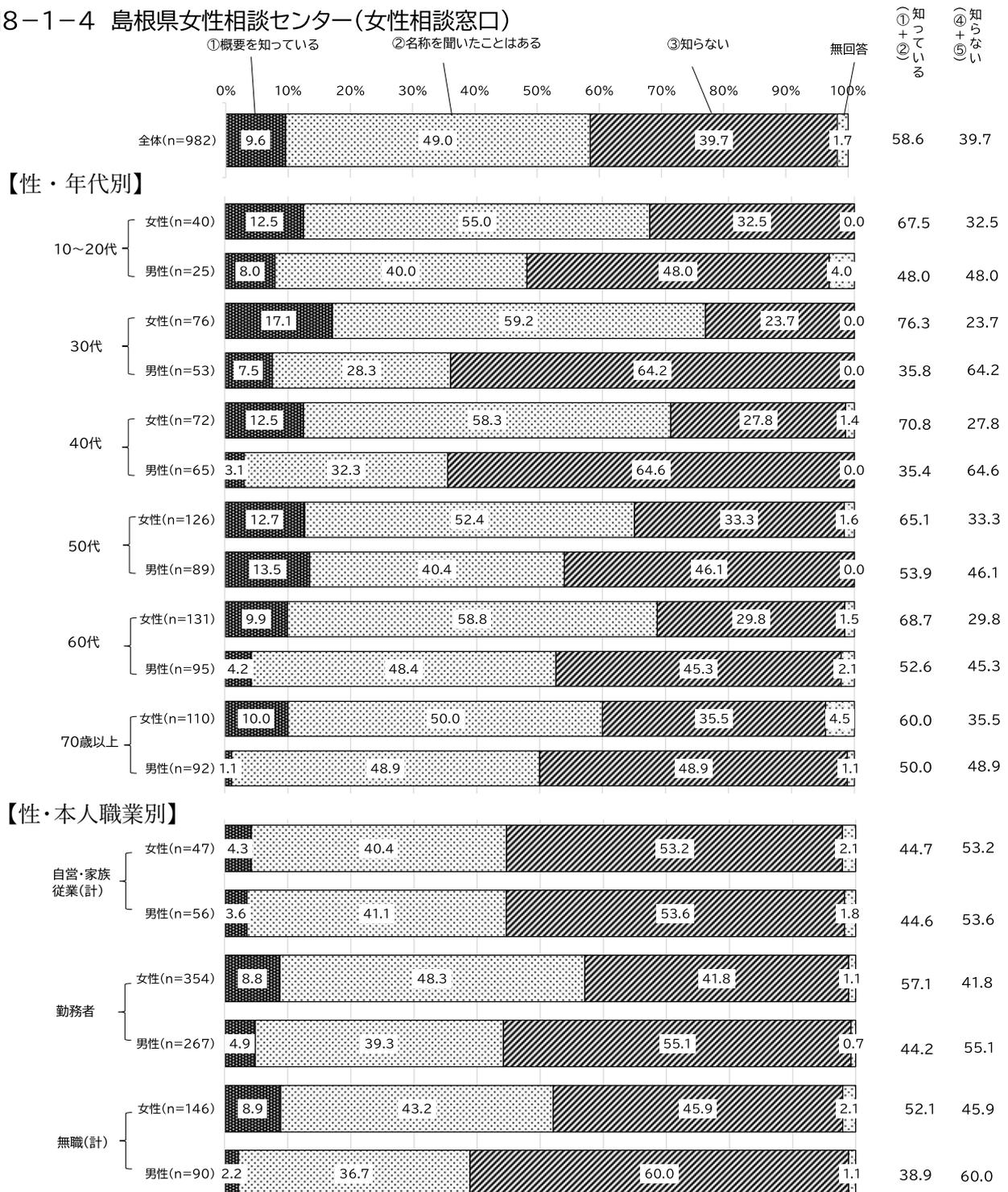


○島根県女性相談センター(女性相談窓口)

性・年代別に見ると、①概要を知っていると回答した割合が高いのは30代女性17.1%、次いで50代男性13.5%、50代女性12.7%であった。①概要を知っている②名称を聞いたことはある、を合わせて知っている(①+②)と回答した割合が高いのは、30代女性76.3%、次いで40代女性70.8%、60代女性68.7%となっている。

性・本人職業別に見ると、①概要を知っていると回答した割合が高いのは無職(計)の女性8.9%、次いで勤務者の女性8.8%、知っている割合が高いのは勤務者の女性57.1%、無職(計)の女性52.1%であった。

図8-1-4 島根県女性相談センター(女性相談窓口)



## IV 自由回答



女性を取り巻く問題の解決や男女共同参画社会の実現に関する自由意見について、有効回収数 982人のうち177人（女性100人、男性74人、その他の性自認1人、無回答2人）から回答を得た。

内容に応じ、分類を行った結果は以下のとおりである。

この中から、主な意見を掲載している。

分類	件数
(1)男女共同参画社会の実現について	17 件
(2)男女の人権、女性差別、男性への逆差別について	35 件
(3)性差、性別役割、性別分業について	28 件
(4)女性自身の意識改革、努力を促すもの	3 件
(5)職場のあり方について	14 件
(6)仕事と家族の関わり、ワーク・ライフ・バランスについて	4 件
(7)家庭・夫婦のあり方について	4 件
(8)少子・高齢化や子育てとの関わりについて	4 件
(9)教育のあり方について	9 件
(10)地域活動、地域のしきたり・慣習について	5 件
(11)女性の登用、政策・方針決定過程への進出について	5 件
(12)暴力・セクハラ、性の商品化について	5 件
(13)行政への意見、要望、提言	32 件
(14)その他	12 件
合計	177 件

### (1)男女共同参画社会の実現について

- 個人ひとりひとりの意識や考えの改善も必要だが、社会全体が考え方を变えて、支え合おうという思いを持つことが大切だと思う。
- 私たち世代の人間が当たり前を受けてきたことが、Noと言える時代になって良かった。
- 女性が働くということは良いことだが、家庭を守るなど、家庭で子育てをすることも大切な仕事だと思う。
- 女性登用の割合を数字上で向上させても意味が無い。本人が希望しなかったり能力がない者を管理職にして数字を上げることにずっと疑問を感じていた。女性でも男性でも意欲と能力がある者を登用してこそ、平等なのでは。
- 男性の意識改革が必要だと考えるが、なかなか進まない印象。初めは行動としてスタートしながらの方が良いかもしれない。家事、育児をしっかりと試してみても多くあると思う。
- 都会では実現されているのですが、田舎では封建的なのではないかと思う。

### (2)男女の人権、女性差別、男性への逆差別について

- 家事、育児、介護が女性の仕事という昔の考えがもっと減ると良いと思う。
- 「女性はいずれ結婚するから高度な技術や教育は不要」などという思考は時代錯誤の極みであろう。しかし逆に大学や企業でむやみやたらと「女性枠」を設けるのも否定したい。但し婦人医療や子育て問題など、女性の存在抜きには理論展開できないものを除く。
- 女性、男性と区別するのではなく、本人の意向が尊重できるような社会になると良いと思う。

- 女性は子どもを産みたいし、男性は家族を養いたい。基本的に皆そうだと思う。不必要な女性も仕事しろという圧力に対して、私はものすごく嫌な思いがしている。
- 古い考えが直せなくても、考えたり知るきっかけづくりは必要。
- 世代間ギャップがある。若い世代がやろうとしてもそれを許さない風潮は、その上の世代が作っている可能性がある。みんながそれぞれの考えや行動を尊重できる風土が島根にもあるとよい。
- 海外をモデルにするといいかもしれない。また、そもそも男性、女性よりも日本人としての本質を変えていくことも必要かもしれない。真面目に働く、勤勉など、昔の固定概念に囚われているから男性は仕事、女性は家みたいなことにもつながっているかもしれない。
- 特に 50 代以上の男性の潜在意識（男尊女卑に近い又は準ずる）を根本から変えないといけないと思う。その年代は役職についている人も多い。

### (3)性差、性別役割、性別分業について

- DV に関しては決して許されることではないため、被害ゼロの社会を目指して行くべきと考えるが、家事・育児に関しては男性より女性の方がうまくいくこともあるように感じる（生物学的にも）。
- 女性しか妊娠はしないし、子どもは産めない。それは大切なことで、男女平等という訳にはいかないが、妊娠は仕事に迷惑をかけるという考えをなくし、社会や家族が協力できる体制にすることが出生率を上げて子どもを増やすことに繋がると思うので、育児・家事をもっと男性ができる環境にすることが大切だと思う。
- 女性は仕事をしながら子ども・家庭のことをし、男性がそれをしないで仕事（残業）をしているのがうらやましかった。それだけ女性の日々の負担は大きい。特に家庭での男性の意識が変わらない限り女性は安心して仕事できないし、子どもも産まない。男女平等の意味が違う。
- 職場を見ていると 20~30 才代の男性は家事、育児に参加する割合が増えていると感じる。現状をすぐに変えることは困難だと思うので、義務教育の中で家事、子育てのスキルを家庭科などで伝えてほしい。次世代がよい社会になるのを優先した方がいい。

### (4)女性自身の意識改革、努力を促すもの

- 男女平等社会を実現するには、女性も自分の能力を高める努力が必要と思う。
- 女性側でも男性を上に乗くという考え方が残っている。皆の意識を同じ方向に持って行くには、若い世代の意識や認識を変えていくことから力を入れていった方がよいと思う。

### (5)職場のあり方について

- パートタイム、有期雇用の職員への正職員の対応があまりにも理解のない人が多い。同じ仕事をするチームとしての考えがなく、研修も受けることができない。それなのに同じ仕事をしていくためには、自分で知識を付ける必要があり、それを分からないと言える立場でなく、自分でとなる。研修は平等に受けさせて欲しい。
- 女性が子育てに労力を費やしているのはとても理解している。そんな厳しい条件の中、職場でも活躍していただきたい気持ちはあるものの、ちょっとした熱での保育園からの呼び出しや通園の制限など保育園側の対応があまりにも過敏過ぎて、職場でも対象社員に仕事を任せていいのかどうかとても躊躇してしまう。それに後ろめたさを感じている女性は多い。
- 特に性周期に関して、男、女別々で授業を受けるとか廃止にしてほしい。理解がない人が多すぎる。生理休暇を大学レベルにも取り入れてほしい。
- どうしても家族の病気などで休むことが多いのは女性になってしまうので、男性も休める職場環境になるといいと思う。
- 男性の育児休暇取得は義務化すること。

## (6)仕事と家族の関わり、ワーク・ライフ・バランスについて

- 働く意欲も能力もあるが、子どもを育てている間は休みや時間が会社との時間軸のずれが大きすぎてモチベーションが下がる。働き続けたい気持ちはもちろんあるが、家庭と仕事でのバランスが難しい。仕事の代わりはいるが、家庭での代わりはいないので仕事を諦めざるを得ない。もっと子育て世代への柔軟な勤務ができる会社の努力義務を大企業だけでなく中小企業にもするよう強く呼びかけて欲しい。
- 全ての女性が男性と同じようにとは思っていないと思う。何を優先にするかによって働き方も変わってくる。それぞれのライフスタイルによって家庭、仕事等での男女平等というのは変わってくると思う。

## (7)家庭・夫婦のあり方について

- 女性の社会進出も重要ですが、それと同程度に男性が家庭に入る、主夫になることが容認されるような社会にしてほしい。それが“平等”だと思う。
- 私達の年代では、まだまだ男性優位の地域性が残っているが、自分の家の介護や個人の病気等があれば協力してさまざまな事をやっていかないと家庭が成り立っていかない。年齢を重ねていくとお互い思いやりを持って互いに協力し合って生活していきたい。

## (8)少子・高齢化や子育てとの関わりについて

- 私が結婚・出産の頃は、マタニティハラスメントがひどく、安心して仕事を休んで病院に行ったりすることができなかった。育休も大変取りづらく、上司の顔をうかがってびくびくしていた。今、息子達の子育てを近くで見ていると、夫婦で協力して楽しく子育てをしているように思う。色々な制度が充実していて、何かあれば仕事を休ませてもらったり、家でできる仕事にしてもらったり、子育てするのに良い時代になったと思う。
- 私は古い人間なので特に思うが、女性の社会進出が少子化に拍車をかけていると思う。女性の所得が上がっている、結婚しなくても生きていけるようになって来ているのが、未婚女性増加の最大の原因であると断言できると思う。

## (9)教育のあり方について

- どんなに制度を充実しても、なかなかこれでよしということにはならないと思う。個人が違うように事案も違う。親から子へ何度も何度も話をする。成長した時、「親が何か言っていたなあ」そんな環境があるといい。家庭、地域、学校が一体となって取り組む環境が欲しい。
- 男性および女性共に昔からの既成概念について改めるものは改めながら、それぞれが意識を改革していかないと実現困難と思っている。この意識については、教育段階から子どものうちに意識づけすることで、大人になってからうまくいくようになるように思われる。

## (10)地域活動、地域のしきたり・慣習について

- 都市部に比べ農村部（田舎）では、今だに男性の方が地位が高く女性もそれを容認している傾向がある。農村部の過疎化を食い止める意味でも女性の地位向上が望まれる。
- 島根県はまだまだ女性に対して閉鎖的だと思う。
- 昔からの風潮が取り切れない世の中だと思う。町内会長は男性がやるもの、女性は料理ができて当たり前。人々が口にすることはないけど、世間全体がそのような流れになっている。

## (11)女性の登用、政策・方針決定過程への進出について

- 上司が女性の会社がまだ少ない状態なので、もっと上の立場の人が女性採用を多くすることが1番だと思った。
- 各組織団体の役員構成や委員は男性中心となっている。

## (12)暴力・セクハラ、性の商品化について

- 私の周囲には未だに女性に触る様な男性もいる。しかし、今ではその行為を直接指摘する女性も出てきている。少しずつだけれど社会が少しずつ変わってきているように感じる。ただ、これはまだほんの一部だと思う。女性の方ももっともっと声を出していける社会になって欲しいし、そういう会社（職場）が増えてくる環境が望ましい。
- メディアで拝見するが、DV相談で警察相談しても結局、命を落とされる女性が多いのはとても残念。犯罪、事故が多い世の中なので大変。

## (13)行政への意見、要望、提言

- 子育て中、特に小学低学年までの子ども達の病気や親の都合があった場合、近くに祖父母、又は面倒を見てくれる人がいない場合、安心出来る制度があれば良いと思う。
- 出産に伴う社会復帰に関する法整備をさらに推し進めていくとともに、既存人員への配慮など、両方向の側面から支援が求められる。
- 男女共に安心して働けるには、子どもの居場所（預ける所）がないといけませんが、小学4年からは保護者がいないのに、放課後児童クラブなどに入れない場合が多い。又、受け入れ体制にも問題（子どものニーズに合っていない）がある。いろんな意味で充実がほしい。ここ半世紀で随分と良くなっているが、逆に団塊世代、ジュニアの時に充分先を見越しての政策をしてこなかったつけが出ています。
- 交代制勤務を要するため、働きたいと思っている人が働けない就業環境にある。そういったことを、県独自の制度を持って改善することで、女性が働きやすくなり、優秀な人材を管理職などに登用できるのではないかと感じる。
- インターネットを活用した各種相談、窓口のPR。
- 島根県は共働き率が高いと聞いている。そんな中で福祉的な面が充実しなければ女性のキャリアアップも難しいのかもしれない。
- 法律があってもそれを相談する窓口が入りづらい場所だったり相談しづらい場所が多い。
- 男女共同参画に関することについてもっとPRしてほしい。職場での男女共同参画が叫ばれているが、管理職（行政も民間も）の認識が薄い気がする。
- 行政、国、地方共々、男女平等に働けることを目指しているようですが、その本質が十分に伝わっていないのではと思う。その状況下で色々な法律、施設があったところで期待できる効果は発揮しないと思うので、まずは目的、道理を十分に説明、こうなることを期待しているといった考えを共有することがスタートではないかと思う。
- 行政のいろいろな取り組みがあるのを知らなかった。討論会の開催を地区のコミュニティでやればと思う。
- 国会議員、県、市など男性の割合が多い。年配の方の意識改革が必要かと思う。

## (14)その他

※男女共同参画や女性を取り巻く問題とは関連のない記述のため省略

## V 参考資料

(単純集計数値入り調査票)



令和7年度  
男女共同参画に関する県民の意識・実態調査  
調査票

■男女の役割などについておうかがいします。

(全員の方に)

問1 次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(n=982)

(○はそれぞれ1つずつ)

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	平等	女性の方が 優遇されている	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	無回答
(1) 家庭生活で	8.8	49.9	33.1	6.5	1.0	0.7
(2) 職場で	8.4	46.1	34.9	7.6	1.5	1.4
(3) 学校教育の場で	2.0	19.9	69.7	4.5	0.5	3.5
(4) 政治の場で	33.0	49.2	12.8	2.4	0.5	2.0
(5) 法律や制度上で	10.3	39.2	37.2	9.7	1.2	2.4
(6) 社会通念・慣習・しきたりなどで	22.8	59.0	13.7	2.2	0.4	1.8
(7) 地域活動で	9.8	43.5	35.1	9.2	0.4	2.0

(全員の方に)

問1-2 では、社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(○は1つ)

(n=982)

9.0	男性の方が非常に優遇されている
67.3	どちらかといえば男性の方が優遇されている
17.3	平等
4.8	どちらかといえば女性の方が優遇されている
0.9	女性の方が非常に優遇されている
0.7	無回答

(全員の方に)

問2 次にあげることがらについて、あなたはどのように思いますか。(n=982)

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	無回答
(1) 男は外で働き、女は家庭を守るべきである	1.6	17.8	26.7	53.4	0.5
(2) 自治会などの団体の代表者は、男性の方がうまくいく	10.5	35.9	20.4	32.7	0.5
(3) 女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ	15.6	32.0	22.1	29.7	0.6
(4) 子育ては、やはり母親でなくてはと思う	7.7	38.9	19.8	32.8	0.8
(5) 家事、介護は女性の方が向いていると思う	6.0	34.6	24.6	34.2	0.5

■女性の社会参画についておうかがいします。

(全員の方に)

問3 あなたは、県の政策について女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。(〇は1つ) (n=982)

- |      |                  |       |         |
|------|------------------|-------|---------|
| 3.5  | 十分反映されている        | _____ | ▶ 問4△   |
| 48.8 | ある程度反映されている      | _____ |         |
| 40.8 | あまり反映されていない      | _____ | ▶ 問3-2△ |
| 3.6  | ほとんど(全く)反映されていない | _____ |         |
| 3.4  | 無回答              |       |         |

(問3で「3.あまり反映されていない」「4.ほとんど(全く)反映されていない」と答えた方に)

問3-2 県の政策に女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由は何ですか。(〇は1つ) (n=436)

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 36.9 | 県議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから   |
| 11.5 | 県の審議会などの委員に女性が少ないから             |
| 25.0 | 女性の意見や考え方に対して県議会や行政機関の側の関心が薄いから |
| 7.1  | 女性からの働きかけが十分ではないから              |
| 7.6  | 女性の意見や考え方が期待されていないから            |
| 7.1  | 女性自身の関心が低いから                    |
| 2.8  | その他(具体的に: _____)                |
| 2.1  | 無回答                             |

■女性と仕事についておうかがいします。

(全員の方に)

問4 一般的に女性と仕事について、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ) (n=982)

- |      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 0.2  | 女性は仕事に就かない方がよい                   |
| 0.8  | 結婚するまでは、仕事を続ける方がよい               |
| 5.0  | 子どもができるまでは、仕事を続ける方がよい            |
| 61.0 | 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい            |
| 17.6 | 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい |
| 13.2 | その他(具体的に: _____)                 |
| 2.1  | 無回答                              |

(全員の方に)

問5 一般的に、女性が働き続けていくことについて、現在どのような状況にあると思いますか。(〇は1つ) (n=982)

- |      |                 |       |         |
|------|-----------------|-------|---------|
| 5.2  | 働き続けやすい         | _____ | ▶ 問6△   |
| 33.1 | どちらかといえば働き続けやすい | _____ |         |
| 48.6 | どちらかといえば働き続けにくい | _____ | ▶ 問5-2△ |
| 10.6 | 働き続けにくい         | _____ |         |
| 2.5  | 無回答             |       |         |

(問5で「3.どちらかといえば働き続けにくい」「4.働き続けにくい」と答えた方に)

問5-2 女性が働き続けていく上で、障害となっているのはどのようなことだと思いますか。

(○はいくつでも)

(n=581)

- |      |                               |
|------|-------------------------------|
| 39.6 | 昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある     |
| 36.7 | 結婚・出産退職の慣行がある                 |
| 55.2 | 短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い |
| 14.3 | 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある          |
| 12.7 | 女性は補助的な仕事しか任せてもらえない           |
| 34.8 | 長時間労働や残業がある                   |
| 17.0 | 職場でのセクシュアル・ハラスメントがある          |
| 59.6 | 育児施設が十分でない                    |
| 39.6 | 介護施設が十分でない                    |
| 29.4 | 家族の理解や協力が得にくい                 |
| 7.6  | 女性自身の知識や技術が不足している             |
| 11.4 | 女性自身に働き続けようという意欲が不足している       |
| 8.3  | その他(具体的に: _____)              |
| 0.2  | 無回答                           |

■仕事、家庭生活、地域・個人の生活についておうかがいします。

以下の質問における用語の意味は次のとおりです。

○「仕事」

自営業主(農林漁業を含む)、家族従業者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤(フルタイム)、パート、アルバイト、嘱託などは問わない。

○「家庭生活」

家族と過ごすこと、家事(食事のしたく・かたづけ、掃除、洗濯、買い物など)、育児、介護・看護など。

○「地域・個人の生活」

地域・社会活動(ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど)、学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなど。

○「休養」

休養、睡眠、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などでくつろぐことなど。

(全員の方に)

問6 生活の中での、仕事と家庭生活または地域・個人の生活の優先度について、お聞かせください。

まず、あなたの希望に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

(n=982)

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 2.7  | 「仕事」を優先したい                      |
| 18.4 | 「家庭生活」を優先したい                    |
| 5.5  | 「地域・個人の生活」を優先したい                |
| 37.6 | 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい            |
| 6.7  | 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい        |
| 11.8 | 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい      |
| 16.0 | 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい |
| 1.2  | 無回答                             |

(全員の方に)

問6-2 それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。

(○は1つ)

(n=982)

23.7 「仕事」を優先している
20.3 「家庭生活」を優先している
4.9 「地域・個人の生活」を優先している
28.5 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5.9 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8.6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7.3 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
0.8 無回答

(全員の方に)

問7 あなたは次のことがらに十分時間はとれていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

(n=982)

	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	全く取れていない	無回答
(1) 家庭生活のための時間	22.1	55.8	19.0	2.2	0.8
(2) 地域・社会活動に参加する時間	5.7	34.9	40.2	16.5	2.6
(3) 学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどのための時間	10.7	41.3	35.7	9.8	2.4
(4) 休養のための時間	14.2	46.0	31.3	6.2	2.3

(配偶者(事実婚、パートナー等を含む)のいらっしゃる方に。いらっしゃらない方は問9へ)

問8 家庭の中で次の仕事はどなたが担当されていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

(n=982)

	妻がすることが多い	妻と夫が同じ程度分担	夫がすることが多い	主に親や子どもなど夫婦以外	仕事はない	該当する	無回答
(1) 食事のしたく	56.3	6.0	3.2	2.5	1.6	30.3	
(2) 食事のかたづけ	44.0	15.2	6.9	1.8	1.3	30.8	
(3) 掃除	45.1	14.1	7.2	1.7	1.1	30.8	
(4) 小さい子どもの世話	24.6	11.0	1.1	1.3	27.8	34.1	
(5) 介護の必要な高齢者・病人の世話	17.1	7.0	3.4	0.9	37.1	34.5	
(6) 家庭における重大な事柄の決定	5.7	28.4	29.7	1.4	2.4	32.3	
(7) 地域活動への参加(自治会・PTAなど)	9.4	15.6	34.2	1.1	7.5	32.2	

(全員の方に)

**問9 島根県では女性に比べて男性の家事・育児・介護の時間が短い状況にあります。あなたは、男性の家事・育児・介護の時間が短いのはなぜだと思いますか。**

(○はいくつでも)

(n=982)

- 60.1 男性が長時間労働や休暇が取りづらい働き方をしているから
- 52.1 男性側に家事・育児・介護は女性がするべきものという意識があるから
- 36.4 「男は仕事、女は家庭」という社会的風潮があるから
- 24.7 職場や上司の理解がないから
- 28.5 男性は家事・育児・介護が苦手だから
- 18.6 家事・育児・介護は女性の方が向いているから
- 19.3 自治会など家庭外の地域活動を男性が担っているから
- 15.2 女性側に家事・育児・介護は男性に任せられないという意識があるから
- 4.3 その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
- 2.3 無回答

(全員の方に)

**問10 男性の家事・育児・介護への参画を進めるために行政が取り組むべきことは何だと思いますか。**

(○はいくつでも)

(n=982)

- 63.8 勤務先の働き方改革の推進
- 44.7 育児休業の義務化など制度の整備
- 44.7 男性の家事・育児・介護のスキルアップ支援
- 33.1 学校教育による理解促進
- 18.7 夫婦に対する普及啓発
- 28.0 上司・同僚に対する普及啓発
- 21.0 地域に対する普及啓発
- 21.7 夫婦の親世代に対する普及啓発
- 3.7 その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
- 3.6 無回答

■セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス(DV)についておうかがいます。

(全員の方に)

問11 セクシュアル・ハラスメント(性的ないやがらせ)による被害を経験したり見聞きしたことがありますか。(○は1つ) (n=982)

- 12.5 直接経験したことがある
- 18.8 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる
- 54.9 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている
- 9.7 セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)という言葉を知ったことはある
- 2.4 そういう言葉は今まで聞いたことがない
- 1.6 無回答

(全員の方に)

問12 配偶者(事実婚、パートナー等を含む)などふたりの間でふるわれる身体的・精神的・性的な暴力など(ドメスティック・バイオレンス(DV))が問題とされていますが、あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)による被害を経験したり見聞きしたことがありますか。(○は1つ) (n=982)

- 8.4 直接経験したことがある
- 18.8 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる
- 58.7 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている
- 9.3 ドメスティック・バイオレンス(DV)という言葉を知ったことはある
- 3.3 そういう言葉は今まで聞いたことがない
- 1.6 無回答

(問12で「1.直接経験したことがある」とお答えした方に伺います。)

問12-2 あなたはドメスティック・バイオレンス(DV)による被害を経験した際に、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも) (n=82)

- 4.9 女性相談支援センター(島根県女性相談センター等)の女性相談窓口にご相談した
- 2.4 配偶者暴力相談支援センター(島根県女性相談センター等)のDV相談窓口にご相談した
- 2.4 男女共同参画のための公的機関(男女共同参画センター等)にご相談した
- 6.1 警察にご相談した
- 3.7 上記1~4以外の公的な機関(市町村役場等)にご相談した
- 8.5 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、民間団体等)にご相談した
- 6.1 医療関係者(医師、看護師等)にご相談した
- 3.7 学校関係者(教員、養護教諭、スクールカウンセラー等)にご相談した
- 7.3 職場、アルバイトの関係者(上司、同僚、部下、取引先等)にご相談した
- 23.2 家族や親戚にご相談した
- 24.4 知人・友人にご相談した
- 1.2 その他、上記1~11以外の機関や人に相談した
- 50.0 どこ(だれ)にも相談しなかった
- 0.0 無回答

(全員の方に)

問13 ドメスティック・バイオレンス(DV)が起こる背景や要因は何だと思えますか。

(〇はいくつでも)

(n=982)

- 43.5 配偶者(事実婚、パートナー等を含む)間の暴力は、犯罪であり人権侵害であるという認識が低く、配偶者(事実婚、パートナー等を含む)に対する暴力を容認する社会通念があるから
- 29.4 例えば「男は外で働き、女は家庭を守るべき」など、男(女)はこうあるべきという決めつけた概念があるから
- 50.2 現代社会はストレスが大きいから
- 25.7 性別に対する差別的な意識が存在するから
- 2.1 暴力を振るわれる方に落ち度があるなど、配偶者(事実婚、パートナー等を含む)に暴力を振るわれても仕方ないから
- 27.7 家庭の経済的な環境(失業等)が悪化しているから
- 17.7 配偶者(事実婚、パートナー等を含む)間における経済力の格差があるから
- 34.7 配偶者(事実婚、パートナー等を含む)間におけるコミュニケーションがきちんと取れていないから
- 16.4 暴力的な表現の多いゲーム、テレビ、コミック、映画等が多いから
- 31.2 薬物依存、アルコール依存、ギャンブル依存の問題があるから
- 8.0 その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
- 1.7 無回答

(全員の方に)

問14 ドメスティック・バイオレンス(DV)は配偶者(事実婚、パートナー等を含む)間だけの問題ではなく、恋愛関係にある者の間でも同じような暴力(デートDV)が起きています。あなたは、デートDVによる被害を経験したり見聞きしたことがありますか。

(〇は1つ)

(n=982)

- 2.4 直接経験したことがある
- 8.8 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる
- 51.1 直接経験したことはないが、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている
- 14.0 デートDVという言葉聞いたことはある
- 21.9 そういう言葉は今まで聞いたことがない
- 1.8 無回答

(全員の方に)

問15 これまで、ドメスティック・バイオレンス(DV)またはデートDVについて、講座や研修等を受講したことがありますか。

(〇はいくつでも)

(n=982)

- 5.6 講座を受講したことがある
- 13.7 学校の授業や職場で研修を受けたことがある
- 20.2 テレビ番組やSNS(YouTube等)を見たことがある
- 17.8 書籍や新聞で読んだことがある
- 1.2 その他の方法
- 64.6 受講したことはない
- 0.9 無回答

(全員の方に)

問16 性犯罪、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス(DV)などをなくすためにはどうしたら良いと思いますか。

(○はいくつでも)

(n=982)

- |      |  |
|------|--|
| 51.2 | 法律・制度の制定や見直しを行う                              |
| 48.4 | 犯罪の取り締まりを強化する                                |
| 26.8 | 捜査や裁判での担当者などを被害者の性別に配慮した対応ができるようにする          |
| 16.1 | 被害者を支援し、暴力に反対する市民活動・市民運動を盛り上げる               |
| 52.9 | 被害者のための相談機関や保護施設などを整備する                      |
| 46.4 | 学校や家庭で男女平等や性についての教育を充実させる                    |
| 50.8 | あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる       |
| 19.3 | メディア(新聞・テレビなど)が自主的に倫理規定を強化する                 |
| 29.7 | 過激な内容の雑誌の販売等を制限したり、インターネット上の有害コンテンツ等の削除依頼をする |
| 4.0  | その他(具体的に: _____)                             |
| 1.1  | 特に対策の必要はない                                   |
| 1.0  | 無回答  |

■男女共同参画に関する行政への要望についておうかがいします。

(全員の方に)

問17 男女共同参画を進めていくために、行政が力を入れるべきことは何だと思われますか。

(○はいくつでも)

(n=982)

- |      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 37.0 | 男女の平等や相互理解に関する学習機会等の充実            |
| 49.2 | 保育所等、その他子育てに関する施設やサービスの充実         |
| 53.2 | 育児休業制度の充実や労働環境の整備                 |
| 51.7 | 高齢者や病人の施設や介護サービスの充実               |
| 41.2 | 介護休業制度の充実や労働環境の整備                 |
| 36.7 | 労働時間の短縮、在宅勤務の普及など働き方の見直し支援        |
| 48.5 | 子育てで仕事を退職した人の再就職支援                |
| 45.4 | 介護等で仕事を退職した人の再就職支援                |
| 23.7 | 県、市町村等の審議会委員や管理職への女性の積極的登用        |
| 18.5 | 民間企業・団体等の管理職への女性登用に関する支援          |
| 15.4 | 研究者など、従来女性が少なかった分野への女性の進出を支援する    |
| 23.4 | 女性や男性の生き方等の悩みに関する相談の場の提供          |
| 13.4 | 性的指向、性自認等(LGBT等)に関する啓発等の充実        |
| 20.3 | ドメスティック・バイオレンス(DV)等を根絶するための取組を進める |
| 3.3  | その他(具体的に: _____)                  |
| 3.7  | 特になし                              |
| 1.0  | 無回答                               |

■男女共同参画に関する制度や機関についておうかがいします。

(全員の方に)

問18 男女共同参画に関する次の制度や機関について知っていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

(n=982)

	知 つ て い る	概 要 を	こ と は あ る	名 称 を 聞 い た	知 ら な い	無 回 答
(1) 女性差別撤廃条約	5.8		36.9		55.3	2.0
(2) 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律(男女雇用機会均等法)	27.9		50.9		19.6	1.6
(3) 男女共同参画社会基本法	10.8		53.2		33.9	2.1
(4) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	6.1		39.2		52.4	2.2
(5) 次世代育成支援対策推進法(次世代法)	2.7		24.0		70.4	2.9
(6) 短時間労働者及び有期雇用労働者の雇用管理の改善等に関する法律 (パートタイム・有期雇用労働法)	11.3		44.2		42.1	2.4
(7) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	16.2		60.9		21.1	1.8
(8) 島根県男女共同参画推進条例	3.6		43.5		50.6	2.3
(9) 第4次島根県男女共同参画計画	1.4		20.4		76.0	2.2
(10) 島根県立男女共同参画センター(あすてらす)	11.7		50.0		36.4	1.9
(11) 島根県女性相談センター(女性相談窓口)	9.6		49.0		39.7	1.7
(12) 配偶者暴力相談支援センター(DV相談窓口)	6.5		42.8		49.1	1.6
(13) 性暴力被害者支援センターたんぼぼ	3.5		24.4		70.4	1.7

(全員の方に)

- ◆ 女性をとりまく問題の解決や男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、どんなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

■今までお答えいただいた回答を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについておたずねします。

(全員の方に)

問19 性別 (〇は1つ)

(n=982)

56.5	女性
42.7	男性
0.2	その他の性自認
0.6	無回答

(全員の方に)

問20 年齢(満年齢) (〇は1つ)

(n=982)

0.5	18～19 歳	3.4	20～24 歳	2.7	25～29 歳
6.8	30～34 歳	6.3	35～39 歳	5.4	40～44 歳
8.7	45～49 歳	13.1	50～54 歳	8.9	55～59 歳
11.3	60～64 歳	11.9	65～69 歳	10.4	70～74 歳
7.3	75～79 歳	2.9	80 歳以上	0.4	無回答

(全員の方に)

問21 お住まいの市町村 (〇は1つ)

(n=982)

29.2	松江市	8.6	浜田市	26.6	出雲市
6.6	益田市	4.8	大田市	5.6	安来市
3.5	江津市	5.6	雲南市	2.1	奥出雲町
0.7	飯南町	0.5	川本町	0.3	美郷町
1.5	邑南町	0.7	津和野町	0.8	吉賀町
0.2	海士町	0.6	西ノ島町	0.1	知夫村
1.4	隠岐の島町	0.5	無回答		

(全員の方に)

問22 あなたの現在のお仕事は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ) (n=982)

自営業主	{	3.0	農林漁業(農業、林業、畜産業、漁業など)
		3.2	商工サービス業(小売店、飲食店、理髪店、修理業など)
		1.5	自由業(弁護士、開業医、芸術家、僧職など)
家族従業者	{	0.9	農林漁業(農業、林業、畜産業、漁業など)
		1.3	商工サービス業(小売店、飲食店、理髪店、修理業など)
		0.6	自由業(弁護士、開業医、芸術家、僧職など)
勤務者	{	6.0	管理職(会社・官公庁・団体の課長以上、大学の講師以上、学校の教頭以上)
		15.8	専門・技術職(技術研究員、勤務医師、看護師、教員、保育士、美容師など)
		14.4	事務職(一般事務員、営業員など)
		10.3	労務職(一般工員、建築作業員、運転手など)
その他	{	17.1	パート、アルバイト、内職など
		6.2	主婦・主夫(家事専業)
		1.3	学生
		16.6	無職(年金生活者など)
		1.8	無回答

(全員の方に)

問23 あなたは現在配偶者(事実婚、パートナー等を含む)がいますか。(○は1つ)(n=982)

- |      |       |
|------|-------|
| 65.7 | いる    |
| 8.4  | 離別・死別 |
| 24.4 | いない   |
| 1.5  | 無回答   |

(全員の方に)

問24 あなたの現在の世帯は次のように分けるとどれにあたりますか。(○は1つ)(n=982)

- |      |   |
|------|---|
| 13.6 | 単身世帯  |
| 25.2 | 夫婦のみの世帯   |
| 17.5 | 親子二世代にわたる世帯(18歳未満の子どもがいる)<br>親子二世代にわたる世帯(18歳未満の子どもがいない) |
| 25.5 | 三世代以上の世帯(18歳未満の子どもがいる)<br>三世代以上の世帯(18歳未満の子どもがいない)       |
| 8.8  | その他(具体的に: _____)  |
| 4.7  | 無回答   |

ご協力ありがとうございました。ご記入もれがないかもう一度ご確認ください。